## 竪穴建物（ＳＩ６２０）　〔図69　図版31〕

**位　　置**　調査区西側、SB05の南に位置する。

**重複関係**　埋没後、北東方向の素掘小溝が数条掘削される。

**規模と構造**　北西隅だけ検出され、大半が調査区外にあるため、全体像は把握できない。建物主軸は、磁北からやや東に振った方位をとる。建物方位は、SB05やSI550と同一である。覆土は単一層で、他の竪穴建物の様相とは異なる。掘り方は２層上面から掘り込まれており、35～40cm掘り込まれている。竪穴外に竪穴部を取り囲むようにピットを数基検出したため、SI550と同様に竪穴外柱穴を伴う竪穴建物と考えられる。カマドは検出せず、遺物も出土していない。

**竪穴外柱穴**

**柱　　穴**　竪穴部の大半が未検出のため、竪穴内で柱穴と思われるピットは検出されなかったが、竪穴外で小規模ピットを４基確認した。竪穴部に沿って並びが確認できるため、竪穴建物の付属遺構と判断した。いずれも覆土は単一層である。規模は径25～30cm、検出面からの深さは20～35cmである。

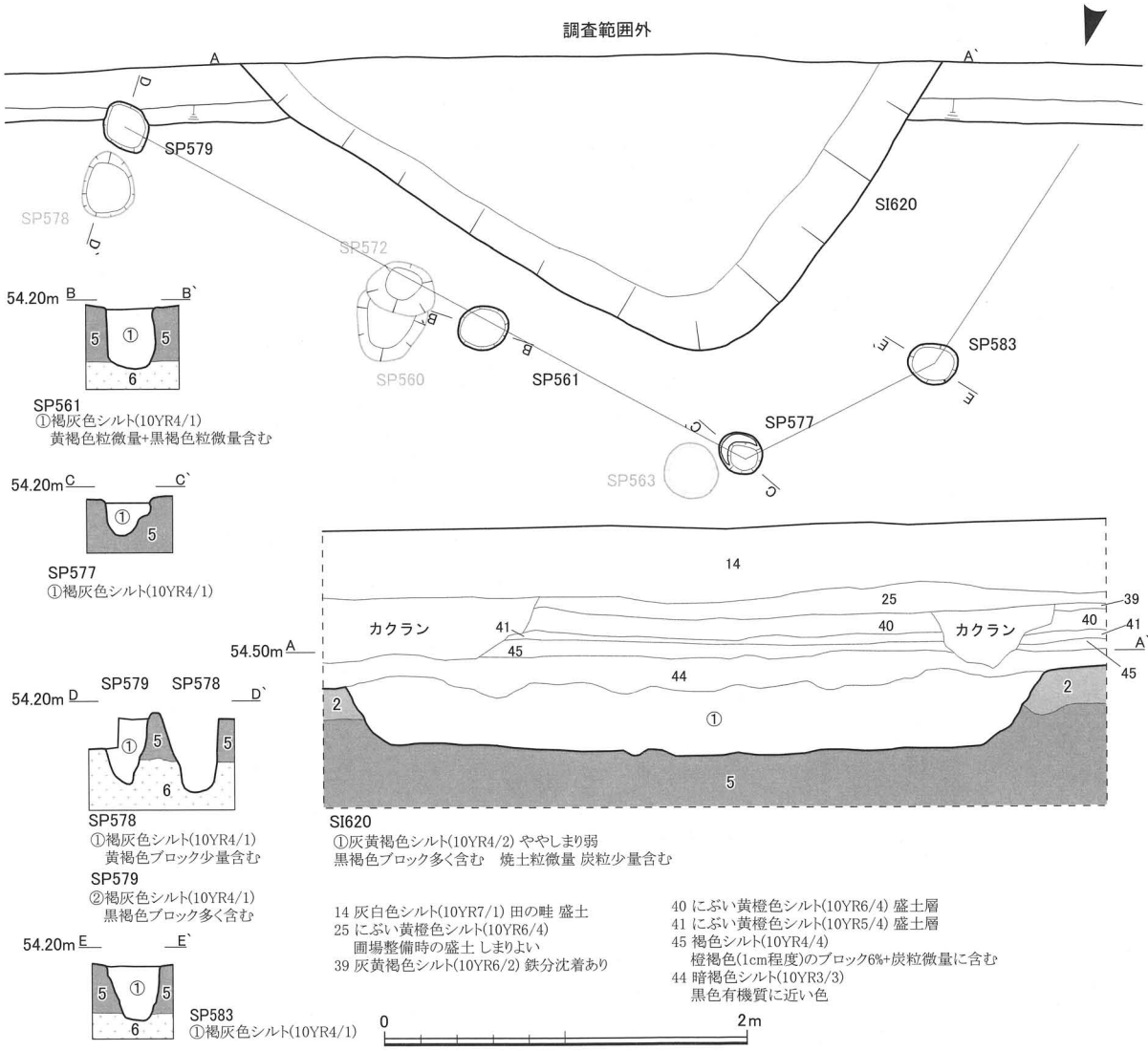



図69　第2遺構面　SI620（S＝1：40）

## 竪穴建物（ＳＩ６５０）　〔図70・71　図版32・43・48〕

**位　　置**　調査区西側、建物遺構が希薄な地帯にある。

**重複関係**　埋没後、北東方向の素掘小溝が数条掘削される。

**規模と構造**　南北辺5.1m、東西辺4.3m、平面積は約18.87㎡を測る。平面形態は、南北に長軸をもつが、西辺が外湾し全体として歪な形状である。掘り方は地山シルト層６層まで到達しており、検出面からの深さは10～20cm程度である。もっとも検出が難しい竪穴建物であった。古代包含層２層除去後に焼土のまとまり（P5～P9）がいくつか検出された。覆土が５層に近似したため、竪穴建物とは認識せず、焼土ピットの集在として調査を進めた。ピット群を検出する過程で遺物がまとまって出土することから、精査したところ建物の平面範囲を掴むことができた。焼土ピットは竪穴建物に伴うものと考えられるが、カマドに類する施設と断定できない。礫や構築材が確認できないこと、煙出しがないこと等、積極的にカマドと結びつけることができない。建物検出時にはすでに床面を掘削した状態であったため、貼り床等は確認できなかった。南半に焼土が広範囲に広がっており、その範囲に焼土を多く含むピット群がある。建物の入口は特定できなかった。

焼土集中

**柱　　穴**　柱穴と思われるピットは検出できなかった。

焼土ピット

**カ　マ　ド**　カマドは検出されなかったが焼土ピットを５基検出している。ピット内には焼土・炭化物が多く充填していたので、燃焼施設として使用していたのだろうか。土師器の焼成遺構の可能性も考えたが、遺構内から須恵器が多数出土しているので可能性は捨てた。

**遺　　物**　遺物は焼土を含むピットを中心に出土した。１は須恵器の杯蓋で、P7から出土した。扁平なつまみが付き、天井部は篦切り後、篦削りを施さない。内外面に篦記号で薄く「×」字が書かれる。天井部が肉厚で、口縁端部のかえしは小さい。２は大型の有台杯（杯ＢⅡ）で、P5から出土した。口径14.6cm、外傾度は68°、径高指数は39.7を測る。高台の接地面は扁平に仕上げられる。３は覆土から出土した土師器の長胴釜である。口縁部は上方につまみ上げ、外面に面を作るように仕上げ、体部には掻き目が残る。

遺物年代は、Ⅳ１期（８世紀第３四半期）に帰属すると考えられる。

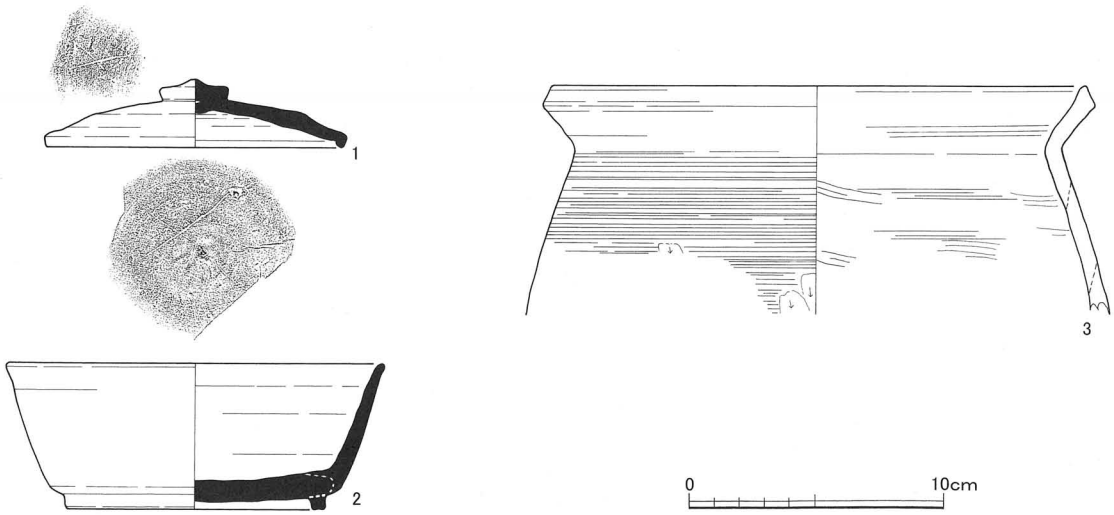
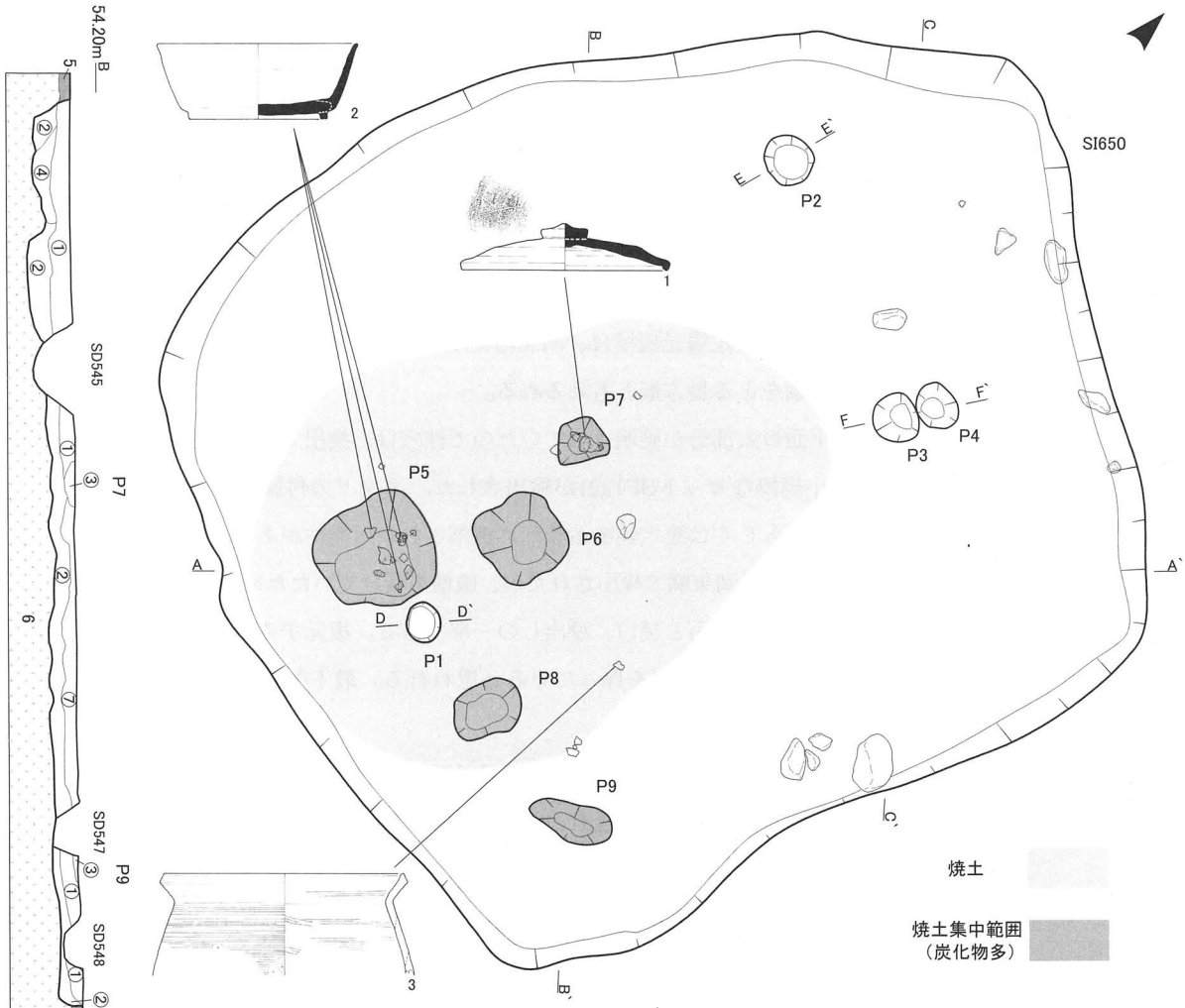
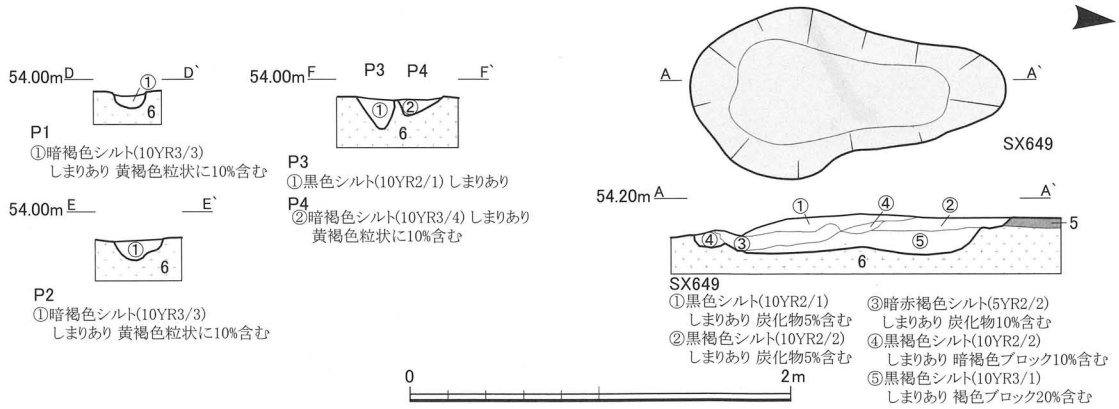



図70　SI650出土遺物実測図（S＝1：3）




SI650
①黒色シルト(10YR2/1) しまりあり 褐色ブロック状に5%+炭化物粒2～5%含む
②暗褐色シルト(10YR3/3) しまりあり 黒褐色ブロック状に10%+炭化物粒2～5%含む
③暗赤褐色シルト(5YR3/2) しまりあり 炭化物粒2～5%含む
④暗褐色シルト(10YR3/3) しまり強 黒褐色+褐色ブロック状に30%含む
⑤黒褐色シルト(5YR2/3) しまりあり 炭化物粒5%含む
⑥黒褐色シルト(5YR2/1) しまり中 暗褐色粒状に10%
⑦黒色シルト(10YR2/1) しまりあり 炭化物粒10%含む




P1
①暗褐色シルト(10YR3/3)
しまりあり 黄褐色粒状に10%含む

P2
①暗褐色シルト(10YR3/3)
しまりあり 黄褐色粒状に10%含む

P3
①黒色シルト(10YR2/1) しまりあり

P4
②暗褐色シルト(10YR3/4) しまりあり
黄褐色粒状に10%含む

SX649
①黒色シルト(10YR2/1)
しまりあり 炭化物5%含む
②黒褐色シルト(10YR2/2)
しまりあり 炭化物5%含む
③暗赤褐色シルト(5YR2/2)
しまりあり 炭化物10%含む
④黒褐色シルト(10YR2/2)
しまりあり 暗褐色ブロック10%含む
⑤黒褐色シルト(10YR3/1)
しまりあり 褐色ブロック20%含む

図71　第2遺構面　SI650　SX649（S＝1：40）

## 竪穴建物（ＳＩ１２２０）　〔図72・73　図版33・49〕

**位　　置**　西側・東側調査区中央の排水溝を挟んで検出された。

**重複関係**　SB03埋没後に本遺構を造成している。本遺構埋没後、素掘小溝が掘削される。

**規模と構造**　調査の最終段階で検出したので充分な記録ができず、大部分が農業用排水溝で破壊されていたので情報量は少ない。南東隅でカマドらしき施設を検出、竪穴建物に伴う可能性があるため、四隅と西辺にあたる箇所にテストピットを掘削したところ、建物の掘り方を確認することができた。推定復元規模は、南北軸4.1m、東西軸4.6m、平面積18.94㎡を測る。平面形態は東西に長軸をとる長方形と考えられる。

破壊を受けた竪穴建物

**柱　　穴**　平面の大部分が破壊されていたので柱穴は、検出できなかった。柱穴ではないが、カマド下に小規模なピットSP1221が検出された。カマドの付属施設とは考え難いが、カマド構築前のピットもしくは竪穴建物造成前に掘削された可能性がある。

**カ　マ　ド**　カマドは南東隅で検出されたが、破壊を受けていたため全体は明らかでない。遺存していたのは、西側の袖石と焚口、煙出しの一部である。復元すると煙出しが南方向に約50cm延びる。西側の袖石は元位置を保っていると思われる。最下部④層は焼土層であり、厚く堆積している。

カマド遺存

**遺　　物**　遺物はカマド内部および周辺を中心に出土した。本来は多くの遺物が残っていたと思われるが、排水溝により破壊されたため、遺物量は少ない。１は須恵器杯蓋である。天井部の器壁は肉厚で、端部を丸く仕上げる。２は有台杯（杯ＢⅡ）である。底部が欠損するが法量・形態から有台杯と考えられる。口径14.8cm、外傾度65°であり、法量の小型化傾向が認められる。２は土師器の長胴釜である。口縁端部はあまりつまみ上げず、外面にわずかな返しがみられる。体部は内外面に強い掻き目が残り、外面は煮炊による煤が付着する。３は土師器の鍋であり、口径が38.4cmを測る。口縁部が開き気味で、口縁端部外面は沈線を施し、体部外面に掻き目が残る。

遺物の帰属時期は、概してⅣ２～Ⅴ１期（８世紀第３四半期～９世紀第１四半期）に相当するものと考えられる。

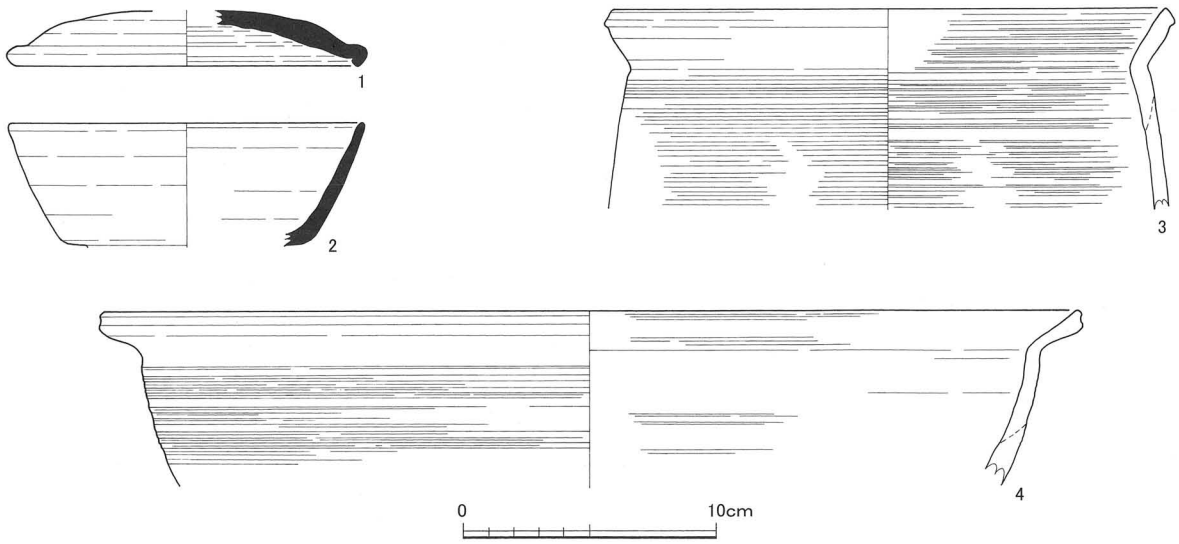
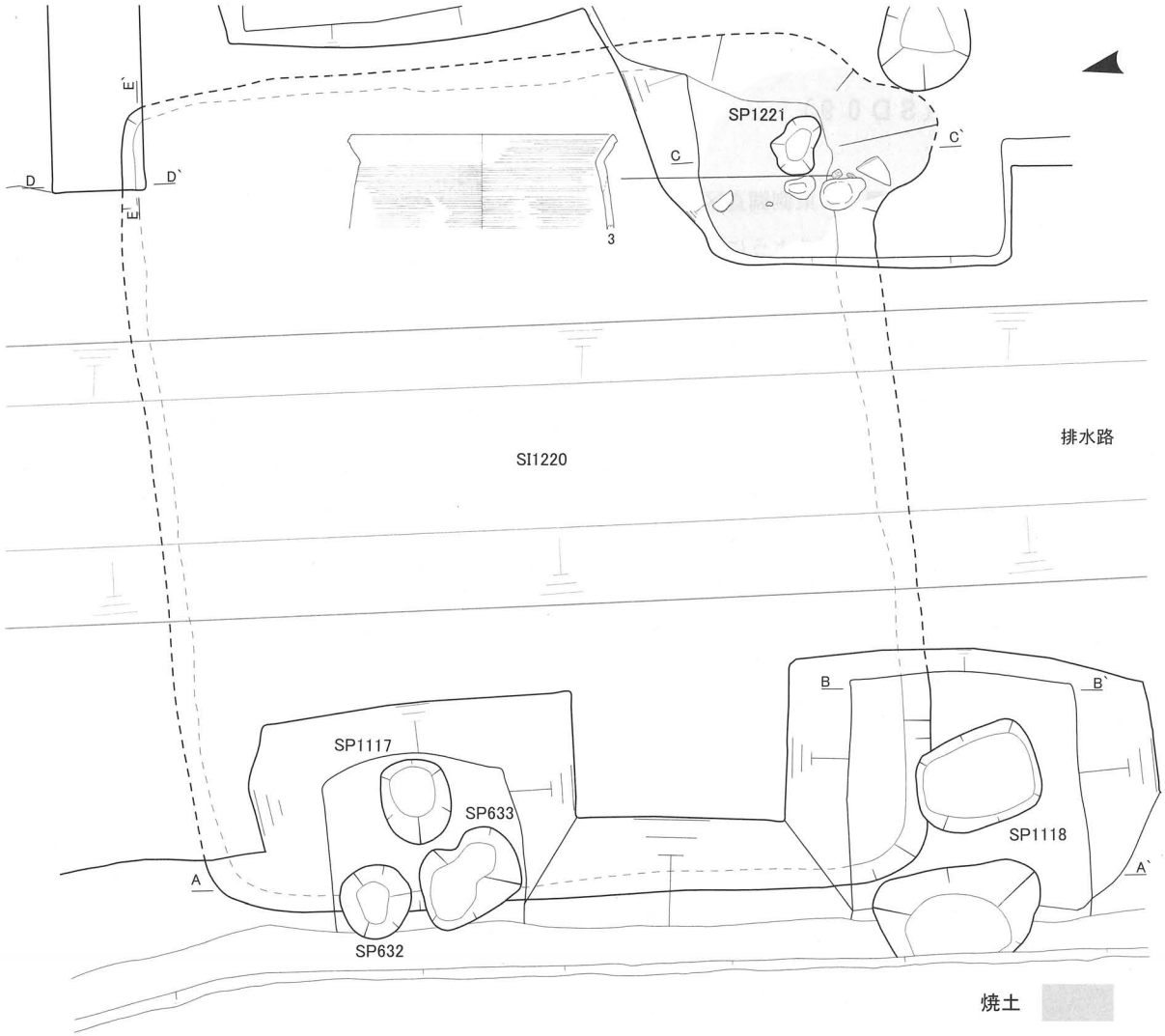
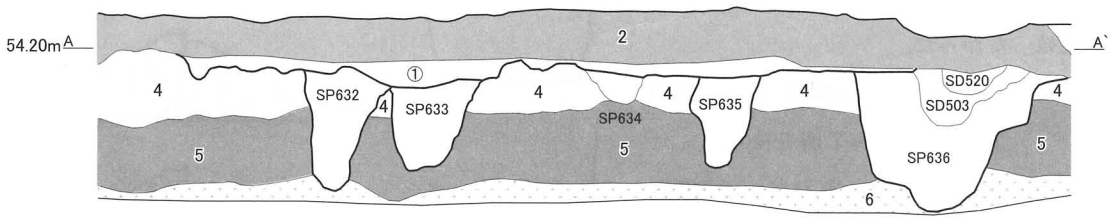
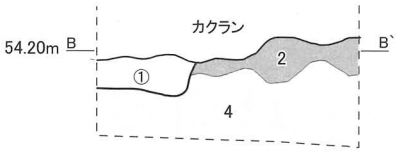
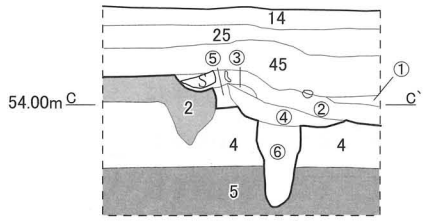


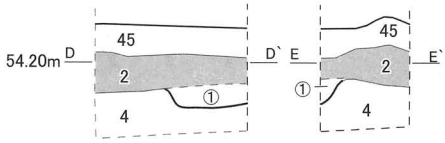

図72　SI1220出土遺物実測図（S＝1：3）




SI1220
①黒褐色シルト(10YR3/2) しまりあり 2層との境界不明瞭

SI1220焼土（かまど）
①明赤褐色シルト(5YR3/4) 1～5mmの炭化物微量含む
②明赤褐色シルト(5YR5/6) 5～10mmの炭化物少量含む
③明赤褐色シルト(5YR3/3) 1～5mmの炭化物少量
1cm程度の焼土粒少量含む
④橙色シルト(5YR6/8) 焼土
⑤明赤褐色シルト(5YR3/3) 1～5mmの炭化物微量含む

SP1221
⑥黒褐色シルト(10YR3/2) しまりややあり

14 灰白色シルト(10YR7/1)
田の畦
25 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4)
圃場整備時の盛土 しまりよい
29 黄橙色シルト(10YR7/8)
鉄分沈着あり しまりよい
45 褐色シルト(10YR4/4)
明黄褐色の1cm程度のブロック2～3%含む
炭粒微量含む

0　2m

図73　第2遺構面　SI1220（S＝1：40）

### (3) 溝〔Ditch; Gutter〕

#### 大溝（ＳＤ０９）　〔図75・76・77・78　図版35・36・43・49〕

**位　　置**　東側調査区東端、掘立柱建物や竪穴建物の密集地帯の東、遺構が希薄な地帯に北東方向に延びるように存在する。

**重複関係**　埋没後、同一遺構面で切り合い関係のある遺構はない。

上流部分　**規模と構造**　16年度調査区で検出された大溝の上流部分にあたる。混乱を避けるため、遺構番号は踏襲している。規模は、最大幅10m、最小幅6.9m、検出面からの最深部1.55m、最浅部1.1m、検出した総延長は47mを測る。溝底は平坦で４～５ｍの一定幅で推移する。ほぼ

N-45°-E　直線的に北東方向に延び、磁北から45度東に振る。

16年度東側調査区では延長約20mを検出しており、今回の調査でSD09が約120m続いていることが判明した。中間の未検出部分は調査範囲ではないので詳細は不明だが２年分の調査結果を考慮すると大溝が連続していることが推察される。

犬走り状施設　左岸に沿って幅1～1.5m、延長15mの犬走り状施設を確認した。溝底から約40～50cmの高さに平坦面を造り出し、平坦面から肩までは傾斜が緩やかである。同じく左岸に沿って堤防状

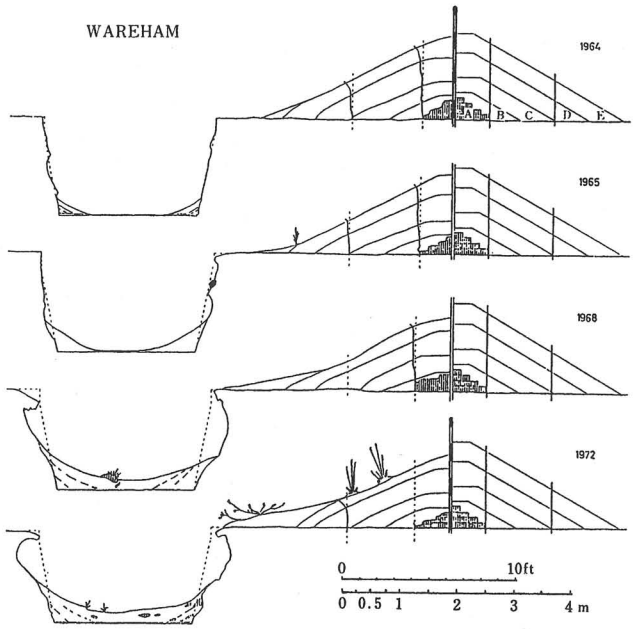
堤防状集石　に集石が検出された。拳大から人頭大の礫がわずかに盛られ、堤防としては機能しない。浚渫の際に出た排土を置いたという印象である。

右岸中程でSD430（16年度調査区のSD200）とＴ字に連結する。断面観察で切り合い関係が確認されなかったため、同時期に存在したと考えられる。溝底レベルがSD09に向かって傾斜するため、分配水路ではなく流入機能をもつ配水溝が想定できる。連結部分から特別な施設は検出し

配水溝連結　なかった。

南側壁面図（図77）、①-1層の下部にSD09が７層を抉り込んだ箇所が見受けられる。同様の状況は同じく⑦-1層、北側壁面⑤-15層でも認められる。これはEvans and Limbreyが1963年に

崩壊過程　平面3×10m、深さ約２ｍのトレンチを掘削し、その崩壊過程を観察した結果を参考にすると理解し易い[1]。イギリスと堆積基盤が異なるので一概には説明できないが、浸食を受け易いトレンチの法面部分が経年とともに抉れている。




A：芝土　B：ポドゾルの $A_2$ 層（溶脱をうけた砂とフリント）　C：Bh/Fe層（灰色及び黒色の砂）　D：白色粘土を含む黄色砂と Bh/Fe 層の黒色砂の混合　E：白色砂を含む黄色砂　F：溝を整形する時のいろいろ混じった土

**図74　溝と土手の崩壊の様子**　（加藤他1987より転載）

1）加藤晋平・岡崎里美1987「Ⅱ　考古学の立場からみた土壌学」『土壌学と考古学』久馬一剛・永塚鎮男編　博友社

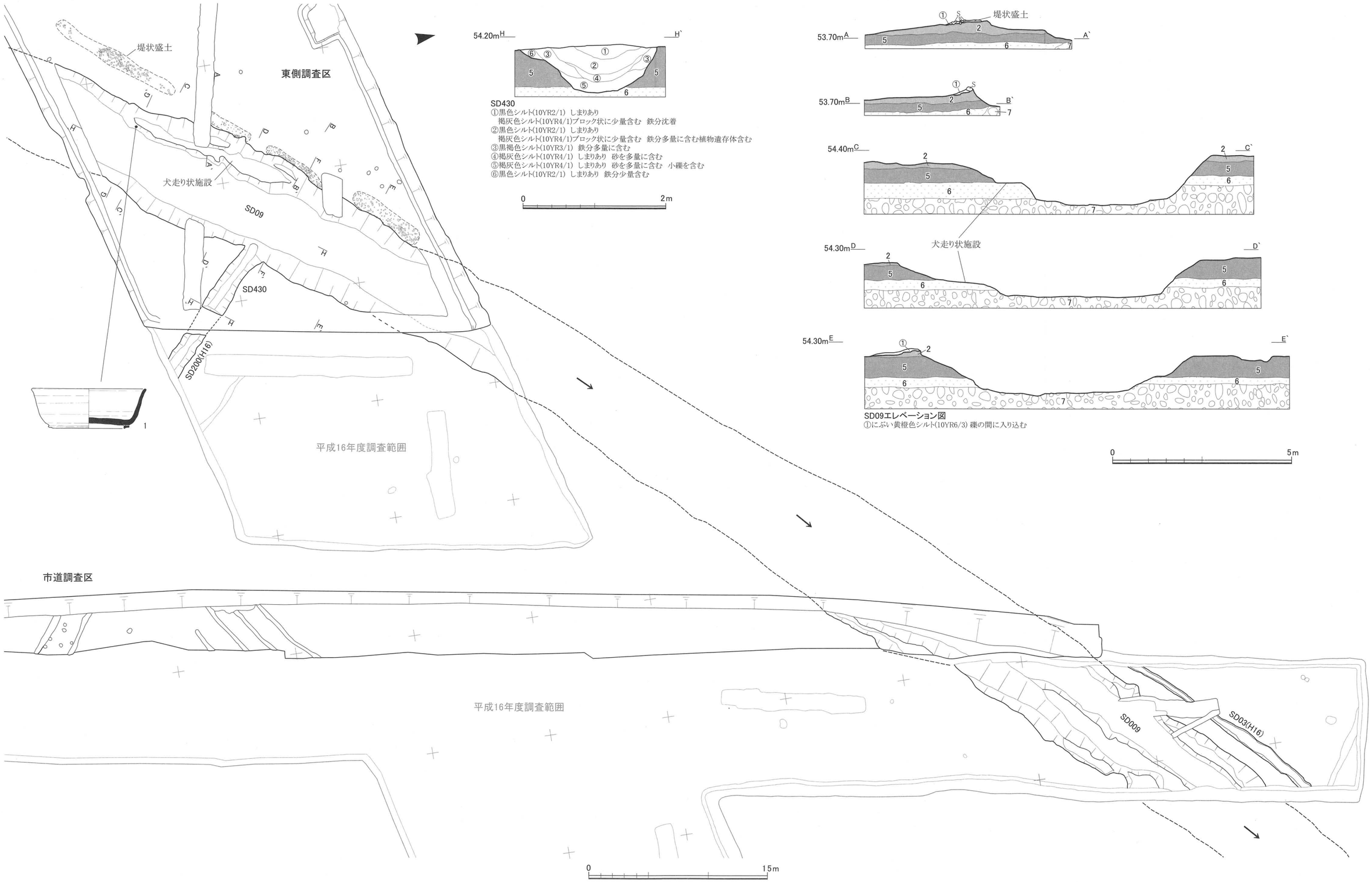



図75 第2遺構面 SD09 SD430（平面図S＝1：300 SD09断面図S＝1：100 SD430断面図S＝1：50）

SD09の抉り込み部分も同様の原理と考えられるが、流水により浸食された可能性もある。

16年度調査時に横断面の観察により、覆土の堆積過程が6段階あることを確認していた。今回の調査でも綿密に分層した結果、7段階あることを確認した。6段階まで土相・土質は同様だったが、第6段階が堆積後、再度小規模ではあるが幅2.1m、深さ0.5mの溝が掘削された後に埋没し、最終的にもう1段階（第7段階）加えることになった。今回新たに縦断面の観察も行ったが、層位が南北方向に水平に堆積している状況を把握できた。16年度東側調査区から50m以上の距離をおいての検出だったため、堆積状況が大きく異なる可能性も視野に入れ調査に臨んだが、縦断面の状況は各層位が連続し、面的に広く堆積していることが判明した。このことは、覆土の大部分が自然堆積と異なる洪水堆積土であることに起因すると考えられる。

**埋没過程**

**縦断面**

**洪水堆積土**

**遺　　物**　遺物は、覆土内から散漫に出土した。河床や狭い範囲で集中的に出土しない。遺物年代は、古代、中世、近世に属する。層位毎に遺物取り上げを行うべきだが、調査期間の都合で掘削を優先させたため、ほとんどの遺物は一括で取り上げている。

1は唯一出土位置を記録できた遺物である。口径が16cmを超える須恵器の大型有台杯（杯BⅡ）である。口径16.6cm、外傾度70°、径高指数36.1を測る。口縁端部がやや外反し、高台は内端接地である。SD09南半の河床近く最下堆積層①-2層から出土、流れ込みによる摩滅はない。年代は、Ⅳ1期（8世紀第3四半期）と考えられる。2は無台杯（杯A）の底部である。3は甕の口縁部である。粘土帯を貼り付け有段状となり、下部に櫛描き波状文が施される。4は壺で、外面に1条の沈線を施す。5は西北九州産と考えられる中世の滑石製石鍋である。体部の最大径を突帯状に成形し、その鍔の上に2個穿孔する。外面は滑らかで、煮炊具のため炭化物が付着する。6は中世土師器の皿である。身は浅く、口縁部に短い横撫で、見込みの横撫では単位が明瞭に残る。12世紀後半の年代を与える。7は中世土師器の皿で底部回転糸切り痕がある。8は口径約15cmを測る大型品である。9は近世の炻器質灰釉皿である。内面下方に紐輪積み痕があり、内外面とも灰釉薬がかかる。10は近世の灰釉壺である。11は鉄滓、12は椀形滓である。

**河床の須恵器**

**滑石製石鍋**

**椀形滓**

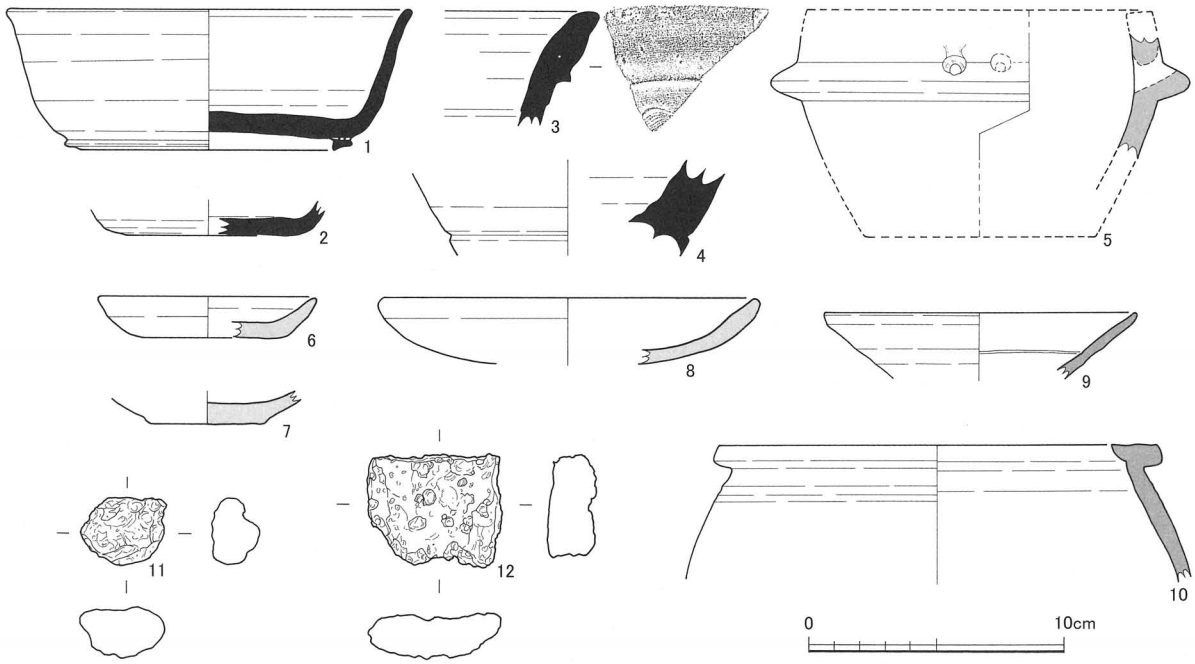
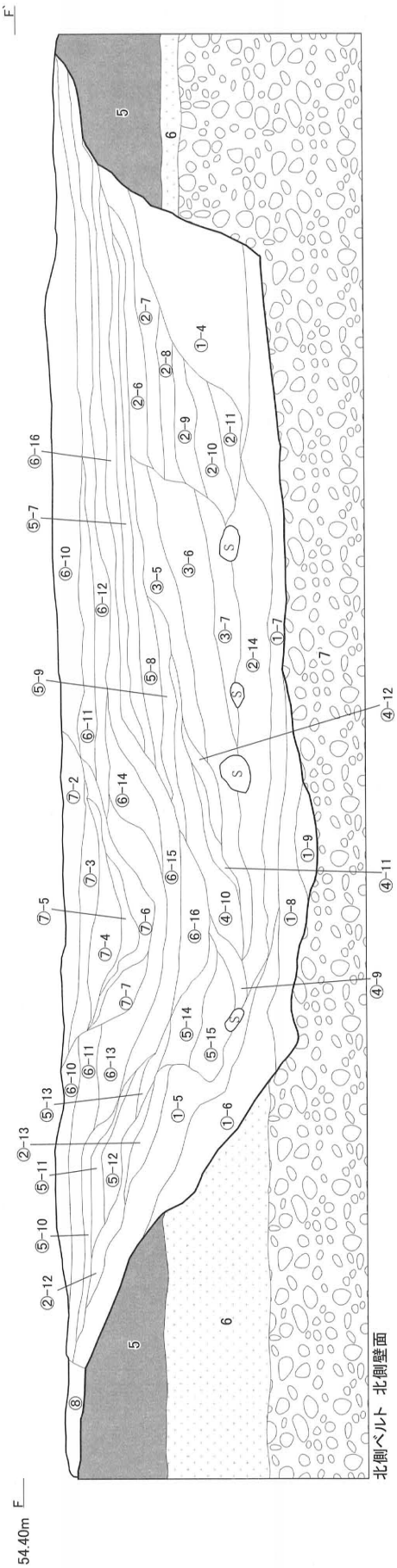



**図76　SD09出土遺物実測図**（S=1：3）



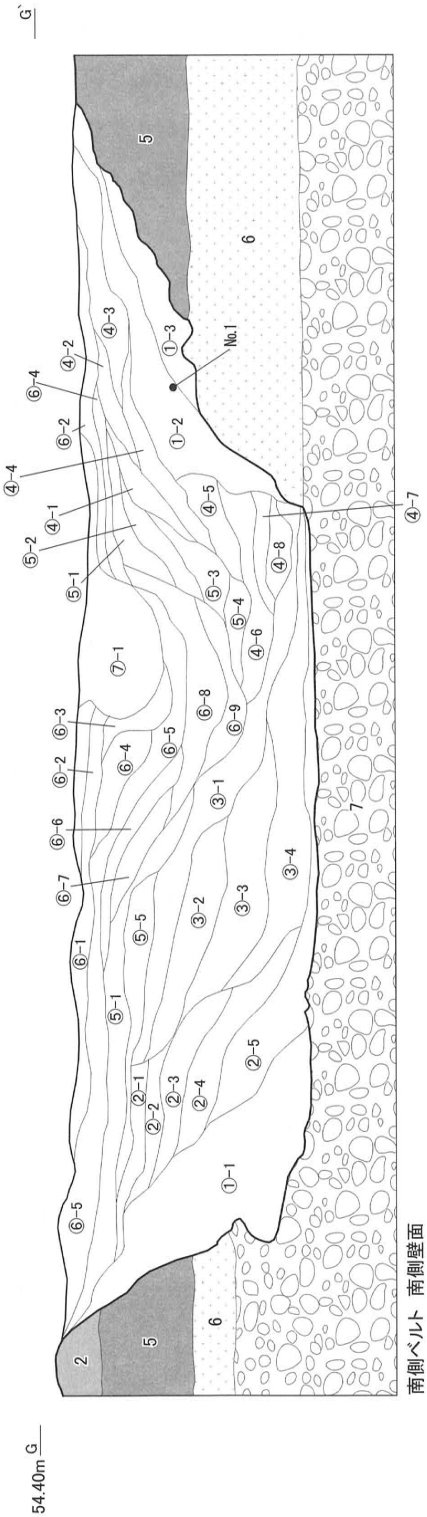
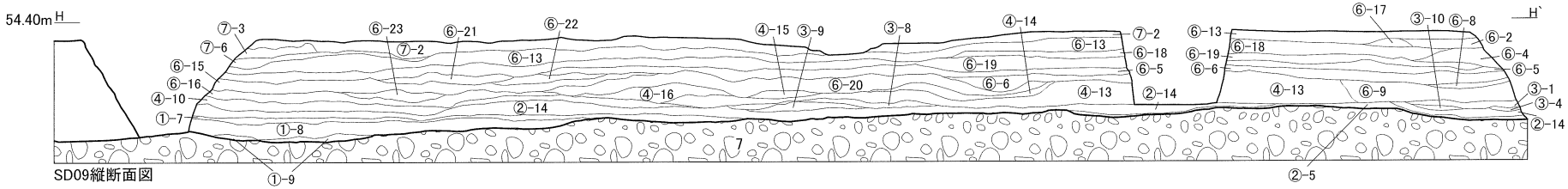



図77　第2遺構面　SD09　土層図（S＝1：40）




SD09縦断面図

SD09

①-1 褐灰色粘質土(10YR4/4) 径20cm大の礫少量含む
①-2 褐灰色シルト(10YR6/2) 鉄沈着部分は灰色に変色
①-3 褐灰色シルト(10YR5/1)
①-4 黒褐色粘質土(2.5Y3/1)
①-5 黒褐色粘質土(2.5Y3/1)
①-6 黒色粘質土(2.5Y2/1) 粘性強い ①-4と同一か?
①-7 黒色粘質土(2.5Y2/1) ②-15下に均一に入る
①-8 灰黄褐色シルト(10YR6/2) 径5～20cm大の礫含む
①-9 褐灰色粘質土(10YR4/1)

②-1 黄灰色シルト(2.5Y4/1) やや粘性あり
②-2 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
②-3 黒褐色粘質土(2.5Y3/1)
②-4 にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)
②-5 黒色粘質土(2.5Y2/1)
②-6 灰白色シルト(2.5Y8/2) 黄灰色シルトブロック少量含む
②-7 黄灰色粘質土(2.5Y4/1) ②-6若干含む
②-8 黄灰色シルト(2.5Y5/1)
②-9 黄灰色シルト(2.5Y4/1) ②-8より暗い
②-10 灰黄色シルト(2.5Y6/2) ラミナ層
②-11 黄灰色シルト(2.5Y5/1)
②-12 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
②-13 黄灰色シルト(2.5Y5/1) ②-11と同一か?
②-14 明黄褐色礫層(10YR7/6) 径5～30cm大の自然礫多く含む

③-1 黄灰色シルト(2.5Y5/1) 底面方向に淡くなる 漸移層
③-2 灰黄色シルト(2.5Y7/2) 同色細砂との互層
③-3 灰黄色シルト(2.5Y6/2) 同色細砂との互層
③-4 灰オリーブ色シルト(5Y6/2) ラミナ層下部は径最大20cm程の礫含む
③-5 にぶい黄色シルト(2.5Y6/4)
③-6 浅黄色シルト(2.5Y7/3) ③-5より淡い 明褐色シルトの沈着一部あり
③-7 明黄褐色シルト(2.5Y6/6)
③-8 灰白色シルト(5Y7/2) 部分的灰色シルト含む
③-9 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4) ラミナ層
③-10 にぶい黄橙色細砂層(10YR7/3) 粒径最大3mm程度

④-1 浅黄灰色シルト(2.5Y7/3)
④-2 にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)
④-3 灰色シルト(5Y5/1)
④-4 灰黄色シルト(2.5Y6/2) 上部は④-3に近い色調
④-5 浅黄色シルト(2.5Y7/3)
④-6 浅黄色シルト(2.5Y7/3) ④-5と同質だがラミナ層
④-7 黄灰色シルト(2.5Y6/1) ラミナ層
④-8 黄灰色シルト(2.5Y4/1) ラミナ層
④-9 にぶい黄色砂層(2.5Y6/4) ラミナ層
④-10 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2) 粘性やや強い
④-11 灰黄色シルト(2.5Y6/2) 黄灰色粘質土ブロック少量含む
④-12 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
④-13 灰オリーブ色シルト(5Y6/2) 東端ラミナ層
④-14 灰白色シルト(5Y7/2)
④-15 にぶい黄橙色シルト(10YR6/4)
④-16 オリーブ黄色シルト(5Y6/3) 東端は細砂 ラミナ層

⑤-1 淡黄色シルト(2.5Y8/3) ⑤-5若干含む 漸移層
⑤-2 灰黄色シルト(2.5Y6/2)
⑤-3 黄灰色シルト(2.5Y6/1) ⑤-2より暗い
⑤-4 黄灰色シルト(2.5Y5/1) ⑤-3より暗い
⑤-5 黄灰色シルト(2.5Y4/1) やや粘性あり ⑤-1ブロック少量含む
⑤-6 にぶい黄橙色シルト(10YR7/1) 灰黄褐色シルトを一部含む
⑤-7 黄灰色粘質土(2.5Y4/1) ⑤-6を部分的に含む
⑤-8 黒褐色粘質土(2.5Y3/1) ⑤-6を部分的に含む ⑤-7との漸移層
⑤-9 黄灰色シルト(2.5Y5/1)
⑤-10 灰黄色シルト(2.5Y6/2)
⑤-11 黄灰色シルト(2.5Y5/1)
⑤-12 にぶい黄色シルト(2.5Y6/3)
⑤-13 浅黄色シルト(2.5Y7/3)
⑤-14 灰黄色シルト(2.5Y6/2) にぶい黄橙色砂層の互層 ラミナ層
⑤-15 灰黄色シルト(2.5Y6/2) にぶい黄橙色砂層の占める割合が⑤-14より大きい ラミナ層

⑥-1 灰黄色シルト(2.5Y7/2)
⑥-2 灰黄色シルト(2.5Y6/2)
⑥-3 黄灰色シルト(2.5Y5/1)
⑥-4 浅黄色シルト(2.5Y7/3)
⑥-5 浅黄色シルト(2.5Y7/4)
⑥-6 灰黄色シルト(2.5Y7/2) 橙色シルト粒少量含む
⑥-7 灰黄色シルト(7.5Y6/6) 橙色シルト粒⑥-6より多く含む
⑥-8 灰黄色シルト(2.5Y7/2) 同色細砂層部分的に含む
⑥-9 灰黄色細砂層(2.5Y7/2) 粒径0.5cm前後
⑥-10 にぶい黄橙色シルト(10YR7/2) 同色砂層との一部互層
⑥-11 灰黄色シルト(2.5Y6/2)
⑥-12 暗灰黄色シルト(2.5Y5/2)
⑥-13 灰黄色シルト(2.5Y7/2)
⑥-14 浅黄色シルト(2.5Y7/3)
⑥-15 にぶい黄橙色砂層(10YR7/3) 同色シルト含む ラミナ層
⑥-16 にぶい橙色砂層(7.5YR7/4) 灰黄色シルト一部含む ラミナ層
⑥-17 浅黄色細砂層(2.5Y7/3) 粒径最大3mm程度
⑥-18 浅黄色シルト(2.5Y7/3)
⑥-19 にぶい黄色シルト(2.5Y6/4)
⑥-20 オリーブ黄色シルト(5Y6/3) 粒径最大5mm程度 東端部分的にラミナ層
⑥-21 浅黄褐色砂質土(2.5Y7/4)
⑥-22 灰オリーブ色シルト(5Y6/2)
⑥-23 浅黄色細砂層(5Y7/3) 粒径最大5mm程度

⑦-1 淡黄色シルト(2.5Y8/4) 同色細砂との混層
⑦-2 淡黄色シルト(2.5Y8/4)
⑦-3 黄灰色シルト(2.5Y5/1) ⑦-2含む
⑦-4 灰白色シルト(2.5Y8/2) 灰黄色シルト含む
⑦-5 黄灰色シルト(2.5Y5/1) 橙色砂層含む
⑦-6 黄灰色シルト(2.5Y6/1) ⑦-5が互層に入る
⑦-7 灰黄色シルト(2.5Y6/2)

⑧　にぶい黄橙色シルト(10YR6/3) 礫の間に入り込む

0　5m

図78　第2遺構面　SD09　土層図(縦断)（S＝1：100）

## 素掘小溝　〔図79・80　図版37・49〕

**位　　置**　調査区西側中央から東側中央までの範囲にある。

**重複関係**　大半の竪穴建物埋没後に素掘小溝が掘削されるが、SI97、166、167、SB01、SB02とは切り合い関係にない。しかし、その建物群は後世の河道下で検出されたため、素掘小溝との切り合った層位が流失した可能性も充分に考えられる。

**規模と構造**　断面観察では溝は４層上面を掘り込む。４層は部分的にしか堆積しないのでそれ以外の範囲は５層上面を掘り込む。４層上面、５層上面を旧地表面とは認識していないので２層中からの掘削と考えられる。遺構覆土には、２層もしくは近似した層が堆積する。

調査区西側では北から約45度東に振った方向に、溝間約2.5ｍで造成される。SD552が直交する位置にあるが、大半が北東方向に並ぶ。排水溝を挟んで調査区東側に移ると状況は一変し、現在の磁北に合った東西南北の格子目状となる。一見すると榛名火山灰（Hr-FP・FA）降下水田の擬似水田に似るが、南北方向埋没後、東西方向が造成されるので同時期に格子目状とはならない。SB03の西で東西方向の素掘小溝が北東方向の素掘小溝に切られるので、調査区東側の造成が古い段階にある。また、原則として建物廃棄後に素掘小溝が掘られる。東西方向溝の溝間は広狭あるのに対し、SI166西で顕著だが南北方向溝は溝間約２ｍで一定に近い。計画的に配置されたような規則性が認められる。対して東西方向は幾度かの造成を繰り返した結果、溝間のばらつきが生じたとも考えられる。

格子目状
擬似水田
規則性

**畠と認定できない理由**　一般の発掘調査で今回「素掘小溝」とした形状・規模の遺構が検出されると、「畠（畑）状遺構」・「柵状遺構」とし、溝が畝間に似るので「畝状遺構」、中には「畠跡」と扱う場合も少なくない。それら先例をすべて否定する気は毛頭ないが、ここに「素掘小溝」として扱う理由を述べておく必要がある。

下ノ浦遺跡

畠（畑）とは、「雑穀や蔬菜（そさい）などが栽培される耕地」である[1]。佐藤甲二は仙台市下ノ浦遺跡の調査において「明確な畝跡とこの畑跡に伴う耕作痕」を検出した。畑の畝は「耕作土の存在はもとより、凸部の形状、規模、方向性（東西方向）に加え、幾つかの単位が認められたこと」を根拠として認定し、畝間と異なる間隔・方向の「小溝状遺構群」を「畑跡の耕作痕」と判断している[2]。耕作痕の成因については、天地返し痕、根菜類用畝床痕、桑植栽痕、畝間痕と推定している。本遺跡の素掘小溝の凸部分は、「耕作土の存在」および「凸部の形状」を除き佐藤の認定基準をほぼ満たす。しかし、耕作地として認定するには、１）耕作土である２・５層に耕具による鋤き込み痕が見当たらない。また、２）数年にわたり畝立てを繰り返した場合、方向や溝に無数の重複痕が残るはずであり、一過的耕作は不自然であること。加えて、３）自然科学分析の結果（p.202）では「畝に相当する作土層は肉眼観察では確認」されず、植物珪酸体分析、地力判定によっても「小溝群と栽培植物との関連性」について言及できず、「畝間溝である可能性についても積極的に支持することはできない」と結論付けられた。

畑跡の耕作痕
自然科学分析結果

上記３点の理由から、畑跡、あるいは畝間溝と認定することはできず、遺構の形状・規模を簡潔に表す「素掘小溝」という用語を充て、機能限定をせず扱うことにした。

1）山本　嵩2006「はたけ［畑・畠］」『日本古代史辞典』大和書房

2）佐藤甲二2000「畑跡の耕作跡に関する問題点と今後の課題」『日本考古学協会2000年度鹿児島大会資料第１集　はたけの考古学』

図79　第2遺構面　素掘小溝（平面図S＝1：200　断面図S＝1：100）

**年　　代**　素掘小溝が全体的に調査区中央部分に集中し、奈良・平安期の建物遺構が群在する範囲と重なる。SI491を含む竪穴建物群と大溝SD09の間には、南北の素掘小溝が4条程あるが基本的には空閑地の様相を示す。調査区西側に目を転じると、SI550以西では素掘小溝は作られていない。素掘小溝出土遺物は、須恵器、土師器に限定される。古段階は7の杯蓋のように口縁端部を稜角的に屈折させるⅣ1期、新段階では無台杯（杯A）では8・12のように外傾度50°前後まで開くⅤ1期がある。以上の状況から、素掘小溝群の造成時期は建物遺構群と時期差はほとんどなく、8世紀第3四半期から9世紀第1四半期と考えられるが、建物遺構覆土を切って造成されるため、厳密に素掘小溝の年代を特定はできない。

**空　閑　地**

**9　世　紀**

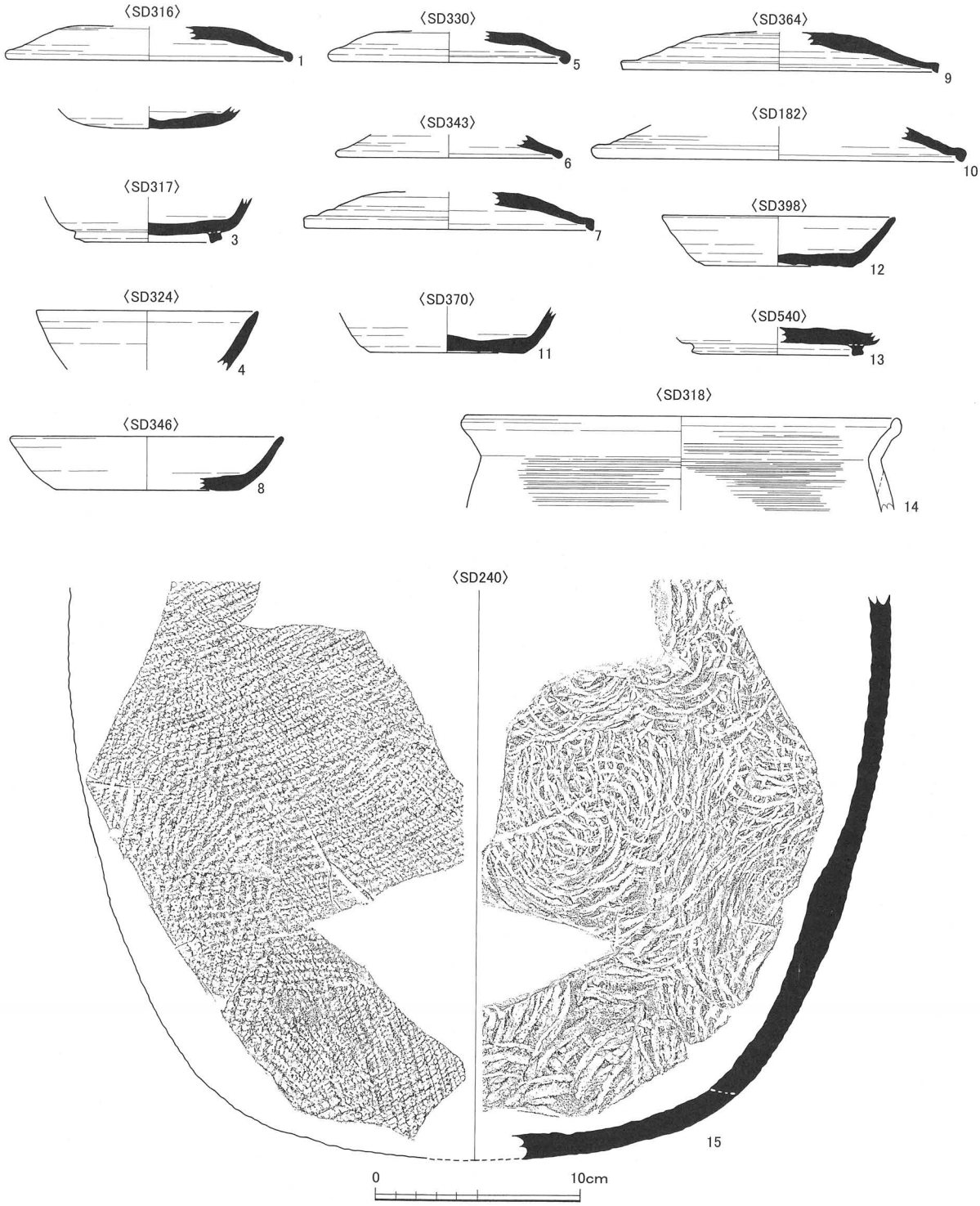



図80　素掘小溝出土遺物実測図（S＝1：3）

## 旧河道　〔図79・81　図版50・79〕

**概　　要**　東側調査区、建物遺構群および素掘小溝が埋没後、自然流路がSB01からSB02を切るように走る。残念なことに河道によってSB01・SB02の柱穴の大部分が削られ、情報が失われている。河道の場合、もっとも新しい遺物の帰属年代以降に埋没したと見なす論理を用いると、大正・明治期の遺物が含まれるので、かなり新しい時期まで残っていた可能性がある。ただ、この河道は、明治10年の『石川縣下第五大區小四區越中國礪波郡久泉村用水見取繪圖』に表現されていない。河道内からは縄文、古代、中世、近世の遺物が出土するので、帰属時期の特定は難しい。

**絵図に記載なし**

**遺　　物**　遺物は縄文、古代、中世、近世に帰属する。縄文遺物は遺物包含層出土遺物の項で扱っている。

**須恵器**　1～3は古代の須恵器である。1は有台杯（杯BⅣ）、2も有台杯（杯BⅡ）である。3は甕の口縁部である。

**珠洲**　4は珠洲の甕体部片である。中世に属する。

**近世・近代遺物**　5～15は近世・近代遺物である。5は鉄釉碗、6は鉄釉壺である。7は越中瀬戸の鉄釉碗の高台部分である。8は広東茶碗で、呉須で捩り文と圏線文を施す。9は染付碗である。10は瀬戸・美濃産と思われる染付湯呑である。11は染付皿である。12は炻器染付蓋物である。13は染付鉢である。蛇ノ目凹型高台。14は硬質陶器皿で近代のもの。15は底部外面に「九谷」銘のある赤絵鉢である。16は時期不明の棒状鉄製品である。古代遺物の可能性がある。

**棒状鉄製品**

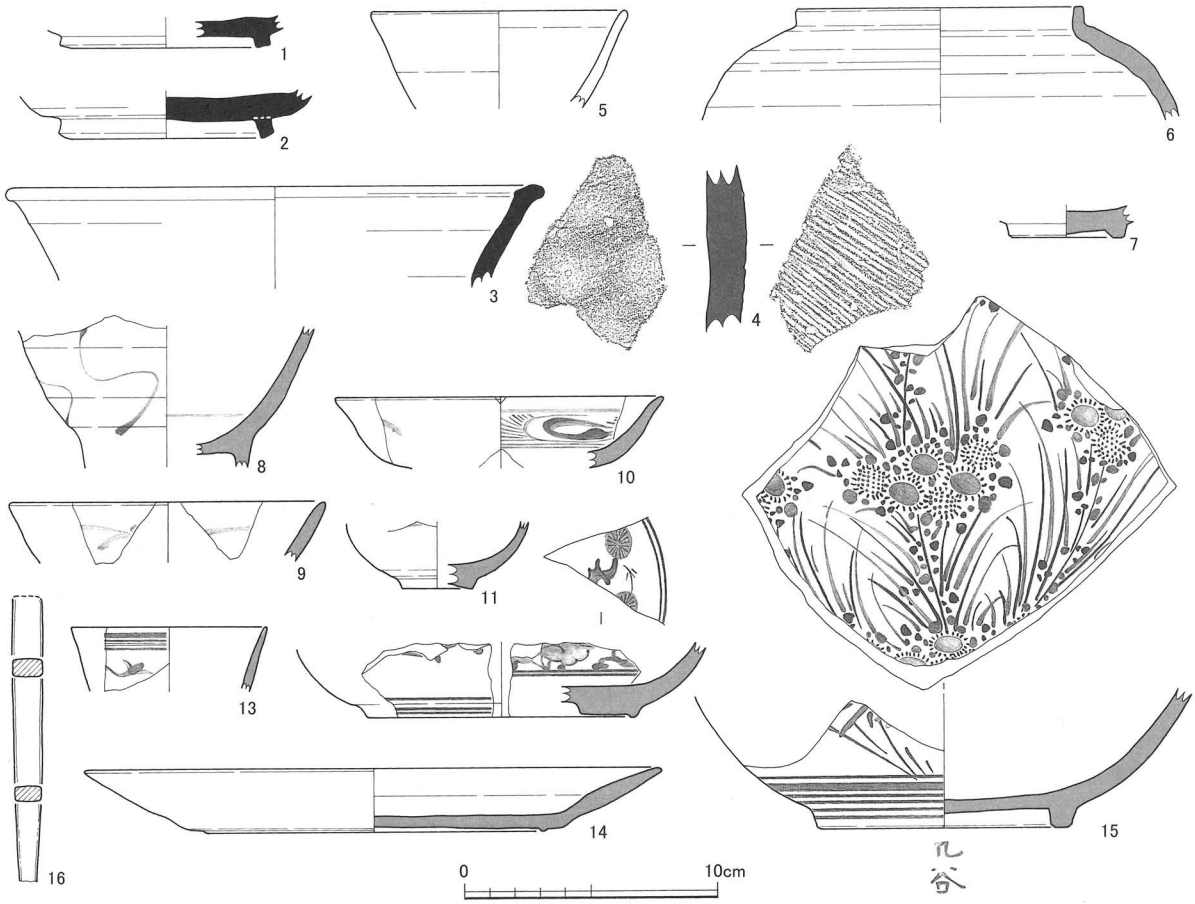



図81　旧河道出土遺物実測図（S＝1：3）

## (4) 土　坑〔Earthen pit〕

### 土坑（ＳＫ）　〔図82・83・84　図版34・42・50〕

**概　　要**　基本的に本遺跡内では遺構面を問わず、土坑の数は少ない。主要な13基の土坑を図示した。主に掘立柱建物や竪穴建物等の建築遺構群の周辺から検出されたものである。

**ＳＫ６７**　SB03東に位置した正円形に近い平面形態である。もっとも遺物が出土した土坑である。出土の土師器長胴釜は、体部最大径部分は欠損するが口縁部・体部・底部など破片数は多い。頸部に掻き目を残し、口縁部は端部を上方につまみ上げる。体部外面には平行叩き、内面に同心円文叩きを施す。時期は、Ⅳ期（８世紀後半）と思われる。

**ＳＫ４４３**　SB01の建物内にある土坑で、生焼け状態の須恵器杯が２個体重なった状態で出土した。詳細はSB01（p.44）を参照されたい。

**ＳＫ４８９**　SI493に近接する東西に長い楕円形状の土坑である。出土した須恵器の無台杯（杯Ａ）は口径11.8cm、外傾度59°、径高指数29.7を測る。口縁部がやや外反する。時期は、Ⅳ１期（８世紀第３四半期）と考えられる。SI493（p.74）参照。

**ＳＫ４９０**　SK489と同じくSI493に近接する。平面形態は約1.5m四方の方形を呈する。出土した須恵器の無台杯（杯Ａ）は口径12.4cm、外傾度60°、径高指数29.0を測る。SI493（p.74）参照。

**ＳＫ５５６**　SB05の平面内にある直径60cmの土坑である。SB05は構造的に中世期と考えられ、建物内にある本遺構は、「甕据え付け穴」の可能性がある。珠洲体部片が出土した。

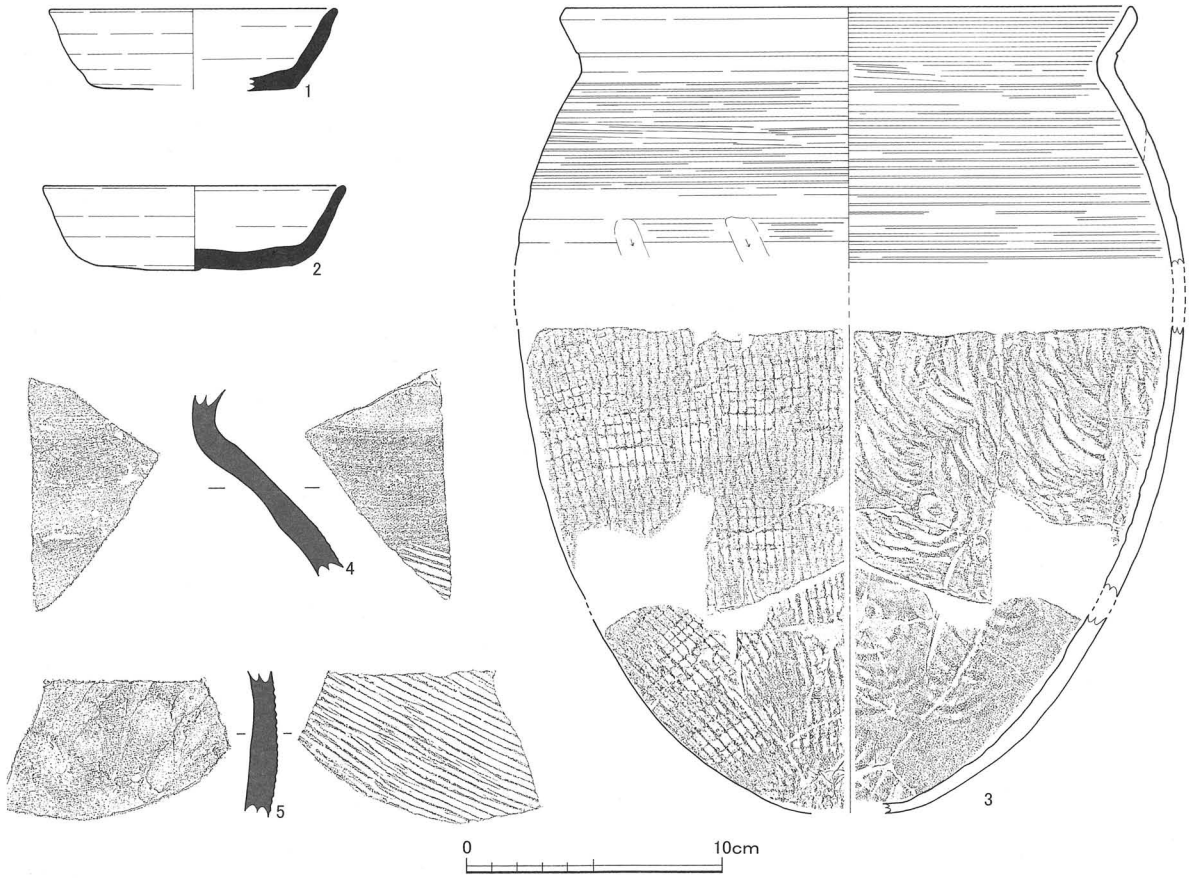



図82　土坑出土遺物実測図（S＝1：3）

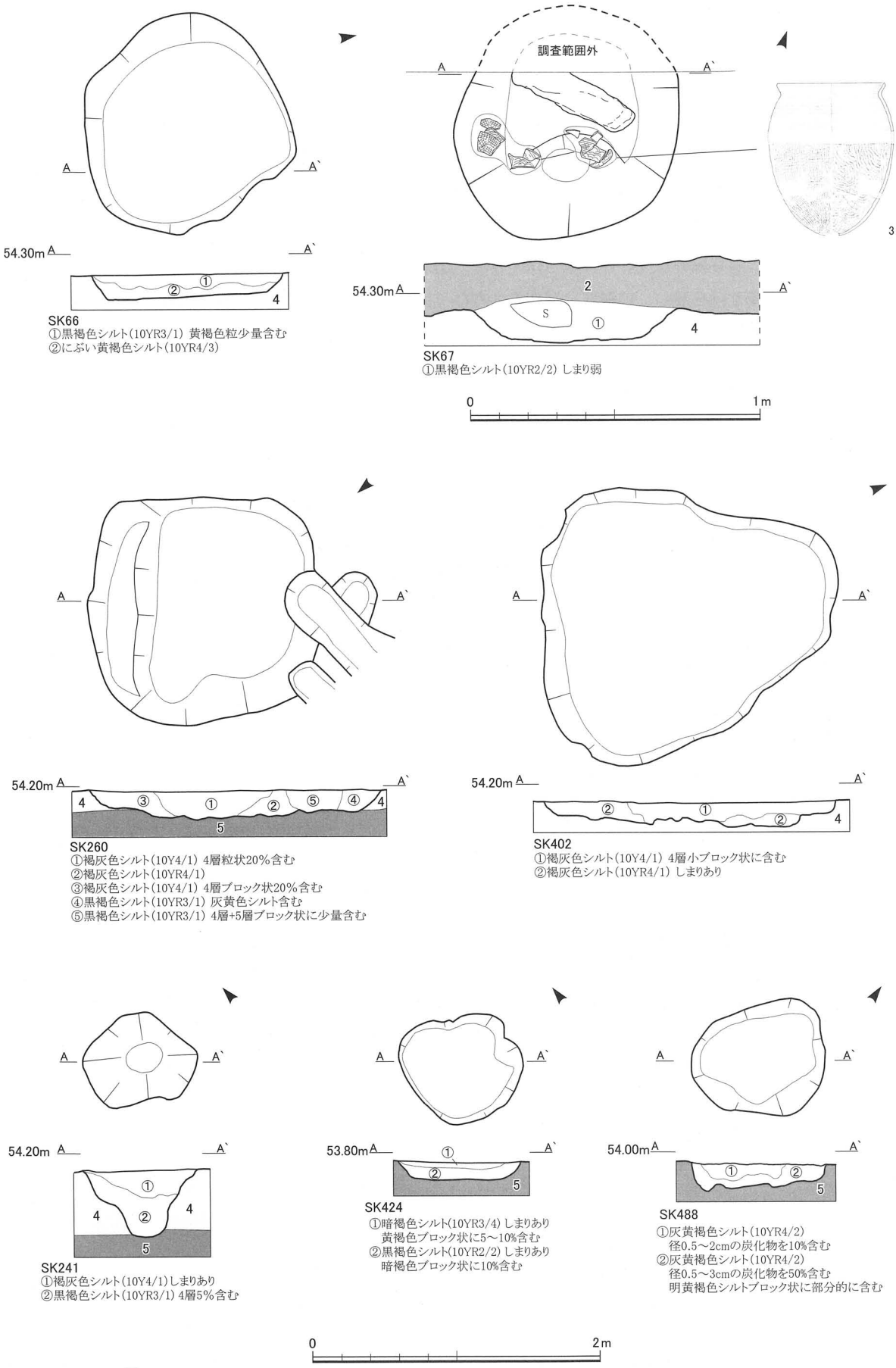



**図83　第2遺構面　SK66・67・241・260・402・424・488**（S＝1：40　SK67　S＝1：20）

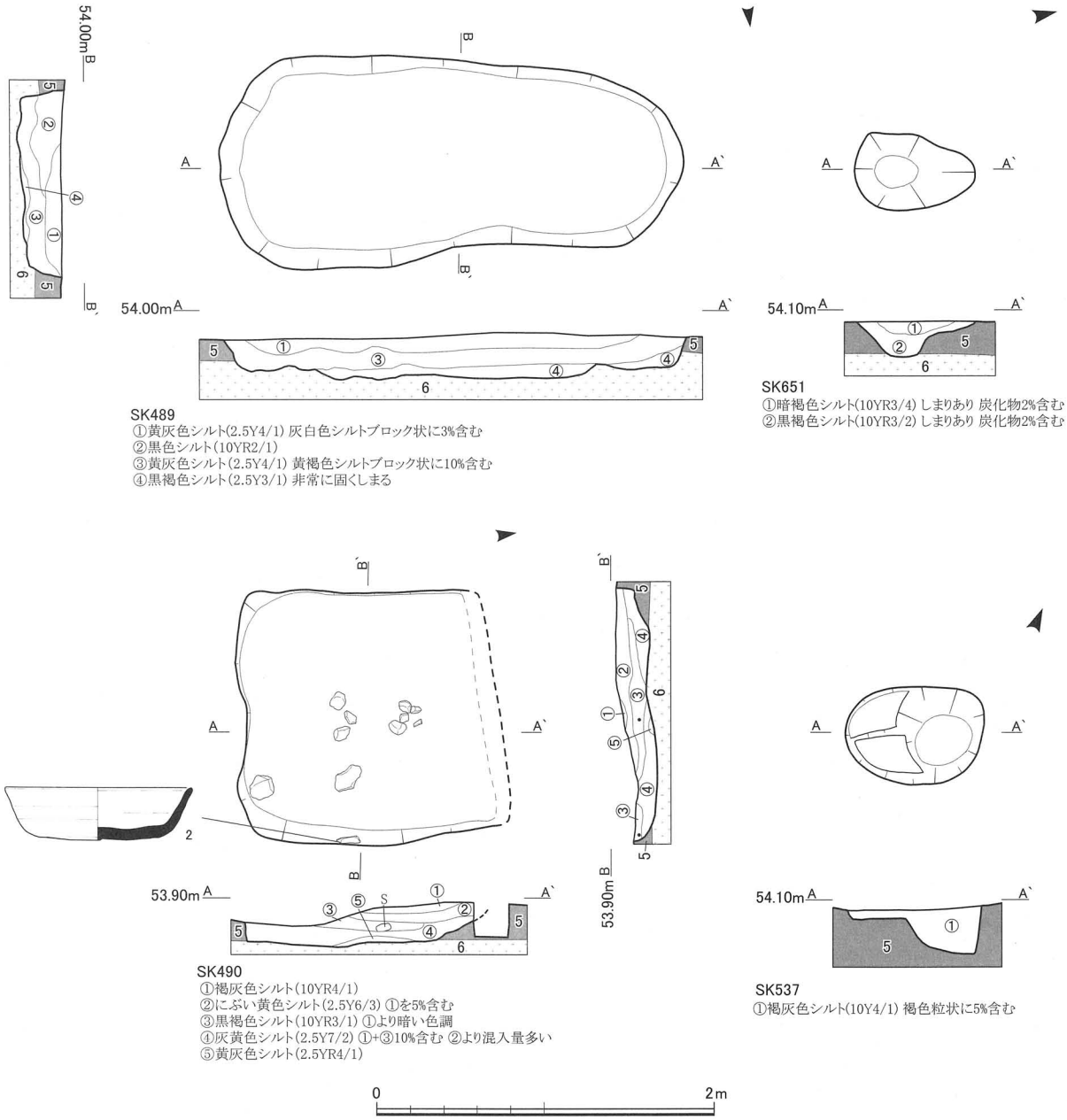



図84　第2遺構面　SK489・490（S＝1：40）

## （５）ピット〔Pit〕

### ピット（ＳＰ）　〔図85・86〕

**概　　要**　調査区内でピットが集中的に検出されたのは、西側調査区中央、東側調査区西、SD09東周辺である。下図に示したのは、柱穴の可能性をもつものとして、1）断面形態がＶ字状でないもの、2）底面形態が丸底もしくは平底となっているもの、2）柱根痕跡らしき土層を示すものを条件として抽出したものである。すべてのピットを図化するよりも、報告書刊行後にこれらピットから掘立柱建物を構成する柱穴を抽出する作業を行う基礎資料として提示することを目的としている。

**柱穴の可能性**

**掘立柱建物**

**遺　　物**　基本的に遺物を含むピットは少ない。出土したのは中世土師器の皿と珠洲片口鉢である。珠洲は内面に卸し目が施され、擂鉢として使用されたことが想定される。外面には指頭による撫での痕跡が認められる。

**中世土師器**

**珠洲片口鉢**

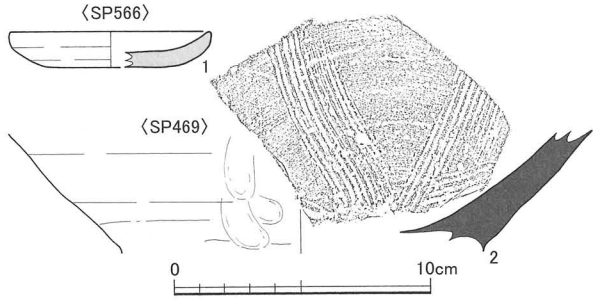



図85　ピット出土遺物実測図（S＝1：3）

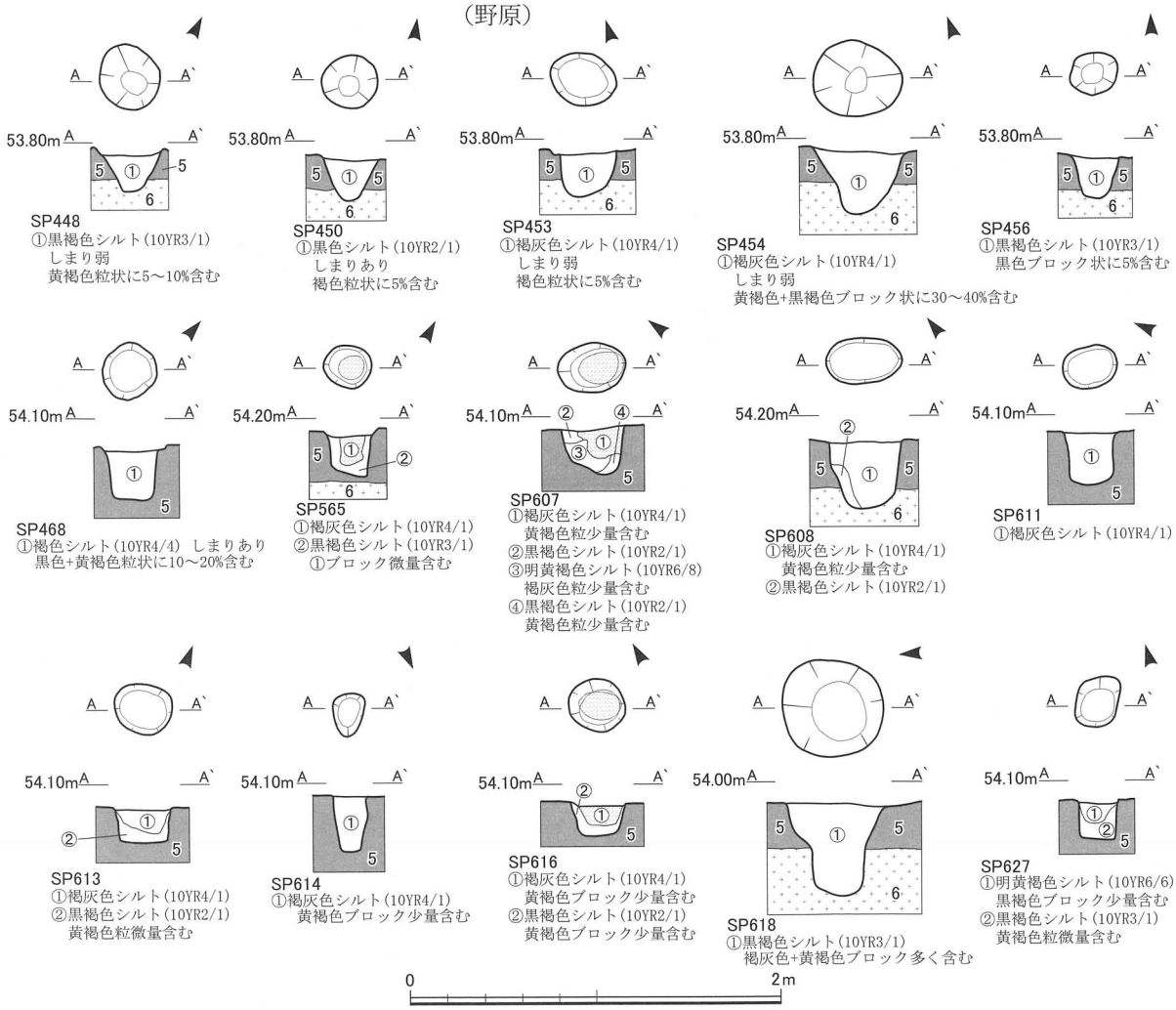



図86　第2遺構面　ピット（S＝1：40）

# 6　第3遺構面　（縄文中-後期）

**遺構の配置**　5層（遺物包含層）直下の6層上面で確認された遺構は、調査区全体でピットが約500基、土坑は約20基が確認されている。5層中から縄文土器・打製石斧が出土していることから、縄文時代に相当する遺構と推測できるが、遺構内出土遺物はない。多くのピットは、西側調査区の中央から西側に多く分布している。特にY－15,460軸付近に集中している。平成15年の発掘調査においても、ピットが集中している範囲と少ない範囲が見られ、遺構が集中する範囲と、少ない範囲に差がある傾向が見られる。また、4層が確認された東側調査区の中央から西端部には、遺構がほとんど見られない。付近の6層内には、多くの礫を含んでいるために掘削が難しいことが原因と考えられる。SD09付近も同様と考えられる。確認されたピットの多くは、円形・楕円形の形状である。覆土が単層の黒色土で、5層由来と考えられ、断面形状はU字状が多数である。その中で、柱痕跡らしきものが分層できるSP733・735・1063が確認された。集中してピットが確認されているが、SP1048～1051を除いて、遺構配置に規則性は見られなかった。土坑についても、規模や平面形、掘り込みの形態は様々であるが、覆土に遺物は見られず、袋状土坑（SK1021・1098）以外に特徴的なものは見られなかった。第3遺構面では、2～5mの範囲を馬蹄形状、三日月状に5層黒色土が6層中に入り込み、7層の礫を第3遺構面まで持ち上げ、撹乱された状態で見られる風倒木跡が見られた。

土坑20基
ピット500基
袋状土坑
風倒木痕

## （1）土　坑〔Earthen pit〕

### 土坑（SK）　〔図87・88　図版38〕

SK696は平面直径88cmを測る円形の土坑である。深さは20cmで底面は丸みを帯びている。覆土は2層である。SK725は長軸110cm、短軸70cmの平面形が楕円の土坑ある。底面に若干凹凸が見られる。単層である。SK745は長軸84cm、短軸66cmを測る平面が楕円の土坑である。深さ32cmで、断面形は逆台形を呈しているが、一部円形の掘り込みらしき凹みが見られる。覆土は2層である。SK773は長軸92cm、短軸32cmを測る、平面が東西方向に長い不整形の土坑である。深さは18cmと浅く単層である。SK825は長軸74cm、短軸44cmの平面が不整形の土坑である。深さが16cmと浅く、底面は緩やかなテラス状になっている。単層である。SK826は長軸90cm、短軸38cmの南北に長い不整形の土坑である。深さは14cmと浅く、底面に凹凸が見られる。単層である。SK829は長軸80cm、短軸42cmの東西に長い不整形の土坑である。SK826の近くにあり、SP824に切られている。深さは12cmと浅く、単層である。SK994は長軸82cm、短軸24cmの不整形の土坑である。断面形が逆三角形に近いほど、掘り込みの角度が急である。深さは30cmで覆土は3層である。SK1021は直径が44cmの平面が円形の土坑である。深さが88cm、断面形は長方形状で、7層（礫層）まで到達している。底面が掘り込み面より広く、袋状となる。覆土は5層由来の黒色土の単層と考えられ、微量の炭化物も含まれていることから、分析を行ったが、5層中に普遍的に含まれるもので、時期の確定には至らなかった。同じ形態と考えられるSK1085が、東に20m離れた位置にある。SK1022は長軸122cm、短軸104cmの平

袋状土坑

面が楕円形の土坑である。断面形は逆台形状で深さは20cmで、単層である。SK1023は長軸122cm、短軸80cmの平面が不整形の土坑である。断面形が逆三角形状である。底面は7層まで到達し、深さは58センチで単層である。SK1064は長軸64cm、短軸48cmの平面が不整形の土坑である。深さが14cmと浅く、底面に凹凸がある。単層である。SK1083は長軸130cm、短軸66cmの平面が南北に長い、不整形の土坑である。深さは24cmで底面がテラス状になっている。覆土は４層である。SK1085は直径が60cmの平面が円形の土坑である。深さが50cmで、断面形は、一旦狭まり、中間の位置で幅が64cmと広がる袋状になっている。礫層の7層を深く掘りこんでいる。単層で、覆土内に微量の炭化物が含まれていたため、分析を行ったが、SK1021と同じく、５層中に普遍的に含まれる炭化物で、時期の確定はできなかった。平成15年度の調査で、第３遺構面（下層遺構）から同様に袋状の土坑であるSK61が確認されている。SK1098は長軸80cm、短軸68cmの平面が楕円形の土坑である。断面形状は逆台形状で、深さが20cmである。底面は若干の凹凸が見られる。単層である。SK1099は長軸104cm、短軸86cmの平面が楕円形の土坑である。断面形状は逆台形状で、深さが36cmの単層である。SK1100は長軸204cm、短軸138cmの平面が楕円形の土坑である。第３遺構面から確認された土坑では規模が大きい。深さは32cmで断面形状は逆台形状である。覆土は単層である。SK1108は長軸170cm、短軸150cmの平面が楕円形の土坑である。SK1100と同じく規模が大きい。断面形状は弓状で底面が狭い。深さは54cmで単層である。

**袋状土坑**

## （２）ピット〔Pit〕

### ピット（ＳＰ）　〔図88　図版38〕

SP733・735は西側調査区の西北端に位置する。SP733の２ｍ東にSP735がある。SP733は、直径32cmの平面が円形のピットである。深さが16cmで、断面形状が逆台形状である。SP735は、長軸40cm、短軸30cmの平面が楕円形のピットである。深さは18cmで断面形状は逆台形状である。いずれのピットも2層に分層できる。①層が柱痕跡と考えられる。SP1063は西側調査区の北東部分で、電柱設置のため調査範囲が凸状になっている付近にある。長軸30cm、短軸26cmの平面が楕円形のピットである。断面形は逆台形状で、深さが22cmである。①層が柱痕跡と考えられる。SP1048・1049・1050・1051は西側調査区の西北部分、電柱設置のため調査範囲が凸状になっている付近にある。SP1049は直径32cm、SP1050は26cmの平面形が円形で、SP1048・1051は長軸が約35cm、短軸が28cmの平面が楕円形である。各ピット深さは24～36cmの範囲である。単層で柱痕跡は確認できない。ほぼ一辺が90cmの正方形に配置されている。確認されたピットの付近からは、縄文土器片が一点出土しているのみである。５層上で竪穴遺構と考えられる輪郭は確認できず、６層上でもピット以外の掘り込みの痕跡は確認できなかった。西側調査区の北部分は、２層を確認することはできず、表土下は５層であった。かつての農地整備で、５層の上部から上は削平され、第３遺構面でも遺構は殆ど見られなかったことから、竪穴遺構のピットのみが確認できる状況の可能性も考えられる。　（阿部）

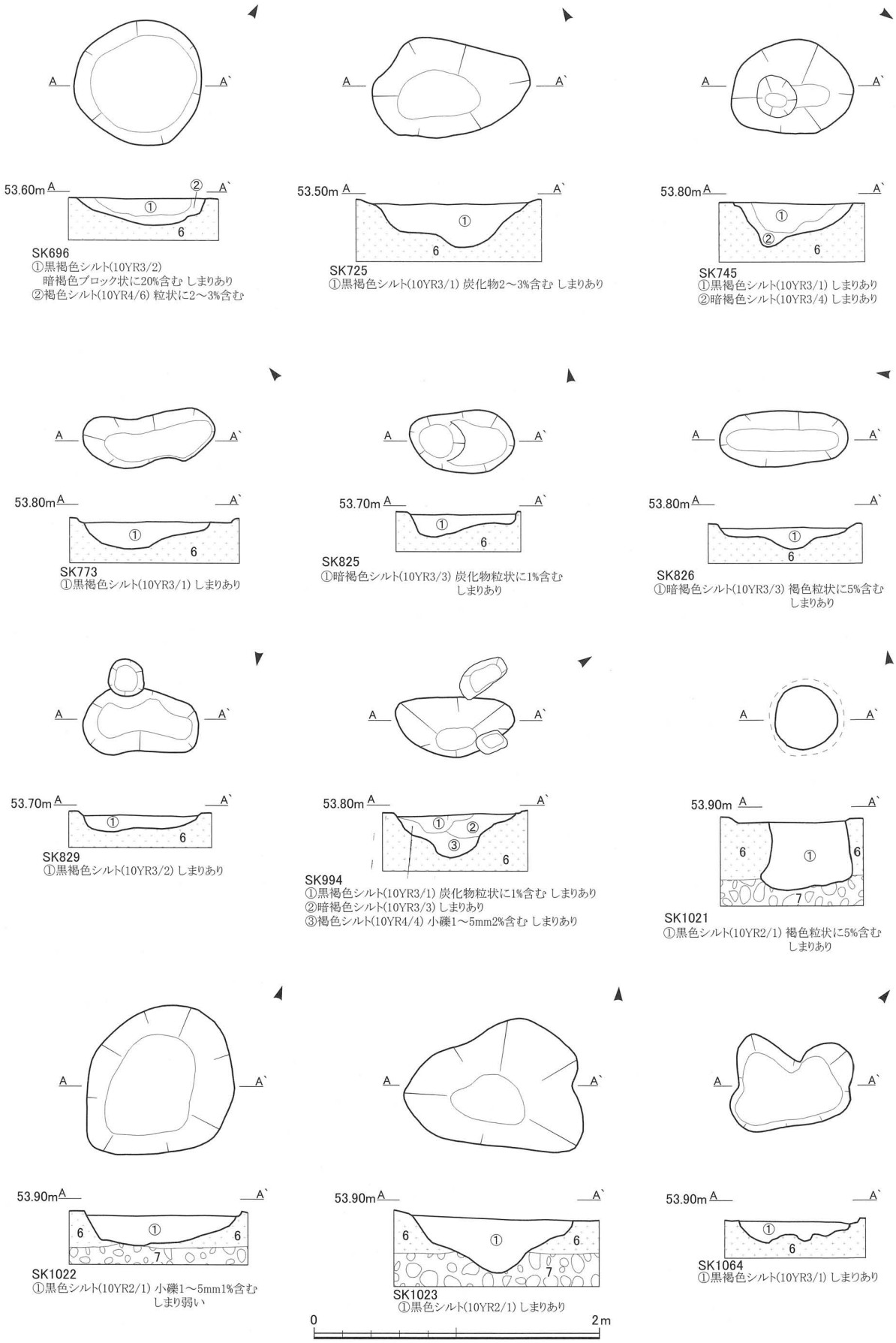



**図87　第3遺構面　土坑**（S＝1：40）

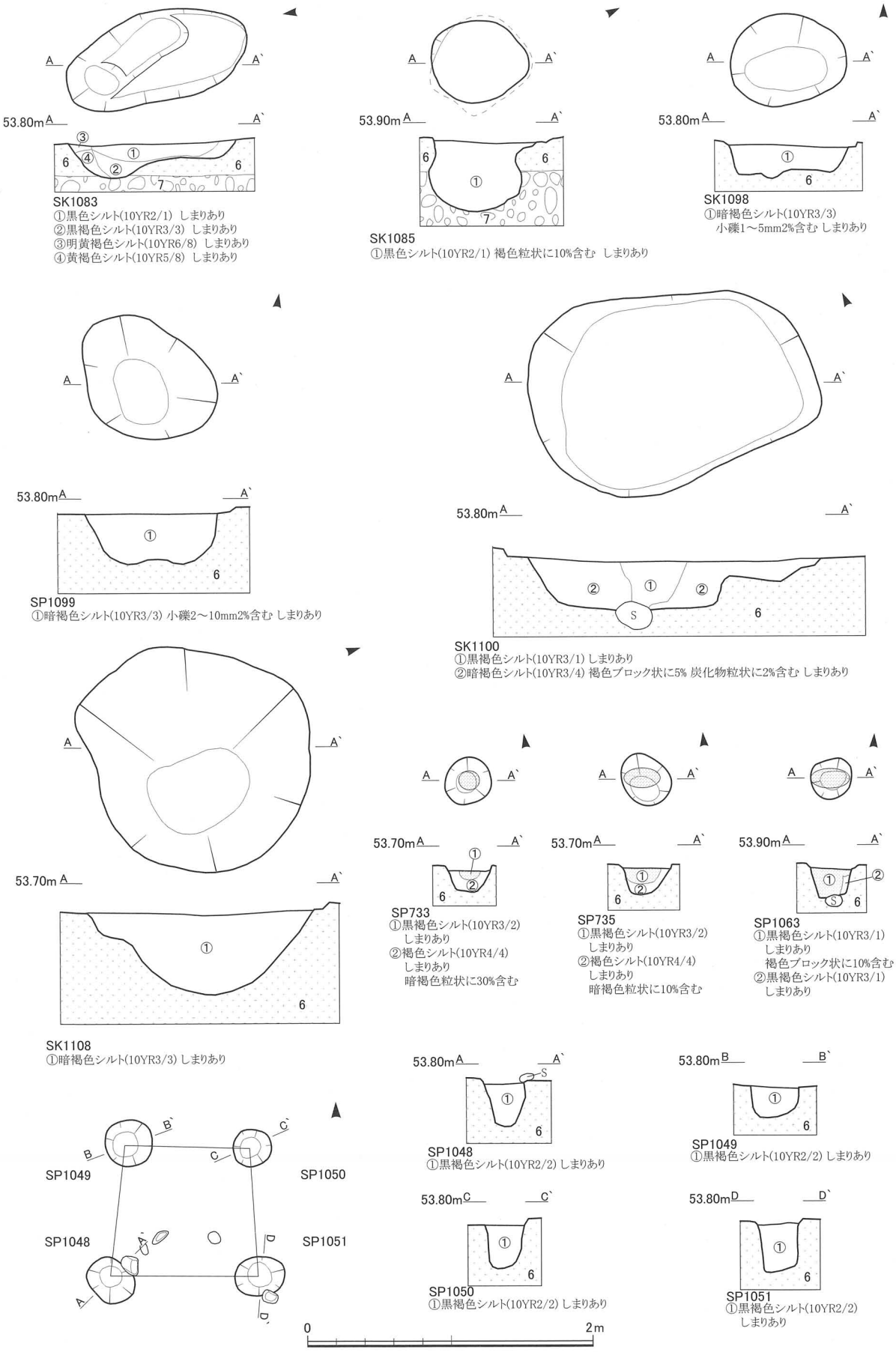



図88　第3遺構面　土坑ピット（S＝1：40）

表3　溝(SD)一覧

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 方位 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遺構全体図 | SD 72 | 東側調査区 | N-85° -W | 第1遺構面 | 44 | 22 | 21 | 須恵器 | |
| 図28 | SD 145 | 東側調査区 | N-20° -E | 第1遺構面 | 21 | 18 | 12 | | |
| | SD 146 | 東側調査区 | N-64° -E | 第1遺構面 | 22 | 18 | 4 | 須恵器　土錘 | |
| | SD 147 | 東側調査区 | N-49° -E | 第1遺構面 | 147 | 90 | 20 | 須恵器　珠洲 | |
| | SD 148 | 東側調査区 | N-18° -E | 第1遺構面 | 165 | 20 | 30 | | |
| | SD 149 | 東側調査区 | N-63° -W | 第1遺構面 | 170 | 100 | 30 | 須恵器　珠洲 | |
| | SD 150 | 東側調査区 | N-63° -W | 第1遺構面 | 37 | 21 | 12 | | |
| | SD 151 | 東側調査区 | N-75° -W | 第1遺構面 | 35 | 28 | 8 | | |
| | SD 152 | 東側調査区 | N-75° -W | 第1遺構面 | 40 | 29 | 32 | | |
| 図29 | SD 153 | 西側調査区 | N-79° -W | 第1遺構面 | 42 | 39 | 22 | | 90° 北方向に曲がる |
| | SD 155 | 西側調査区 | N-62° -W | 第1遺構面 | 46 | 22 | 4 | 近世陶器 | |
| | SD 156 | 西側調査区 | N-68° -W | 第1遺構面 | 63 | 41 | 6 | | |
| | SD 157 | 西側調査区 | N-23° -E | 第1遺構面 | 49 | 32 | 26 | | |
| | SD 158 | 西側調査区 | N-51° -W | 第1遺構面 | 35 | 21 | 19 | | |
| | SD 161 | 西側調査区 | N-67° -W | 第1遺構面 | 32 | 24 | 18 | | |
| | SD 162 | 西側調査区 | N-9° -E | 第1遺構面 | 20 | 17 | 14 | | |
| | SD 168 | 西側調査区 | N-70° -W | 第1遺構面 | 50 | 20 | 18 | | |
| 図75・77・78 | SD 09 | 東側調査区 | N-45° -E | 第2遺構面 | 1000 | 690 | 155 | 須恵器　石鍋　中世土師器　近世陶磁　鉄滓 | SD09(H16) |
| | SD 430 | 東側調査区 | N-42° -W | 第2遺構面 | 186 | 150 | 675 | | SD200(H16) |

表4　掘立柱建物(SB)一覧(第2遺構面)

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 桁行柱間 | 梁行柱間 | 全長(cm) 桁行 | 全長(cm) 梁行 | 面積(㎡) | 方位 | 柱形式 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図32・33 | SB 01 | 東側調査区 | 270 | 290 | 1090 | 580 | 63.2 | N－2° －E | |
| 図35・37 | SB 02 | 東側調査区 | 165 | 215 | 990 | 430 | 42.6 | N－1° －W | |
| 図38・9 | SB 03 | 東側調査区 | 278 | 285 | 1110 | 570 | 63.3 | N－8° －E | |
| 図41・42 | SB 04 | 東側調査区 | 230 | 440 | 920 | 440 | 40.5 | N－5° －E | |
| 図43・44 | SB 05 | 東側調査区 | 220 | 195 | 660 | 390 | 25.7 | N－17° －E | |

表5　掘立柱建物関連遺構一覧

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 平面形 | 遺構(SB) | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図32・33 | SP 232 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 68 | 52 | 42 | | |
| | SK 233 | 東側調査区 | 方形 | SB01 | 142 | 92 | 49 | | |
| | SP 234 | 東側調査区 | 円形 | SB01 | 60 | 56 | 23 | | |
| | SP 235 | 東側調査区 | 円形 | SB01 | 68 | 60 | 22 | | |
| | SP 271 | 東側調査区 | 円形 | SB01 | 52 | 42 | 20 | | |
| | SP 272 | 東側調査区 | 円形 | SB01 | 32 | 24 | 18 | | |
| | SP 284 | 東側調査区 | やや方形 | SB01 | 52 | 40 | 51 | | |
| | SP 285 | 東側調査区 | やや方形 | SB01 | 64 | 60 | 40 | 須恵器 | |
| | SP 291 | 東側調査区 | 楕円形 | SB01 | 96 | 60 | 52 | | |
| | SP 292 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 76 | 60 | 50 | | 柱痕あり |
| | SP 295 | 東側調査区 | 楕円形 | SB01 | 60 | 56 | 30 | | |
| | SP 296 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 60 | 58 | 38 | 須恵器 | |
| | SP 297 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 88 | 62 | 42 | 須恵器 | |
| | SP 299 | 東側調査区 | 楕円形 | SB01 | 60 | 52 | 15 | | |
| | SP 300 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 76 | 64 | 43 | 須恵器 | |
| | SP 301 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 52 | 42 | 48 | | |
| | SP 303 | 東側調査区 | 楕円形 | SB01 | 68 | 60 | 43 | | |
| | SP 304 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 88 | 60 | 55 | | |

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 方位 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図32・33 | SP 305 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 68 | 44 | 72 | | |
| | SP 436 | 東側調査区 | 不整形 | SB01 | 52 | 28 | 19 | | |
| | SP 437 | 東側調査区 | 円形 | SB01 | 32 | 28 | 22 | | |
| | SK 443 | 東側調査区 | 円形 | SB01 | 84 | 66 | 16 | 須恵器 | |
| | SP 444 | 東側調査区 | 円形 | SB01 | 51 | 48 | 25 | 須恵器 | |
| | SP 445 | 東側調査区 | やや方形 | SB01 | 84 | 60 | 29 | | |
| | SP 475 | 東側調査区 | 円形 | SB01 | 44 | 38 | 22 | | |
| | SP 476 | 東側調査区 | 楕円形 | SB01 | 96 | 62 | 50 | | 柱痕あり |
| | SP 481 | 東側調査区 | 楕円形 | SB01 | 48 | 36 | 14 | | |
| | SP 483 | 東側調査区 | 楕円形 | SB01 | 68 | 44 | 33 | 須恵器 | |
| 図35・37 | SP 228 | 東側調査区 | 不整形 | SB02 | 65 | 55 | 30 | 土師器 | |
| | SP 229 | 東側調査区 | 楕円形 | SB02 | 72 | 60 | 39 | 弥生土器 | |
| | SP 230 | 東側調査区 | 楕円形 | SB02 | 68 | 48 | 20 | | |
| | SP 231 | 東側調査区 | 円形 | SB02 | 55 | 48 | 22 | | |
| | SP 237 | 東側調査区 | 不明 | SB02 | 75 | 50 | 40 | | 削平されている |
| | SP 238 | 東側調査区 | 不明 | SB02 | 70 | 65 | 60 | | 削平されている |
| | SP 239 | 東側調査区 | 楕円形 | SB02 | 70 | 55 | 26 | | 柱痕あり |
| | SP 309 | 東側調査区 | 楕円形 | SB02 | 76 | 65 | 23 | | |
| | SP 392 | 東側調査区 | 不明 | SB02 | 62 | 50 | 29 | | 削平されている |
| | SP 427 | 東側調査区 | 楕円形 | SB02 | 95 | 85 | 54 | | |
| | SP 428 | 東側調査区 | 不整形 | SB02 | 60 | 45 | 44 | | |
| | SP 429 | 東側調査区 | 楕円形 | SB02 | 100 | 85 | 49 | | |
| | SP 461 | 東側調査区 | 不明 | SB02 | (35) | 24 | (18) | | 削平されている |
| | SP 462 | 東側調査区 | 不明 | SB02 | 24 | 20 | (9) | | 削平されている |
| | SP 477 | 東側調査区 | 不整形 | SB02 | 70 | 40 | 97 | | |
| | SP 478 | 東側調査区 | 円形 | SB02 | 40 | 30 | 10 | | |
| | SP 479 | 東側調査区 | 円形 | SB02 | 35 | 28 | 10 | | |
| | SP 480 | 東側調査区 | 楕円形 | SB02 | 50 | 40 | 19 | | |
| | SP 482 | 東側調査区 | 不整形 | SB02 | 45 | 40 | 14 | | |
| 図38・39 | SP 516 | 西側調査区 | 楕円形 | SB03 | 80 | 70 | 50 | | |
| | SP 632 | 西側調査区 | 円形 | SB03 | 40 | 40 | 65 | | |
| | SP 633 | 西側調査区 | 不整形 | SB03 | 60 | 40 | 45 | | |
| | SP 636 | 西側調査区 | 不整形 | SB03 | 90 | 60 | 75 | | |
| | SK 637 | 西側調査区 | やや方形 | SB03 | 90 | 60 | 35 | | |
| | SK 638 | 西側調査区 | 不明 | SB03 | 95 | 50 | 85 | | 削平されている。 |
| | SP 1117 | 西側調査区 | 楕円形 | SB03 | 47 | 38 | 34 | | |
| | SP 1118 | 西側調査区 | やや方形 | SB03 | 68 | 55 | 22 | | |
| | SP 1119 | 西側調査区 | 不整形 | SB03 | 75 | 38 | 54 | | |
| | SP 1120 | 西側調査区 | 楕円形 | SB03 | 88 | 60 | 64 | | |
| | SP 1123 | 西側調査区 | 楕円形 | SB03 | 70 | 55 | 76 | | |
| | SP 1208 | 東側調査区 | 楕円形 | SB03 | 60 | 55 | 40 | | |
| | SP 1209 | 東側調査区 | 楕円形 | SB03 | 40 | 30 | 30 | | |
| | SP 1210 | 東側調査区 | やや方形 | SB03 | 95 | 50 | 60 | | |
| | SP 1211 | 東側調査区 | 楕円形 | SB03 | 47 | 55 | 38 | | |
| | SP 1212 | 東側調査区 | 円形 | SB03 | 50 | 45 | 60 | | |
| | SP 1213 | 東側調査区 | やや方形 | SB03 | 55 | 40 | 50 | | |
| | SP 1214 | 東側調査区 | 楕円形 | SB03 | 58 | 40 | 26 | | |
| | SP 1215 | 東側調査区 | 楕円形 | SB03 | 100 | 65 | 60 | | |
| | SP 1216 | 東側調査区 | 不整形 | SB03 | 75 | 45 | 35 | | |
| | SP 1217 | 東側調査区 | 楕円形 | SB03 | 60 | 50 | 24 | | |
| | SP 1218 | 東側調査区 | 不整形 | SB03 | 105 | 50 | 34 | | |

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 方位 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図38・39 | SP 1219 | 東側調査区 | 不整形 | SB03 | 80 | 60 | 40 | | |
| | SP 1222 | 東側調査区 | 円形 | SB03 | 55 | 50 | 48 | | |
| | SP 1223 | 東側調査区 | 円形 | SB03 | 70 | 60 | 48 | | |
| | SK 1224 | 東側調査区 | やや方形 | SB03 | 70 | 50 | (5) | | 削平されている |
| | SP 1225 | 東側調査区 | 不明 | SB03 | 32 | 15 | 50 | | |
| 図41・42 | SP 287 | 東側調査区 | 楕円形 | SB04 | 18 | 16 | 14 | | |
| | SP 293 | 東側調査区 | 楕円形 | SB04 | 52 | 38 | 53 | | |
| | SP 294 | 東側調査区 | やや方形 | SB04 | 50 | 40 | 52 | | |
| | SP 306 | 東側調査区 | やや方形 | SB04 | 45 | 34 | 46 | | |
| | SP 313 | 東側調査区 | 円形 | SB04 | 42 | 38 | 34 | | 柱痕あり |
| | SP 345 | 東側調査区 | やや方形 | SB04 | 60 | 40 | 46 | | |
| | SP 367 | 東側調査区 | 円形 | SB04 | 40 | 35 | 54 | | |
| | SP 388 | 東側調査区 | 不整形 | SB04 | 60 | 50 | 38 | | 柱痕あり |
| | SP 411 | 東側調査区 | 不整形 | SB04 | 55 | 38 | 48 | | |
| | SP 412 | 東側調査区 | 円形 | SB04 | 50 | 45 | 38 | | |
| | SP 425 | 東側調査区 | 楕円形 | SB04 | 40 | 28 | 59 | | 柱痕あり |
| | SP 426 | 東側調査区 | 楕円形 | SB04 | 55 | 40 | 32 | 須恵器 | |
| | SP 431 | 東側調査区 | 不整形 | SB04 | 45 | 38 | 30 | | 柱痕あり |
| | SP 432 | 東側調査区 | 楕円形 | SB04 | 60 | 38 | 56 | | |
| | SP 433 | 東側調査区 | 楕円形 | SB04 | 48 | 40 | 65 | | 柱痕あり |
| | SP 434 | 東側調査区 | 円形 | SB04 | 40 | 35 | 56 | | |
| 図43・44 | SK 556 | 西側調査区 | 円形 | SB05 | 32 | 60 | 20 | 珠洲 | |
| | SP 557 | 西側調査区 | 円形 | SB05 | 26 | 24 | 32 | | |
| | SP 559 | 西側調査区 | 楕円形 | SB05 | 38 | 16 | 30 | | |
| | SP 560 | 西側調査区 | 楕円形 | SB05 | 40 | 38 | 28 | | |
| | SP 562 | 西側調査区 | 円形 | SB05 | 32 | 30 | 28 | | |
| | SP 564 | 西側調査区 | 円形 | SB05 | 34 | 30 | 48 | | |
| | SP 566 | 西側調査区 | 楕円形 | SB05 | 40 | 32 | 20 | 中世土師器 | |
| | SP 569 | 西側調査区 | 楕円形 | SB05 | 38 | 34 | 34 | | |
| | SP 571 | 西側調査区 | 不整形 | SB05 | 68 | 42 | 28 | | |
| | SP 572 | 西側調査区 | 楕円形 | SB05 | 38 | 28 | 49 | | |
| | SP 573 | 西側調査区 | 楕円形 | SB05 | 30 | 24 | 16 | | |
| | SP 574 | 西側調査区 | 円形 | SB05 | 26 | 14 | 10 | | |
| | SP 578 | 西側調査区 | 楕円形 | SB05 | 36 | 28 | 40 | | |
| | SP 589 | 西側調査区 | 円形 | SB05 | 32 | 28 | 19 | | |
| | SP 594 | 西側調査区 | 円形 | SB05 | 32 | 28 | 31 | | |
| | SP 599 | 西側調査区 | 楕円形 | SB05 | 38 | 30 | 16 | | |

表6　竪穴建物(SI)一覧

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 平面形 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図46 | SI 97 | 東側調査区 | 正方形 | 第2遺構面 | 250 | (242) | 40 | 須恵器　土師器 | 焼土あり　調査範囲外におよぶ |
| 図47・48 | SI 166 | 東側調査区 | 正方形 | 第2遺構面 | 567 | 530 | 50 | 須恵器　土師器 | 焼土・硬化面あり |
| 図51 | SI 167 | 東側調査区 | 方形 | 第2遺構面 | 356 | (286) | 31 | 須恵器 | 調査範囲外におよぶ |
| 図53 | SI 395 | 東側調査区 | 方形 | 第2遺構面 | 356 | (270) | 14 | 須恵器 | 調査範囲外におよぶ |
| 図54・55 | SI 491 | 東側調査区 | 長方形 | 第2遺構面 | 395 | 360 | 30 | 須恵器　土師器 | カマド・焼土・硬化面あり |
| 図54・57・58 | SI 492 | 東側調査区 | 長方形 | 第2遺構面 | 490 | 395 | 45 | 須恵器　土師器　刀子　不明鉄製品　土錘 | 焼土・硬化面あり |
| 図54・62 | SI 493 | 東側調査区 | 長方形 | 第2遺構面 | 670 | (536) | 34 | 須恵器 | |
| 図54・63 | SI 494 | 東側調査区 | 正方形 | 第2遺構面 | 390 | 380 | 46 | 須恵器　土師器　土錘 | カマド・焼土・硬化面あり |

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 方位 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図54・57・58 | SI 495 | 東側調査区 | 正方形 | 第2遺構面 | (454) | 415 | 24 | 須恵器　土師器 | SI492に切られている |
| 図66 | SI 550 | 西側調査区 | 正方形 | 第2遺構面 | (252) | (242) | (9) | 土師器 | 竪穴外柱穴10基 |
| 図68 | SI 600 | 西側調査区 | 長方形 | 第2遺構面 | 454 | 412 | 20 | 須恵器　土師器 | 焼土あり |
| 図69 | SI 620 | 西側調査区 | 方形 | 第2遺構面 | (290) | (170) | 44 | | 竪穴外柱穴・調査範囲外におよぶ |
| 図71 | SI 650 | 西側調査区 | 不整形 | 第2遺構面 | 500 | 490 | 20 | 須恵器　土師器 | 焼土・焼土ピットあり　削平されている |
| 図73 | SI 1220 | 東側調査区 | 長方形 | 第2遺構面 | (460) | (410) | 15 | 須恵器　土師器 | カマド・焼土あり　排水路に切られている |

表7　竪穴建物(SI)関連土坑・ピット一覧

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 平面形 | 遺構(SI) | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図47・48 | P 1 | 東側調査区 | やや方形 | SI166 | 118 | 100 | 40 | | |
| | P 2 | 東側調査区 | 不整形 | SI166 | 106 | 68 | 43 | | |
| | P 3 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 65 | 50 | 20 | | |
| | P 4 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 70 | 64 | 30 | | |
| | P 5 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 50 | 45 | 50 | | |
| | P 6 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 70 | 45 | 31 | | |
| | P 7 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 50 | 45 | 48 | | |
| | P 8 | 東側調査区 | やや方形 | SI166 | 50 | 45 | 31 | | |
| | P 9 | 東側調査区 | 不整形 | SI166 | 50 | 30 | 32 | | |
| | P 10 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 45 | 40 | 23 | | |
| | P 11 | 東側調査区 | 円形 | SI166 | 45 | 40 | 84 | | |
| | P 12 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 65 | 45 | 39 | | |
| | P 13 | 東側調査区 | 円形 | SI166 | 30 | 20 | 14 | | |
| | P 14 | 東側調査区 | 不整形 | SI166 | 45 | 40 | 16 | | |
| | P 15 | 東側調査区 | 円形 | SI166 | 70 | 68 | 92 | | |
| | P 16 | 東側調査区 | 不整形 | SI166 | 80 | 45 | 20 | | |
| | P 17 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 58 | 30 | 15 | | |
| | SK 1 | 東側調査区 | 方形 | SI166 | 130 | 60 | 52 | | |
| | SK 2 | 東側調査区 | 不整形 | SI166 | 95 | 40 | 30 | | |
| | SK 3 | 東側調査区 | 楕円形 | SI166 | 60 | 35 | 54 | | |
| | SK 276 | 東側調査区 | 不整形 | SI166 | 150 | 58 | 26 | | |
| | SP 277 | 東側調査区 | 不整形 | SI166 | 56 | 36 | 21 | | カマド煙筒の可能性あり |
| 図53 | SP 423 | 東側調査区 | 円形 | SI395 | 30 | 26 | 28 | | |
| 図54・55 | P 1 | 東側調査区 | 円形 | SI491 | 40 | 38 | 68 | | |
| | P 2 | 東側調査区 | 円形 | SI491 | 50 | 48 | 62 | | |
| | P 4 | 東側調査区 | 楕円形 | SI491 | 20 | 18 | 12 | | |
| | P 5 | 東側調査区 | 楕円形 | SI491 | 46 | 40 | 18 | | |
| 図54・57・58 | P 1 | 東側調査区 | 楕円形 | SI492 | 80 | 60 | 21 | | |
| | P 2 | 東側調査区 | 楕円形 | SI492 | 50 | 32 | 22 | | |
| | P 3 | 東側調査区 | 円形 | SI492 | 32 | 30 | 13 | | |
| | P 4 | 東側調査区 | 楕円形 | SI492 | 44 | 38 | 12 | | |
| | P 5 | 東側調査区 | 楕円形 | SI492 | 75 | 64 | 10 | | |
| | P 6 | 東側調査区 | 不整形 | SI492 | 30 | 24 | 14 | | |
| | P 7 | 東側調査区 | 不整形 | SI492 | 42 | 22 | 11 | | |
| | P 8 | 東側調査区 | 円形 | SI492 | 22 | 20 | 11 | | |
| 図54・62 | SK 497 | 東側調査区 | 長方形 | SI493 | 164 | 50 | 58 | | 柱穴の可能性あり |
| 図54・63 | P 2 | 東側調査区 | 円形 | SI494 | 48 | 34 | 60 | | |
| | P 3 | 東側調査区 | 楕円形 | SI494 | 62 | 38 | 27 | | |
| | P 4 | 東側調査区 | 楕円形 | SI494 | 58 | 34 | 48 | | |
| 図66 | P 1 | 西側調査区 | 円形 | SI550 | 42 | 34 | 14 | | |

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 方位 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図66 | SP 575 | 西側調査区 | 円形 | SI550 | 22 | 18 | 17 | | |
| | SP 587 | 西側調査区 | 円形 | SI550 | 22 | 20 | 22 | | |
| | SP 590 | 西側調査区 | 円形 | SI550 | 26 | 22 | 32 | | |
| | SP 640 | 西側調査区 | やや方形 | SI550 | 20 | 18 | 17 | | |
| | SP 641 | 西側調査区 | 不整形 | SI550 | 38 | 20 | 17 | | |
| | SP 642 | 西側調査区 | 不整形 | SI550 | 40 | 38 | 7 | | |
| | SP 643 | 西側調査区 | 楕円形 | SI550 | 26 | 22 | 6 | | |
| | SP 644 | 西側調査区 | 楕円形 | SI550 | 36 | 28 | 12 | | |
| | SP 645 | 西側調査区 | 円形 | SI550 | 22 | 20 | 17 | | |
| | SP 646 | 西側調査区 | 楕円形 | SI550 | 22 | 36 | 20 | | |
| | SP 647 | 西側調査区 | 楕円形 | SI550 | 20 | 18 | 11 | | |
| 図68 | P 1 | 西側調査区 | 円形 | SI600 | 60 | 52 | 7 | | |
| | P 2 | 西側調査区 | 不整形 | SI600 | 110 | 74 | 37 | | |
| | P 3 | 西側調査区 | 楕円形 | SI600 | 100 | 80 | 14 | | |
| | P 4 | 西側調査区 | 円形 | SI600 | 36 | 30 | 21 | | |
| | P 5 | 西側調査区 | 円形 | SI600 | 22 | 18 | 16 | | |
| | P 6 | 西側調査区 | やや方形 | SI600 | 96 | 28 | 24 | | |
| | P 7 | 西側調査区 | 楕円形 | SI600 | 30 | 30 | 22 | | |
| | P 8 | 西側調査区 | 円形 | SI600 | 22 | 20 | 21 | | |
| | P 9 | 西側調査区 | 円形 | SI600 | 28 | 28 | 14 | | |
| | P 12 | 西側調査区 | 円形 | SI600 | 28 | 22 | 21 | | |
| | P 15 | 西側調査区 | 楕円形 | SI600 | 22 | 22 | 14 | | |
| 図69 | SP 561 | 西側調査区 | 円形 | SI620 | 26 | 22 | 33 | | |
| | SP 577 | 西側調査区 | 円形 | SI620 | 26 | 20 | 18 | | |
| | SP 579 | 西側調査区 | 楕円形 | SI620 | 26 | 22 | 36 | | |
| | SP 583 | 西側調査区 | 楕円形 | SI620 | 28 | 22 | 31 | | |
| 図71 | P 1 | 西側調査区 | 円形 | SI650 | 22 | 18 | 7 | | |
| | P 2 | 西側調査区 | 円形 | SI650 | 28 | 26 | 11 | | |
| | P 3 | 西側調査区 | 円形 | SI650 | 26 | 22 | 16 | | |
| | P 4 | 西側調査区 | 円形 | SI650 | 28 | 20 | 9 | | |
| | P 5 | 西側調査区 | 不整形 | SI650 | 68 | 60 | 18 | 須恵器 | 焼土ピット |
| | P 6 | 西側調査区 | 不整形 | SI650 | 54 | 40 | 14 | | 焼土ピット |
| | P 7 | 西側調査区 | 不整形 | SI650 | 28 | 20 | 14 | 須恵器 | 焼土ピット |
| | P 8 | 西側調査区 | 不整形 | SI650 | 40 | 28 | 12 | | 焼土ピット |
| | P 9 | 西側調査区 | 不整形 | SI650 | 48 | 20 | 12 | | 焼土ピット |
| 図73 | SP 1221 | 東側調査区 | 不整形 | SI1220 | 32 | 20 | 44 | | |

表8　土坑・ピット（SK・SP）一覧

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 平面形 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図27 | SK 159 | 西側調査区 | 不整形 | 第1遺構面 | 180 | 150 | 26 | | |
| | SK 165 | 西側調査区 | 円形 | 第1遺構面 | 180 | 140 | 50 | | |
| 図83 | SK 66 | 東側調査区 | 不整形 | 第2遺構面 | 152 | 130 | 18 | | |
| | SK 67 | 東側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 158 | 150 | 32 | 土師器 | 調査範囲外にのびる |
| | SK 260 | 東側調査区 | 方形 | 第2遺構面 | 184 | 154 | 20 | | |
| | SK 402 | 東側調査区 | 不整形 | 第2遺構面 | 202 | 184 | 17 | | |
| | SK 241 | 東側調査区 | 不整形 | 第2遺構面 | 70 | 60 | 47 | | |
| | SK 424 | 東側調査区 | 不整形 | 第2遺構面 | 82 | 70 | 12 | | |
| | SK 488 | 西側調査区 | 不整形 | 第2遺構面 | 96 | 72 | 19 | | |
| 図84 | SK 489 | 東側調査区 | 長方形 | 第2遺構面 | 270 | 110 | 28 | 須恵器 | |
| | SK 490 | 東側調査区 | 方形 | 第2遺構面 | 192 | 152 | 22 | 須恵器 | 試掘溝に切られる |

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 方位 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図84 | SK 537 | 西側調査区 | 楕円形 | 第2遺構面 | 82 | 58 | 27 | | |
| | SK 651 | 西側調査区 | 不整形 | 第2遺構面 | 70 | 42 | 21 | | |
| 図86 | SP 448 | 東側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 36 | 32 | 19 | | |
| | SP 450 | 東側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 30 | 28 | 22 | | |
| | SP 453 | 東側調査区 | 楕円形 | 第2遺構面 | 36 | 28 | 22 | | |
| | SP 454 | 東側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 48 | 42 | 34 | | |
| | SP 456 | 東側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 28 | 20 | 20 | | |
| | SP 468 | 東側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 30 | 28 | 27 | | |
| | SP 565 | 西側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 26 | 22 | 22 | | 柱痕あり |
| | SP 607 | 西側調査区 | 楕円形 | 第2遺構面 | 36 | 26 | 24 | | 柱痕あり |
| | SP 608 | 西側調査区 | 楕円形 | 第2遺構面 | 40 | 22 | 37 | | |
| | SP 611 | 西側調査区 | 楕円形 | 第2遺構面 | 28 | 20 | 26 | | |
| | SP 613 | 西側調査区 | 楕円形 | 第2遺構面 | 30 | 28 | 18 | | |
| | SP 614 | 西側調査区 | 楕円形 | 第2遺構面 | 22 | 16 | 30 | | |
| | SP 616 | 西側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 30 | 26 | 17 | | 柱痕あり |
| | SP 618 | 西側調査区 | 円形 | 第2遺構面 | 56 | 52 | 50 | | |
| | SP 627 | 西側調査区 | 楕円形 | 第2遺構面 | 28 | 20 | 19 | | |
| 図87 | SK 696 | 西側調査区 | 円形 | 第3遺構面 | 90 | 88 | 18 | | |
| | SK 725 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 110 | 70 | 30 | | |
| | SK 745 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 86 | 68 | 31 | | |
| | SK 773 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 92 | 32 | 19 | | |
| | SK 825 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 76 | 46 | 16 | | |
| | SK 826 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 91 | 38 | 15 | | |
| | SK 829 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 80 | 58 | 11 | | |
| | SK 994 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 78 | 42 | 30 | | |
| | SK 1021 | 西側調査区 | 円形 | 第3遺構面 | 56 | 46 | 48 | | 袋状遺構 |
| | SK 1022 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 120 | 100 | 21 | | |
| | SK 1023 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 120 | 84 | 39 | | |
| | SK 1064 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 94 | 64 | 16 | | |
| 図88 | SK 1083 | 西側調査区 | 不整形 | 第3遺構面 | 132 | 64 | 24 | | |
| | SK 1085 | 西側調査区 | 円形 | 第3遺構面 | 72 | 64 | 49 | | 袋状遺構 |
| | SK 1098 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 82 | 64 | 24 | | |
| | SK 1099 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 106 | 80 | 36 | | |
| | SK 1100 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 196 | 130 | 34 | | |
| | SK 1108 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 170 | 152 | 56 | | |
| | SP 733 | 西側調査区 | 円形 | 第3遺構面 | 36 | 32 | 14 | | 柱痕あり |
| | SP 735 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 37 | 32 | 18 | | 柱痕あり |
| | SP 1048 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 38 | 28 | 30 | | |
| | SP 1049 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 36 | 32 | 22 | | 竪穴遺構柱穴の可能性あり |
| | SP 1050 | 西側調査区 | 円形 | 第3遺構面 | 28 | 26 | 30 | | |
| | SP 1051 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 36 | 28 | 33 | | |
| | SP 1063 | 西側調査区 | 楕円形 | 第3遺構面 | 30 | 28 | 20 | | 柱痕あり |

表9　不明遺構(SX)一覧

| 図版番号 | 遺構番号 | 地区 | 平面形 | 遺構面 | 最大幅(cm) | 最小幅(cm) | 深さ(cm) | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図71 | SX 649 | 西側調査区 | 不整形 | 第2遺構面 | 168 | 74 | 21 | 須恵器　土師器 | |

# 7　遺物包含層出土遺物

## （1）縄文時代〔Jomon period〕

### 縄文土器　〔図89・90・91　図版51・52〕

今回の発掘で出土した縄文土器を、Ⅴ期・10群に区別し、報告する。　Ⅴ期・10群

| | |
|---|---|
| Ⅰ期（前期・後葉） | 第1群土器…福浦上層式に比定 |
| Ⅱ期（中期・前葉） | 第2群土器…新崎式に比定 |
| Ⅲ期（中期・後葉） | 第3群土器…串田新Ⅰ式に比定 |
| Ⅳ期（後期・前葉） | 第4群土器…前田式に比定 |
| | 第5群土器…岩峅野式に比定 |
| | 第6群土器…気屋Ⅰ式に比定 |
| | 第7群土器…気屋Ⅱ式に比定 |
| Ⅴ期（後期・後葉） | 第8群土器…八日市新保式に比定 |

他に、縄文施文と無文の土器の第9群土器と、深鉢形土器以外の器種の第10群土器を設定した。この2群の土器の中で、帰属する年代を推定できる土器は、文中で明記する。

**第1群土器**（図89　1）　外傾する平縁の口縁部である。地文は無文で、水平方向に細い結節状浮線文を貼付している。浮線上の結節は、爪形文の連続刺突による。福浦上層式に比定できる。　福浦上層式

**第2群土器**（図89　2～6）　半截竹管状の施文具による平行沈線文で文様を構成する土器群で、地文には縄文を施している。同2・3は平縁で、口縁端部は平坦に作り出されている。同4～6は色調や施文原体が類似しており、同一個体と見られる。新崎式に比定できる。　新崎式

**第3群土器**（図89　7～11）　棒状の施文具による幅広の沈線文と、貝殻腹縁による連続刺突文を特徴とする土器群である。同7～9は全て平縁と見られる口縁部で、口縁端部直下からより強く外反する。同9では、隆帯上に連続刺突文が加えられている。串田新Ⅰ式に比定できる。　串田新Ⅰ式

**第4群土器**（図89　12～34）　数量的に見て、今回の調査区内では主体を占める土器群である。寸胴形かあるいは張りのある胴部（同31・34）で、文様帯の下端にあたる部位から外反し、口縁端部の直下から強く外反する器形である。口縁部には、平縁のもの（同17～19）と波状口縁を呈するもの（同12～16）がある。主に幅広の沈線文で文様を構成するが、同24・25には列点状の刺突文が加えられている。沈線文は、文様帯の上部では端部と並行する方向に、下部では水平方向に施され、その間には波状（同24）・S字状（同22）・渦巻状（同20）に施される。この文様帯の下部には、特徴的な縄文が縦位に施されている。前田式に比定できる。　前田式

**第5群土器**（図90　35～42）　端部の直下から大きく外反する口縁部をもつ土器群である。同35・36の口縁部は無文である。胴部の文様帯とは、連続した刺突文の加えられた横位の隆帯で区画されている（同37）。その胴部の文様帯は、断面形が三角形に整形された隆帯で文様構成されるが、隆帯の多くは縦方向に貼付されている。第5群土器は、ほぼ岩峅野式に比定でき　岩峅野式

る。

**第6群土器**（図90　43～50）　口縁部の形状には、口縁端部の直下から内湾するキャリパー形の口縁部をもつもの（同43～46）と、口縁端部に向けてより強く外反するもの（同47～49）がある。前者は、水平方向に直線的あるいは波状に施される沈線文（同43・46）か連続刺突文（同44・45）で文様を構成する。後者では、押し引き状に施された三角形の連続刺突文（同47・48）等が施され、地文には縄文をもつ例（同48・49）もある。気屋Ⅰ式に比定できる。

気屋Ⅰ式

**第7群土器**（図90　51・52）　ごく断片的な資料であるが、沈線文の間に縄文を充填する土器群である。全体の器形や文様構成は不明であるが、気屋Ⅱ式に比定できるものと見られる。

気屋Ⅱ式

**第8群土器**（図90　53）　口縁部に屈曲部を持ち、ここから端部に向けて垂直方向に向けて立ち上がる、波状口縁の土器である。遺存状態は悪いが、屈曲部に沈線文が認められる。八日市新保式に比定できる。

八日市新保式

**第9群土器**（図90　54～61、図91　62～72）　ここでは縄文施文のみか、縄文施文の部位と無文の部位の資料を扱う。

第②図54～61には、口縁部と胴部の資料を掲載した。口縁部の形状には外反するもの（同54・55）・短く内湾するもの（同56）・大きく内湾するもの（同57・58）がある。短く内湾する口縁部をもつ同56は、気屋式に相当すると見られる。また、節の大きな縦位の縄文（同60）は、前田式か気屋Ⅰ式に相当すると見られる。第③図62～72には、底部の資料を掲載した。無文のものもあるが（同71・72）、ほとんどが縄文施文のものである。後者の中で節の大きな縦位の縄文の同65～68は、前田式か気屋式に相当すると見られる。

**第10群土器**（図91　73・74）　浅鉢形土器である。底部脇から大きく外傾する器形で、同73の底部は上げ底状の作りである。内面は、磨き調整されている。外面は無文で、同74の底部外面には、網代圧痕が認められる。これらの浅鉢形土器は、前田式に伴う可能性が高いものと考えられる。

**小　結**　以上、今回の発掘調査で出土した縄文土器を概観した。土器は、前期後葉から後期後葉までの幅広い年代のものが出土しているが、文章中でも述べたように、数量的に主を占めるのは後期前葉の前田式から気屋式までの土器群である。一方、出土区別の分布状況を見ると、土器群を問わず17E・Wの2区に集中する傾向が顕著に認められる。このことは、別の項で扱った打製石斧が、調査区内に散在する形で出土していることと対照をなしている。また、出土層位で見ると、ほぼ縄文期の遺物包含層である5層中から出土している。

（河野典夫）

〔参考とした主な文献〕

高堀勝喜　他　1986　『真脇遺跡　農村基盤総合整備事業能都東地区真脇工区に係る発掘調査報告書』　能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団

野原大輔　他　2004　『久泉遺跡発掘調査報告Ⅰ－平成15年度一般国道359号砺波東バイパス建設工事に先立つ埋蔵文化財調査報告書－』　砺波市教育委員会

野原大輔　他　2005　『久泉遺跡発掘調査報告Ⅱ－平成16年度一般国道359号砺波東バイパス建設工事に先立つ埋蔵文化財調査報告書－』　砺波市教育委員会

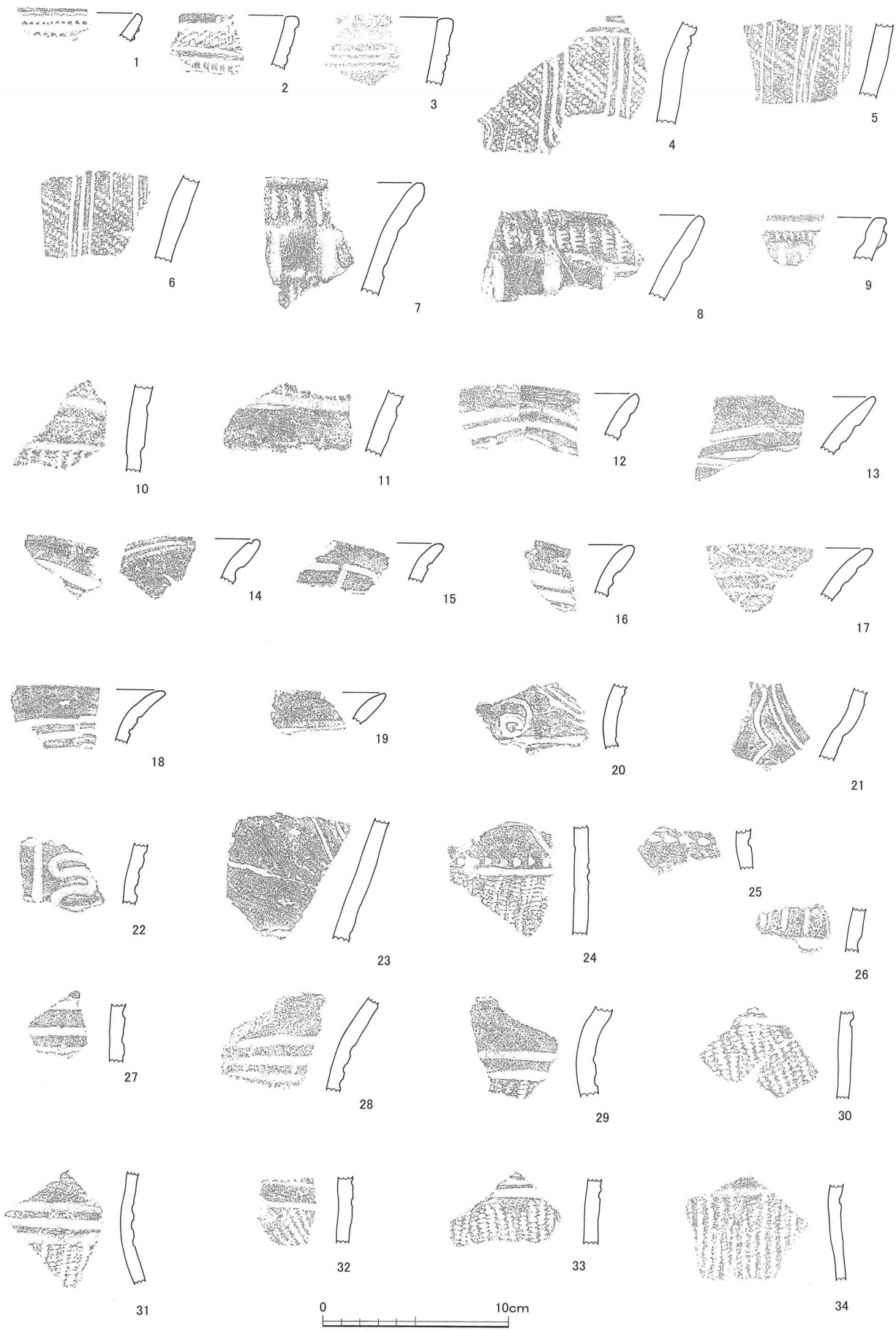



図89　遺物包含層出土遺物実測図(1) 縄文土器（S=1：3）

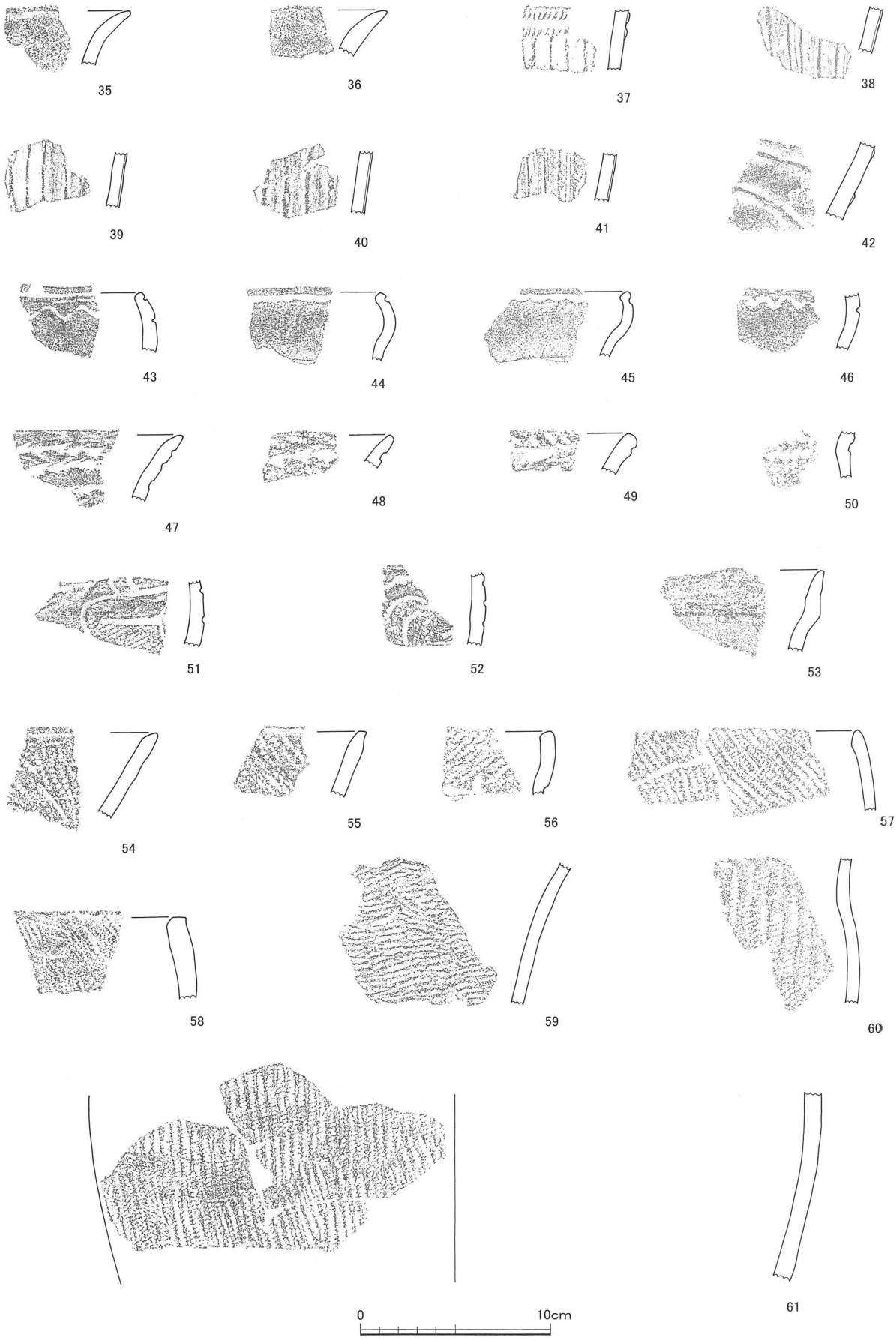



図90　遺物包含層出土遺物実測図(2) 縄文土器（S＝1：3）

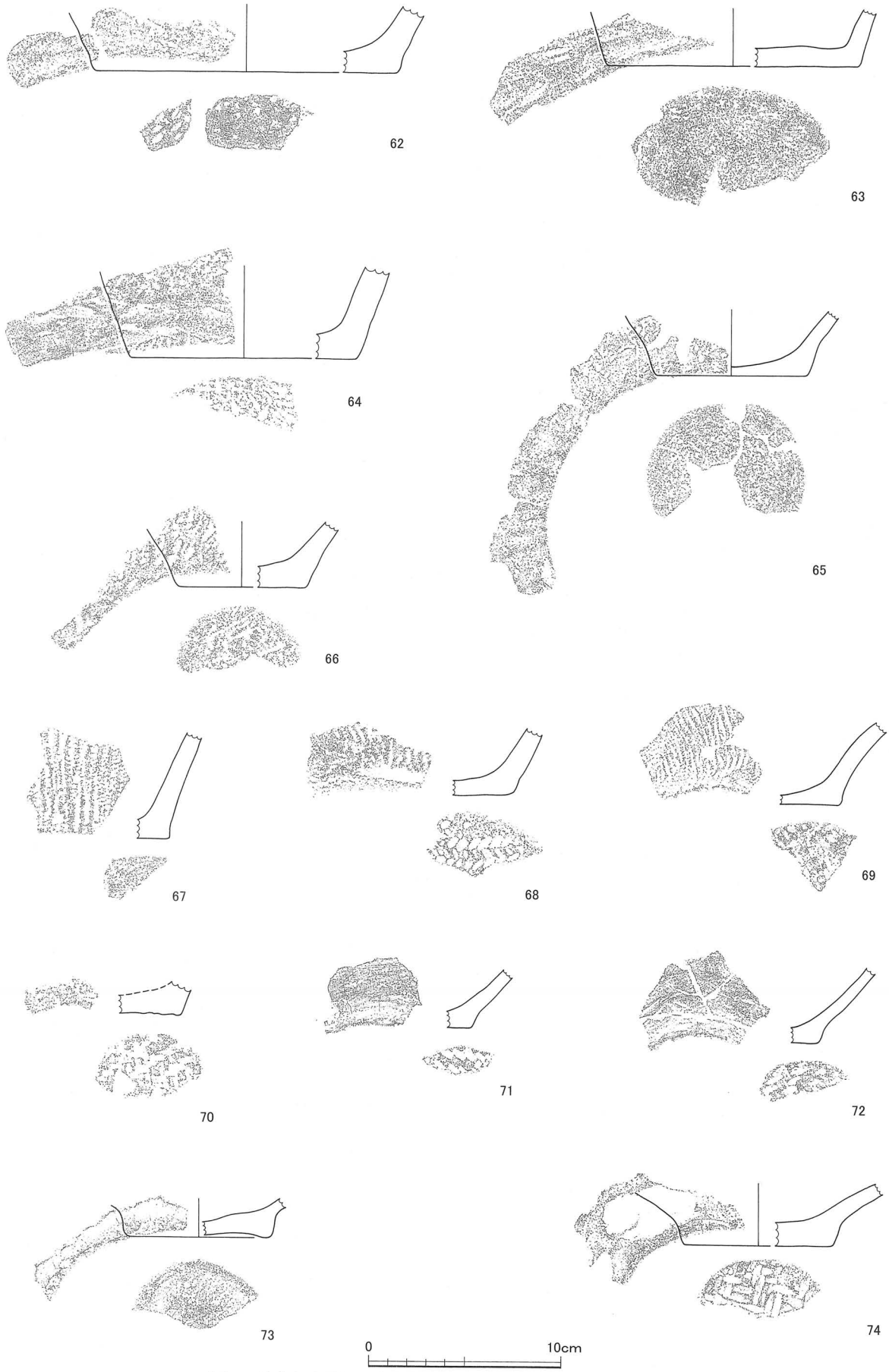



図91　遺物包含層出土遺物実測図(3) 縄文土器 (S=1：3)

## 打製石斧　〔図93～104　図版53～68〕

平成17年度久泉発掘調査では、完形・破片を合わせて103点出土している。平成15・16年の発掘調査で出土した打製石斧は、５層（遺物包含層）から出土している。平成17年の発掘調査でも同様に、打製石斧は全て５層内から出土している。

平成15年度の発掘調査では52点、平成16年度は71点出土している。３年間の発掘調査で、合計226点の打製石斧が出土しているが、遺構に伴う打製石斧は、平成16年度の調査の2点だけで、平成17年度の調査では、遺構に伴った打製石斧は見られなかった。５層からは縄文早期から後期までの土器片が出土している。縄文土器の時期と打製石斧と時期が一致するのか判断するには難しい状況である。

**２２６点**

石材は安山岩、凝灰岩、砂岩などが主に使用され、久泉遺跡付近を流れる庄川の自然礫を原石として使用していると考えられる。出土した打製石斧は、自然礫に打撃を加え、礫から分割された剥片を素材として使用する。分割した際に形成される、鋭利な縁部を刃部として利用するもので、久泉遺跡から出土した打製石斧は、片面に自然面を残すものが多数である。素材となる剥片は、打製石斧に対して横方向（側縁部）から打撃を加えた横長剥片、剥片末端までバルブで覆われた貝殻状剥片を使用して、打製石斧を製作しているのが多い。また、表面に自然面のない両面調整したものは157のみの1点である。

**両面調整**

**石　鍬**

出土した打製石斧は、土を掘る石鍬であると考えられ、５層内からは、打製石斧の製作時に発生する剥片が見られないことから、破片は付近で打製石斧を使用したときに、破損して廃棄してしまったものであると考えられる。別の地点で出土した破片が、接合したものが6点見つかっている。

**形態３類**

平成15・16年の報告に沿って、形態を大きく３種類に分類した。(図92）基部と刃部の幅がほぼ同じく、基部から刃部にかけて、側縁部がほぼ平行になっているものをⅠ類（短冊形）（図93～97）とした。Ⅱ類（撥形）は基部幅より刃部の幅が大きくなっているものである。側縁部が基部から刃部にかけて、ほぼ直線的に開くものをⅡa類（図97～99）とし、側縁部がくびれているものをⅡｂ類（図100～103）とした。破損して部分的にしか残っていないもので分類している。(図104～107)

**Ⅰ類**（図93～97）　75～106をⅠ類と分類した。Ⅰ類は全体の約40%を占める。全長が15cm、最大幅が５cm以内の規模が大半で、97・101～103は全長が16cmを超え、大型のものと区分することができる。素材となる素材剥片の形を利用した成形を行っているの多く、89・90は側縁部に最低限の調整しか行っていない。刃部や基部は、素材剥片の鋭利になった縁部を利用しているものが多く、76・86・89・90・101は少ない打撃調整で成形している。76・77・85・87・89・97は両端を刃部として使用している。97は自然面の表面が黒く変色しているのが見られ、被熱している可能性も考えられる。

**表面の変色**

**Ⅱa類**（図97～99）　107～121をⅡa類と分類した。規模は全長10cm～15cm、幅５cm程度が多く見られるが、形態は様々である。基部の部分が破断しているのが多い。110～115は刃部が幅広い円刃で、打撃調整が側縁部に弱く施されているものと、119・121は刃部を直刃にまで調整を行っているものが見られる。Ⅱa類は左右の側縁部に比較的丁寧に調整を行い、左右

対称に成形していることがわかる。107・109・121は最大厚が4cm以上もある。116～118は刃部が破損している。

**Ⅱb類**（図100～103）　122～146をⅡb類と分類した。柄に装着するためのくびれがあるのが特徴となる。くびれの程度や形態は様々である。130・133・140はくびれが部分的に強く施されている。くびれの位置は、基部に近い側縁部に施されているものが多いが、134・136は側縁部の中央部にあり、分銅形に近い形状のものもある。145・146は、片側の側縁部にくびれを施しているもので、左右非対称になっている。140は基部が凸形で、刃部が非常に幅広い、刃部は磨耗しているのが肉眼で見られる。

**分銅形**

**左右非対称**

**破片**（図104～107）　147～177までは打製石斧の破片である。147～159は基部、160～164は胴部、165～177は刃部の破片である。150・155・162・163は、くびれが見られるのでⅡb類である。刃部は大きく磨耗しているものが少なく、破損したものを再利用している形跡も見られなかった。174は非常に薄く、側縁部に細かい調整を行っている。175は最大幅が2.9cmと小規模のものがある。

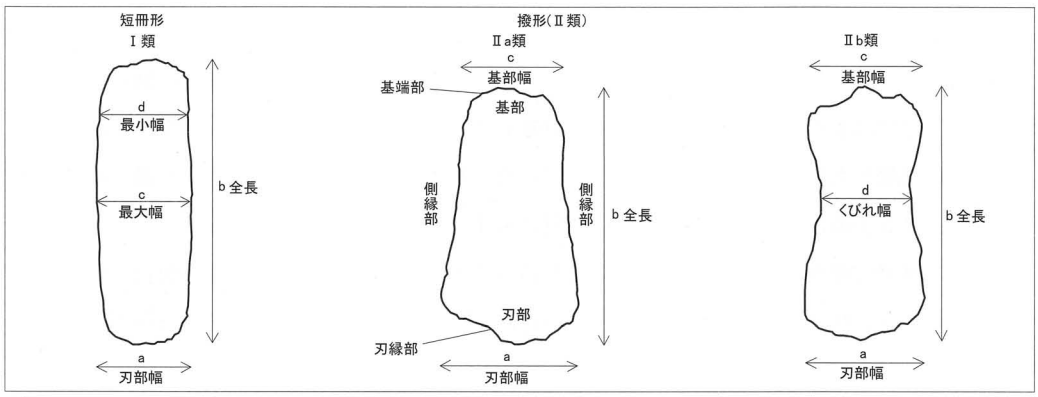



**図92　打製石斧の各類型計測部位とその名称**

### 庄川河川敷における岩石調査

**打製石斧の母岩**　久泉遺跡から出土している打製石斧の石材は、10種類以上にも及ぶ。平成17年度では、安山岩・砂岩が多く使用されている。過去の調査でも同じ傾向である。付近には庄川が流れ、多くの川原石が存在することから、川原にある自然礫を母岩として製作していると考えられる。今回の発掘調査では製作に関する資料は見つからなかったが、現在、流れている庄川の川原石から、打製石斧の母岩となる礫との関係を考えたい。

**庄川の変遷**　現在の流れている庄川は、岐阜県大野郡烏帽子岳（えぼしだけ）を源流にしている。岐阜県内で尾上郷川、大白川等をあわせて、北流して富山県に入り、境川、利賀川を合流し、雄神において砺波平野に出て、日本海の富山湾に注いでいる。

古代は、谷口から西流して現在の小矢部市附近で小矢部川（当時の呼称は「射水川」）に合流していた。砺波平野は、庄川と小矢部川による複合扇状地である。古来より庄川は氾濫を繰り返し、庄川扇状地の西から東へと何度も流れを変遷した歴史がある。庄川というのは雄神の庄あたりの呼称で、下流では野尻川、中村川、千保川、中田川など、それぞれ分流の名で呼ばれていた。寛文10年（1670年）、前田綱紀によって庄川扇状地扇頂部の弁才天前で、千保川などの各分流を中田川へ一本化する大工事が行われ、44年後の正徳4年（1714年）に完成した。

庄川は河口附近まで別の流路となり、現在の高岡市吉久で合流するようになった。

古代から近世までの庄川の変遷からも、庄川が氾濫を繰り返し、流域を変えていったことがわかる。そのため、縄文時代も同様に、庄川が氾濫を繰り返していたことが推測される。

現在の庄川は、上流にダムが建設され、下流では護岸工事が進んでいるため、当時の庄川の河川環境とは全く違うものになっている。ダムの建設により、上流から流されてくる礫の量は少なく、礫の規模も小さくなっていると考えられる。しかし、源流の位置に変化は無く、庄川由来の川原石には特徴があることから、久泉遺跡で出土した打製石斧の石材と比較を行ってみた。

**庄川から採取された石**　石採取地点地図（図110）で、上流から砺波市合口ダム付近、砺波市安川大田橋付近、高岡市二塚中越パルプ工場付近、射水市大島北野河川公園付近の4箇所において、1メートル四方の範囲で、直径が約15cm以上の打製石斧の母岩となるものを対象に石材鑑定を行った。（表11）各4箇所で採取した石材の種類には大きな違いは見られないが、上流から下流に向かって礫が小さくなっていることがわかる。上流では、大きな礫が簡単に入手できるが、下流になるにつれて小形の円礫が多くなる。上流から流されていく過程で、石が衝突を繰り返し、磨耗していくためで、凝灰岩・溶結凝灰岩などの比較的硬度の低い岩石は、河口の付近では小さい。流される過程で、磨耗してしまうためと考えられる。現在、庄川の流れている位置と水量は、打製石斧を使用していたと推測される縄文時代とは全く違うが、石斧の材料となる手頃な大きさの川原石が、容易に入手できることは推測できる。

**濃飛流紋岩**　庄川の河川の源流が岐阜県の飛騨地方であることから、濃飛流紋岩（石英粗面岩）が各採取した箇所で見られる。濃飛流紋岩は中生代の終わり白亜紀後期～新生代第三紀の初めにかけて（8千万年～ 5千8百万年前）噴出した火山岩で、火山の噴火で発生した火砕流によって形成されたものである。閃緑岩・花崗岩類も各採取した箇所で見られた。上流の飛騨地方は、花崗岩・閃緑岩を主とする、深成岩で形成された山も多く存在し、上流の河川付近で多く露出しているため、下流に流されてきたものと考えられる。庄川の上流合口ダム付近から、不純物を多く含有しているものの緑色凝灰岩（グリーンタフ）が採取されている。2000～1700万年前に、火山から噴きだした溶岩や火山灰が、海底に厚くつもり岩石となったもので、かつては富山県の内陸まで海が存在していたため、海底火山が噴火したことで発生したものである。流紋岩と安山岩は、2000万年以前に神通川・庄川・小矢部川の上流付近で流紋岩・安山岩を噴出した火山活動で形成されたものとも考えられる。

**閃緑岩・花崗岩**

**緑色凝灰岩**

**流紋岩・安山岩**

**打製石斧の石材**　各4箇所で採取した川原石のうち、各地点で花崗岩・濃飛流紋岩（石英粗面岩）等が多く見られる。打製石斧の材料として使用される花崗岩は、各地点で比較的見られるが、砂岩は少ない。打製石斧として製作が容易で耐久性がある花崗岩、砂岩、凝灰岩を選択していたと考えられる。

**5層（遺物包含層）の礫**　5層（遺物包含層）中から、自然礫が多く出土した（図109）自然礫が出土する。平成15・16年度の発掘調査においても、5層中から多くの自然礫が出土している。庄川の川原石と考えられる。

5層礫分布図から、礫が部分的に集中していることが伺える。礫の多くは自然円礫である。割れている礫は存在するが、人為的なものかは判断できない。また、打製石斧を製作する場合

には、多くの剥片が発生するが、5層中からは礫の剥片はほとんど出土していない。平成17年の発掘調査では、打製石斧の製作に関する資料は見つからなかった。5層中で自然礫が多く出土した範囲と、小穴の集中している範囲と違う傾向が見られる

**打製石斧の出土位置**（図108）　平成15年度はグリッド、平成16・17年度については、出土した位置と標高の記録を行った。平成15～17年度の縄文土器・打製石斧の出土分布図（図108）から、打製石斧は、調査区内全体から出土していることがわかる。平成15年度の発掘調査では、西端部分で5層中に礫が多く含まれ、近年の基盤整備で5層が削平されているため、ほとんど出土しなかった。縄文土器片が多く出土している範囲に、打製石斧が出土している傾向も見られるが、縄文土器の出土していない箇所に集中して出土している範囲もあり、縄文土器との明確な関連性は見られない。また、小穴の集中する範囲では、打製石斧は比較的出土しない傾向が見られる。

出土状況は全て単体で、意図的に置かれた形跡は見られなかった。打製石斧の形態や規模での出土傾向にも特徴は見られなかったが、破損品・刃部欠損している打製石斧は、SD09付近、Y15410～15390ラインの間などの5・6層中に自然礫を多く含んでいる範囲や、打製石斧が集中して出土している範囲に比較的多い傾向が見られる。5・6層の自然礫によって掘削時に破損し廃棄した可能性もある。

接合する打製石斧が見られた。142・131は10m近く、127は40m離れた破片が接合している。 **接合資料**

**打製石斧の使用痕**　平成15年から17年まで、久泉遺跡から出土した打製石斧の使用痕分析の鑑定を行った。使用痕の分析の詳細な結果については、久泉遺跡打製石斧の使用痕分析（p201）に述べている。鑑定の結果から磨耗が確実に確認できたのは全体の7％、磨耗であると推測されるものが40％である。28％は磨耗が確認できなかった結果であったが、磨耗が見られないことが、未使用で放棄したものではなく、磨耗するまで使用していないものと解釈するのが妥当である。打製石斧の材料が付近で豊富に存在するため、久泉遺跡で使用した後、持ち運ぶ労力を省くために放棄した可能性や、一度使用したものは、耐久性が落ちることが考えられ、再利用しないで廃棄する可能性も考えられる。川口武彦氏による打製石斧の使用実験では、「肉眼で明瞭に確認できる磨耗痕」が刃部に形成されるのは、各種の土壌を考慮しても1時間以上の使用によるものであり、反対に1時間未満の使用では磨耗痕は観察されないと推察している（川口 2000）。磨耗痕がある打製石斧が低い割合であるのは、未使用ではなく川口氏の実験によって得られた現象によって説明できるのかもしれない。また、5層（遺物包含層）と6層が、シルト質の比較的柔らかい土質のため、痕跡が残りにくいことも推測される。

今回、刃部の状況も分析を行った（表10）。刃部の形状が対象、右偏、左偏、破損で分類を行っている。形態毎に比較を行ってみた。短冊形（Ⅰ類）とⅡb類は比較的同じ割合であるが、Ⅱa類は刃部が対称のものが多く、欠損が少ない傾向が見られる。

**久泉遺跡の磨製石斧**　打製石斧が久泉遺跡で多く出土しているのに対して、磨製石斧は非常に少ない。久泉遺跡から出土した磨製石斧は、使用を継続するには難しい破損品である。磨製石斧は、木などを伐採する道具として使用されると考えられる。数量が少ない理由として、久泉遺跡周辺では使用されることが少なかった可能性と、製作するのに時間と労力を多く必要とする磨製石斧は、簡単に廃棄せず再利用していた可能性も考えられる。

**打製石斧と縄文土器出土地点の関係**　縄文土器片が多く出土する範囲で、打製石斧も出土している傾向があることは述べた。縄文土器片の多く出土する範囲の多くは小片であるため、時期を確定するのは難しいが、一部には文様から時期が比定できる土器片が見られる。そのような土器片が、ある程度限られた範囲から出土する傾向が見られる。（図108）

縄文土器と打製石斧の時期的な関係を、包含層出土位置から確定することはできないが、今後、久泉遺跡周辺で、縄文土器、打製石斧など時期的の差や遺物数量の差が明確になっていくことで、周辺の縄文時期の生活状況が解明されていくと考えられる。

砺波市教育委員会　2004　『久泉遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
砺波市教育委員会　2005　『久泉遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
川口武彦　2000年　『古代文化』第52巻　「打製石斧の実験考古学研究」
鈴木道之助　1991　『石器入門辞典　縄文』　柏書房
石川考古学研究所　1999　『石川県考古資料調査・集成事業報告　農工具』
金沢市教育委員会　1986　『金沢市新保本町チカモリ遺跡』
財団法人　富山県文化振興財団　2006『下老子笹川遺跡発掘調査報告　縄文時代編』
財団法人　富山県文化振興財団　2004『黒河尺目遺跡・黒河中老田遺跡発掘調査報告書』
小矢部市教育委員会　2006　『桜町発掘調査報告書　縄文土器・石器編Ⅰ』
富山県教育委員会　1990　『北陸自動車道遺跡調査報告　朝日町編５　境A遺跡　石器編』
渡辺一夫　2002　『川原の石ころ図鑑』

## 磨製石斧　〔図107　図版68〕

磨製石斧は４点出土している。178・180は刃部、179・181は基部の破片である。178は磨製石斧の刃部側部に当たる部分で、製作時の擦痕が明瞭に残っている。180も同様に製作時の擦痕が見られる。使用頻度が少ないと考えられる。179は、表面がまだ完全に成形されておらず、凹凸を残している。181は擦痕が明瞭に見られる。179～181の破片の幅は6cm以下であるため、小型のものと考えられる。

## 石　錘　〔図107　図版68〕

182～184は石錘であると考えられる。182・183は幅５cm、厚み２cm程度の扁平礫である。辺縁部に打撃を加えてくびれを形成している。184は幅12cm、厚み３cmの扁平円礫で辺縁部に２箇所に打撃によってくびれを形成している。石錘と考えられるが、磨耗などは見られない。敲石の可能性も考えられる。

## 砥　石　〔図107　図版68〕

185は砥石である。砥面は５面で、石材はチャートである。１面は等間隔で斜めに擦痕が見られる。仕上げ用の砥石と考えられ、第２遺構面の時期であると考えられる。　（阿部）

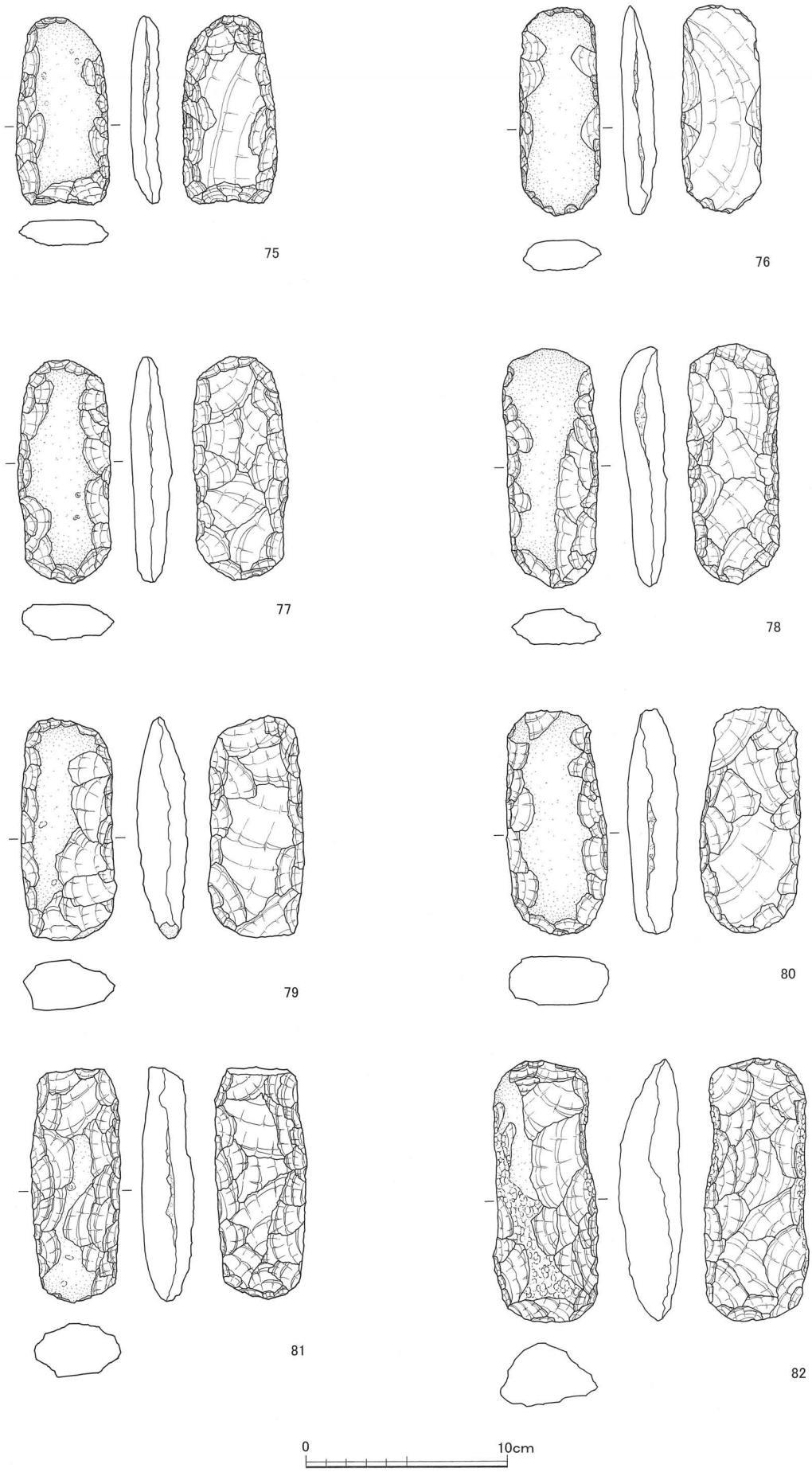



図93　遺物包含層出土遺物実測図(4)　打製石斧(Ⅰ類)(S=1:3)

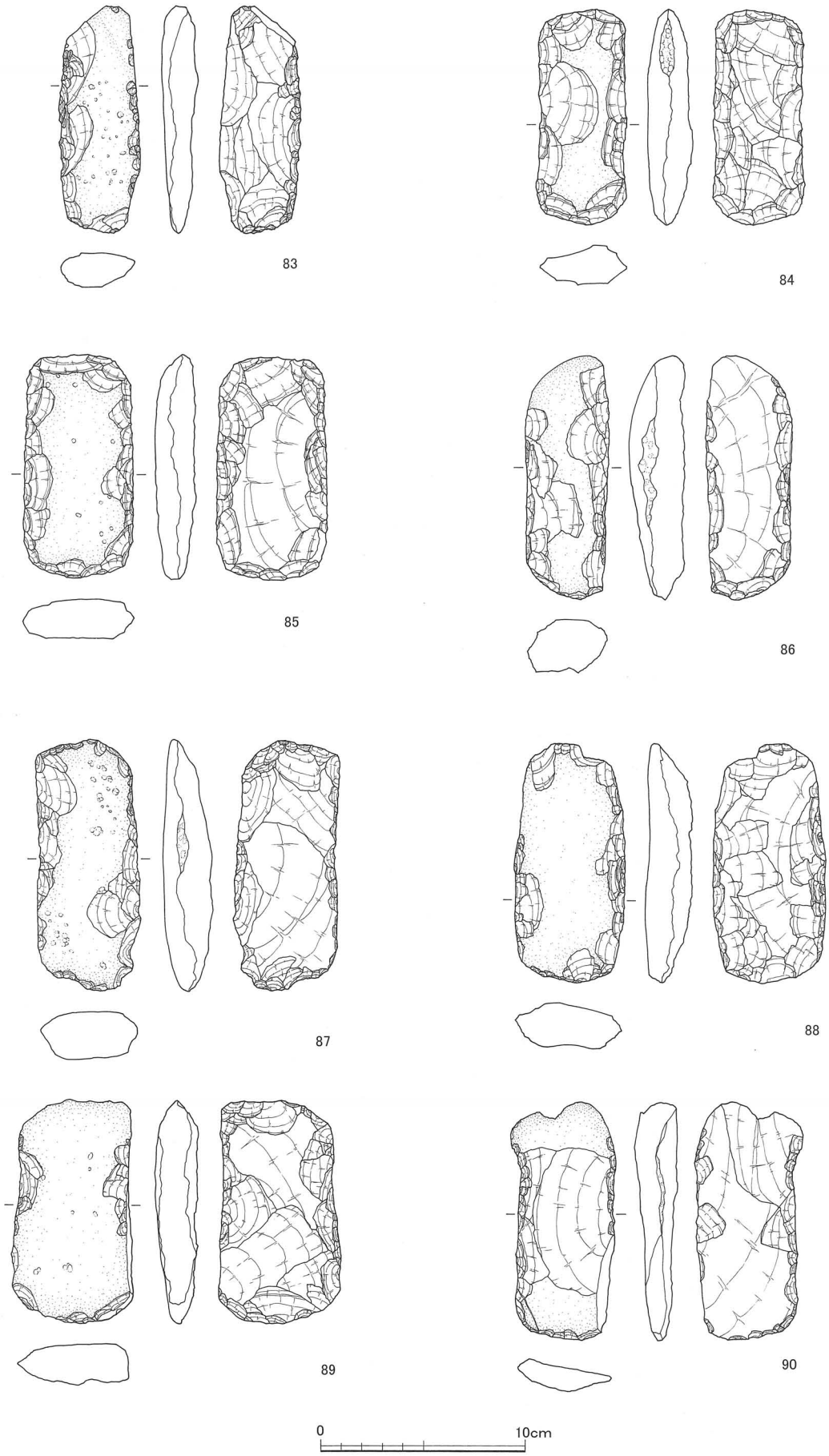



図94　遺物包含層出土遺物実測図(5)　打製石斧(Ⅰ類)（S=1：3）

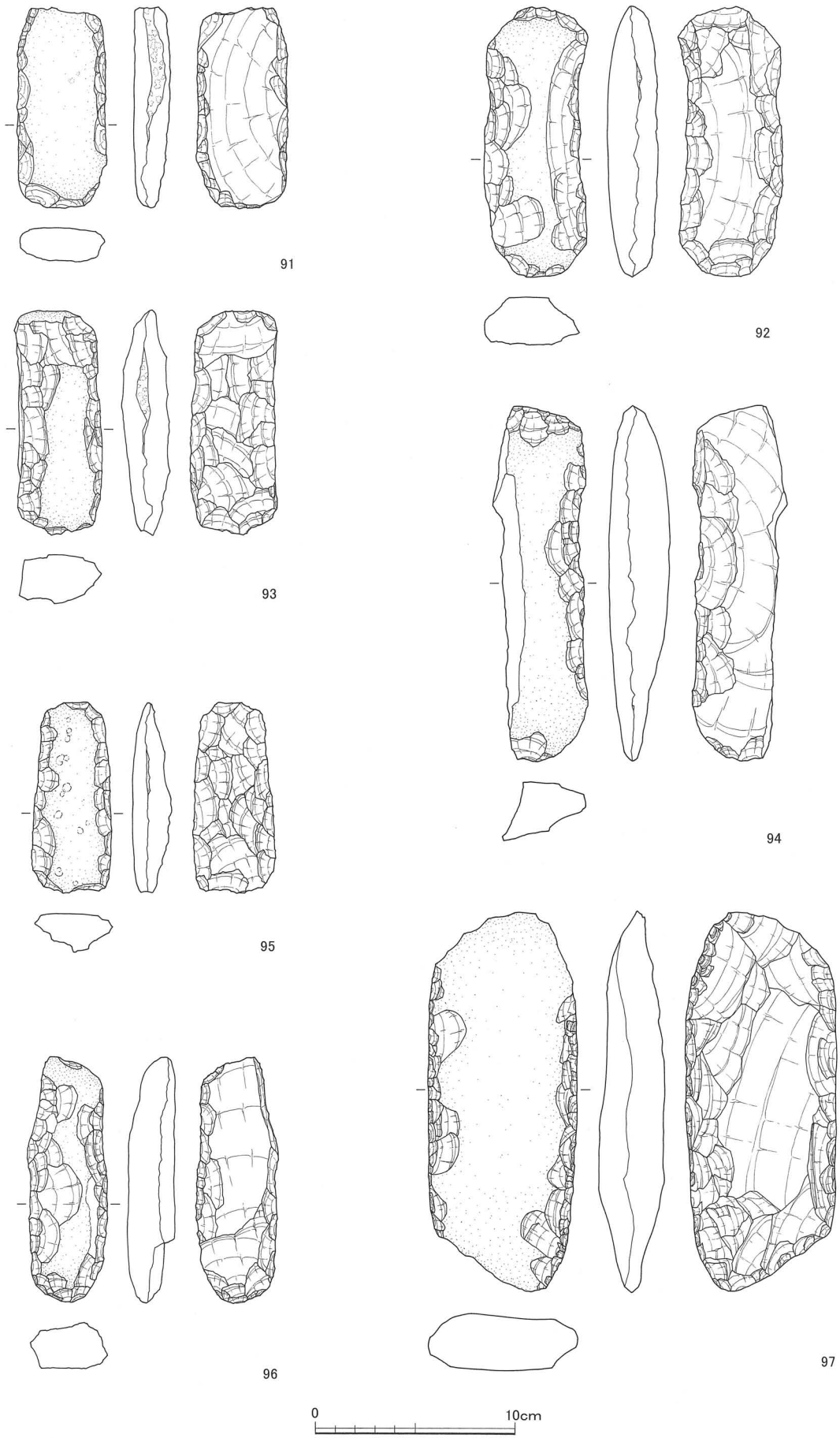



図95　遺物包含層出土遺物実測図(6)　打製石斧(Ⅰ類)(S=1：3)

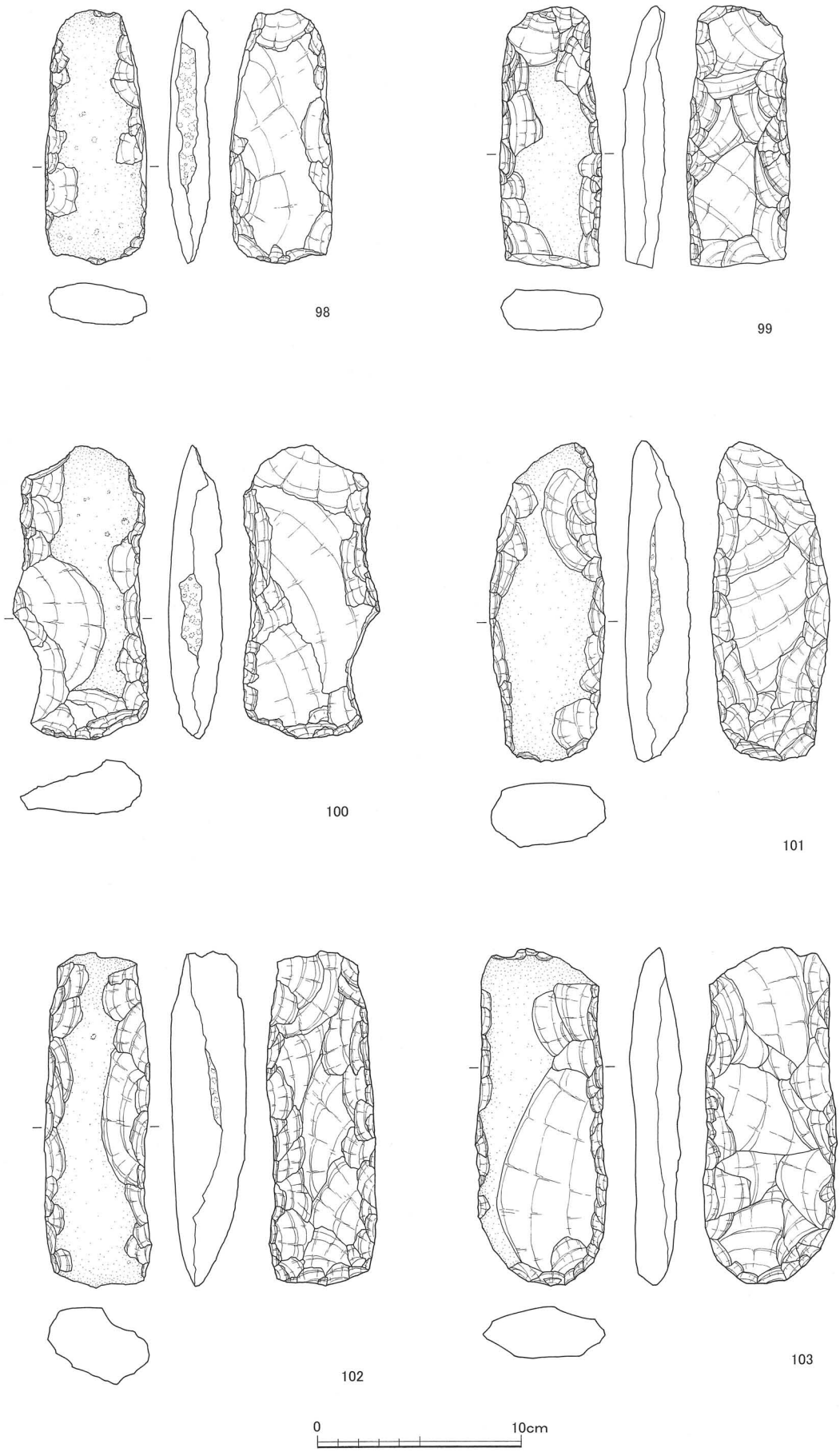



図96　遺物包含層出土遺物実測図(7)　打製石斧（Ⅰ類）（S=1：3）

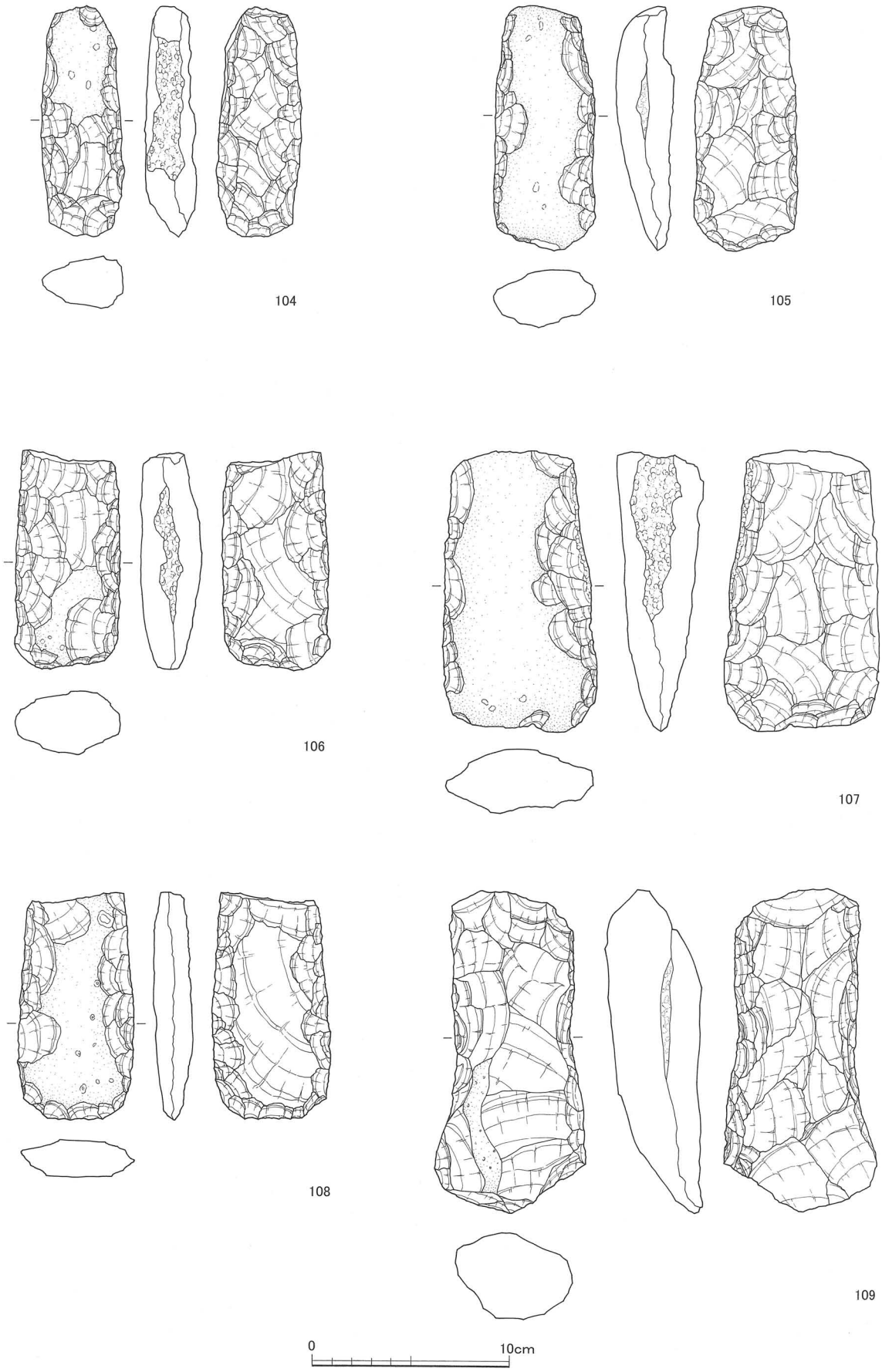



図97　遺物包含層出土遺物実測図(8)　打製石斧(Ⅰ類・Ⅱa類)(S=1：3)

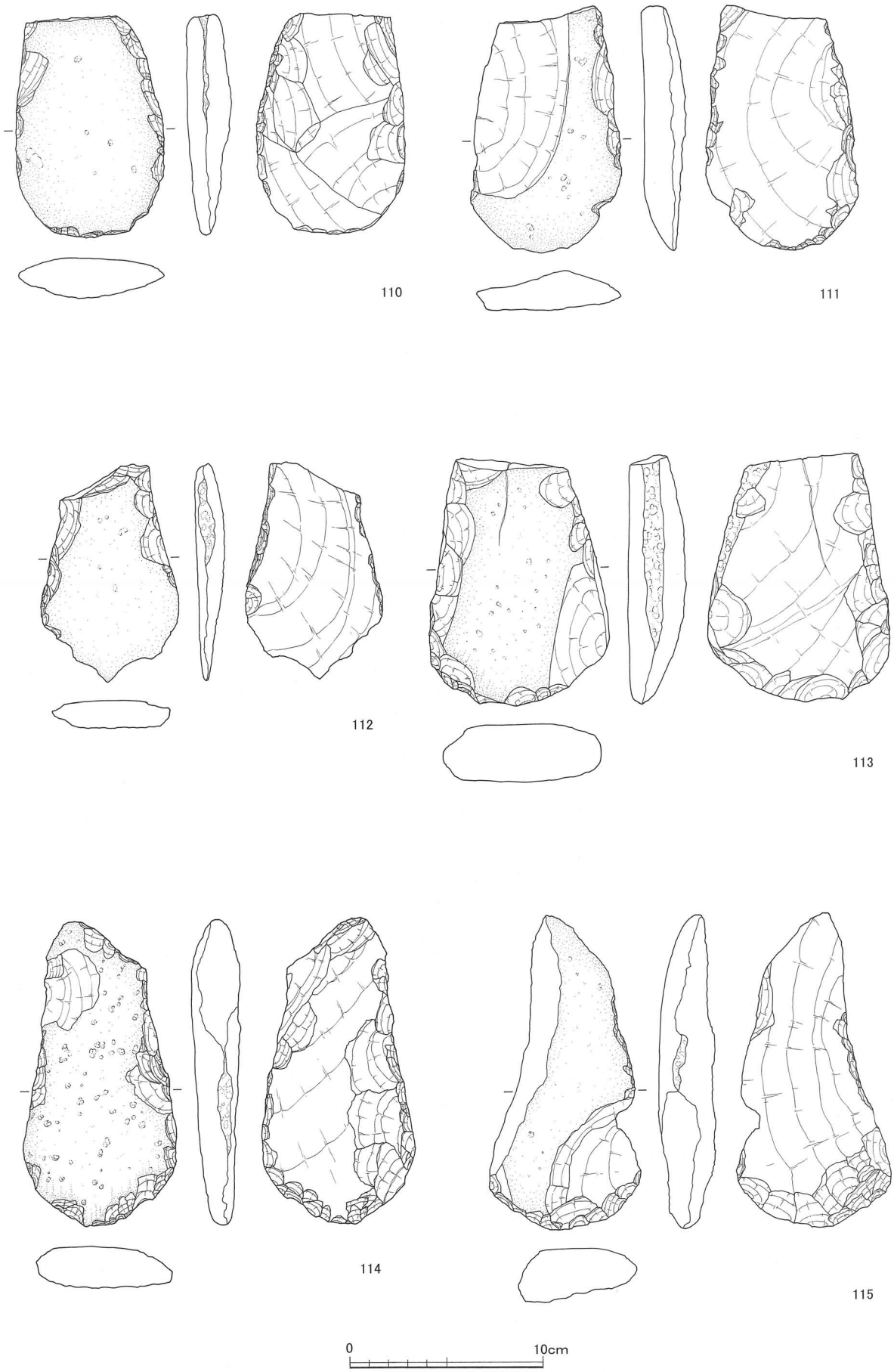



図98　遺物包含層出土遺物実測図(9)　打製石斧(Ⅱa類)（S＝1：3）

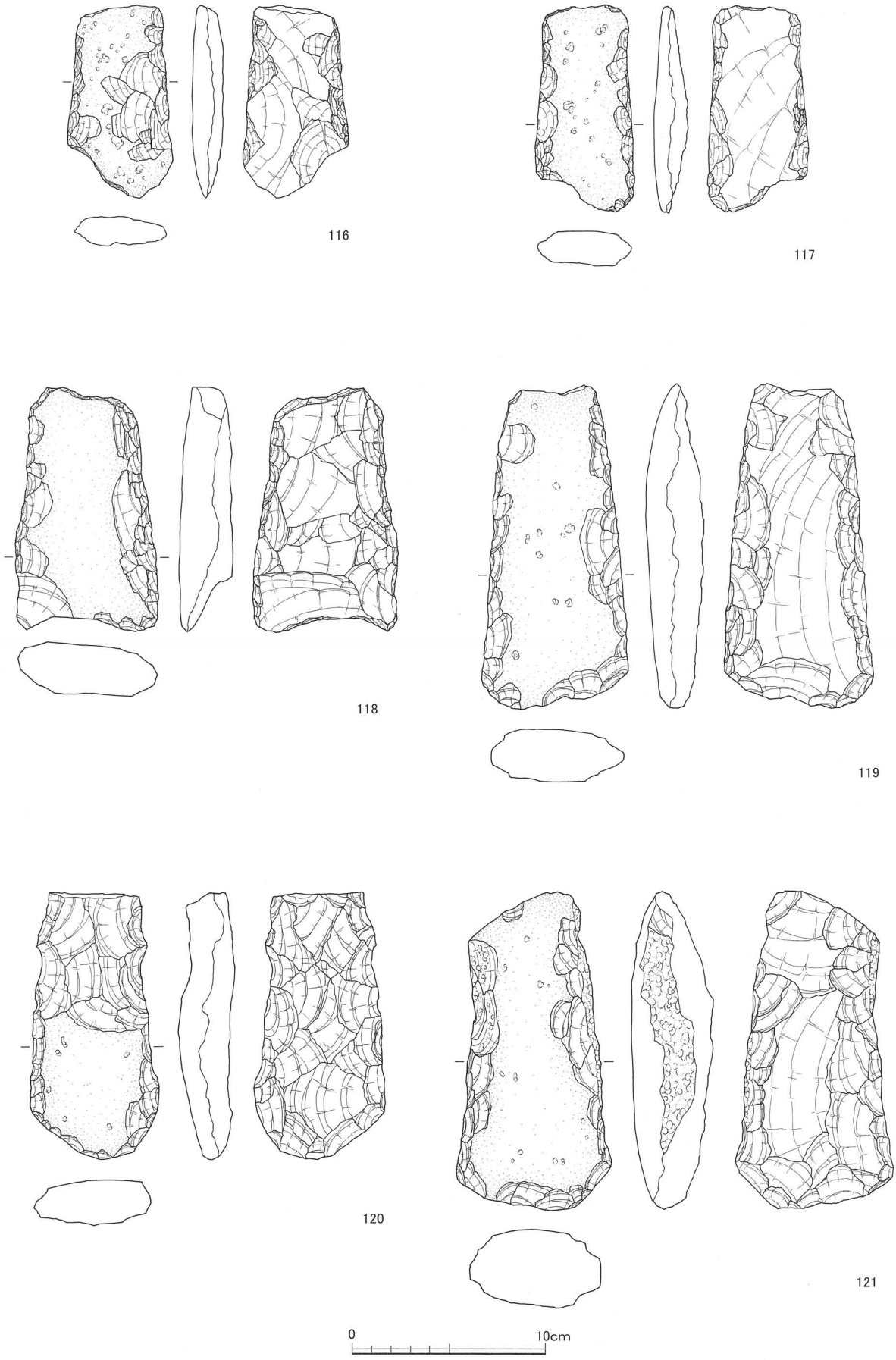



図99　遺物包含層出土遺物実測図(10)　打製石斧(Ⅱa類)(S=1:3)

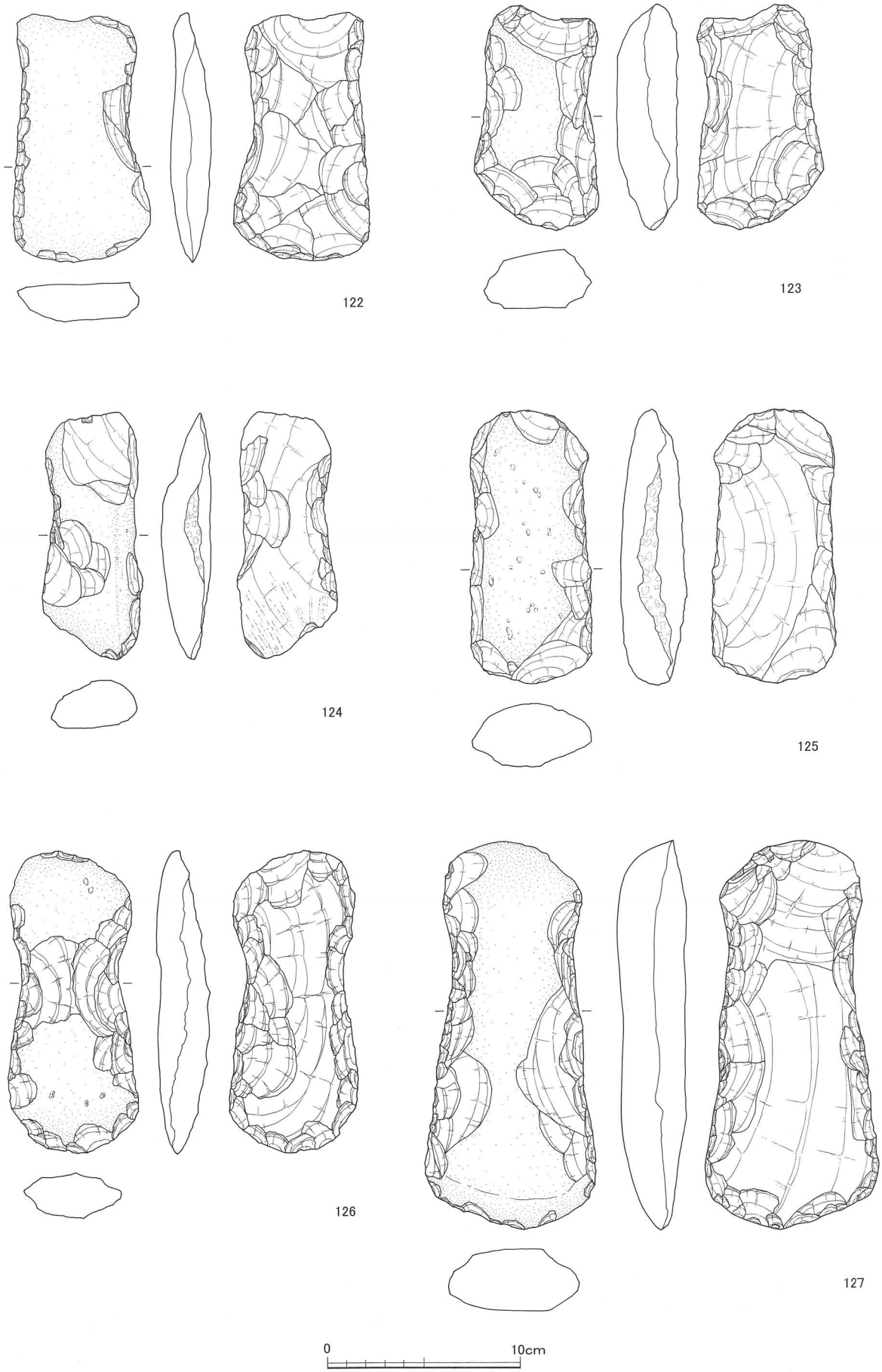



図100　遺物包含層出土遺物実測図(11)　打製石斧(Ⅱb類)（S＝1：3）

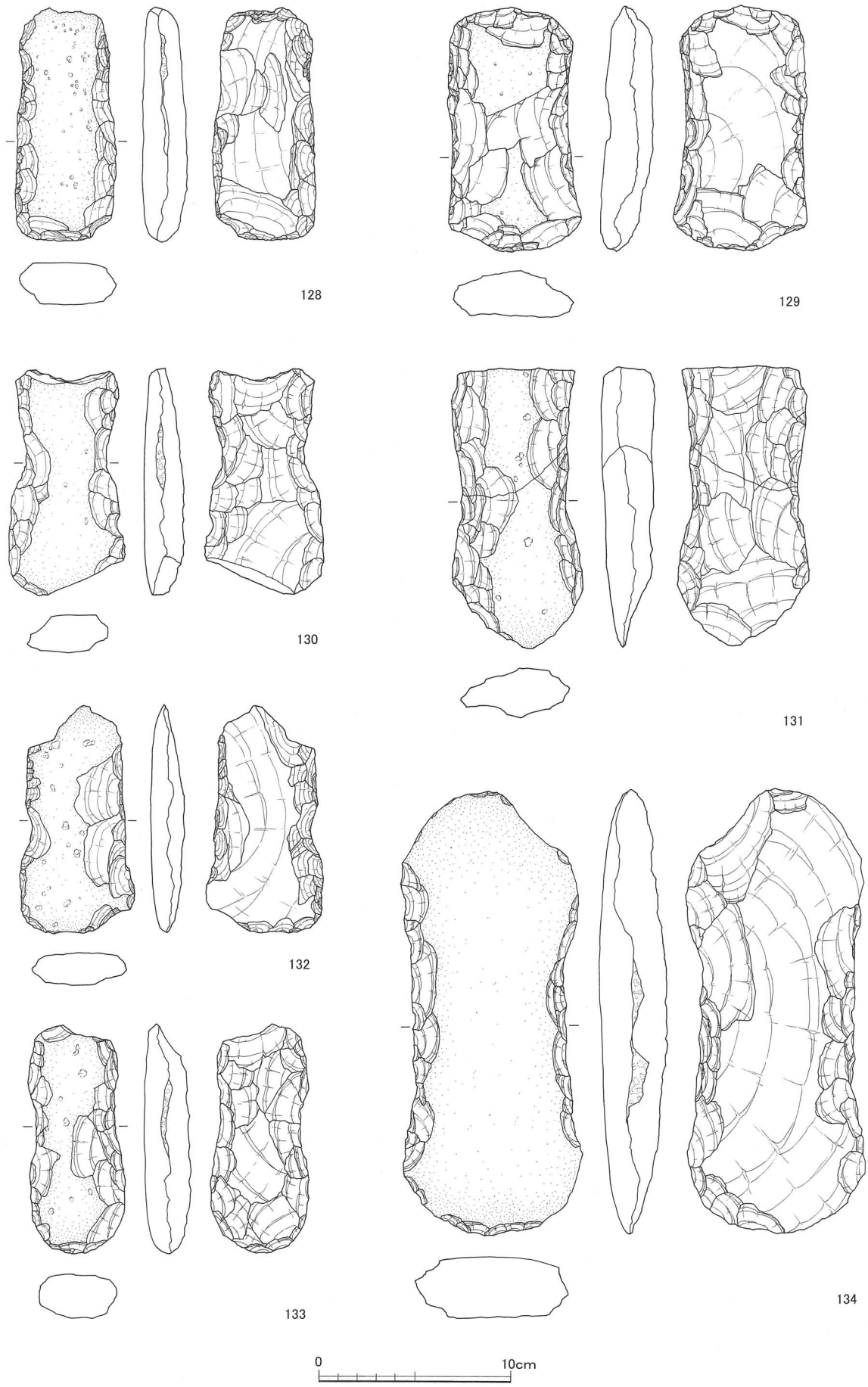



図101　遺物包含層出土遺物実測図(12)　打製石斧(Ⅱb類)(S=1:3)

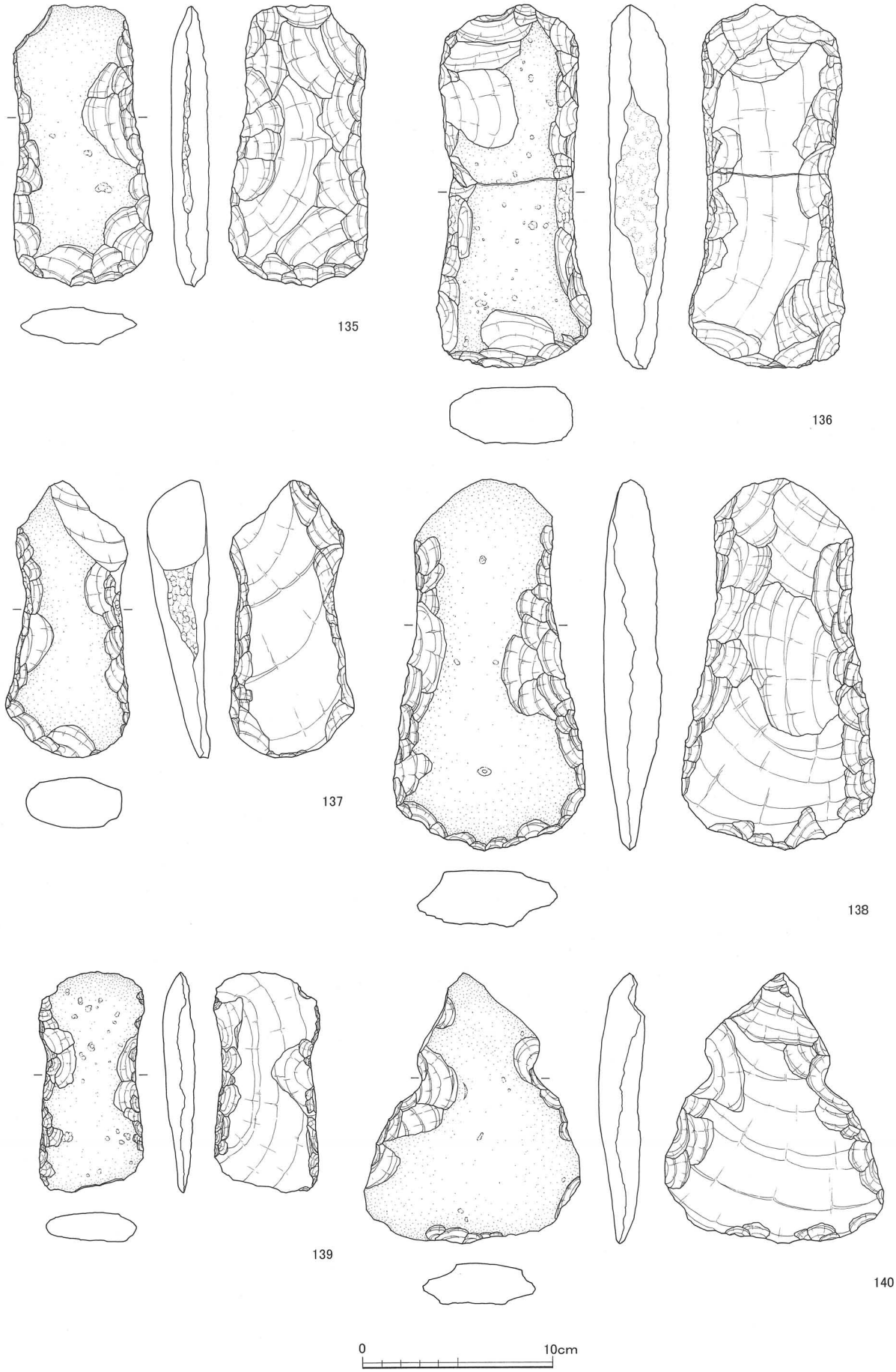



図102　遺物包含層出土遺物実測図(13)　打製石斧(Ⅱb類)（S＝1：3）

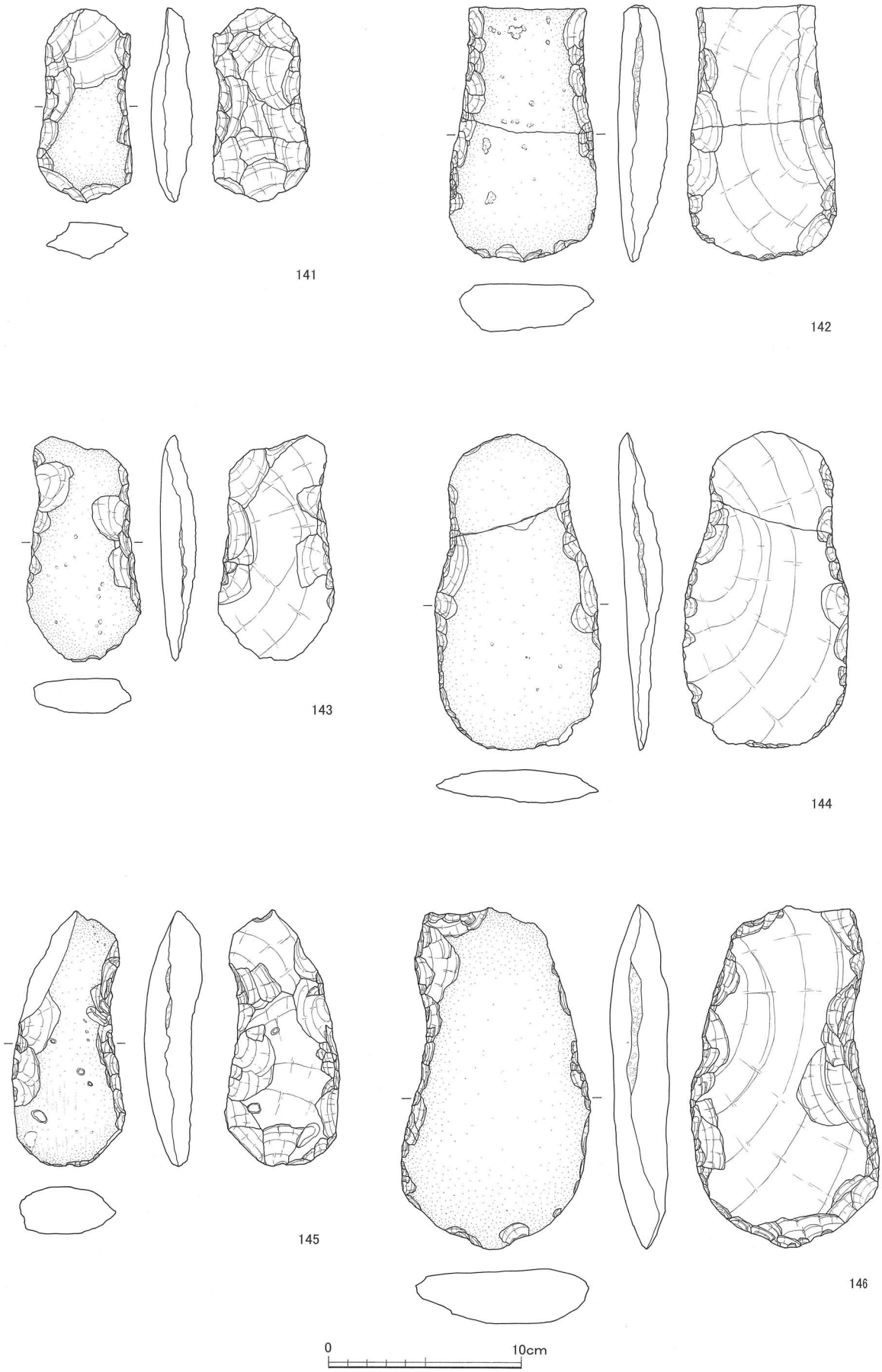



図103　遺物包含層出土遺物実測図(14)　打製石斧(Ⅱb類)(S=1:3)

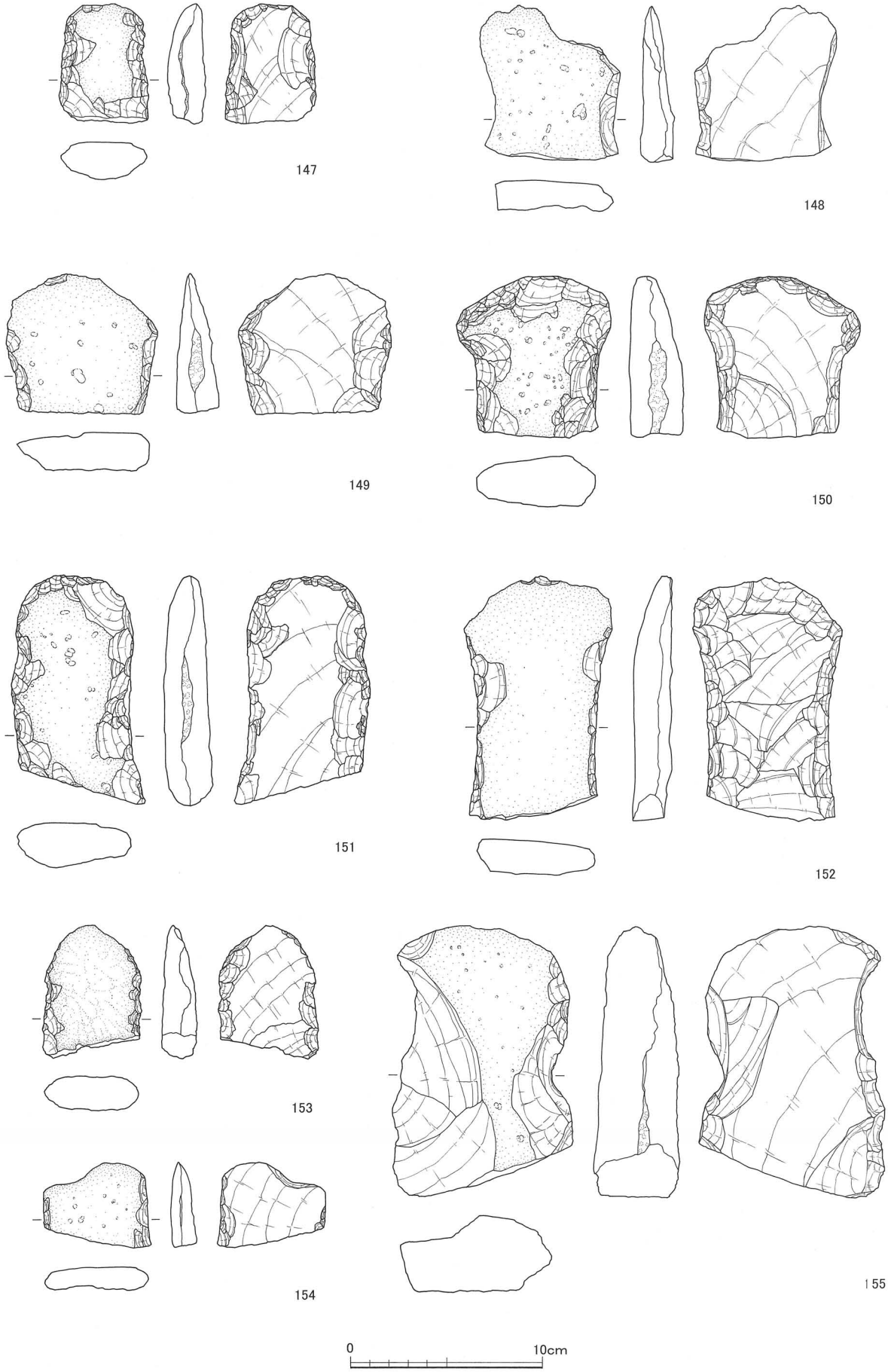



図104　遺物包含層出土遺物実測図(15)　打製石斧(破片)（S＝1：3）

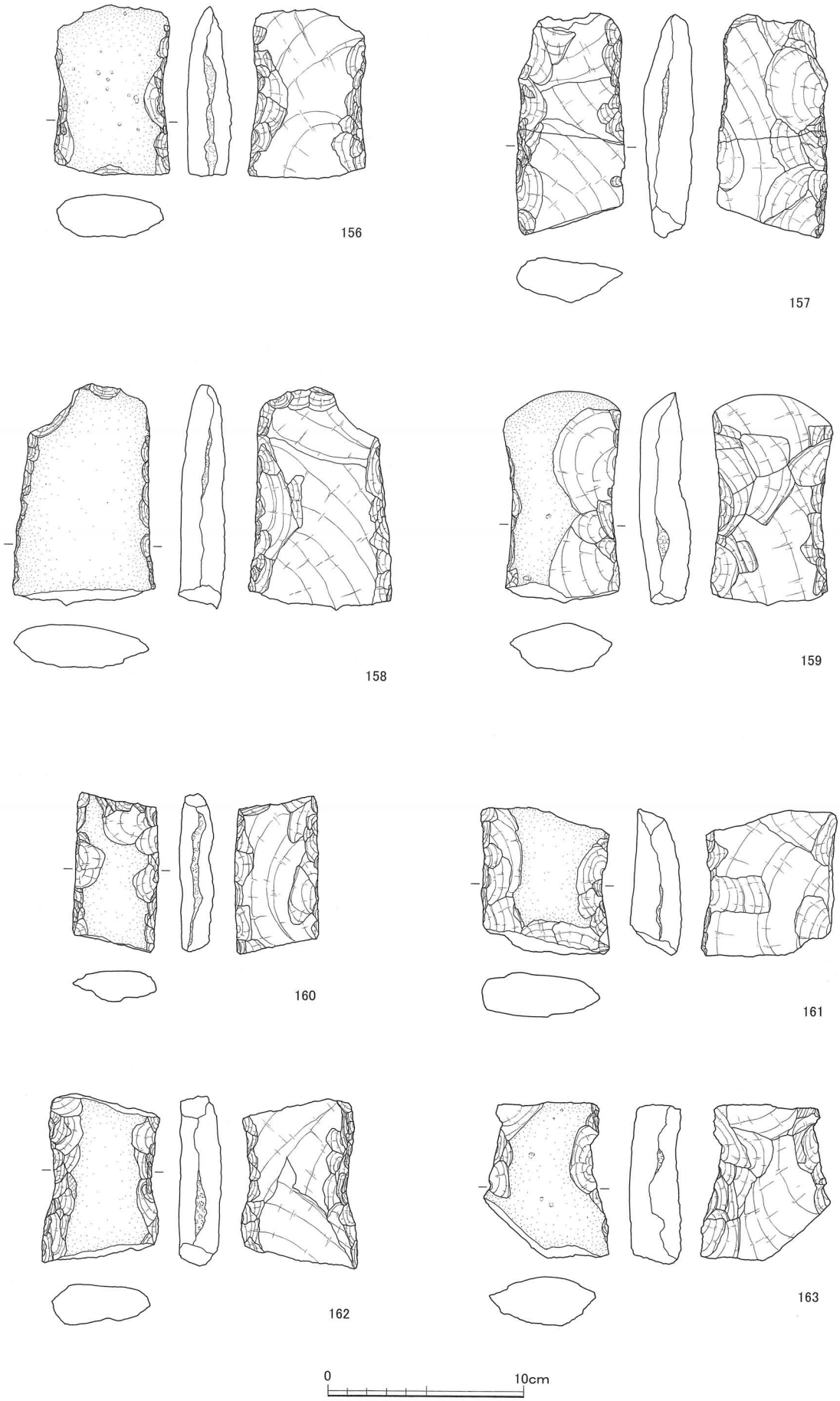



図105　遺物包含層出土遺物実測図(16)　打製石斧(破片)（S=1：3）

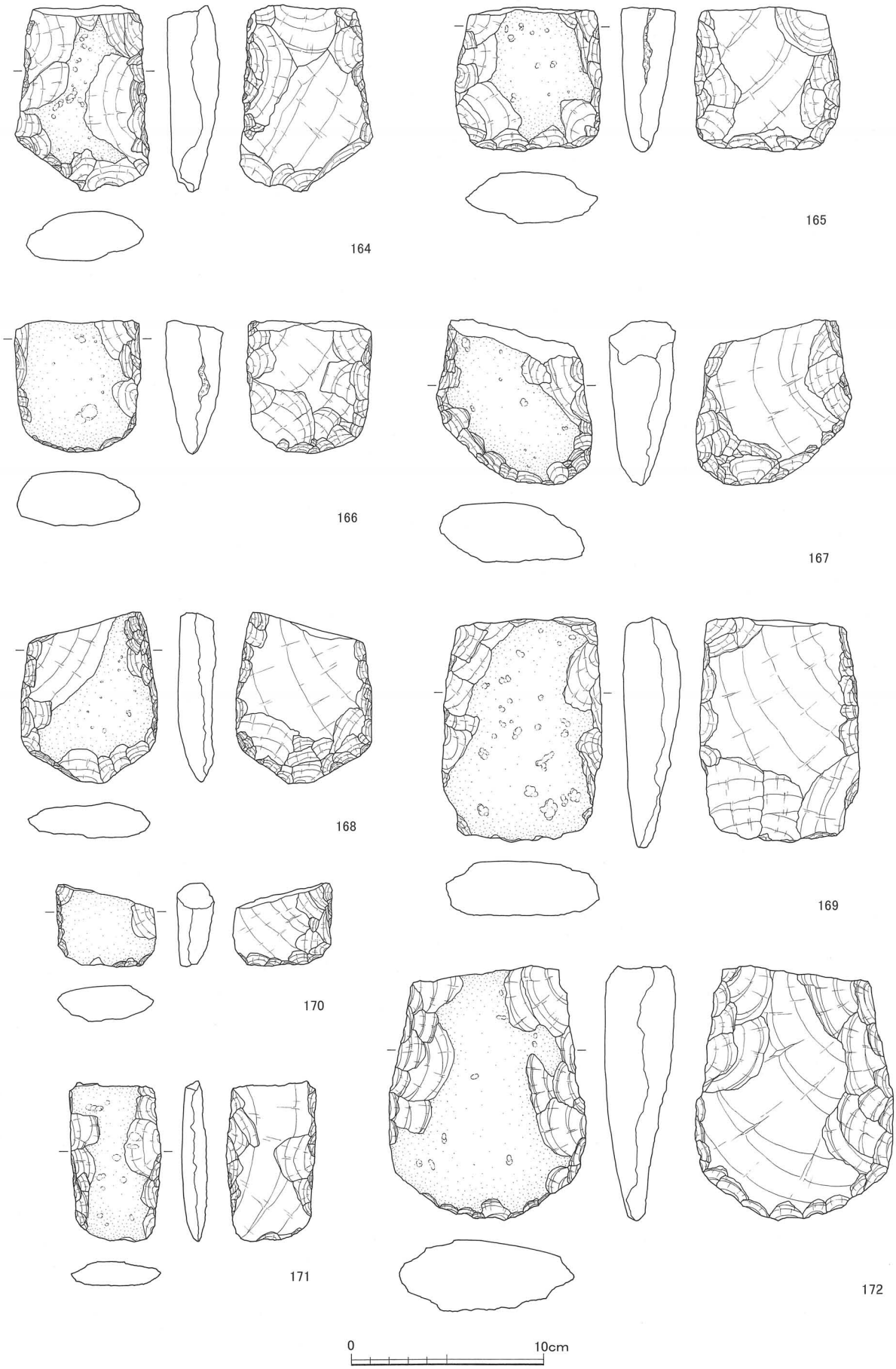



図106　遺物包含層出土遺物実測図(17)　打製石斧(破片)（S=1：3）

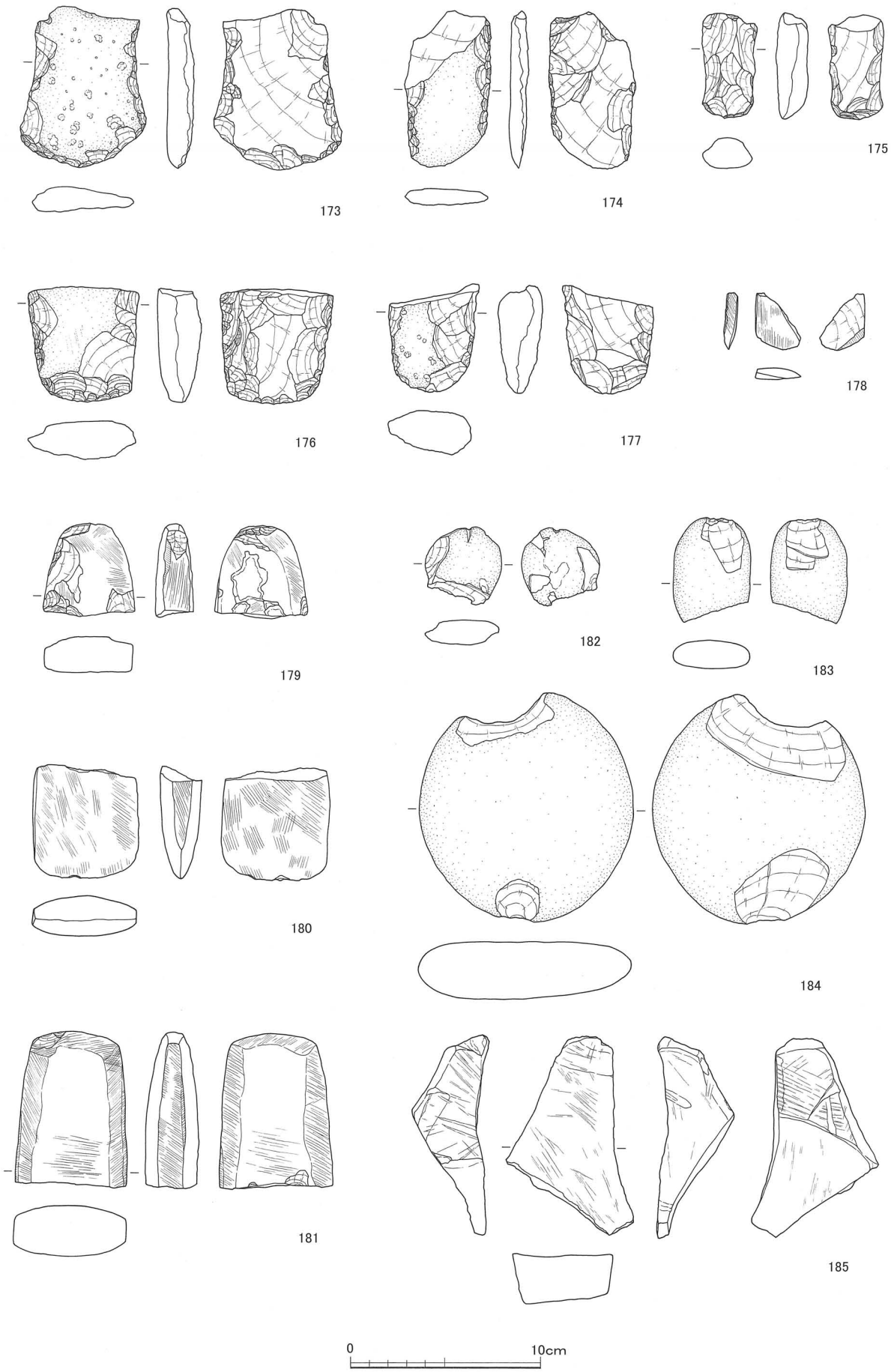
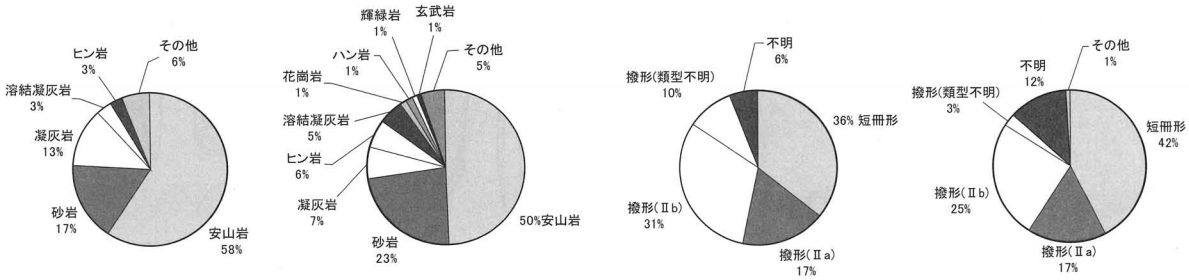
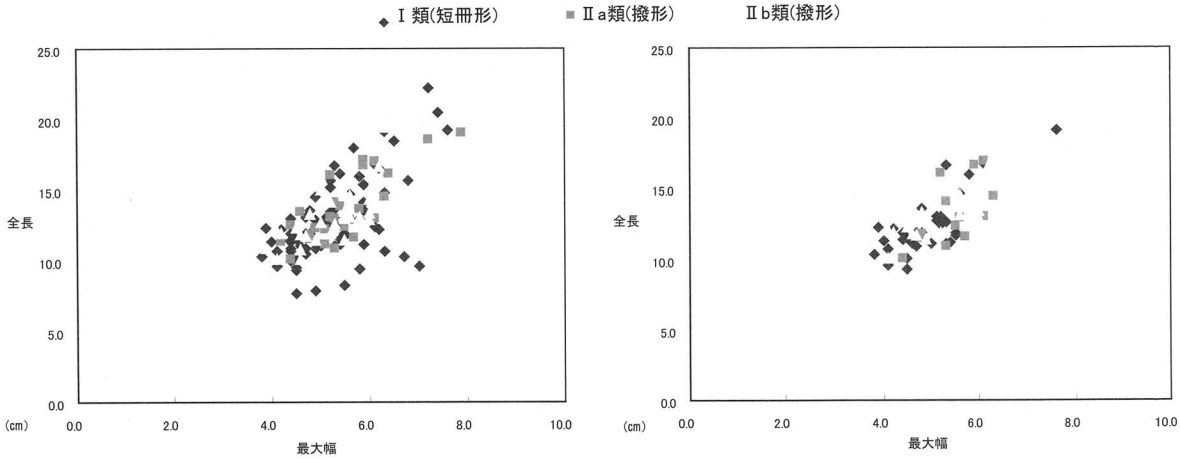



図107　遺物包含層出土遺物実測図(18)　打製石斧(破片)　磨製石斧　石錘　砥石（S=1：3）

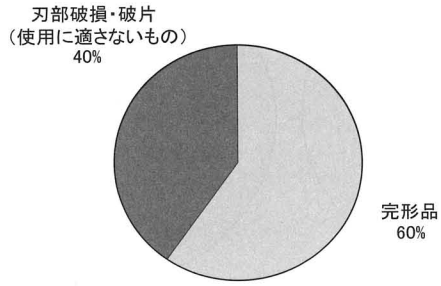



平成17年　平成15・16・17年　　平成17年　平成15・16・17年

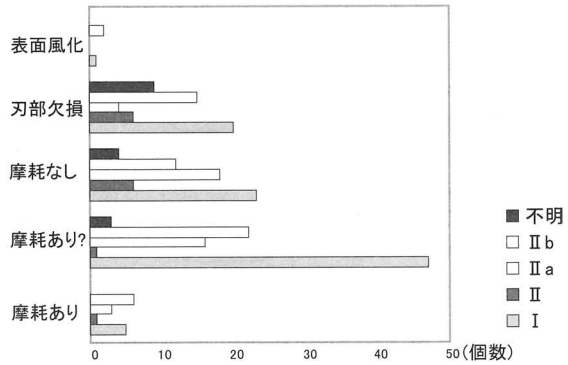
石材構成比率　　各類型構成比率



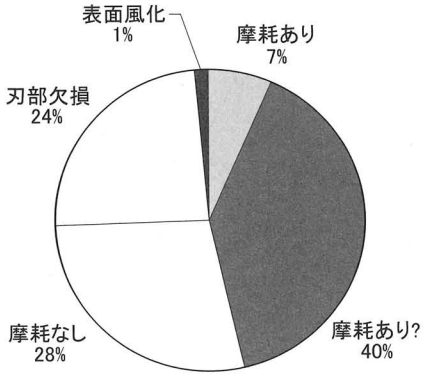

打製石斧規模表(H15・16・17)　　打製石斧規模分布表(H17)



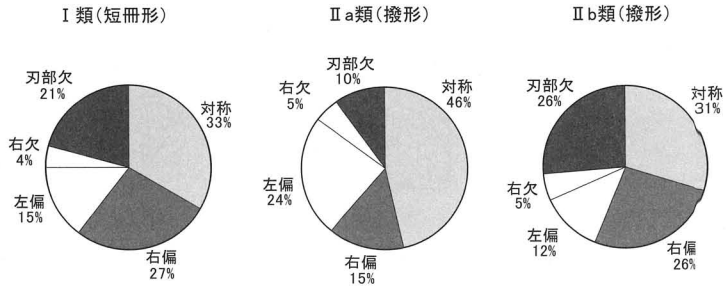

打製石斧の状態(H15・16・17)




各類型の磨耗痕の有無




打製石斧の磨耗痕の有無(H15・16・17)




各類型の刃部状態(H15・16・17)

表10　打製石斧関連データ

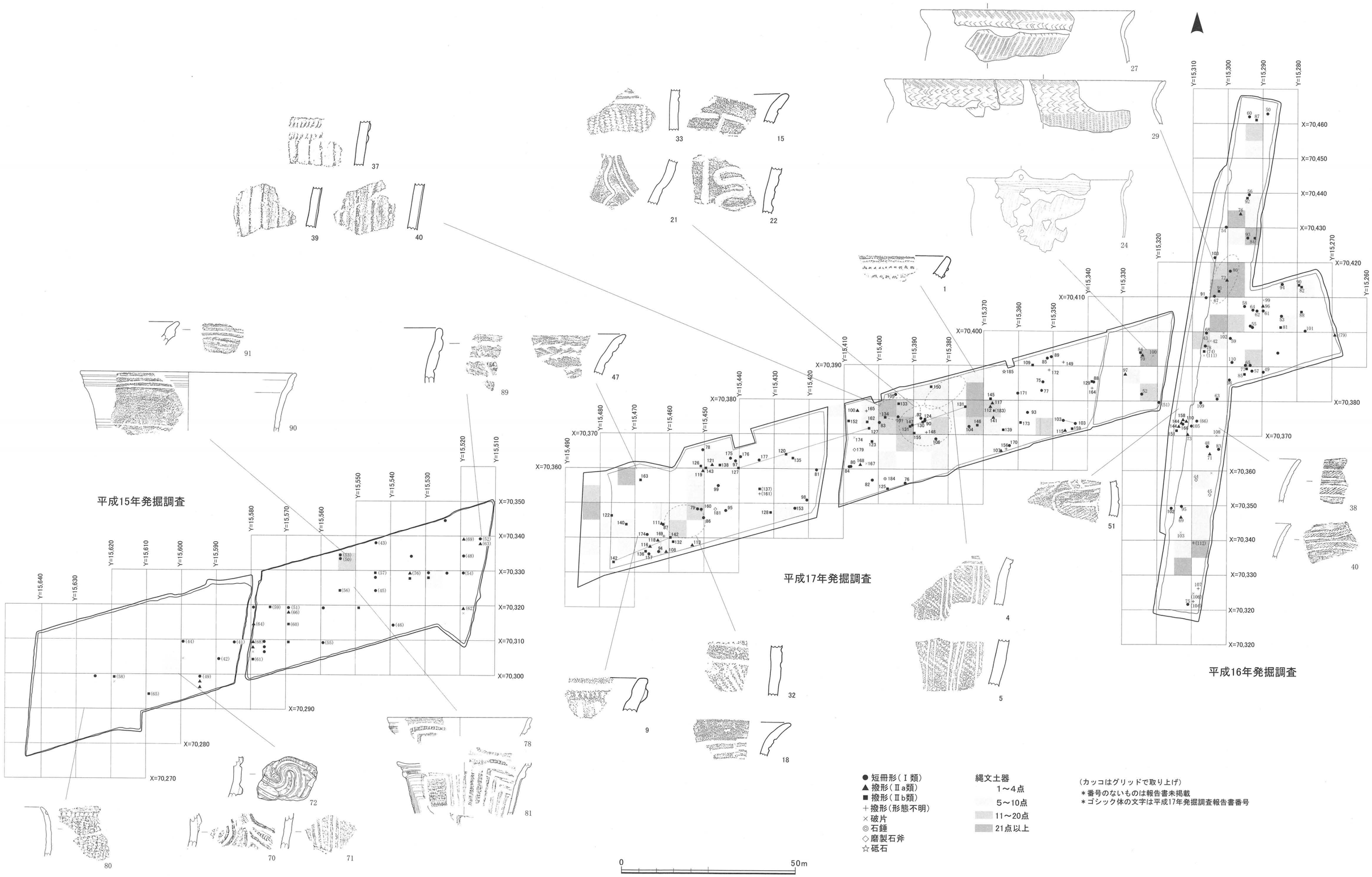



図108　石器・縄文土器出土分布図（平成15・16・17）（S＝1：1000）

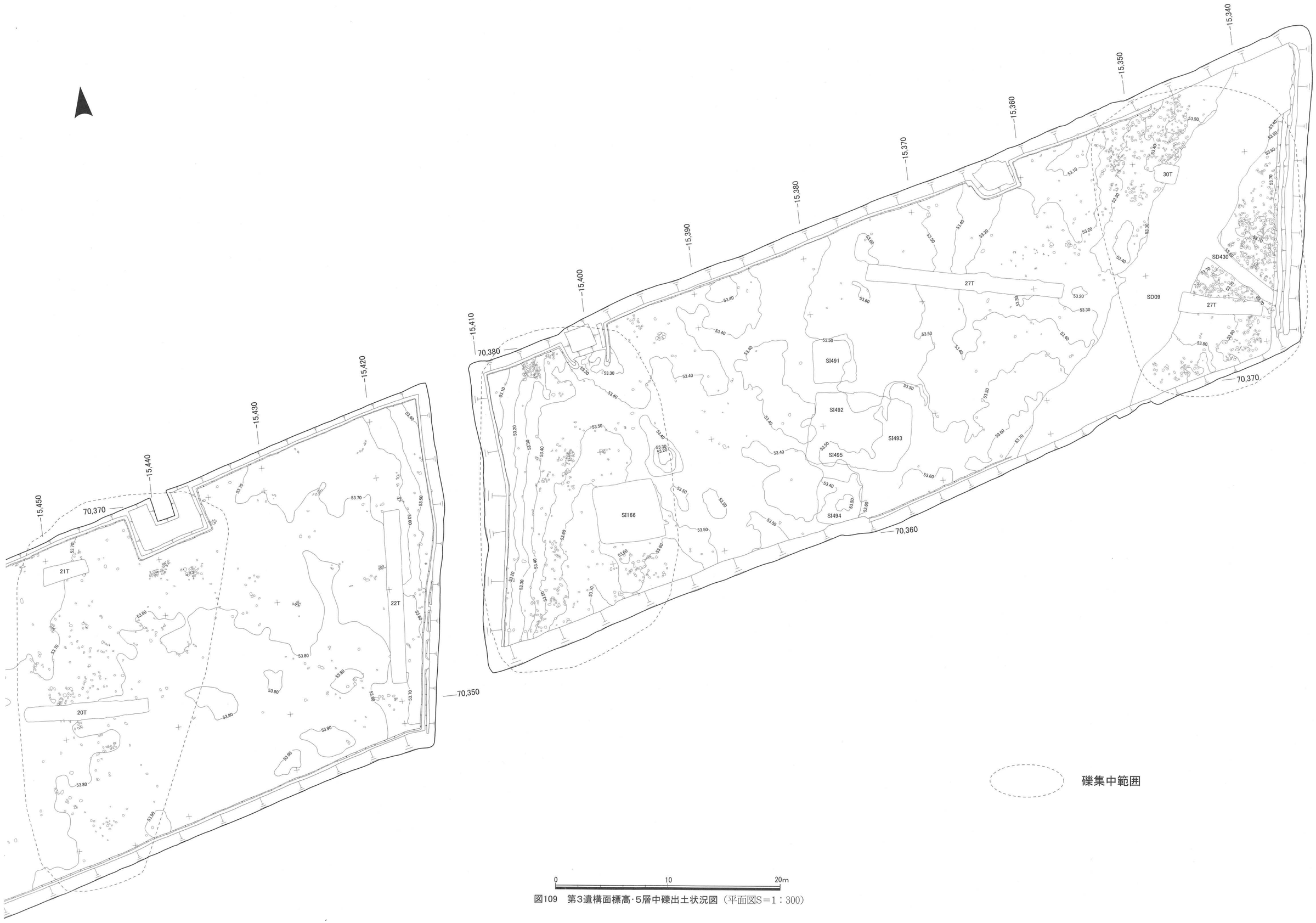



図109　第3遺構面標高･5層中礫出土状況図（平面図S＝1：300）

図110　石材調査位置図（S＝1：80000）

①射水市大島北野河川公園付近

②高岡市二塚中越パルプ工場付近

③砺波市安川大田橋付近

④砺波市合ロダム付近

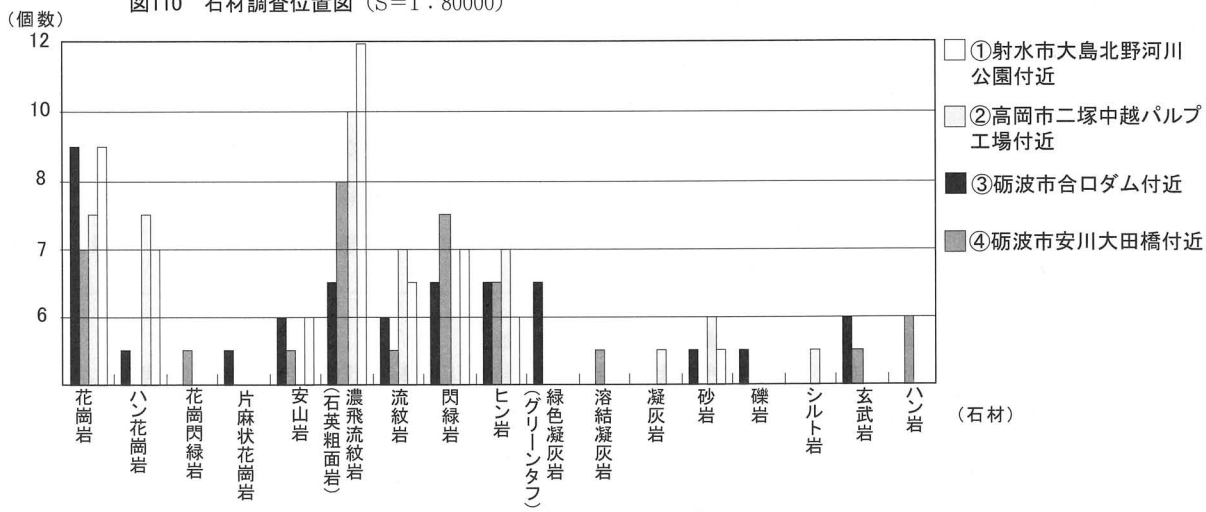



表11　各地点の石材構成表

## （２）奈良-平安時代〔Nara-Heian period〕

### 須恵器　〔図112・113・114　図版42・43・69・70・71・72〕

**杯　蓋**（図69，186～214）　29個体を図化している。部分片が多く、器高・口径とも数値化できるものは６個体しかない。口径の数値から、有台杯（杯ＢⅡ）に伴う口径12～14cmのもの（186～189，193～195，198～200）、有台杯（杯ＢⅢ）に伴う口径18cmを超えるもの（205・214）、有台杯（杯ＢⅣ）に伴う口径14～17cmのもの（190～192，196・197，201～204，206～213）に分類できる。

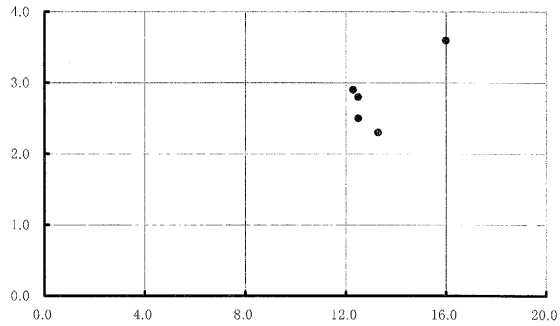


表12　杯蓋（杯B）の法量分布図

天井部が平坦で平笠状となる186・187は、天井部から口縁部になだらかに移行し、天井部に回転篦削りを施し宝珠形つまみが貼付される。天井部は肉厚で、口縁端部はわずかに垂下する。径高指数は186が22.4、187が23.6を測り、Ⅳ期以降に主流となる径高指数20以下の一群とは異なるが、Ⅳ１期に属すると考えられる。188・195はつまみが欠損するが同規格である。189は口径13.2cmを測る比較的薄手の製品である。つまみが欠損するが、扁平なつまにが張り付く型と思われる。口縁部で屈曲し、端部をわずかに垂下させる。Ⅴ１期に帰属する。190・191はそれぞれ口径14.3、15.3cmを測る。両方とも口縁端部のかえしは小さい。年代を決めるのは難しいが、Ⅴ期に属するものと考えられる。192は口径14.9cmを測り、つまみが欠損するが、全体に扁平化している。Ⅳ1期と考えられる。193は口径12cm、器高2.8cmを測る。つまみは宝珠形が崩れ、扁平となる。天井部から口縁部までなだらかに移行し、口縁部でわずかに屈曲し、口縁端部を内側にかえす。径高指数は23.3を測り、年代はⅣ期を与える。194も同じ型式である。196は残存率が低いが、口径14.6cmを測る。口縁端部を丸く仕上げるもので、Ⅳ期に相当する高沢島Ⅱ遺跡の杯蓋[1]でみられる。196はⅣ2期～Ⅴ1期に相当すると考えられる。197は口径16.5cmを測り、扁平な個体である。口縁部を屈曲し、端部を稜角的にかえし、内側に収める。口縁部の屈曲が弱いことからⅣ期に属すると考えられる。198は口径12.5cm、器高2.5cmを測る。宝珠形つまみが付き、口縁部は屈曲し平坦部を作り出す。端部は丸く仕上げる。径高指数は20.0を測る。199は口径13.3cm、器高2.3cmを測り、天井部から口縁部になだらかに移行し、口縁部の屈曲は弱い。径高指数は17.3を測り、198とともに扁平化の傾向が認められる。Ⅳ期と考えられる。200は天井部には篦切りを行い、後に撫でを施す。外面の一部、口縁

宝珠形つまみ

扁平化

高沢島Ⅱ遺跡

---

1）神保孝造他　1978『富山県砺波市栃檀野遺跡群予備調査概要』,p22
　吉岡康暢　1983「第２章　奈良平安時代の土器編年」『東大寺領横江庄遺跡』松任市教委・石川県考古学研究会,p183
　吉岡は高沢島Ⅱ遺跡について「厳密な編年的位置の固定が要請される」としながらも、第Ⅱ期（田嶋編年Ⅳ期に相当）の三浦中層遺跡より「やや後出的様相を示す」と表現している。

端部に自然釉が付着している。帰属時期はⅤ期と考えられる。

201は、器面が滑らかで、口縁端部の外面から内面外周にかけて重ね焼き痕がある。帰属時期はⅣ2期と考えられる。202は、口縁端部の外面に薄く重ね焼き痕がある。203は、天井部から口縁部になだらかに移行する。天井部には回転篦切りを行い、後に撫でを施す。内面は転用硯のように滑らかである。外面全体に降灰しており、帰属時期はⅤ期と考えられる。204は、天井部に回転篦削りを施し、口縁端部の外面から内面外周にかけて重ね焼きの痕がある。帰属時期はⅤ期と考えられる。

**重ね焼き痕**

205は有台杯（杯ＢⅢ）に伴うもので、口径が18cmを超える。天井部から緩やかな曲線で口縁端部を垂直にかえす。小形化傾向となるⅣ期にも同法量のものがあるが、端部を深く屈曲しない成形はⅢ期に属するものと考えられる。210は、口縁端部を丸く仕上げ、体部外面には回転撫でによる稜が数段つく。211は、天井部には回転篦切りを行い、後撫でを施す。内外面口縁部に自然釉が付着している。帰属時期はⅤ期と考えられる。212は、扁平なつまみを貼付する。天井部には回転篦削りを行う。内面口縁部から天井部中央にかけ灰色化が認められる。口縁端部の外面に重ね焼き痕があり、外面口縁部に別個体口縁部付着している。帰属時期はⅣ1期と考えられる。213は、つまみは欠損している個体である。天井部には回転篦切りを行い、後に撫でを施す。外面口縁端部から内面口縁部にかけ黒色化している。帰属時期はⅤ期と考えられる。214は、外面全体に降灰している。

外面口縁端部は黒色化しており、自然釉が付着している。帰属時期はⅤ期と考えられる。

**無台杯**（図112，215～234）　無台杯（杯Ａ）は20個体図化している。法量は細かく捉えると３種認められ、Ⅰ（口径10.1～11.0cm、器高2.9～3.4cm）、Ⅱ（口径11.4～12.0cm、器高3.5～3.8cm）、Ⅲ（口径12.4～13.4cm、器高2.8～3.3）と分類できるが、大局的見地からすると法量の分化現象と見なしうる程個体差がない。大半が口径13cm未満という傾向をⅣ期以降にみられる各器種の法量・形式の小形化・画一化現象の範疇で解釈すれば、無台杯は１法量しか存在しないと理解できる。228のみ法量が単独的数値を示す。

**法量３種**

**法量・形式の小形化・画一化**

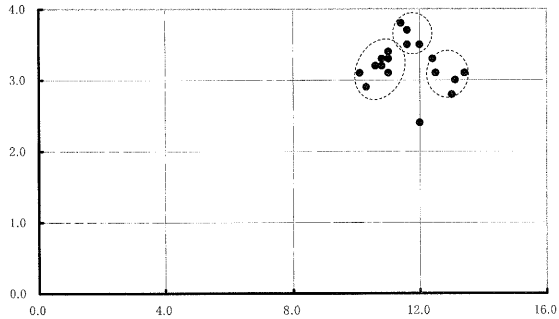



**表13　無台杯（杯A）の法量分布図**

215・216は口径が約10cmの小型品である。外傾度はそれぞれ52°、57°を測る。Ⅴ１期に北野博司がいう「椀Ｅ（椀ＡⅢ）」[1]に法量が近いが、精製品ではないので該当しない。216はⅤ１期に相当すると考えられる。217はSK443（SB01）出土の無台杯（図34）と同法量のもので、体部と底部の境に段がある。径高指数30.2を測る。218・219はともに外傾度が60°、径高指数は約30を測り、Ⅳ期に位置付

**椀Ｅ（椀ＡⅢ）**

1）北野博司　1989「1　北陸における須恵器生産（1）編年の概要」『北陸の古代手工業生産』北陸古代手工業生産史研究会

けられる。220は口縁部がやや開く型式である。221は外傾度が65°を測る。222～224は、Ⅳ期に属する。225は底部が厚い個体で、体部下半で稜を作り、口縁部に向かって外反する。226は完形品で、217・221と同様に体部と底部の境に段をもち、体部は直線的に立ち上がる。撫で方向を観察すると、回転が時計回りであることがわかる。228は法量が他の無台杯と異なり、口径12.0cm、器高2.4cmを測る。外傾度は45°、径高指数20を測り、Ⅳ期以降の小形化、Ⅴ期以降に杯類が椀形化する傾向が認められ、本品はⅤ１期に相当すると考えられる。229は、体部が湾曲して立ち上がる個体である。体部中央が薄く、口縁端部にやや厚みをもたせ、椀のような器形となる。Ⅴ期と考えられる。

**敷物圧痕**　230は完形品で、外傾度58°で立ち上がり、口縁端部をわずかに外反させる。底部外面には回転の敷物の圧痕が縦横に残る。Ⅳ期と考えられる。231～233も外傾度は約50°付近であり、Ⅴ期に相当する。231は底に近い体部に強い撫でを施し外反させ、体部上半は内湾させる。胎土は肌理細かく、精緻な印象を受ける。232はやや厚みのある個体で、径5mm程の白色砂粒を含み、胎土は煮炊具のそれに近い。233は焼成不良だが薄手の個体である。

**有台杯**（図113，235～256）　有台杯（杯Ｂ）は21個体図化している。法量は大きく２種あり、小型（口径10.1～12.6cm、器高3.7～4.5cm）と大型（口径13.0～15.9cm、器高5.5～6.5cm）に分けられる。小型のものは、10cm代、11～12cmで２法量に分けられると思われるが、資料数が少ないので一括りにしている。

田嶋の杯Ｂ分類に基づき分けると、杯ＢⅡが244～248、250～254、杯ＢⅣが236～243、249・255・256、杯ＢⅤが235となる。

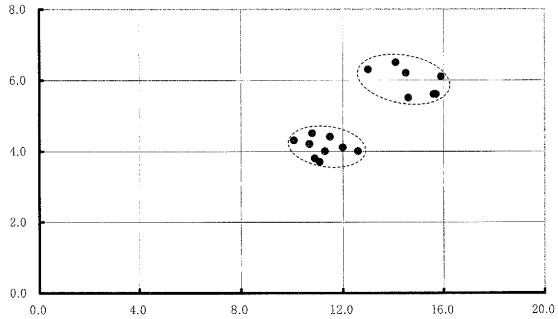



表14　有台杯（杯B）の法量分布図

235～240は口径が11.5cm未満の小形有台杯である。235は、有台杯の中で口径が最小のもので、10.1cmを測る。外傾度は65°、径高指数は42.6。高台がやや高く、踏ん張るような形状である。田

**塩　　杯**　嶋編年の杯ＢⅤに相当する唯一のものであり、いわゆる「塩杯」である。236は口径10.9cm、外傾度は66°、扁平な高台が付く。237は焼成が良好、口径11.1cm、外傾度65°、径高指数33.3を測る。底部中央を薄く仕上げ、口縁部が外反する。高台は内端接地となる。238は全体に厚みのある印象で、特に底部の器壁が他の有台杯に比べ圧倒的に厚い。高台は扁平で幅があり、角が丸い。239は、ほぼ完形品であり、口縁部周辺に自然釉がかかる。外傾度は70°、径高指数は41.7を測る。高台は簡素な作りで、内端接地となる。Ⅳ期に相当すると考えられる。240は、体部が椀形に湾曲して立ち上がり、底部中央を薄く仕上げる。器壁は全体的に薄く、Ⅳ２期と考えられる。241は、口径11.5cm、体部が直線的に立ち上がる。高台は踏ん張る形態である。Ⅳ１期と考えられる。242は、胎土に大粒の砂粒を含む個体である。全体を薄く仕上げ、口縁部でわずかに外反する。口径12.0cm、外傾度68°、径高指数は34.2を測る。243は口縁部が開く形態で、口径12.6cm、径高指数は31.7を測る。口径13cm未満の個体の径高指数が30後

半から40前半に分布が集中するのに対し、数値が低い。Ⅴ１期の特徴を有する。

244～248、250～254は、大型深身の有台杯（杯ＢⅡ）である。244は、高台が欠損するが口径が13.2cmを測ることから大型に分類できる。口径に対して底径が小さく、Ⅴ期に相当すると考えられる。245は、口径14.6cm、底径8.3cmを測り、244と同様口径に対する底径の比率が小さい。外傾度は67°と直立気味ではあるが、径高指数が37.7を測る。Ⅴ１期に帰属すると考えられる。246は口径が15.7cmと大きい。体部は開き気味で立ち上がり、やや椀的な作りとなる。外面に煤が付着している。外傾度は65°、径高指数は35.7を測る。Ⅴ１期に相当すると考えられる。247も口縁部が直線的に開く。外傾度66°、径高指数35.9を測る。Ⅴ１期と考えられる。248は口径14.5cm、体部外面に箆記号がある個体である。記号は、２本の直線を縦に浅く引くものである。外傾度68°、径高指数42.8を測る。Ⅳ２期に相当すると考えられる。249は、箆記号のある体部片である。細片で記号全体は不明だが、「×」印のように思われる。250は口径13.0cm、外面全体に降灰している。杯ＢⅡのうち、もっとも径高指数が高く、48.5を測る。口径の割に重厚な高台がつく。体部は直線的に立ち上がり、口縁部で外反する。外傾度76°を測り、Ⅳ１期と考えられる。251は口径14.1cm、器壁の厚みがある。底部と同じような厚みで体部は直線的に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。外傾度76°、径高指数46.1を測り、Ⅳ１期に帰属すると考えられる。252は、体部片である。口径15.3cm、外傾度73°を測る。体部中程から外反する。Ⅳ期に属すると考えられる。253は、口径15.9cmを測る。体部は外反して立ち上がり、外に踏ん張る形態の高台がつく。外傾度68°、径高指数38.4を測る。底部外面は転用硯のように滑らかで、胎土中の砂粒が外れた凹みに朱色の顔料らしきものが残る。体部や底部内面の表面や胎土にはない。底部外面を硯のようにして、赤色顔料を研いでいた可能性がある。254は底部片であり、底径12.0cmを測る。口径が遺存する底径の最大値は、251の10.2cmであるので、254はもっとも大型の有台杯と考えられる。255は底部から体部中程まで残る。薄手の仕上げで、高台は内端接地となり、Ⅳ期に属すると考えられる。256は底部は完存、一部残る体部に一条の箆記号がある。

**箆記号**

**「×」**

**瓶類・壺類**（図114，257～277）　供膳具以外の器種は少ない。257は広口瓶で、胴頂部から頸部が残る。胴部と頸部は３段で接合している。胴頂部外面には自然釉がかかる。258は壺もしくは瓶類の底部である。底径は11.3cmを測る。底部内面全体に自然釉がかかることから、広口壺もしくは広口瓶の可能性が考えられる。259は、瓶類の底部である。高台が付き、外面に自然釉が厚く付着する。260は瓶類の底部としたものの、底径は15.9cmを測る大型のものであり、接地面も２点あり器種特定は難しい。261は小型瓶のうち、肩張りの長頸瓶もしくは広口瓶と考えられる。262は有台の小型長頸瓶である。胴頂部および底部内面に自然釉がかかる。263は、短頸壺の蓋と考えられる。口径は11.6cm、つまみの有無は不明である。天井部に厚く降灰する。264は短頸壺の口縁部である。口径11.2cmを測る。265は小型の広口壺である。口径7.4cm、器高は8cm程度と推測される。肩の張りは弱く、全体に丸みのある器形である。266は横瓶の閉塞部である。外面に同心円状の掻き目を施す。内面には厚く自然釉がかかる。267は甕の口縁部である。外面に自然釉がかかる。口径が18cmを測るため、小甕と考えられる。268は甕の口縁部片である。外面には整形時に施された調整痕が残る。269は甕の口縁部

**小型長頸瓶**

**横　　瓶**

であり、端部は屈曲し上方につまみ上げる。甕と思われるが、広口瓶の可能性もある。270は焼成不良の甕口縁部である。口縁端部は広く面を作り出し、水平方向に挽き出している。271

小　　甕　は口径25.4cmを測る甕の口縁部である。272は小甕である。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く仕上げる。口縁端部外面に一条の沈線が施される。胴部外面には平行叩き目、頸部付近には掻き目を残し、内面には同心円文叩きを施す。口縁部から胴部中位まで部分的に残

大　　甕　り、甕類の中でもっとも遺存状態の良い個体である。273は大甕の口縁部である。口径は復元すると39.5cmを測る。外面には強い掻き目が施されている。274は甕の胴部片である。頸部付近から胴頂部が残る。外面には平行叩き、内面には同心円文叩きが残る。276・277ともに甕の胴部片である。

**土師器**　〔図115・116　図版72・73〕

食膳具・煮炊具を合わせた破片点数では、遺物包含層出土遺物の8割を超える。大半が煮炊具で占められる。これは、煮炊きによる劣化で消耗率が高いという器種特性を反映したものであり、須恵器に比べ破片が細片化しやすいのも一因であると考えられる。食膳具は非常に少ない。

内面黒色処理　**椀**（図115，165～193）　278は内面黒色処理をした椀である。体部外面に粘土帯を貼り付けている。内面は横方向の磨きを施す。古墳時代の土師器のような印象を残す。279は内面黒色処理をした椀である。内面から口縁端部外面にかけて黒色化している。口縁端部を内側に返し、丸く収めている。内外面ともに横方向の磨きを施している。280は横方向の撫でを施した椀である。内面は黒色処理されていない。基本的に本遺跡から黒色土器やその他椀類が少ない傾向にある。これは本遺跡の供膳形態に椀があまり組み込まれていなかったことを示すものである。

**長胴釜**（図115，281～287）　破片点数は包含層出土遺物の8割を超える量が出土しているが、胴部細片が多く全体復元できる個体はなかった。281は口径21cmを測り、口縁部から胴部中位まで残存する。回転撫で・掻き目・叩き技法により調整を施される基本的な釜である。外反する口縁部は中程で僅かに上方に屈曲させ、端部に撫でを行い僅かに沈線を作る。外面には平行線文の叩きを行った後で削りを加える。内面胴部上半には掻き目を施し、下半には同心円文当て具痕が僅かに残る。外面に厚く炭化物が付着し、内面には薄く汚れ及び炭化物が付着する。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。282は、口径21cmを測る。外反する口縁部は端部を斜め上方につまみ上げ、外面に面取りを施す。外面胴部上半には掻き目を施し、下半には後に削りを加える。内面胴部上半には縦方向の刷毛調整を行い、下半には斜め方向に行う。縦方向と斜め方向の刷毛目は幅や溝数が違うため、調整工具は異なると思われる。外面の胴部上半及び内面の胴部中央付近に炭化物付着している。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。283は焼成良好の個体である。外反する口縁部は端部を肥厚させ、面取りを施す。外面には1次焼成時の黒斑が残る。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。284は器壁の薄い個体である。外反する口縁部は端部をやや肥厚させ、上方につまみ上げる。器厚は薄い。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。285

は、外反する口縁部は端部を僅かに内側に屈曲させる。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。286は、外反する口縁部は端部を内側斜め上方につまみ上げる。内外面共に掻き目を施す。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。287は、外反する口縁部は端部を肥厚させ、丸く仕上げる。外面全体に炭化物が付着している。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。288は、外反する口縁端部をやや肥厚させ面取りを施す。内外面ともに掻き目を施す。口縁部外面及び胴部中央に煤が付着している。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。

**短胴釜**（図115，289～299）　289は、胴部から頸部、口縁部へと緩やかに移行し、明確な屈曲を持たない個体である。口縁端部はやや肥厚する。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。290は外反する口縁端部をやや肥厚させ、僅かに上方へつまみ上げる。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。291は、外反する口縁端部をやや肥厚させ、僅かに上方へつまみ上げる。外面全体に薄く炭化物付着する。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。292は、外反する口縁部は端部をやや肥厚させ、僅かに上方へつまみ上げる。内外面に炭化物付着する。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。293は、外反する口縁端部を内側に折り返し、丸く仕上げる。内外面に薄く汚れが付着する。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。294は、外反する口縁端部をやや肥厚させ、僅かに上方へつまみ上げる。内面口縁部に炭化物が付着し、外面全体に炭化物が付着する。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。295は、胴部下半外面には削りを加え、底部には静止糸切り痕が残る。また底部外面は黒色化している。内面部分的に炭化物が付着する。内面には粘土積み上げ痕が残る。296は、底部外面には回転糸切り痕が残る。297は、底部外面に回転糸切り痕が残り、底部中央を肥厚させる。298は、底部外面に回転糸切り痕が残り、底径が小さい。299は、底部外面に回転糸切り痕が残る。298と同様に底径の小さい短胴釜である。

**鍋**（図116，300～301）　300は、外反する口縁端部を上方につまみ上げ、外面に面取りを施す。内外面共に掻き目を施し、後に外面下半に削りを加え、内面には刷毛調整を行う。外面の掻き目と掻き目の間には沈線状の窪みが認められる。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。
301は、外反する口縁端部に面取りを施す。内外面共に掻き目を施し、後に外面下半に削りを加え、内面には刷毛調整を行う。帰属時期はⅣ2～Ⅴ1期と考える。

## 土　錘　〔図116　図版73〕

第2遺構面の竪穴建物SI492・494から土錘がまとまって出土しており、直上の包含層から土錘が3点出土している。包含層出土品は近い時期のものと考えられる。土錘には紡錘状・管状・棒状・卵(球)形品があるが、竪穴建物出土品を含め、管状土錘しか出土していない。製作技法は、観察する限り簡易である。イネ科の多年草の茎などに適度の粘土塊を包み、手で握るように成形する（図111）。撫で調整というより力を加えて握るのみ、外面は指の圧痕が

竪穴建物

管状土錘

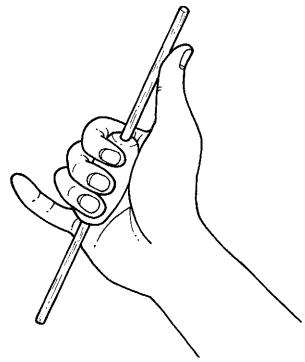


図111　土錘製作想定図

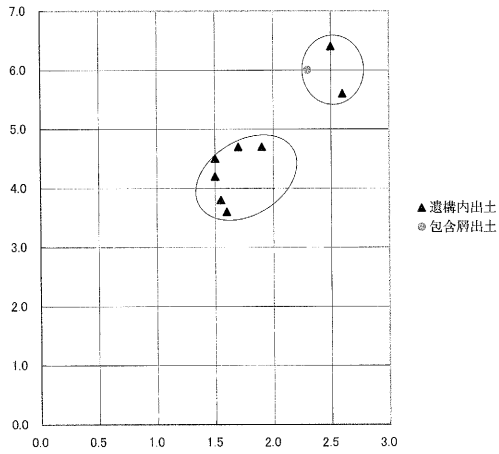



表15　土錘長径・最大幅計測図

残る。成形後、茎を抜き、上下端の整形を行う。乾燥させ焼成すれば完成である。

大きさは大小２種あり、長径3.5～4.7cmの小型品と長径6cm前後の大型品に分けられる。重量は小型品が5.2～14.9g、大型品は27.9～33.4gを測る。小型品は上端下端を細く仕上げるのに対し、大型品は寸胴な印象で、長く伸びた棗玉のような形状である。すべて土師質である。

330は小型品で孔径3.5mm、半分が欠損する。331は、大型品で半分欠損の半裁品である。330は包含層出土で唯一の完形品である。３点とも外面に強い摩耗痕などは認められないが、わずかな手擦れ痕が残る。漁具または機織具と考えられる土錘だが、本遺跡出土品は後者が妥当と思われる。

### 鉄製品　〔図116　図版75〕

製品と鉄滓がある。

**片関釘**　333は刀子である。切先と茎部端を欠損している。残存長4.9ｃｍ、刃部最大幅1.3ｃｍ、同厚さ0.3ｃｍ、茎部厚さ0.35ｃｍを測る。関部は片関で斜角である。刃部および茎部ともに有機物の付着は認められない。334・335は釘の断片と思われる。334は先端部付近の破片である。残存長3.6ｃｍ、最大幅0.75ｃｍ、厚さ0.45ｃｍを測る。

**鉄滓**　335は残存長2.1ｃｍ、幅0.4ｃｍ、厚さ0.35ｃｍを測る。334・335のいずれにも有機質の付着は認められない。336・337は鉄滓である。

## （３）中世・近世〔Medieval period,Early modern period〕

### 珠洲　〔図116　図版74〕

中世を主体とした遺構面を確認していないためか、珠洲の出土は極めて少ない。いずれも細片のため、詳細な時期を特定できない。現段階では帰属時期を中世として扱う。302は珠洲の甕胴部片である。外面には斜行の打圧痕があり、内面には円礫と思われる押圧痕がある。303は、壺類の底部と考えられる。底の器壁が非常に薄い個体である。内面に螺旋状の轆轤目が残る。外底部は静止糸切り痕が認められる。304は、片口鉢の胴部である。底部から口縁部に向かって施された卸し目が切れるので、口縁部近くの破片である。

**甕**

**螺旋状轆轤目**

**片口鉢**

### 土師器　〔図116　図版42・74〕

**皿**（図116，305～323）　中世に帰属する土師器について記述する。同じ砺波郡内に所

在する梅原胡摩堂遺跡からは中世土師器の良好な資料が得られているので、同遺跡報告書の分類1）に基づき記述を進めたい。

305は本遺跡では数少ない柱状高台をもつ土師器である。高台は1.2cmを測る。全体的に摩滅により調整が不明である。轆轤成形であるＲＡＩ類に分類され、帰属年代は12世紀前半に相当すると考えられる。306も柱状高台をもつが、2.0cmを測るため305よりやや古相に属する可能性がある。ＲＡＩ類に相当し、12世紀前半の年代を与えたい。307は口径・器高の小さな皿で、他の小皿より容量が小さい。体部が直線的に開き、口縁端部を丸く収める。底部には回転糸切り痕が残る。轆轤成形のＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。308は底部の大半が欠損するが全体の口径・器高が求められる個体である。底部に回転糸切り痕があり、底部と体部の間に段をもつ。ＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。309は体部が直線的に開き、口縁端部はわずかに外反するようにして丸く収める。底部には回転糸切り痕が残る。見込み部分が一段低くなる。ＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。310は、小皿の中でもっとも大きい個体である。内面は、見込み部分で一段低くなる。ＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。311は、口縁部から見込みにかけて一連の轆轤撫でで仕上げられる。底部には回転糸切り痕がある。底部と体部の境に短い段があるが、ＲＡⅡ類とは異なる。ＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。312は口縁端部が欠損しているが、底径と体部の立ち上がりから推測してＲＢ類と考えられる。底部に回転糸切り痕が残る。313は底部から内湾気味に立ち上がる。形態は314に近似する。底部に回転糸切り痕が残る。ＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。314は、体部が内湾気味に立ち上がり、器壁が厚い個体である。口縁端部内面には部分的に弱い稜がめぐる。ＲＢ類に相当すると考えられ、12世紀中頃から13世紀初頭に位置付けたい。

ＲＡＩ類

ＲＢ類

片口鉢

ＲＡⅡ類

1）越前慎子　1996「第Ⅳ章　考察　1　梅原胡摩堂遺跡出土中世土師器皿の編年」『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）－東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅱ－』富山県文化振興財団

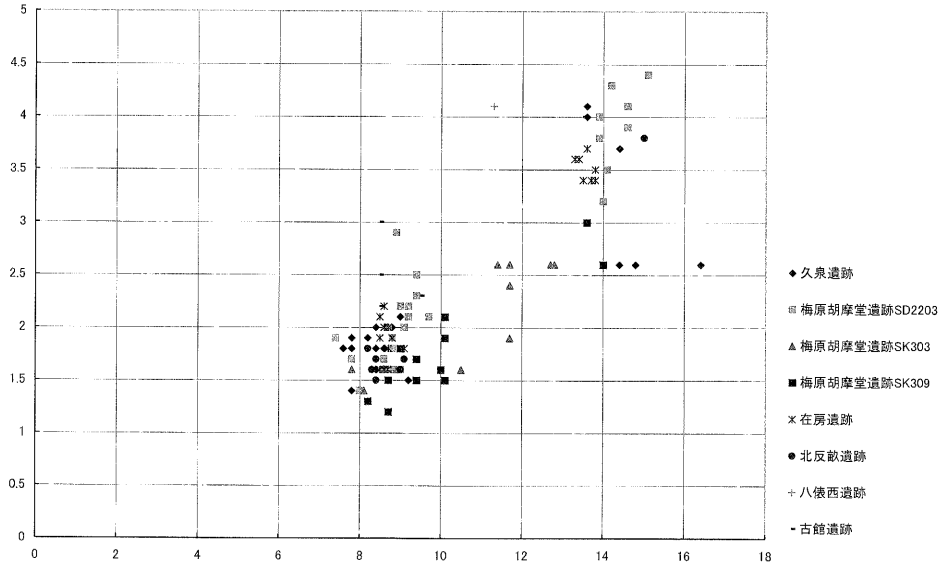



表16　主要遺跡の土師器口径・器高散布図

315は、成形時か焼成時か判断できないが全体の歪みが大きい。口縁部の轆轤撫では反時計回りである。底部に回転糸切り痕が残る。ＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。316は、口縁端部が欠損している個体である。底径及び体部の立ち上がりから推測して、ＲＢ類の可能性がある。317は全体的に歪みが大きい。他の皿より口径に対して底径が大きく、形態が扁平な印象を受ける。体部は短く直線的に開くが、中位で弱い稜がある。底部に回転糸切り痕が残る。ＲＣ類に相当すると考えられ、年代は13世紀後半から15世紀代と思われる。

ＲＣ類

318～323は、口径・器高の大きな型式である。318は、口径13.6cm、器高4.1cmを測る。体部外面に二段撫で、内面には弱い稜をめぐらせる。底部には回転糸切り痕が残り、底部を厚手に仕上げる。ＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。319は、口径14.4cm、器高3.7cmを測る。外面は二段撫で、内面は口縁部に沿って一段の稜がめぐらせ、口縁端部がやや外反する。底部には回転糸切り痕が残る。ＲＢ類に相当し、12世紀中頃から13世紀初頭と考えられる。320は底部から体部中位まで残り、口縁部が欠損する。底部から体部にかけて丸みをもって立ち上がり、見込み部分を厚く仕上げる点は、ＲＤ類の特徴を示すと考えられ、13世紀後半から15世紀後半に属すると思われる。

ＲＤ類

321は、口径7.8cm、器高1.8cmの小皿である。横撫でにより、３単位の面取りを施す。器壁が焼く1cmの厚みをもつ。中世土師器の土器溜りにおいて、唯一の手捏ね土師器である。322は口縁部が欠損している。底部と口縁部の立ち上がり具合から、ＲＢ類と推測される。底部に回転糸切り痕が残る。323は、口縁部が欠損している。底部に回転糸切り痕が残る。

土器溜り

## 中近世陶磁器類　〔図116　図版14〕

中世および近世に属する陶磁器類は少量なので、一括して記述する。周辺の遺跡では比較的出土する越中瀬戸の製品が少ない。324は灰釉皿である。細片であるため詳細な年代は特定できないが、中世期と考えられる。美濃産の可能性がある。325は灰釉皿である。白瓷（しらし）とも考えられる。美濃産か。326は不明の小壺である。327は越中瀬戸の皿の高台部分である。高台は削り出しで無釉であるが、体部には鉄釉がかかると思われる。時期は近世である。328は灰釉碗である。高台は削り出しであり、釉薬の溶融が不十分である。329は、鉄釉系の壺である。高台は削り出しで、底外面は回転箆削り調整である。時期は近世と考えられる。（野原）

白瓷

越中瀬戸

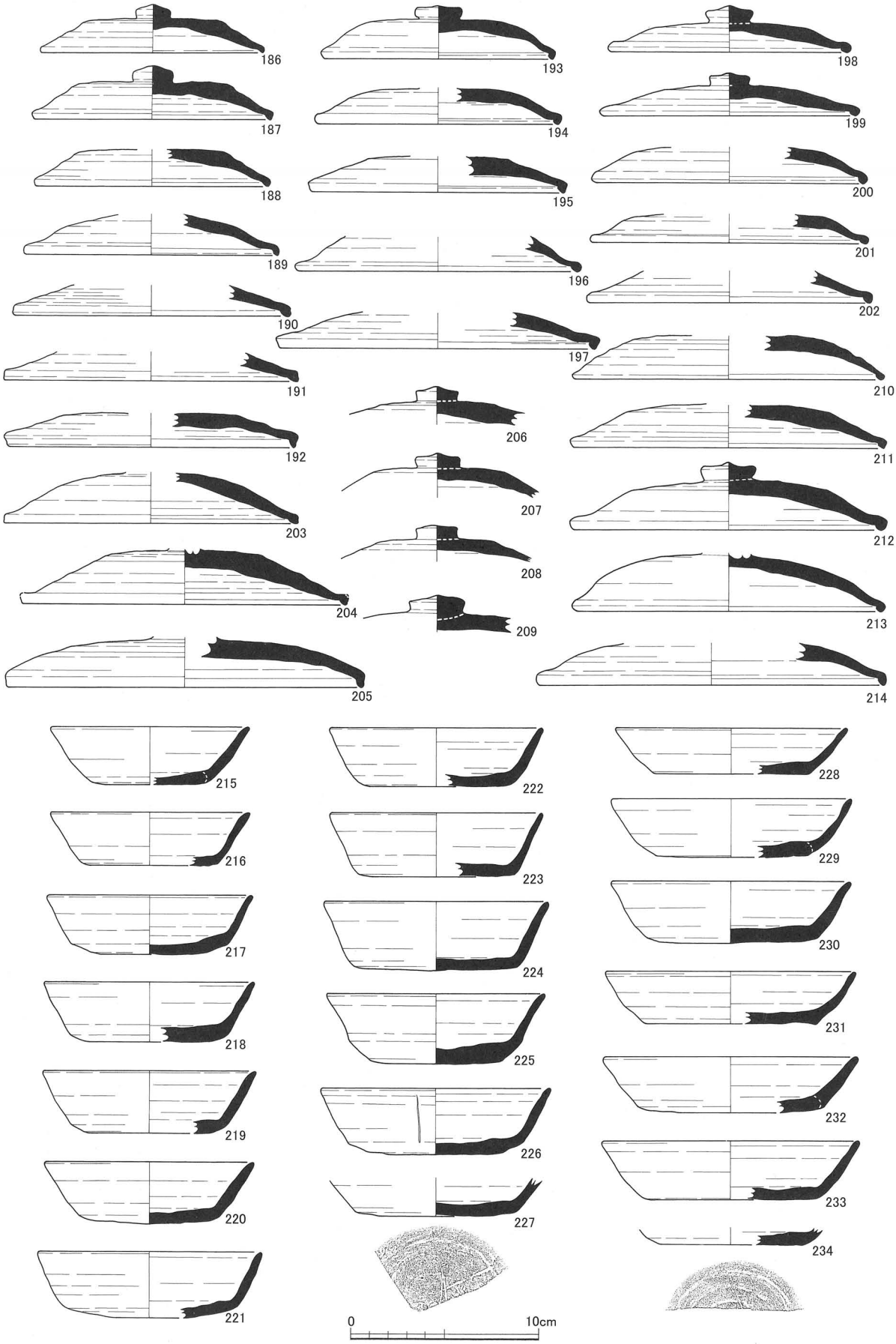



図112　遺物包含層出土遺物実測図(19) 須恵器（S＝1：3）

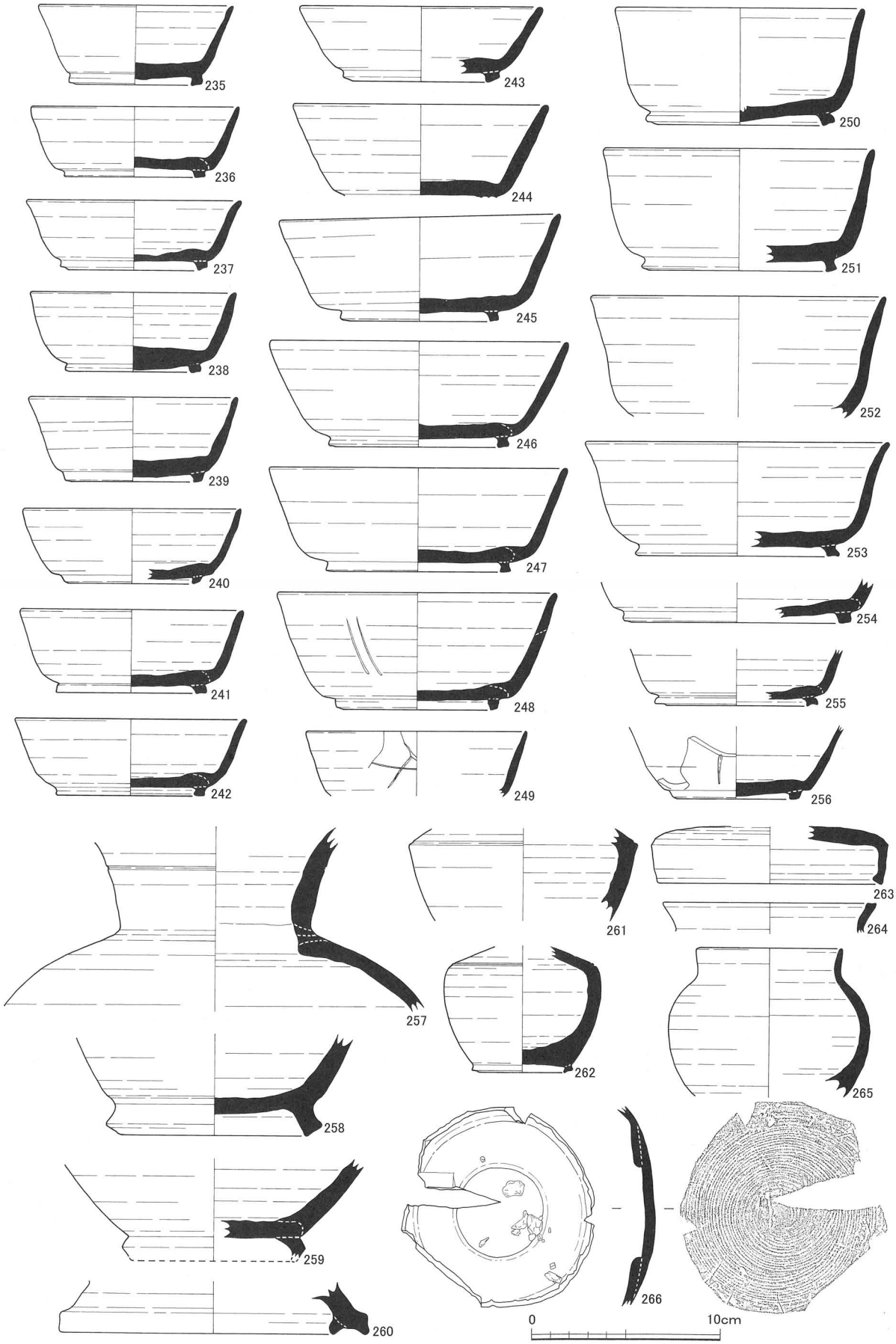



図113　遺物包含層出土遺物実測図(20) 須恵器（S＝1：3）

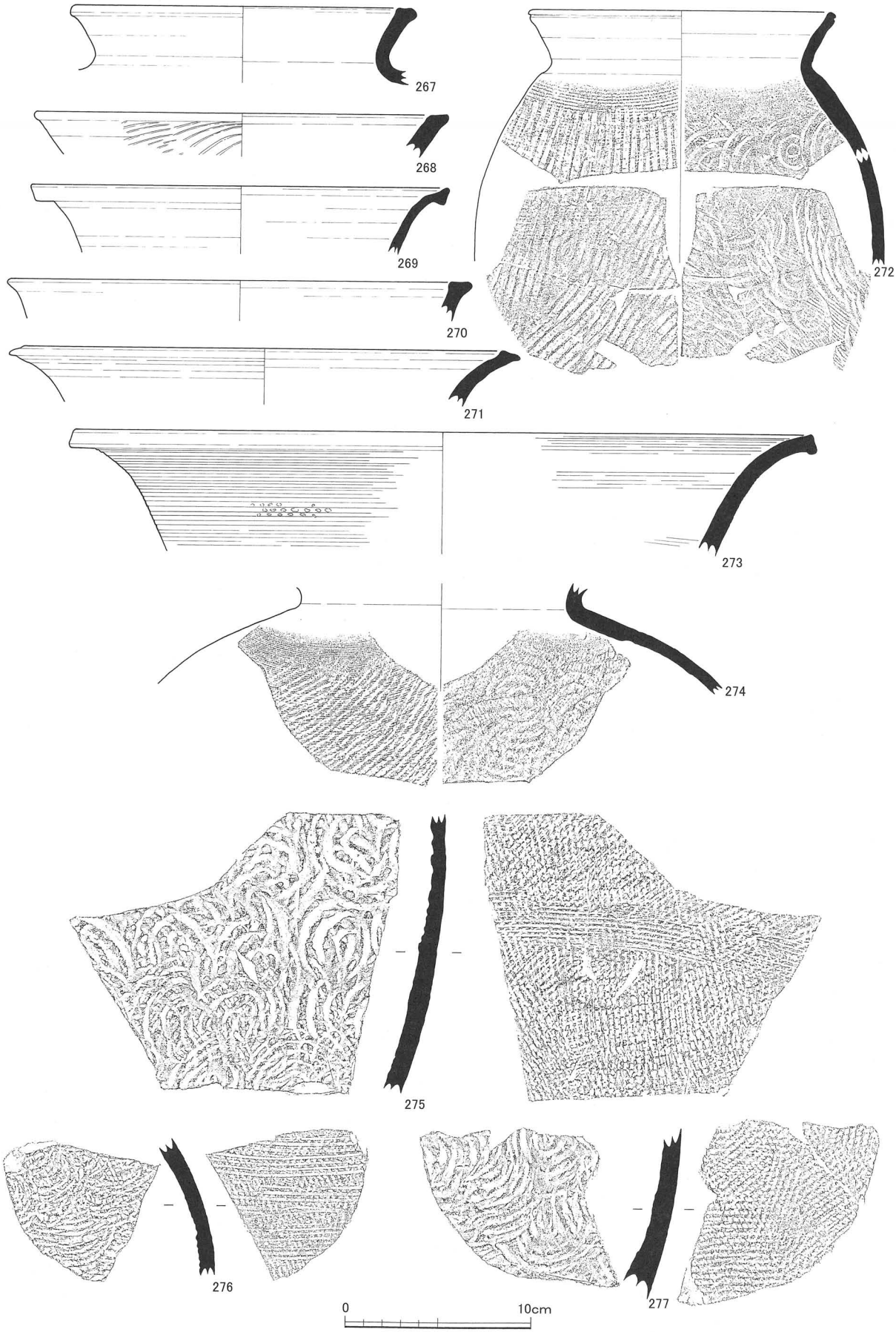



図114　遺物包含層出土遺物実測図(21) 須恵器 (S=1：3)

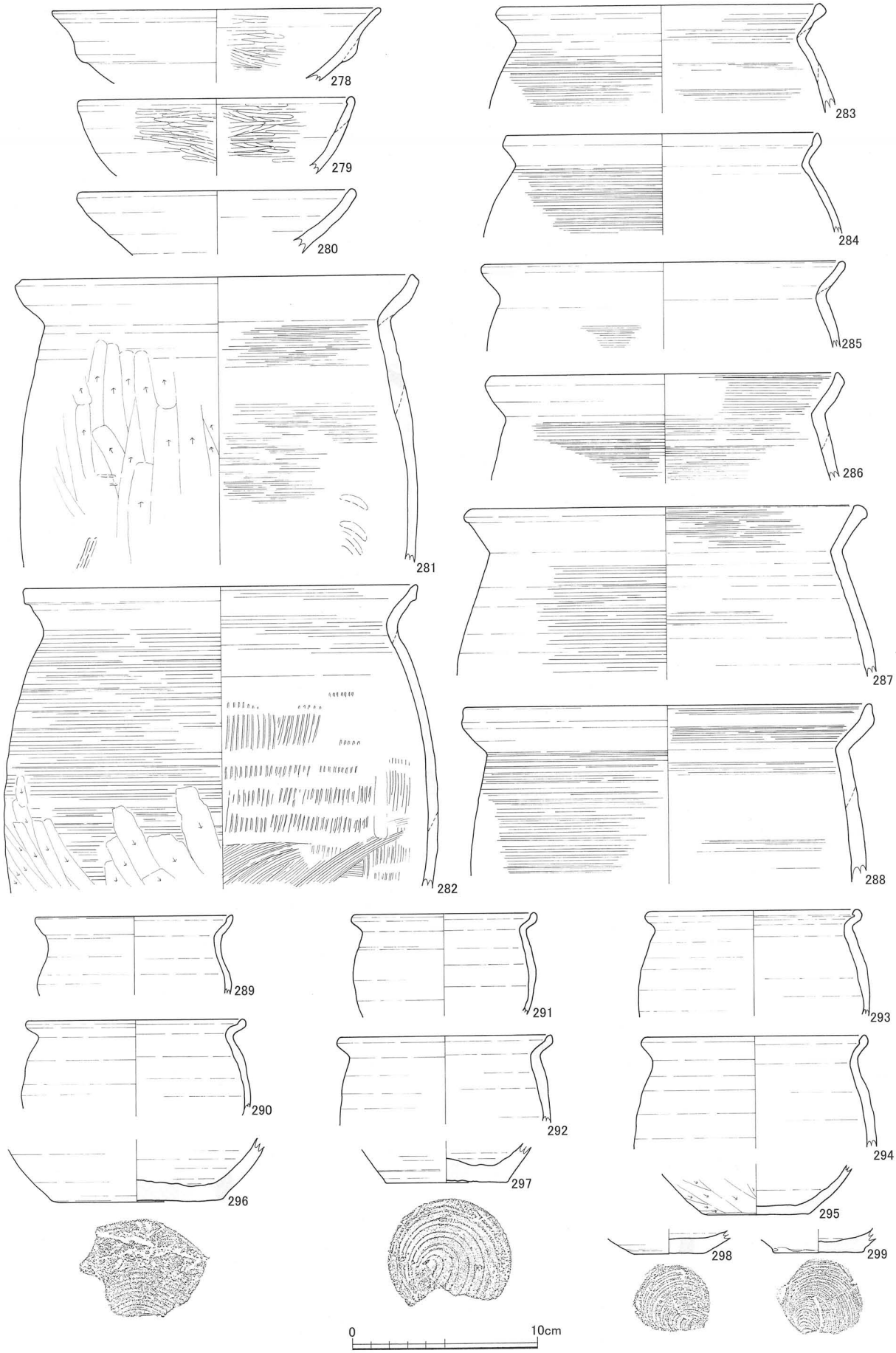



図115　遺物包含層出土遺物実測図(22)　土師器（S＝1：3）

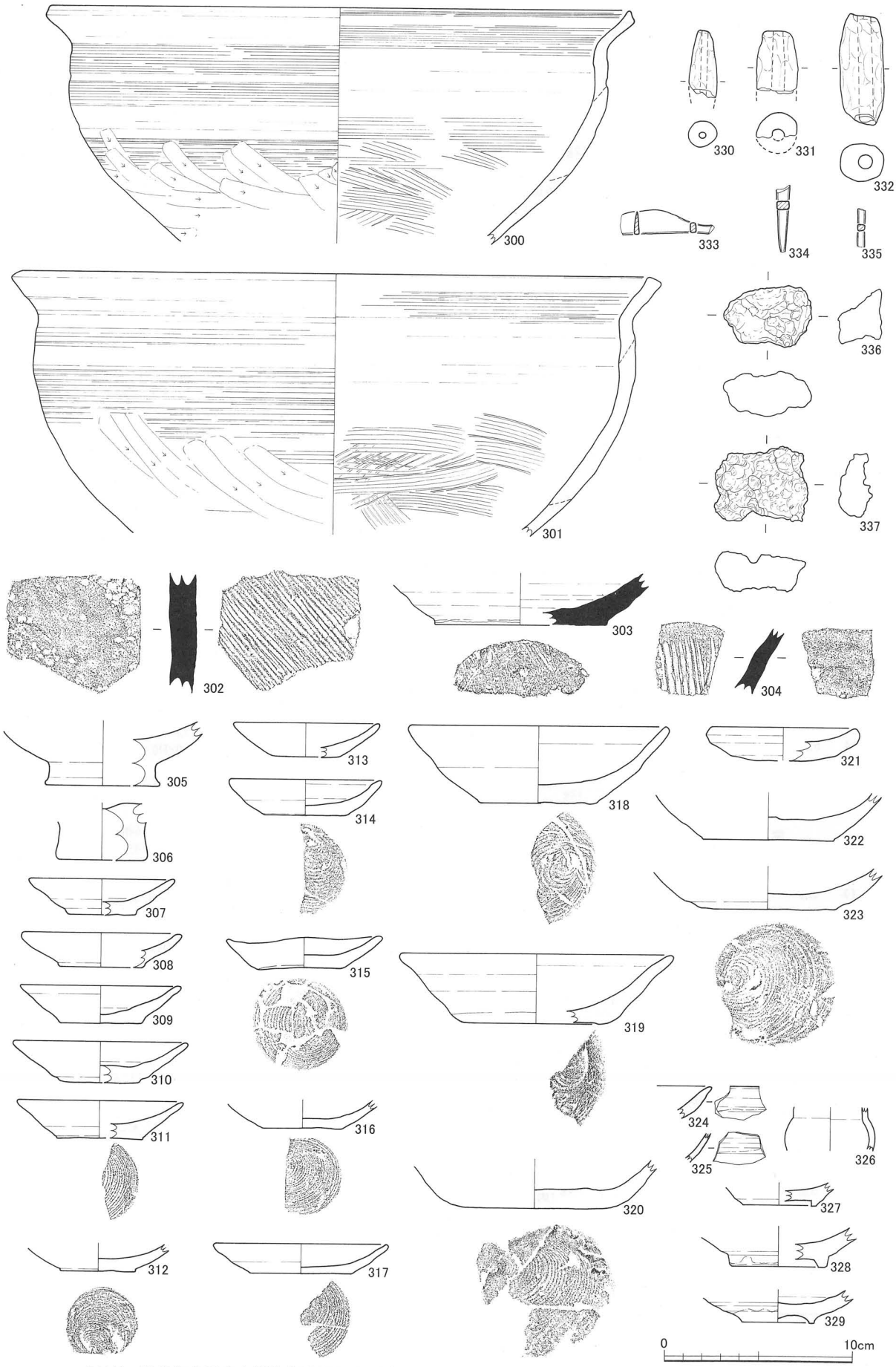



図116　遺物包含層出土遺物実測図(23)　土師器 珠洲 中世土師器 近世陶器 土錘 鉄製品 (S=1：3)

表17　遺物観察表（縄文土器）

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土層位 | 種類 器種 | 地点 | 口径 底径 器高 重量（推定残存）（cm）（g） | 調整・施文 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図89 | 1 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=390 Y=370 | 6g | （外面）沈線文＋連続爪形刺突 （内面）ナデ | 並 | やや良好 | （内面）7,5YR7/6橙 （外面）10YR6/2灰黄褐 | 福浦上層式 前期後葉 |
| | 2 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=370 Y=430 | 12g | （外面）縄文　平行沈線文 （内面）爪形刺突文　ナデ　磨き | 並 | 良好 | （内面）10YR2/3黒褐 （外面）5YR5/4にぶい赤褐 | 新崎式 中期前葉 |
| | 3 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=405 Y=310 | 13g | （外面）平行沈線文 （内面）ナデ | やや租 | やや不良 | （内面）5YR5/6明赤褐 （外面）7,5YR6/5橙 | 新崎式 中期前葉 |
| | 4 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=385 | 58g | （外面）縄文　平行沈線文 （内面）横ナデ | やや密（砂粒含む） | 良好 | （内面）10YR6/2灰黄褐 （外面）10RY7/4にぶい黄橙 | 新崎式 中期前葉 |
| | 5 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=385 Y=380 | 34g | （外面））縄文　平行沈線文 （内面）斜めナデ | やや密（砂粒含む） | 良好 | （内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR6/4にぶい黄橙 | 新崎式 中期前葉 |
| | 6 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=370 | 36g | （外面）縄文　平行沈線文 （内面）横ナデ | やや密（砂粒含む） | 良好 | （内面）10YR5/2灰黄褐 （外面）7,5YR7/3にぶい橙 | 新崎式 中期後葉 |
| | 7 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | 排土 | 36g | （外面）巾広沈線文　刺突文 （内面）横ナデ | やや密（砂粒多） | 良好 | （内面）7,5YR6/6橙 （外面）10YR7/6明黄褐 | 串田新Ｉ式 中期後葉 |
| | 8 | 覆土 | 縄文土器 深鉢 | SD679 | 49g | （外面）巾広沈線文　刺突文 （内面）横ナデ | やや密（砂粒多） | 良好 | （内面）7,5YR6/4にぶい橙 （外面）10YR7/4にぶい黄橙 | 串田新Ｉ式 中期後葉 |
| | 9 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=340 Y=470 | 11g | （外面）沈線文　貝殻腹縁文 （内面）ナデ | 並 | 普通 | （内面）2,5YR5/6明赤褐 （外面）5YR6/6橙 | 串田新Ｉ式 中期後葉 |
| | 10 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=340 Y=460 | 21g | （外面）沈線文　貝殻腹縁文 （内面）斜めナデ | 並 | 普通 | （内面）10YR5/2灰黄褐 （外面）10YR7/3にぶい黄橙 | 串田新Ｉ式 中期後葉 |
| | 11 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=340 Y=460 | 30g | （外面）沈線文　貝殻腹縁文 （内面）横ナデ | 並 | やや良好 | （内面）10YR5/3にぶい黄褐 （外面）10YR7/4にぶい黄橙 | 串田新Ｉ式 中期後葉 |
| | 12 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=390 | 24g | （外面）巾広沈線文 （内面）横ナデ | 並 | 普通 | （内面）10YR7/4にぶい黄橙 （外面）10YR7/3にぶい黄橙 | 前田式 後期前葉 |
| | 13 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=395 | 22g | （外面）巾広沈線文 （内面）横ナデ | 並 | 普通 | （内面）7,5YR7/6橙 （外面）10YR6/4にぶい黄橙 | 前田式 後期前葉 |
| | 14 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=385 Y=385 | 10g | （外面）巾広沈線文 （内面）沈線分　横ナデ | やや密 | やや良好 | （内面）7,5YR6/6橙 （外面）10YR6/3にぶい黄橙 | 前田式 後期前葉 |
| | 15 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=385 | 12g | （外面）沈線文 （内面）横ナデ | やや密 | 普通 | （内面）10YR7/4にぶい黄橙 （外面）10YR6/2灰黄褐 | 前田式 後期前葉 |
| | 16 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=390 | 7g | （外面）巾広沈線文 （内面）ナデ | 並 | やや不良 | （内面）7,5YR6/6橙 （外面）7,5YR8/4浅黄橙 | 前田式 後期前葉 |
| | 17 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=395 | 16g | （外面）巾広沈線文 （内面）横ナデ | 並 | やや不良 | （内面）7,5YR7/6橙 （外面）7,5YR6/3にぶい褐 | 前田式 後期前葉 |
| | 18 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=350 Y=455 | 15g | （外面）沈線文 （内面）横ナデ | やや密 | 良好 | （内面）10YR5/1褐灰 （外面）10TR6/3にぶい黄橙 | 前田式 後期前葉 |
| | 19 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=390 | 8g | （外面）沈線文 （内面）横ナデ | 並 | やや良好 | （内面）10YR7/6明黄褐 （外面）7,5YR6/4にぶい橙 | 前田式 後期前葉 |
| | 20 | サブトレ一括 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=380 | 20g | （外面）沈線文 （内面）ナデ | 普 | やや良好 | （内面）10YR5/4にぶい黄褐 （外面）5YR5/4にぶい赤褐 | 前田式 後期前葉 |
| | 21 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=370 Y=390 | 17g | （外面）沈線文 （内面）横ナデ | やや密 | 良好 | （内面）10YR6/3にぶい黄橙 （外面）10YR6/2灰黄褐 | 前田式 後期前葉 |
| | 22 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=390 | 14g | （外面）巾広沈線文 （内面）ナデ | 並 | 普通 | （内面）7,5YR7/4にぶい橙 （外面）5YR6/4にぶい橙 | 前田式 後期前葉 |
| | 23 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=350 Y=430 | 43g | （外面）沈線文 （内面）横ナデ | 並 | 普通 | （内面）7,5YR5/4にぶい褐 （外面）5YR5/4にぶい赤褐 | 前田式 後期前葉 |
| | 24 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=345 Y=455 | 28g | （外面）刺突文　巾広沈線文 （内面）縄文　横ナデ | 並 | やや良好 | （内面）7,5YR5/2灰褐 （外面）10YR5/2灰黄褐 | 前田式 後期前葉 |
| | 25 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=345 Y=455 | 9g | （外面）刺突文 （内面）ナデ | 並 | 普通 | （内面）7,5YR5/4にぶい褐 （外面）7,5YR6/4にぶい橙 | 前田式 後期前葉 |

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土層位 | 種類 器種 | 地点 | 口径 底径 器高 重量 (推定残存)(cm)(g) | 調整・施文 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図89 | 26 | サブトレ一括 | 縄文土器 深鉢 | X=390 Y=380 | 9g | (外面) 沈線文　巾広沈線文<br>(内面) 横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 10YR6/4にぶい黄橙<br>(外面) 10YR6/2灰黄褐 | 前田式<br>後期前葉 |
| | 27 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=395 | 9g | (外面) 巾広沈線文<br>(内面) 横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 5YR5/4にぶい赤褐<br>(外面) 5YR5/4にぶい赤褐 | 前田式<br>後期前葉 |
| | 28 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=395 | 27g | (外面) 巾広沈線文<br>(内面) 横ナデ | やや粗 | 普通 | (内面) 10YR7/4にぶい黄橙<br>(外面) 10YR7/4にぶい黄橙 | 前田式<br>後期前葉 |
| | 29 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=345 Y=455 | 28g | (外面) 巾広沈線文　縄文<br>(内面) 横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 5YR5/3にぶい赤褐<br>(外面) 5YR5/2灰褐 | 前田式<br>後期前葉 |
| | 30 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=365 Y=395 | 21g | (外面) 巾広沈線　縄文<br>(内面) (不明) | やや粗 | やや不良 | (内面) 10YR6/4にぶい黄橙<br>(外面) 5YR6/6橙 | 前田式<br>後期前葉 |
| | 31 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=390 | 20g | (外面) 巾広沈線文　縄文<br>(内面) 横ナデ | 並 | やや良好 | (内面) 10YR8/4浅黄橙<br>(外面) 7,5YR7/4にぶい橙 | 前田式<br>後期前葉 |
| | 32 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=350 Y=460 | 15g | (外面) 巾広沈線文　縄文<br>(内面) (不明) | 並 | やや不良 | (内面) 10YR7/3にぶい黄橙<br>(外面) 7,5YR6/4にぶい橙 | 前田式<br>後期前葉 |
| | 33 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=385 | 19g | (外面) 巾広沈線文　縄文<br>(内面) 横ナデ | やや密 | やや良好 | (内面) 2,5YR5/4にぶい赤褐<br>(外面) 2,5YR5/3にぶい赤褐 | 前田式<br>後期前葉 |
| | 34 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=390 | 27g | (外面) 巾広沈線文　縄文<br>(内面) 横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 7,5YR4/1褐灰<br>(外面) 7,5YR7/3にぶい橙 | 前田式<br>後期前葉 |
| 図90 | 35 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=355 Y=450 | 11g | (外面) 無文<br>(内面) ナデ | 並 | やや不良 | (内面) 7,5YR6/4にぶい橙<br>(外面) 5YR5/6明赤褐 | 岩峅野式<br>後期前葉 |
| | 36 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=345 Y=450 | 11g | (外面) 無文<br>(内面) 横ナデ | やや粗 | やや不良 | (内面) 5YR6/6橙<br>(外面) 5YR5/4にぶい赤褐 | 岩峅野式<br>後期前葉 |
| | 37 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=400 | 12g | (外面) 隆帯(断面三角形)<br>(内面) 刺突文　斜めナデ | やや密 | やや良好 | (内面) 10YR6/4にぶい黄橙<br>(外面) 10YR7/4にぶい黄橙 | 岩峅野式<br>後期前葉 |
| | 38 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=385 Y=370 | 11g | (外面) 隆帯(断面三角形)<br>(内面) (不明) | 並 | やや良好 | (内面) 7,5YR6/3にぶい褐<br>(外面) 5YR6/4にぶい橙 | 岩峅野式<br>後期前葉 |
| | 39 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=385 | 12g | (外面) 隆帯(断面三角形)<br>(内面) 横ナデ | やや密 | やや良好 | (内面) 7,5YR6/4にぶい橙<br>(外面) 7,5YR6/4にぶい橙 | 岩峅野式<br>後期前葉 |
| | 40 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=390 | 12g | (外面) 隆帯(断面三角形)<br>(内面) 斜めナデ | 並 | 普通 | (内面) 7,5YR6/3にぶい褐<br>(外面) 7,5YR6/4にぶい橙 | 岩峅野式<br>後期前葉 |
| | 41 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=385 Y=385 | 10g | (外面) 隆帯(断面三角形)<br>(内面) 斜めナデ | やや密 | やや良好 | (内面) 7,5YR6/2灰褐<br>(外面) 7,5YR6/3にぶい褐 | 岩峅野式<br>後期前葉 |
| | 42 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=360 Y=395 | 24g | (外面) 隆帯(断面三角形)<br>(内面) (不明) | やや粗 | やや不良 | (内面) 5YR6/3にぶい橙<br>(外面) 2,5YR6/6橙 | 岩峅野式<br>後期前葉 |
| | 43 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=355 Y=450 | 15g | (外面) 沈線文<br>(内面) 横ナデ | 並 | やや良好 | (内面) 7,5YR6/3にぶい褐<br>(外面) 5YR6/4にぶい橙 | 気屋(Ⅰ)式<br>後期前葉 |
| | 44 | 覆土 | 縄文土器 深鉢 | SP580 | 12g | (外面) 連続刺突文(沈線状)<br>(内面) 横ナデ | 並 | やや良好 | (内面) 10YR5/3にぶい黄褐<br>(外面) 7,5YR5/4にぶい褐 | 気屋(Ⅰ)式<br>後期前葉 |
| | 45 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | 東側調査区 | 13g | (外面) 連続刺突文(沈線状)<br>(内面) 横ナデ | やや密 | やや良好 | (内面) 7,5YR3/1黒褐<br>(外面) 10YR5/3にぶい黄褐 | 気屋(Ⅰ)式<br>後期前葉 |
| | 46 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=360 Y=450 | 13g | (外面) 波状沈線文<br>(内面) 横ナデ | やや粗 | やや不良 | (内面) 7,5YR6/4にぶい橙<br>(外面) 10YR7/3にぶい黄橙 | 気屋(Ⅰ)式<br>後期前葉 |
| | 47 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=360 Y=470 | 17g | (外面) 三角形連続刺突文<br>(内面) (押し引き)　横ナデ | やや粗 | 普通 | (内面) 10YR7/4にぶい黄橙<br>(外面) 7,5YR7/4にぶい橙 | 気屋(Ⅰ)式<br>後期前葉 |
| | 48 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | 東側調査区 | 10g | (外面) 三角形連続刺突文(押し引き)<br>(内面) 縄文　横ナデ | やや粗 | 普通 | (内面) 7,5YR4/2灰褐<br>(外面) 7,5YR3/2黒褐 | 気屋(Ⅰ)式<br>後期前葉 |
| | 49 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=360 Y=435 | 10g | (外面) 刺突文<br>(内面) 横ナデ | やや粗 | やや不良 | (内面) 5YR5/4にぶい赤褐<br>(外面) 2,5YR5/6明赤褐 | 気屋(Ⅰ)式<br>後期前葉 |
| | 50 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=350 Y=420 | 7g | (外面) 三角形連続刺突文(押し引き)<br>(内面) 横ナデ | 並 | やや不良 | (内面) 2,5YR6/6橙<br>(外面) 5YR6/8橙 | 気屋(Ⅰ)式<br>後期前葉 |
| | 51 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=385 Y=315 | 24g | (外面) 沈線文　縄文(充填)<br>(内面) 横ナデ | やや密 | やや良好 | (内面) 10YR3/1黒褐<br>(外面) 10YR4/2灰黄褐 | 気屋(Ⅱ)式<br>後期前葉 |

| 図版番号 | 遺物番号 | 出土層位 | 種類 器種 | 地点 | 口径 底径 器高 重量 (推定残存) (cm) (g) | 調整・施文 | 胎土 | 焼成 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図90 | 52 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=385 Y=315 | 11g | (外面) 沈線文 縄文(充填)<br>(内面) 横ナデ | やや密 | 普通 | (内面) 10YR4/1褐灰<br>(外面) 10YR6/2灰黄褐 | 気屋(Ⅱ)式 後期前葉 |
| | 53 | 5層上 | 縄文土器 深鉢 | X=340 Y=450 | 22g | (外面) 沈線文<br>(内面) (不明) | やや租 | 不良 | (内面) 10YR7/3にぶい黄橙<br>(外面) 10YR8/4浅黄橙 | 八日市新保式 後期後葉 |
| | 54 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=395 Y=310 | 20g | (外面) 縄文<br>(内面) 横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 10YR5/2灰黄褐<br>(外面) 10YR7/3にぶい黄橙 | |
| | 55 | 5層下 | 縄文土器 深鉢 | 東側 調査区 | 15g | (外面) 縄文<br>(内面) 横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 10YR6/3にぶい黄橙<br>(外面) 10YR7/2にぶい黄橙 | |
| | 56 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=385 Y=410 | 14g | (外面) 縄文<br>(内面) 横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 7,5YR7/4にぶい橙<br>(外面) 10YR7/4にぶい黄橙 | |
| | 57 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=370 | 41g | (外面) 縄文<br>(内面) (不明) | やや租 | 普通 | (内面) 10YR8/4浅黄橙<br>(外面) 10YR7/4にぶい黄橙 | |
| | 58 | 5層上 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=395 | 34d | (外面) 縄文<br>(内面) 横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 10YR7/2にぶい黄橙<br>(外面) 10YR7/2にぶい黄橙 | |
| | 59 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=375 Y=370 | 45g | (外面) 縄文<br>(内面) 縦ナデ | やや密 | やや良好 | (内面) 10YR7/4にぶい黄橙<br>(外面) 10YR8/3浅黄橙 | |
| | 60 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=360 Y=370 | 30g | (外面) 縄文<br>(内面) (不明) | やや租 | やや不良 | (内面) 10YR7/4にぶい黄橙<br>(外面) 10YR6/2灰黄褐 | |
| | 61 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=390 Y=370 | 174g | (外面) 縄文<br>(内面) )横ナデ | 並 | 普通 | (内面) 10YR7/4にぶい黄橙<br>(外面) 10YR6/2灰黄褐 | |
| 図91 | 62 | 覆土 | 縄文土器 深鉢 | SD545 | (15.8) 95g | (外面) 縄文(底部は網代→後ナデ)<br>(内面) ナデ | やや租 | やや不良 | (内面) 10YR4/1褐灰<br>(外面) 5YR6/4にぶい橙 | |
| | 63 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=365 | (13.1) 109g | (外面) 縄文(底部は網代が一部残る)<br>(内面) 横ナデ | 並 | やや良好 | (内面) 10YR7/3にぶい黄橙<br>(外面) 10YR7/4にぶい黄橙 | |
| | 64 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=370 | (11.7) 162g | (外面) 縄文(底部は網代)<br>(内面) 横ナデ | やや租 | 普通 | (内面) 10YR7/3にぶい黄橙<br>(外面) 10YR7/3にぶい黄橙 | |
| | 65 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=355 Y=415 | (6.5) 62g | (外面) 縄文(底部は網代)<br>(内面) ナデ | やや租 | やや不良 | (内面) 7,5YR5/1褐灰<br>(外面) 10YR4/1褐灰 | |
| | 66 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=355 Y=480 | (7.8) 104g | (外面) 縄文<br>(内面) ナデ | 並 | 普通 | (内面) 7,5YR7/6橙<br>(外面) 2,5YR6/6橙 | |
| | 67 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=380 Y=395 | 40g | (外面) 縄文<br>(内面) 横ナデ | 並 | やや良好 | (内面) 10YR7/3にぶい黄褐<br>(外面) 10YR7/3にぶい黄橙 | |
| | 68 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=385 Y=395 | 47g | (外面) 縄文(底部は網代)<br>(内面) ナデ | やや租 | 普通 | (内面) 10YR6/2灰黄褐<br>(外面) 10YR5/2灰黄褐 | |
| | 69 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=365 Y=450 | 42g | (外面) )縄文(底部は網代)<br>(内面) (不明) | 並 | 普通 | (内面) 10YR7/2にぶい黄橙<br>(外面) 10YR6/3にぶい黄橙 | |
| | 70 | 貼床下 | 縄文土器 深鉢 | SI494 | 31g | (外面) (縄文?) (底部は網代)<br>(内面) (内面剥落) | 租 | 不良 | (内面) 5YR6/4にぶい橙<br>(外面) 7,5YR6/4にぶい橙 | |
| | 71 | 5層 | 縄文土器 深鉢 | X=365 Y=375 | 22g | (外面) 無文(底部は網代)<br>(内面) 斜めナデ | やや密 | やや良好 | (内面) 7,5YR6/6橙<br>(外面) 10YR7/4にぶい黄橙 | |
| | 72 | 覆土 | 縄文土器 深鉢 | SI493 | 32g | (外面) 無文(底部は網代)<br>(内面) ナデ | やや租 | やや不良 | (内面) 10YR7/2にぶい黄橙<br>(外面) 7,5YR7/3にぶい橙 | |
| | 73 | 5層 | 縄文土器 浅鉢 | X=380 Y=395 | (7.3) 46g | (外面) 無文(磨き)<br>(内面) 磨き | やや密 | やや租 | (内面) 10YR5/3にぶい黄褐<br>(外面) 10YR4/1褐灰 | |
| | 74 | 5層 | 縄文土器 浅鉢 | X=375 Y=395 | (7.7) 65g | (外面) (不明)(底部は網代)<br>(内面) 磨き | やや租 | やや不良 | (内面) 7,5YR6/2灰褐<br>(外面) 7,5YR7/4にぶい橙 | |

表18　遺物観察表（打製石斧・磨製石斧・石錘・砥石）

| 図版番号 | 遺物番号 | 地点 | 層位 | 類型 | 遺存率 | 計測数値（cm） a | b | c | d | 最大厚（cm） | 重量（g） | 石質 | 素材剥片 | 摩耗の有無 | 刃部の対称性 | 線状痕の方向 | 使用痕観察所見備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図93 | 75 | X=385 Y=352 | 5層 | I | 90% | 4.2 | 9.3 | 3.2 | 4.5 | 1.4 | 87 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | |
| | 76 | X=355 Y=392 | 5層 | I | 100% | 3.6 | 10.3 | 3.4 | 3.8 | 1.6 | 83 | 砂岩 | 貝殻状剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 77 | X=382 Y=353 | 5層 | I | 100% | 4.2 | 11.1 | 3.5 | 4.6 | 1.9 | 126 | 安山岩 | 不明 | あり? | 対称 | なし | |
| | 78 | X=365 Y=450 | 5層 | I | 100% | 4.2 | 11.9 | 4.0 | 4.7 | 2.0 | 134 | 安山岩 | （横長剥片） | あり? | 対称 | なし | |
| | 79 | X=348 Y=451 | 5層 | I | 100% | 3.8 | 10.9 | 3.5 | 4.7 | 2.4 | 161 | 安山岩 | （横長剥片） | なし | 右偏 | なし | |
| | 80 | X=360 Y=408 | 5層 | I | 100% | 4.5 | 11.1 | 4.2 | 5.0 | 2.3 | 200 | 砂岩 | （横長剥片） | あり? | 対称 | なし | 側面を含め、石器全体に摩耗が顕著である。 |
| | 81 | X=359 Y=417 | 5層 | I | 100% | 3.7 | 11.5 | 3.1 | 4.5 | 2.5 | 181 | 安山岩 | （横長剥片） | あり | 右偏 | なし | 摩耗程度は非常に弱いし、限定的に広がる。 |
| | 82 | X=356 Y=401 | 5層 | I | 100% | 4.6 | 13.0 | 4.1 | 5.2 | 2.9 | 252 | 砂岩 | （横長剥片） | あり? | 対称 | なし | |
| 図94 | 83 | X=373 Y=399 | 5層 | I | 100% | 2.9 | 11.3 | 3.4 | 4.0 | 1.8 | 87 | 凝灰岩 | 不明 | あり? | 左偏 | なし | |
| | 84 | X=360 Y=408 | 5層 | I | 100% | 4.3 | 10.7 | 4.2 | 4.1 | 2.2 | 139 | 凝灰岩 | （横長剥片） | あり? | 左偏 | なし | |
| | 85 | X=392 Y=351 | 5層 | I | 100% | 5.1 | 11.2 | 5.0 | 5.4 | 1.9 | 188 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 86 | X=345 Y=450 | 5層 | I | 100% | 3.8 | 12.2 | 3.2 | 4.2 | 2.7 | 172 | 砂岩 | 横長剥片 | あり? | 左偏 | なし | |
| | 87 | X=343 Y=461 | 5層 | I | 100% | 4.0 | 12.5 | 4.7 | 5.2 | 2.4 | 184 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 左偏 | なし | |
| | 88 | X=385 Y=338 | 5層 | I | 100% | 4.8 | 11.9 | 4.2 | 5.5 | 2.2 | 187 | 砂岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 89 | X=392 Y=350 | 5層 | I | 100% | 6.0 | 11.1 | 5.4 | 5.3 | 2.0 | 190 | 砂岩 | 不明 | あり? | 対称 | なし | 正面右側が軽微に摩耗している。裏面側は剥離が顕著である。 |
| | 90 | X=373 Y=387 | 5層 | I | 100% | 4.0 | 11.9 | 4.9 | 4.8 | 2.1 | 122 | 砂岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| 図95 | 91 | X=409 Y=306 | 5層 | I | 100% | 4.1 | 10.1 | 3.6 | 4.5 | 1.8 | 128 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 92 | X=374 Y=387 | 5層 | I | 100% | 4.7 | 13.6 | 4.8 | 4.8 | 2.3 | 227 | 砂岩 | 横長剥片 | なし | 右偏 | なし | |
| | 93 | X=376 Y=357 | 5層 | I | 100% | 3.9 | 11.4 | 3.8 | 4.4 | 2.3 | 164 | 安山岩 | （横長剥片） | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 94 | X=335 Y=463 | 5層 | I | 50～60% | (4.0) | 17.9 | (3.7) | (4.8) | 2.9 | 269 | 砂岩 | 貝殻状剥片 | なし | 左欠 | なし | 半分に欠損している。 |
| | 95 | X=347 Y=443 | 5層 | I | 100% | 3.5 | 9.6 | 2.8 | 4.1 | 1.9 | 85 | 安山岩 | 不明 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 96 | X=360 Y=380 | 5層 | I | 100% | 3.5 | 12.3 | 2.9 | 3.9 | 2.3 | 150 | 溶結凝灰岩 | 縦長剥片 | あり? | 左偏 | なし | |
| | 97 | X=362 Y=441 | 5層 | I | 100% | 7.0 | 19.2 | 6.5 | 7.6 | 3.0 | 573 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 右偏 | なし | 刃部に微小剥離痕はほとんどなく、素材本来の鋭い縁辺を残している。 |
| 図96 | 98 | X=351 Y=420 | 5層 | I | 100% | 4.4 | 12.7 | 3.8 | 5.1 | 2.0 | 171 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | |
| | 99 | X=355 Y=445 | 5層 | I | 70～80% | － | 13.0 | 4.3 | 5.1 | 2.0 | 183 | 安山岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 100 | X=376 Y=406 | 5層 | I | 90% | 5.8 | 14.7 | 6.1 | 5.6 | 2.6 | 294 | 安山岩 | 横長剥片 | あり | 対称 | なし | |
| | 101 | X=375 Y=394 | 5層 | I | 100% | 4.4 | 16.0 | 4.1 | 5.8 | 3.1 | 373 | 砂岩 | （横長剥片） | あり? | 対称 | なし | 側面を含め、石器全体に摩耗が顕著である。 |
| | 102 | X=349 Y=315 | 5層 | I | 100% | 4.4 | 16.7 | 4.0 | 5.3 | 3.8 | 415 | 凝灰岩(溶結?) | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | 刃部正面には、微小剥離痕はない。 |

| 図版番号 | 遺物番号 | 地点 | 層位 | 類型 | 遺存率 | 計測数値(cm) a | b | c | d | 最大厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 素材剥片 | 摩耗の有無 | 刃部の対称性 | 線状痕の方向 | 使用痕観察所見備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図96 | 103 | X=374 Y=343 | 5層 | Ⅰ | 100% | 5.8 | 16.8 | 5.8 | 6.1 | 2.5 | 370 | 安山岩 | 不明 | あり? | 左偏 | なし | |
| 図97 | 104 | X=372 Y=374 | 5層 | Ⅰ | 90% | 3.6 | 11.9 | 3.6 | 4.4 | 2.6 | 183 | 安山岩 | 不明 | なし | 対称 | なし | 正面は剥離が激しい。 |
| | 105 | X=381 Y=395 | 5層 | Ⅰ | 100% | 5.0 | 12.6 | 3.7 | 5.3 | 3.0 | 238 | 安山岩 | (横長剥片) | あり? | 左偏 | なし | 側面を含め、石器全体に摩耗が顕著である。 |
| | 106 | X=368 Y=383 | 5層 | Ⅰ | 70～80% | 5.4 | 11.7 | － | 5.5 | 3.2 | 285 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 右偏 | なし | 側面を含め、石器全体に摩耗が顕著である。 |
| | 107 | X=365 Y=364 | 5層 | Ⅱa | 70～80% | 5.3 | 14.5 | － | 6.3 | 4.3 | 607 | 安山岩 | 不明 | あり? | 左偏 | なし | |
| | 108 | X=336 Y=460 | 5層 | Ⅱa | 80～90% | 5.3 | 11.8 | 4.9 | 4.8 | 1.9 | 203 | ひん岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | |
| | 109 | X=390 Y=355 | 5層 | Ⅱa | 100% | 7.3 | 16.7 | 5.3 | 5.9 | 4.7 | | 凝灰岩 | 不明 | あり? | 右偏 | なし | 正面側に主要な使用痕、裏面側に大きな剥離面がみられるのみである。 |
| 図98 | 110 | X=374 Y=311 | 5層 | Ⅱa | 80～100% | 7.2 | 11.6 | － | 5.7 | 2.3 | 250 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | |
| | 111 | X=344 Y=461 | 5層 | Ⅱa | 70～90% | 7.5 | 12.4 | － | 5.5 | 2.1 | 248 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | 刃部には微小剥離痕は殆どなく、素材本来の鋭い縁辺を残している。 |
| | 112 | X=378 Y=368 | 5層 | Ⅱa | 70～80% | 7.0 | 11.5 | － | 4.8 | 1.5 | 121 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | 微小剥離痕が著しく、刃部の形態が大きく変形している。 |
| | 113 | X=337 Y=453 | 5層 | Ⅱa | 60～70% | 9.2 | 13.0 | － | 6.1 | 3.0 | 492 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | 側面を含め、石器全体に摩耗が顕著である。 |
| | 114 | X=375 Y=405 | 5層 | Ⅱa | 90% | 7.5 | 16.1 | 5.0 | 5.2 | 2.5 | 324 | 安山岩 | 横長剥片 | あり | 対称 | なし | 石器全体が摩耗している。 |
| | 115 | X=371 Y=346 | 5層 | Ⅱa | 60～70% | 8.0 | 16.5 | － | － | 2.9 | 347 | 安山岩 | 横長剥片 | あり | 対称 | なし | |
| 図99 | 116 | X=337 Y=466 | 5層 | Ⅱa | 80～90% | 5.4 | 10.1 | 4.0 | 4.4 | 1.6 | 100 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 左偏 | なし | |
| | 117 | X=379 Y=367 | 5層 | Ⅱa | 90% | 5.0 | 10.9 | 4.4 | 5.3 | 1.7 | 112 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 左欠 | 不明 | 刃部左側が大きく欠損している。 |
| | 118 | X=339 Y=463 | 5層 | Ⅱa | 50～60% | － | 12.9 | 5.2 | 5.6 | 2.8 | 333 | 安山岩 | (横長剥片) | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 119 | X=359 Y=450 | 5層 | Ⅱa | 100% | 7.7 | 17.0 | 5.2 | － | 3.0 | 480 | 安山岩 | (縦長剥片) | あり? | 右偏 | なし | |
| | 120 | X=364 Y=425 | 5層 | Ⅱb | 100% | 6.7 | 14.1 | 4.7 | 5.3 | 2.6 | 330 | 凝灰岩？ | (横長剥片) | あり? | 左偏 | 直交 | |
| | 121 | X=361 Y=447 | 5層 | Ⅱa | 100% | 8.2 | 1.7 | 5.9 | 6.1 | 4.1 | 672 | 安山岩 | (横長剥片) | あり? | 左偏 | なし | 側面を含め、石器全体に摩耗が顕著である。 |
| 図100 | 122 | X=346 Y=476 | 5層 | Ⅱb | 100% | 7.1 | 13.1 | 5.4 | 5.6 | 2.1 | 261 | 凝灰岩？ | (横長剥片) | 表面風化 | 右偏 | なし | |
| | 123 | X=367 Y=401 | 5層 | Ⅱb | 90% | 6.4 | 11.9 | 5.2 | 5.2 | 3.1 | 317 | 凝灰岩 | 横長剥片 | あり? | 左偏 | なし | |
| | 124 | X=373 Y=386 | 5層 | Ⅱb | 100% | 4.8 | 13.0 | 3.4 | 4.1 | 2.6 | 187 | 溶結凝灰岩 | (横長剥片) | 表面風化 | 左偏 | なし | |
| | 125 | X=354 Y=394 | 5層 | Ⅱb | 100% | 6.4 | 14.6 | 5.7 | 5.6 | 3.4 | 394 | 安山岩 | 貝殻状剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 126 | X=365 Y=451 | 5層 | Ⅱb | 100% | 6.7 | 16.0 | 6.1 | 5.0 | 2.7 | 330 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 127 | X=360 Y=440 | 5層 | Ⅱb | 100% | 8.9 | 20.5 | 6.3 | 6.4 | 3.6 | 861 | 安山岩 | 横長剥片 | あり | 左偏 | 直交 | 刃部摩耗が顕著である。 |
| 図101 | 128 | X=347 Y=430 | 5層 | Ⅱb | 100% | 5.0 | 12.3 | 4.2 | 4.5 | 2.4 | 223 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 129 | X=385 Y=338 | 5層 | Ⅱb | 100% | 7.9 | 12.9 | 6.4 | 6.0 | 2.5 | 363 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | 正面に大きな剥離面がみられ、刃部はかなり変形した可能性がある。 |
| | 130 | X=373 Y=387 | 5層 | Ⅱb | 70～80% | (5.7) | 11.9 | － | 4.2 | 2.0 | 176 | 凝灰岩 | 横長剥片 | なし | 右欠 | 不明 | 刃部が大きく欠損している。 |

| 図版番号 | 遺物番号 | 地点 | 層位 | 類型 | 遺存率 | 計測数値(cm) a | b | c | d | 最大厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 素材剥片 | 摩耗の有無 | 刃部の対称性 | 線状痕の方向 | 使用痕観察所見備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図101 | 131 | Y=378 Y=375 | 5層 | Ⅱb | 80～90% | 6.9 | 14.8 | － | 5.5 | 2.5 | 346 | 安山岩 | 不明 | なし | 対称 | なし | 刃部には微小剥離痕は殆どなく、素材本来の鋭い縁辺を残している。 |
| | 132 | X=338 Y=458 | 5層 | Ⅱb | 80～90% | 5.9 | 11.4 | 4.8 | 4.9 | 1.7 | 129 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 右偏 | なし | |
| | 133 | X=378 Y=394 | 5層 | Ⅱb | 100% | 4.6 | 12.1 | 4.2 | 4.1 | 2.3 | 205 | 安山岩 | 不明 | あり | 対称 | なし | |
| | 134 | X=374 Y=398 | 5層 | Ⅱb | 100% | 9.1 | 23.4 | 8.2 | 7.8 | 3.4 | 1013 | 砂岩 | 貝殻状剥片 | なし | 対称 | なし | 裏面に微小剥離痕はない。 |
| 図102 | 135 | X=363 Y=424 | 5層 | Ⅱb | 100% | 6.1 | 15.0 | 5.7 | 6.0 | 2.0 | 264 | 凝灰岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | |
| | 136 | X=336 Y=466 | 5層 | Ⅱb | 100% | 8.0 | 19.4 | 6.7 | 6.3 | 3.2 | 669 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 137 | X=355 Y=445 | 5層 | Ⅱb | 90% | 6.6 | 15.0 | 5.7 | 5.0 | 3.1 | 313 | 凝灰岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | 石器全体が摩耗している。 |
| | 138 | X=360 Y=445 | 5層 | Ⅱb | 100% | 9.7 | 19.8 | 7.3 | 7.1 | 3.0 | 718 | 安山岩 | (横長剥片) | あり | 対称 | なし | |
| | 139 | X=371 Y=364 | 5層 | Ⅱb | 90% | (5.1) | 11.7 | 4.9 | 4.7 | 1.6 | 113 | 安山岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 140 | X=343 Y=472 | 5層 | Ⅱb | 100% | 11.3 | 14.4 | (2.0) | 6.1 | 2.3 | 376 | 凝灰岩 | 縦長剥片 | あり | 対称 | なし | 摩耗は裏面右側に偏る。 |
| 図103 | 141 | X=357 Y=367 | 5層 | Ⅱa | 90% | 4.8 | 10.1 | 4.0 | 4.1 | 2.1 | 113 | 凝灰岩 | (横長剥片) | あり? | 対称 | なし | 正面左側が剥離で大きく欠け、正面右側に摩耗がみられる。 |
| | 142 | X=333 Y=476 | 5層 | Ⅱb | 80～100% | 7.5 | 13.4 | － | 6.0 | 2.5 | 345 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 右偏 | なし | |
| | 143 | X=359 Y=449 | 5層 | Ⅱb | 100% | 6.0 | 11.8 | 5.4 | 4.6 | 1.7 | 129 | 安山岩 | 貝殻状剥片 | なし | 対称 | なし | 刃部には微小剥離痕は殆どなく、素材本来の鋭い縁辺を残している。 |
| | 144 | X=373 Y=312 | 5層 | Ⅱa | 100% | 8.1 | 16.6 | 6.0 | 6.2 | 1.9 | 273 | 砂岩 | 貝殻状剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 145 | X=380 Y=368 | 5層 | Ⅱb | 90% | 5.4 | 13.3 | (3.3) | 4.8 | 2.8 | 212 | 凝灰岩 | (横長剥片) | あり? | 対称 | なし | |
| | 146 | X=372 Y=371 | 5層 | Ⅱb | 100% | 9.5 | 17.9 | 6.0 | 7.9 | 2.8 | 679 | 安山岩 | 貝殻状剥片 | あり | 対称 | なし | |
| 図104 | 147 | X=372 Y=390 | 5層 | (Ⅰ) | 30～40% | － | (6.4) | 4.1 | 4.7 | 2.0 | 72 | 砂岩 | 不明 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 148 | X=370 Y=386 | 5層 | Ⅱ | 20～30% | － | (8.3) | (6.0) | 6.4 | 1.5 | 99 | 安山岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 149 | X=391 Y=347 | 5層 | Ⅱ | 20～30% | － | (7.5) | 7.8 | 6.8 | 2.2 | 142 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | 刃部に微小剥離痕は殆どなく、素材本来の鋭い縁辺を残す。刃部左側を欠く。 |
| | 150 | X=383 Y=384 | 5層 | Ⅱb | 30～40% | － | (8.5) | 8.1 | 6.2 | 2.7 | 229 | 安山岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 151 | X=371 Y=314 | 5層 | Ⅱb | 40～60% | － | (12.1) | 6.0 | 5.9 | 2.4 | 266 | 安山岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 152 | X=373 Y=408 | 5層 | Ⅱb | 60～70% | － | (12.9) | 7.7 | 6.3 | 1.8 | 256 | 安山岩 | (横長剥片) | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 153 | X=348 Y=423 | 5層 | (Ⅰ) | 20～30% | － | (7.1) | 4.9 | 5.3 | 1.8 | 84 | ひん岩 | － | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 154 | X=369 Y=407 | 5層 | 不明 | 10～20% | － | (4.3) | 5.4 | 5.7 | 1.3 | 37 | 砂岩 | 不明 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 155 | X=370 Y=389 | 5層 | Ⅱb | 40～50% | － | (14.3) | 8.2 | 7.9 | 4.0 | 691 | 安山岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| 図105 | 156 | X=366 Y=363 | 5層 | Ⅱ | 50～60% | － | (8.9) | 5.8 | 5.2 | 2.2 | 165 | 凝灰岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 157 | X=335 Y=405 | 5層 | Ⅰ | 70～80% | － | (11.6) | 4.5 | 5.6 | 2.5 | 182 | 凝灰岩 | 両面剥離 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 158 | X=374 Y=312 | 5層 | Ⅱa | 40～50% | － | (11.7) | 6.3 | 7.4 | 2.3 | 249 | 砂岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |

| 図版番号 | 遺物番号 | 地点 | 層位 | 類型 | 遺存率 | 計測数値(cm) a | b | c | d | 最大厚(cm) | 重量(g) | 石質 | 素材剥片 | 摩耗の有無 | 刃部の対称性 | 線状痕の方向 | 使用痕観察所見備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図105 | 159 | X=372 Y=344 | 5層 | Ⅱb | 70～80% | － | (11.1) | 5.9 | 5.1 | 2.5 | 219 | 安山岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 160 | X=348 Y=450 | 5層 | Ⅰ | 50～60% | － | (8.3) | － | 4.4 | 1.7 | 95 | 安山岩 | (横長剥片) | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 161 | X=355 Y=445 | 5層 | Ⅱ | 30～40% | － | (7.6) | － | 6.1 | 2.6 | 180 | ひん岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 162 | X=373 Y=403 | 5層 | Ⅱb | 30～40% | － | (8.8) | － | 4.9 | 2.0 | 156 | 砂岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| | 163 | X=356 Y=468 | 5層 | Ⅱb | 40～60% | － | (8.3) | － | 4.8 | 2.6 | 161 | 凝灰岩 | 横長剥片 | 刃部欠 | 不明 | 不明 | |
| 図106 | 164 | X=385 Y=338 | 5層 | Ⅱ | 50～60% | 6.9 | (9.8) | － | － | 2.7 | 229 | 安山岩 | 不明 | なし | 左偏 | 不明 | 正面に大きな剥離面がみられ、刃部はかなり変形した可能性がある。 |
| | 165 | X=376 Y=403 | 5層 | (Ⅱ?) | 30～40% | 7.2 | (7.6) | － | － | 2.8 | 193 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | |
| | 166 | X=373 Y=392 | 5層 | (Ⅰ) | 20～40% | 5.3 | (7.0) | － | 6.5 | 3.0 | 171 | 砂岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 167 | X=361 Y=403 | 5層 | 不明 | 30～40% | 8.0 | (8.8) | － | 8.1 | 3.3 | 239 | 玄武岩？ | 横長剥片 | あり? | 左偏 | なし | |
| | 168 | X=361 Y=405 | 5層 | Ⅱa | 40～50% | 7.1 | (9.0) | － | － | 1.9 | 160 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 対称 | なし | |
| | 169 | X=340 Y=461 | 5層 | 不明 | 40～60% | 7.8 | (12.1) | － | 8.3 | 3.0 | 360 | 花崗岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | |
| | 170 | X=366 Y=362 | 5層 | (Ⅰ) | 20～30% | 4.5 | (4.4) | － | － | 1.9 | 51 | 安山岩 | 不明 | なし | 対称 | なし | |
| | 171 | X=382 Y=360 | 5層 | Ⅰ | 60～70% | 4.1 | (8.3) | 4.5 | 4.7 | 1.2 | 70 | 安山岩 | 横長剥片 | あり | 左偏 | 直交 | |
| | 172 | X=388 Y=351 | 5層 | Ⅱ | 50～60% | 9.6 | (13.5) | － | 10.2 | 3.6 | 602 | 安山岩 | 横長剥片 | あり | 対称 | なし | |
| 図107 | 173 | X=373 Y=359 | 5層 | Ⅱb | 50～60% | 6.1 | (8.6) | － | 5.4 | 1.3 | 96 | 安山岩 | 横長剥片 | あり? | 右偏 | なし | |
| | 174 | X=340 Y=466 | 5層 | Ⅰ | 70～90% | 3.7 | 8.4 | － | 4.6 | 0.9 | 42 | 玄武岩 | 横長剥片 | なし | 右偏 | なし | 刃部には微小剥離痕は殆どなく、素材本来の鋭い縁辺を残している。 |
| | 175 | X=362 Y=442 | 5層 | Ⅰ | 50～60% | 2.6 | (5.4) | － | 2.9 | 1.6 | 34 | 溶結凝灰岩 | 横長剥片 | 表面風化 | 対称 | なし | |
| | 176 | X=363 Y=439 | 5層 | (Ⅰ) | 30～40% | 4.9 | (6.2) | － | 5.9 | 2.3 | 106 | 安山岩 | 横長剥片 | なし | 対称 | なし | |
| | 177 | X=362 Y=434 | 5層 | (Ⅰ) | 30～40% | 4.0 | (5.8) | － | 4.8 | 2.3 | 59 | 安山岩 | (横長剥片) | あり? | 対称 | なし | |
| | 178 | SD552 | フク土 | 磨製石斧 | 5% | (2.4) | (3.0) | － | － | (0.6) | 4 | 蛇紋岩 | － | 不明 | 不明 | 不明 | |
| | 179 | X=365 Y=406 | 5層 | 磨製石斧 | 20～30% | － | (5.0) | 2.3 | 4.9 | 2.0 | 73 | 流紋岩 | － | 不明 | 不明 | 不明 | |
| | 180 | X=348 Y=440 | 5層 | 磨製石斧 | 40～50% | － | (8.3) | 4.5 | 6.0 | 2.8 | 238 | 流紋岩 | － | 不明 | 不明 | 不明 | 両凹刃 |
| | 181 | SI494 | フク土 | 磨製石斧 | 30～40% | 5.4 | (6.0) | － | 5.4 | 2.1 | 116 | 蛇紋岩 | － | 不明 | 不明 | 不明 | |
| | 182 | SI492 | 床上 | 礫石錘 | 70～80% | － | (4.2) | － | 4.0 | 1.3 | 22 | 凝灰岩 | － | － | － | － | |
| | 183 | X=380 Y=370 | 5層 | 礫石錘 | 70～80% | － | (5.6) | － | 4.0 | 1.5 | 40 | 安山岩 | － | － | － | － | 扁平円礫 |
| | 184 | X=357 Y=398 | 5層 | 礫石錘 | 100% | － | 12.0 | － | 11.3 | 3.0 | 562 | 砂岩 | － | － | － | － | 扁平円礫 |
| | 185 | X=390 Y=365 | 5層 | 砥石 | 100% | － | 10.5 | － | 5.7 | 3.5 | 186 | チャート | － | － | － | － | 5面使用 |

表19　遺物観察表（土師器・須恵器・珠洲・弥生・中世土師器・近世陶器）

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図27 | 1 | SD72 | 須恵器<br>杯身 | 10.3<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5PB6/1<br>内:7.5Y6/1 | 密 | 石英含む。 |
| | 2 | SD72 | 須恵器<br>杯身 | 12.4<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5B5/1<br>内:7.5Y6/1 | 密 | 石英含む。 |
| | 3 | SD72 | 須恵器<br>有台杯 | —<br>— | 7.7<br>(4/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/1<br>内:7.5Y7/1 | 密 | 貼付高台。石英含む。 |
| | 4 | SD146 | 須恵器<br>杯蓋 | (15.4)<br>(1/12以下) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 口縁外面に黒化。内面降灰。石英含む。 |
| | 6 | SD147 | 須恵器<br>有台杯 | 11.6<br>(6/12) | 7.4<br>(12/12) | 4.3 | 37.1 | 外 回転撫で:底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:5B5/1<br>内:5PB6/1 | 密 | 貼付高台。使用による磨耗。石英、雲母含む。 |
| | 7 | SD147 | 珠洲<br>甕 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 平行叩き目<br>内 当て具痕・撫で | 普通 | 外:5PB5/1<br>内:5B6/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 8 | SD149 | 須恵器<br>杯蓋 | 13.4<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5Y5/2<br>内:5Y7/1 | 密 | 外面自然釉かかる。石英、雲母含む。 |
| | 9 | SD149 | 須恵器<br>壺 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・下半部撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5Y5/1<br>内:5Y5/1 | やや粗 | 内面下半降灰、自然釉かかる。外面降灰。外面底部付近指頭圧痕。石英、海綿骨針含む。 |
| | 10 | SD149 | 珠洲<br>擂鉢 | —<br>— | 12.0<br>(4/12) | — | | 外 回転撫で・撫で<br>内 回転撫で・卸し目 | 良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 外面に指頭圧痕。卸し目は1単位13条。石英、海綿骨針含む。 |
| | 11 | SD155 | 近世陶器<br>碗 | —<br>— | 4.7<br>(7/12) | — | | 外 ロクロ撫で・回転篦削り<br>内 ロクロ撫で・撫で | 普通 | 外:2.5YR6/4<br>内:5YR7/4 | 普通 | 削り出し高台。回転削り方向右。底部内面は使用により磨耗。鉄釉漬け掛け。 |
| 図34 | 1 | SB01<br>(SP296) | 須恵器<br>杯蓋 | 12.4<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10Y5/1<br>内:10Y6/1 | 密 | 回転削り方向右。石英、雲母、海綿骨針含む。 |
| | 2 | SB01<br>(SK443) | 須恵器<br>無台杯 | 11.6<br>(6/12) | 8.8<br>(6/12) | 3.7 | 31.9 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5YR8/6<br>内:7.5YR8/6 | 普通 | 口縁外面黒化。使用により磨耗。長石、石英、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 3 | SB01<br>(SK443) | 須恵器<br>無台杯 | 11.3<br>(12/12) | 7.6<br>(12/12) | 3.3 | 29.2 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5YR7/6<br>内:5YR7/6 | 普通 | 口縁外面黒化。使用により磨耗。長石、石英、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 4 | SB01<br>(SP444) | 須恵器<br>有台杯 | 12.1<br>(5/12) | 8.8<br>(7/12) | 4.1 | 33.9 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | やや不良 | 外:2.5Y6/1～10YR7/3<br>内:10YR7/3 | やや密 | 貼付高台。使用により摩滅。石英、海綿骨針含む。 |
| | 5 | SB01<br>(SP444) | 須恵器<br>有台杯 | 15.0<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:10YR6/1<br>内:10YR7/2 | 普通 | 石英、雲母含む。 |
| | 6 | SB01<br>(SP297) | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・肩部に沈線<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5Y5/1<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | 外面全体に自然釉かかる(厚い)。石英含む。 |
| | 7 | SB01<br>(SP483) | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | 7.8<br>(3/12) | — | | 外 回転撫で・体部ハケ状痕・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5GY4/1<br>内:10YR6/1 | 普通 | 内外に降灰、外面に自然釉かかる。長石、石英、雲母含む。 |
| | 8 | SB01<br>(SP300) | 須恵器<br>甕 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 叩き目<br>内 同心円文当て具痕 | 良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | 内面一部に降灰。石英、海綿骨針含む。 |
| | 9 | SB01<br>(SP285・483) | 須恵器<br>甕 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 叩き目・カキ目<br>内 同心円文当て具痕 | 不良 | 外:2.5YR5/3<br>内:2.5Y4/1 | 普通 | 石英、雲母、海綿骨針含む。 |
| 図36 | 1 | SB02<br>(SK229) | 弥生土器<br>高杯 | 25.3<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 横撫で・ハケ後ミガキ<br>内 ハケ後ミガキ | やや良 | 外:7.5YR8/6～5YR6/6<br>内:7.5YR8/6 | 普通 | 石英、赤酸斑粒含む。 |
| | 2 | SB02<br>(SP228) | 土師器<br>甕 | 13.0<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR6/4<br>内:7.5YR7/6 | やや密 | 内外面に炭化物付着。石英、海綿骨針含む。 |
| 図40 | 1 | SB04<br>(SP426) | 須恵器<br>有台杯 | 13.6<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5YR5/1<br>内:2.5Y5/2 | 普通 | 石英含む。 |
| 図45 | 1 | SI97 | 須恵器<br>無台杯 | 11.9<br>(4/12) | 8.5<br>(2/12) | 3.2 | 26.9 | 外 回転撫で・底部回転篦きり後撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:2.5Y8/1<br>内:2.5Y8/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 2 | SI97 | 土師器<br>甕 | 8.7<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR6/3<br>内:10YR7/3 | 普通 | 石英含む。 |
| | 4 | SI97 | 土師器<br>甕 | —<br>— | 8.0<br>(6/12) | — | | 外 回転撫で・篦削り<br>内 回転撫で・底面撫で | 良 | 外:5YR7/4<br>内:5YR7/4 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英含む。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図49 | 1 | SI166 | 須恵器<br>杯蓋 | 13.3<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5YR5/1<br>内:2.5YR4/2 | やや密 | 口縁外面に自然釉かかる。内面に降灰・自然釉かかる。 |
| | 2 | SI166 | 須恵器<br>瓶 | 10.7<br>(4/12) | —<br>— | (23.2) | | 外 回転撫で・格子叩き目・平行叩き目<br>内 回転撫で・同心円文当て具痕 | 良 | 外:7.5Y6 /1<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 推定復元。石英、海綿骨針含む。 |
| | 3 | SI166 | 土師器<br>鍋 | 33.6<br>(7/12) | —<br>— | 17.8 | 53.0 | 外 回転撫で・カキ目・ハケ目・篦削り<br>内 回転撫で・カキ目・ハケ目 | 普通 | 外:10YR7/2～10YR6/2<br>内:10YR6/3～10YR7/3 | 普通 | 内外面一部に炭化物付着。赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 4 | SI166 | 土師器<br>甕 | 21.6<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目・平行叩き目・篦削り<br>内 回転撫で・カキ目？ハケ後撫で | 普通 | 外:7.5YR7/6・7.5YR3/1<br>内:7.5YR7/6 | やや粗 | 外面下半に炭化物付着。石英、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 5 | SI166 | 土師器<br>甕 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 カキ目・平行叩き目・篦削り<br>内 ハケ目・撫で | 良 | 外:10YR6/3<br>内:10YR7/3 | やや粗 | 外面ほぼ全体に炭化物付着。赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| 図50 | 1 | SI167 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.5<br>(1/12) | —<br>— | 3.1 | 24.8 | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.4cm。外面全体に降灰・自然釉かかる。口縁内面黒化。石英含む。 |
| | 3 | SI167 | 須恵器<br>有台杯 | 10.1<br>(1/12) | 7.1<br>(4/12) | 4.3 | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5GY6/1<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | 貼付高台。石英含む。 |
| 図52 | 1 | SI395 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.6<br>(3/12) | —<br>— | 3.2 | 25.4 | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:5Y8/1<br>内:5Y8/1 | 密 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.6cm。石英含む。 |
| 図56 | 1 | SI491 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.8<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y5/1<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | つまみ貼付(欠損)。外面全体に降灰。口縁内面黒化。石英含む。 |
| | 2 | SI491 | 須恵器<br>無台杯 | 12.4<br>(2/12) | 7.6<br>(12/12) | 2.7 | 21.8 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 口縁外面黒化。内面部分的に降灰。使用により磨耗。 |
| | 3 | SI491 | 須恵器<br>有台杯 | 15.0<br>(9/12) | 8.7<br>(6/12) | 6.5 | 43.3 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | 普通 | 外:5Y6/1<br>内:2.5Y6/2 | 密 | 貼付高台。外面に自然釉かかる。焼きぶくれ有り。長石、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 4 | SI491 | 須恵器<br>杯身 | 11.8<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 5 | SI491 | 須恵器<br>杯身 | 11.0<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y5/1<br>内:2.5Y6/2 | やや密 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 6 | SI491 | 土師器<br>甕 | 21.0<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | やや良 | 外:10YR7/4<br>内:10YR7/4 | 普通 | 外面部分的に炭化物付着。石英、雲母、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| 図59 | 1 | SI495 | 土師器<br>鍋 | 40.2<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目・篦削り<br>内 回転撫で・カキ目・ハケ目 | 良 | 外:5YR7/4<br>内:5YR7/4 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英、雲母含む。 |
| | 2 | SI495 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.8<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で・天井部撫で | 不良 | 外:10YR8/2<br>内:10YR8/1 | やや密 | つまみ貼付(つまみ欠損)。回転削り方向左。石英含む。 |
| 図60 | 1 | SI492 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.6<br>(1/12) | —<br>— | 2.3 | 18.3 | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | 不良 | 外:10YR7/3<br>内:10YR7/2 | やや密 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.2cm。石英含む。 |
| | 2 | SI492 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.4<br>(8/12) | —<br>— | 2.5 | 20.2 | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・撫で | やや良 | 外:2.5Y6 /2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | つまみ貼付。つまみ径1.9cm。外面全体に降灰・自然釉かかる。口縁内面に自然釉かかる。 |
| | 3 | SI492 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.6<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y7/1<br>内:7.5Y7/1 | 普通 | つまみ欠損。口縁内面黒化。石英含む。 |
| | 4 | SI492 | 須恵器<br>杯蓋 | 13.5<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:10Y5/1<br>内:7.5Y5/1 | 普通 | 長石含む。 |
| | 5 | SI492 | 須恵器<br>杯蓋 | 17.2<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y7/2<br>内:5Y5/2 | 普通 | 口縁端部から内面に自然釉かかる。口縁外面黒化。石英含む。 |
| | 6 | SI492 | 須恵器<br>無台杯 | 12.4<br>(2/12) | 8.6<br>(2/12) | 3.4 | 27.4 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:2.5Y8/2<br>内:2.5Y8/2 | やや密 | 石英含む。 |
| | 7 | SI492 | 須恵器<br>無台杯 | 11.9<br>(2/12) | 8.6<br>(7/12) | 4.1 | 34.5 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:N5/0<br>内:N5/0 | 普通 | 使用により磨耗。長石、石英含む。 |
| | 8 | SI492 | 須恵器<br>杯身 | 11.6<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5YR5/2<br>内:5YR5/1 | やや密 | 使用により磨耗。石英含む。 |
| | 9 | SI492 | 須恵器<br>有台杯 | 11.2<br>(5/12) | 8.0<br>(8/12) | 4.3 | 38.4 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・底部一部削り | やや不良 | 外:5Y6 /1<br>内:5Y6/2 | やや粗 | 外面に篦記号？有り。貼付高台。赤酸斑粒、海綿骨含む。 |
| | 10 | SI492 | 須恵器<br>有台杯 | 11.7<br>(2/12) | 7.8<br>(3/12) | 4.3 | 36.8 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:5G6/1<br>内:5Y6/1 | やや密 | 外面に篦記号「＋」有り。貼付高台。石英含む。 |
| | 11 | SI492 | 須恵器<br>杯身 | 11.7<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5YR5/4<br>内:2.5Y6/2 | やや密 | 外面に自然釉かかる。使用により磨耗。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類 器種 | 口径(cm) (残存率) | 底径(cm) (残存率) | 器高 (cm) | 高径指数 器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図60 | 12 | SI492 | 須恵器 有台杯 | 11.4 (1/12) | 8.2 (11/12) | 4.4 | 38.6 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | やや不良 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/1 | やや粗 | 貼付高台。焼きぶくれ有り。長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 13 | SI492 | 須恵器 杯身 | 10.8 (2/12) | — — | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:10YR6/1<br>内:10YR6/1 | 普通 | 内面一部降灰。石英含む。 |
| | 14 | SI492 | 須恵器 有台杯 | 11.4 (4/12) | — — | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y5/2<br>内:10Y5/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 15 | SI492 | 須恵器 有台杯 | — — | 10.1 (2/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・撫で | やや不良 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 貼付高台。石英、海綿骨針含む。 |
| | 16 | SI492 | 土師器 甕 | 19.6 (2/12) | — — | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 カキ目・回転撫で | やや良 | 外:5YR6/6～5YR4/1<br>内:5YR6/6～7.5YR6/3 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英、雲母、海綿骨針含む。 |
| | 17 | SI492 | 土師器 甕 | 21.0 (5/12) | — — | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | 良 | 外:10YR8/4<br>内:10YR8/4 | 普通 | 石英含む。 |
| | 18 | SI492 | 土師器 甕 | 22.0 (2/12) | — — | — | | 外 回転撫で・カキ目・叩き目<br>内 回転撫で・カキ目・同心円文当て具痕 | 良 | 外:5YR6/6<br>内:5YR6/4 | やや密 | 内外面に炭化物付着。石英含む。 |
| | 19 | SI492 | 土師器 甕 | 24.8 (1/12) | — — | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | やや良 | 外:7.5YR7/4<br>内:7.5YR7/4 | 普通 | 外面に一部炭化物付着。 石英、雲母、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 20 | SI492 | 土師器 甕 | 24.8 (2/12) | — — | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | 普通 | 外:10YR7/6<br>内:10YR7/6 | 普通 | 石英、微砂粒含む。 |
| | 21 | SI492 | 土師器 甕 | 12.5 (3/12) | — — | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR6/3<br>内:7.5YR7/2 | 普通 | 外面全体、口縁部内面に炭化物付着。石英、赤酸斑粒含む。 |
| | 22 | SI492 | 土師器 甕 | 13.8 (2/12) | — — | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR7/4<br>内:5YR7/4 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英含む。 |
| | 23 | SI492 | 土師器 甕 | — — | — — | — | | 外 回転撫で・篦削り<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5YR6/6<br>内:2.5YR6/6 | 普通 | 内面一部に炭化物付着。長石、石英含む。 |
| | 24 | SI492 | 土師器 椀 | — — | 5.4 (8/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転糸切り?<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5YR7/8・2.5YR4/8<br>内:5YR7/8・2.5YR4/8 | 普通 | 内外面赤彩。長石、石英、雲母含む。 |
| | 25 | SI492 | 土師器 鍋 | 33.3 (1/12) | — — | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | やや不良 | 外:10YR8/3<br>内:7.5YR8/4 | やや粗 | 石英、赤酸斑粒含む。 |
| 図61 | 1 | SI493 | 須恵器 杯蓋 | 12.1 (8/12) | — — | 2.9 | 24.0 | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y7/2<br>内:2.5Y7/1 | やや粗 | 宝珠形つまみ貼付。回転削り方向左。長石、海綿骨針含む。 |
| | 2 | SI493 | 須恵器 杯蓋 | 12.4 (4/12) | — — | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:10Y5/2<br>内:5Y5/2 | 普通 | 外面に降灰・自然釉かかる(厚い)。口縁端部から口縁内面黒化。外面の一部に別固体の高台付着。長石、海綿骨針含む。 |
| | 3 | SI493 | 須恵器 杯蓋 | 12.7 (2/12) | — — | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y7/2<br>内:5Y6/1 | やや粗 | 外面に降灰・自然釉かかる。使用による磨耗。海面骨針含む。 |
| 図64 | 1 | SI494 | 須恵器 杯蓋 | 11.8 (3/12) | — — | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で・天井部撫で | やや良 | 外:5Y7/2<br>内:5Y8/2 | 普通 | 外面天井部に工具痕有り。長石、海綿骨針含む。 |
| | 2 | SI494 | 須恵器 杯蓋 | 12.7 (2/12) | — — | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/1 | 普通 | 口縁から内面に降灰。 回転削り方向右。 |
| | 3 | SI494 | 須恵器 杯蓋 | 13.0 (1/12) | — — | 3.6 | 27.7 | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:7.5Y6 /1<br>内:7.5Y6/1 | 普通 | 宝珠形つまみ貼付。回転削り方 向右。長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 4 | SI494 | 須恵器 無台杯 | 12.1 (10/12) | 8.6 (12/12) | 3.2 | 26.4 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/2 | 普通 | 口縁外面に黒化。雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 5 | SI494 | 須恵器 無台杯 | 11.5 (4/12) | 7.4 (12/12) | 3.2 | 27.8 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:10YR7/4<br>内:10YR7/4 | やや密 | 口縁外面に黒化。使用により磨耗。長石、海綿骨針含む。 |
| | 6 | SI494 | 須恵器 無台杯 | 11.5 (3/12) | 8.4 (3/12) | 3.2 | 27.8 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | やや良 | 外:10YR6/3<br>内:5YR6/4 | 普通 | 口縁外面黒化。使用による磨耗。石英、海綿骨針含む。 |
| | 7 | SI494 | 須恵器 杯身 | - - | 7.2 (2.3/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | 不良 | 外:5YR6/4<br>内:10YR7/4 | やや密 | |
| | 8 | SI494 | 須恵器 無台杯 | 12.1 (2/12) | 8.0 (5/12) | 3.1 | 25.6 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で・底面撫で | 普通 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/2 | やや密 | 口縁外面黒化。海綿骨針含む。 |
| | 9 | SI494 | 須恵器 無台杯 | — — | 8.0 (6/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:5Y7/2<br>内:5Y7/2 | やや粗 | 焼きぶくれ有り。石英、雲母含む。 |
| | 10 | SI494 | 須恵器 杯身 | 11.5 (1/12) | — — | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/1 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図64 | 11 | SI494 | 須恵器<br>杯身 | 11.4<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 使用により摩耗。長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 12 | SI494 | 須恵器<br>杯身 | 11.9<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/2 | やや密 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 13 | SI494 | 須恵器<br>杯身 | 14.9<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5Y5/1<br>内:5Y6/2 | やや密 | |
| | 14 | SI494 | 須恵器<br>有台杯 | 11.3<br>(2/12) | 3.9<br>(5/12) | 3.6 | 31.9 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y5/1<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 貼付高台。外面に自然釉かかる。内面に降灰。長石、雲母含む。 |
| | 15 | SI494 | 須恵器<br>有台杯 | 10.7<br>(6/12) | 7.1<br>(7/12) | 4.0 | 37.4 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・撫で | やや良 | 外:5Y5/2<br>内:5Y6/2 | 普通 | 貼付高台。外面に自然釉かかる。長石、石英、雲母含む。 |
| | 16 | SI494 | 須恵器<br>有台杯 | 11.2<br>(9/12) | 7.2<br>(9/12) | 4.3 | 38.4 | 外 回転撫で・底部回転篦削り<br>内 回転撫で・撫で | 普通 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/2 | 普通 | 貼付高台。外面にわずかに降灰。使用による摩耗。長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 17 | SI494 | 須恵器<br>有台杯 | —<br>— | 8.0<br>(7/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:7.5Y5/2<br>内:7.5Y6/1 | 普通 | 貼付高台。長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 18 | SI494 | 須恵器<br>壺 | —<br>— | 9.4<br>(12/12) | (17.7) | | 外 回転撫で・肩部に沈線2条・体部回転篦削り<br>内 回転撫で・撫で | 良 | 外:N5/0<br>内:2.5Y7/2 | 普通 | 貼付高台。沈線2条。外面に降灰・自然釉かかる。長石、石英含む。 |
| | 19 | SI494 | 土師器<br>甕 | 16.7<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目・篦削り<br>内 回転撫で・ハケ目 | やや良 | 外:7.5YR8/6<br>内:10YR8/4 | 普通 | 内外面一部に炭化物付着。石英、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 20 | SI494 | 土師器<br>甕 | 18.8<br>(5/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・撫で | 良 | 外:7.5YR7/3<br>内:7.5Y7/4 | 密 | 内外面に炭化物付着。石英、雲母含む。 |
| | 21 | SI494 | 土師器<br>甕 | 19.0<br>(4/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | 良 | 外:7.5YR7/4<br>内:7.5YR7/4 | 普通 | 石英含む。 |
| | 22 | SI494 | 土師器<br>甕 | 17.7<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | 良 | 外:7.5YR7/4<br>内:7.5YR7/4 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 23 | SI494 | 土師器<br>甕 | 11.8<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:5YR5/4<br>内:5YR6/6 | やや密 | 内外面に炭化物付着。長石、石英、海綿骨針含む。 |
| 図65 | 1 | SI550 | 土器<br>不明 | 14.5<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・下半部撫で<br>内 回転撫で・下半部撫で | 良 | 外:5YR4/4<br>内:5YR4/6 | やや密 | |
| 図67 | 1 | SI600 | 須恵器<br>杯身 | 12.2<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:2.5Y7/2<br>内:2.5Y7/2 | 密 | 破断面丸く研磨(二次利用か?)。石英含む。 |
| | 2 | SI600 | 須恵器<br>無台杯 | 12.0<br>(5/12) | 7.8<br>(7/12) | 3.2 | 26.7 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/1 | 普通 | 口縁外面黒化。長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 3 | SI600 | 須恵器<br>壺 | 21.5<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 外面全体に自然釉かかる。内面に降灰。長石、石英含む。 |
| | 4 | SI600 | 土師器<br>甕 | 14.4<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で・カキ目? | 普通 | 外:10YR7/6<br>内:10YR7/6 | 普通 | 内外面摩滅。石英、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 5 | SI600 | 土師器<br>甕 | 14.7<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・篦削り<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR6/3<br>内:7.5YR7/4 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英含む。 |
| | 6 | SI600 | 土師器<br>甕 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・格子叩き目<br>内 回転撫で・同心円文当て具痕 | 普通 | 外:7.5YR5/4<br>内:7.5YR6/4 | 普通 | 石英、雲母、海綿骨針含む。海綿骨針含む。 |
| 図70 | 1 | SI650 | 須恵器<br>杯蓋 | 11.4<br>(4/12) | —<br>— | 2.7 | 23.7 | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.7cm。外面、内面天井部に篦記号「×」。口縁端部から内面に自然釉かかる。長石、石英含む。 |
| | 2 | SI650 | 須恵器<br>有台杯 | 14.6<br>(6/12) | 10.2<br>(4/12) | 5.8 | 39.7 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | やや良 | 外:2.5Y6/2<br>内:10YR6/2 | 普通 | 貼付高台。使用による摩耗。長石、石英含む。 |
| | 3 | SI650 | 土師器<br>甕 | 21.0<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目・篦削り<br>内 回転撫で・カキ目・ハケ目 | やや良 | 外:7.5YR7/4～10YR7/4<br>内:7.5YR7/4～10YR7/4 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。 |
| 図72 | 1 | SI1220 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.0<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y5/2<br>内:2.5Y7/2 | やや密 | 外面に降灰・自然釉かかる。外面に別固体の高台付着。口縁内面黒化。つまみ貼付。つまみ径2.5cm。 |
| | 2 | SI1220 | 須恵器<br>有台杯 | 14.8<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5GY6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 高台欠損。石英含む。 |
| | 3 | SI1220 | 土師器<br>甕 | —<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | やや良 | 外:7.5YR6/6<br>内:5YR6/6 | 普通 | 石英、雲母、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 4 | SI1220 | 土師器<br>鍋 | 38.4<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | やや良 | 外:7.5YR6/6<br>内:7.5YR6/4 | やや密 | 石英、雲母含む。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図76 | 1 | SD09 | 須恵器<br>有台杯 | 16.6<br>(2/12) | 12.0<br>(6/12) | 6.0 | 36.1 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | やや良 | 外:10BG6/1<br>内:10BG6/1 | やや密 | 貼付高台。長石、石英含む。 |
| | 2 | SD09 | 須恵器<br>無台杯 | ー<br>ー | 7.6<br>(5/12) | ー | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6 /1<br>内:5Y6/1 | 密 | 使用により磨耗。石英含む。 |
| | 3 | SD09 | 須恵器<br>甕 | ー<br>ー | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で・櫛描き波状文<br>内 回転撫で・沈線 | 良 | 外:10G4/1<br>内:5G6/1 | 密 | 口縁端部に砂付着。石英含む。 |
| | 4 | SD09 | 須恵器<br>壺 | ー<br>ー | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で・底部付近沈線1条<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y5/1<br>内:N6/0 | やや粗 | 内面に降灰。石英含む。 |
| | 5 | SD09 | 滑石鍋<br>鍋 | ー<br>ー | ー<br>ー | ー | | 外 ミガキ<br>内 ミガキ | ー | 外:5P2/1<br>内:5P4/1 | ー | 穿孔2孔1組。孔径約0.75cm。 孔の直上は使用によりすり減り。外面全体に炭化物付着。 |
| | 6 | SD09 | 中世土師器<br>皿 | 8.4<br>(1/12) | 5.0<br>(1/12) | 1.6 | 19.0 | 外 横撫で・指オサエ？<br>内 横撫で | やや良 | 外:10YR7/4<br>内:10YR7/4 | 粗 | NDI類(文献1)。長石、石英、チャート含む。 |
| | 7 | SD09 | 中世土師器<br>皿 | -<br>- | 4.4<br>(7/12) | - | | 外 ロクロ撫で・撫で, 底部回転糸切り<br>内 ロクロ撫で | 良 | 外:10YR8/4<br>内:10YR8/4 | 粗 | RBI類(文献1)。長石、石英、チャート、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 8 | SD09 | 中世土師器<br>皿 | 14.8<br>(2/12) | -<br>- | 2.6 | 17.6 | 外 摩滅により不明<br>内 横撫で | やや不良 | 外:7.5YR7/6<br>内:7.5YR7/6 | 粗 | 長石、石英、チャート、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 9 | SD09 | 近世陶器<br>皿 | 12.1<br>(1/12) | ー<br>ー | ー | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で・撫で | 良 | 外:10YR7/1<br>内:10YR7/1 | 密 | 内外面ともに灰釉施釉。灯明皿か。 |
| | 10 | SD09 | 近世陶器<br>壺 | 17.2<br>(3/12) | ー<br>ー | ー | | 外 ロクロ撫で・口縁端部回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | 良 | 外:10YR7/2<br>内:10YR7/2 | 密 | 内外面に施釉。口縁端部は露胎。 |
| 図80 | 1 | SD316 | 須恵器<br>杯蓋 | 14.5<br>(2/12) | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:2.5Y7/2<br>内:2.5Y8/2 | 密 | 石英含む。 |
| | 2 | SD316 | 須恵器<br>無台杯 | ー<br>ー | 8.0<br>(6/12) | ー | | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 3 | SD317 | 須恵器<br>有台杯 | ー<br>ー | 7.6<br>(5/12) | ー | | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:5Y7/1<br>内:5Y7/1 | 普通 | 貼付高台。使用による磨耗。石英、雲母含む。海綿骨針含む。 |
| | 4 | SD324 | 須恵器<br>杯身 | 11.3<br>(6/12) | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y7/3<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 5 | SD330 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.1<br>(2/12) | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | 密 | 口縁内面と外面全体に降灰。石英含む。 |
| | 6 | SD343 | 須恵器<br>杯蓋 | 11.5<br>(2/12) | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:10Y6/1<br>内:5PB6/1 | 密 | 口縁外面黒化。口縁内面降灰。石英含む。 |
| | 7 | SD343 | 須恵器<br>杯蓋 | 13.8<br>(2/12) | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5GY6/1<br>内:5Y6/1 | 普通 | 回転削り方向右。石英含む。 |
| | 8 | SD346 | 須恵器<br>無台杯 | 13.9<br>(3/12) | 9.4<br>(2/12) | 2.8 | 20.1 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | 口縁外面黒化。内面降灰。石英含む。 |
| | 9 | SD364 | 須恵器<br>杯蓋 | 18.1<br>(1/12) | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/2 | やや密 | 回転削り方向右。石英含む。 |
| | 10 | SD182 | 須恵器<br>杯蓋 | (17.5)<br>(1/12以下) | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y7/2<br>内:2.5Y8/2 | やや密 | 口縁端部から外面黒化。内面降灰。 雲母含む。 |
| | 11 | SD370 | 須恵器<br>無台杯 | ー<br>ー | 8.0<br>(3/12) | ー | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5Y6 /1<br>内:7.5Y6/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 12 | SD398 | 須恵器<br>無台杯 | 11.9<br>(1/12) | 7.5<br>(12/12) | 2.6 | 21.8 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5Y6/1<br>内:7.5Y6/1 | 密 | 口縁外面に黒化。石英含む。 |
| | 13 | SD540 | 須恵器<br>有台杯 | ー<br>ー | 8.8<br>(2/12) | ー | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5B6/1<br>内:5Y6/1 | やや密 | 貼付高台。石英含む。 |
| | 14 | SD318 | 土師器<br>甕 | 20.9<br>(2/12) | ー<br>ー | ー | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | やや良 | 外:7.5YR7/6<br>内:7.5YR7/6 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 15 | SD240 | 須恵器<br>甕 | ー<br>ー | ー<br>ー | ー | | 外 叩き目・カキ目<br>内 同心円文当て具痕 | やや不良 | 外:5YR6/6<br>内:5YR6/6 | やや密 | 石英、海綿骨針含む。 |
| 図81 | 1 | 旧河道 | 須恵器<br>有台杯 | ー<br>ー | 8.8<br>(3/12) | ー | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・撫で | やや不良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | 貼付高台。石英、海綿骨針含む。 |
| | 2 | 旧河道 | 須恵器<br>有台杯 | ー<br>ー | 9.0<br>(5/12) | ー | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/1 | やや密 | 貼付高台。石英、海綿骨針含む。海綿骨針含む。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図81 | 3 | 旧河道 | 須恵器<br>甕 | 20.3<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y4/1<br>内:2.5Y4/1 | 普通 | 内外面降灰。石英、海綿骨針含む。 |
| | 4 | 旧河道 | 珠洲<br>甕 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 平行叩き目<br>内 当て具痕 | 普通 | 外:10Y6/1<br>内:10Y6/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 5 | 旧河道 | 近世陶器<br>碗 | (10.1)<br>(1/12以下) | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で | やや良 | 外7:.5YR3/4<br>内:5YR3/3 | やや密 | 内外面に鉄釉かかる。内面の一部灰釉流し掛け。 |
| | 6 | 旧河道 | 近世陶器<br>壺 | 11.3<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で | 普通 | 外:5Y5/4<br>内:2.5Y7/3 | 普通 | 口縁端部、頸部から体部に灰釉施釉。 |
| | 7 | 旧河道 | 近世陶器<br>碗 | —<br>— | 4.3<br>(7/12) | — | | 外 回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | 普通 | 外:2.5Y7/2<br>内:7.5YR4/3 | やや粗 | 越中瀬戸。削り出し高台。内面に鉄釉施釉。 |
| | 8 | 旧河道 | 近世陶器<br>碗 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で | 不良 | 外:10Y8/1<br>内:7.5Y8/1 | やや粗 | 染付。長石含む。 |
| | 9 | 旧河道 | 近世陶器<br>碗 | (12.3)<br>(1/12以下) | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で | やや不良 | 外:5Y8/3<br>内:5Y8/3 | やや粗 | 染付。 |
| | 10 | 旧河道 | 近世陶器<br>皿 | 12.9<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で・回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | やや不良 | 外:5Y8/2<br>内:5Y8/2 | やや粗 | 染付。 |
| | 11 | 旧河道 | 近世陶器<br>蓋物 | —<br>— | (2.8)<br>(1/12) | — | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で | 良 | 外:5GY7/1<br>内:7.5YR7/3 | 密 | 染付。内面と底部外面以外に透明釉施釉。 |
| | 12 | 旧河道 | 近世陶器<br>鉢 | —<br>— | 10.5<br>(2/12) | — | | 外 回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | やや良 | 外:7.5GY8/1<br>内:10G8/1 | 密 | 染付。内外面に透明釉施釉。蛇の目凹型高台。高台内は中央の凹部除いて露体。 |
| | 13 | 旧河道 | 近代磁器<br>湯呑 | 7.7<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で | 良 | 外:10Y8/1<br>内:10Y8/1 | 密 | 染付。明治以降の瀬戸・美濃産。 |
| | 14 | 旧河道 | 近代陶器<br>皿 | 22.5<br>(4/12) | 13.3<br>(4/12) | 2.5 | 11.1 | 外 鋳込み成形<br>内 鋳込み成形 | 良 | 外:2.5Y8/1<br>内:2.5Y8/1 | 密 | 内外面に透明釉施釉。 |
| | 15 | 旧河道 | 近代磁器<br>鉢 | —<br>— | 9.6<br>(8/12) | — | | 外 ロクロ撫で・回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | やや不良 | 外:5Y8/2<br>内:7.5Y8/1 | 普通 | 赤絵皿。高台削り調整。明治以降の作。 |
| 図82 | 1 | SX498 | 須恵器<br>無台杯 | 11.8<br>(8/12) | 8.4<br>(9/12) | 3.5 | 29.7 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:5Y6/2<br>内:2.5Y7/2 | 普通 | 長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 2 | SK490 | 須恵器<br>無台杯 | 12.4<br>(1/12) | 8.0<br>(6/12) | 3.6 | 29.0 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:2.5Y8/1<br>内:2.5Y8/1 | 密 | 使用による磨耗。石英、雲母含む。 |
| | 3 | SK67 | 土師器<br>甕 | 22.2<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目・篦削り・格子叩き目<br>内 回転撫で・カキ目・同心円文当て具痕 | 良 | 外:7.5YR6/3<br>内:7.5YR7/6 | やや密 | 内外面炭化物付着。石英含む。 |
| | 4 | SK556 | 珠洲<br>壺 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・平行叩き目<br>内 回転撫で・当て具痕・撫で | やや良 | 外:2.5Y5/2<br>内:2.5Y6/2 | やや密 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 5 | SK556 | 珠洲<br>壺 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・平行叩き目<br>内 回転撫で・当て具痕・撫で | やや良 | 外:2.5Y5/3<br>内:2.5Y6/3 | やや密 | 165と同一固体。 |
| 図85 | 1 | SP469 | 珠洲<br>鉢 | —<br>— | (14.0)<br>(3/12) | — | | 外 回転撫で・撫で<br>内 回転撫で・卸し目 | 不良 | 外:5Y7/2<br>内:5Y8/1 | 普通 | 卸し目1単位11条。外面に指頭圧痕有り。石英含む。 |
| | 2 | SP566 | 中世土師器<br>皿 | 7.8<br>(2/12) | 6.4<br>(2/12) | 1.4 | 17.9 | 外 横撫で・底部未調整？<br>内 横撫で・見込み部撫で | やや不良 | 外:2.5Y5/1<br>内:2.5Y8/3 | やや粗 | NDI類(文献1)。長石、チャート含む。 |
| 図112 | 186 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.5<br>(1/12) | —<br>— | 2.8 | 22.4 | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y7/2<br>内:2.5Y7/2 | 普通 | 口縁外面黒化。宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.0cm。 長石、石英含む。 |
| | 187 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.3<br>(5/12) | —<br>— | 2.9 | 23.6 | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/1 | やや密 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.1cm。回転削り方向左。石英含む。 |
| | 188 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.1<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:10YR7/2<br>内:10YR8/2 | やや粗 | 石英含む。 |
| | 189 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 13.2<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:10YR8/3～10YR6/4内:10YR8/3～10YR6/4 | やや粗 | 外面に粘土付着。赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 190 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 14.3<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:7.5Y6 /1<br>内:7.5Y6/1 | 普通 | 石英、雲母含む。 |
| | 191 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 15.3<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1内:2.5Y6/1 | 普通 | 外面降灰。石英、海綿骨針含む。 |
| | 192 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 14.9<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5GY6/1<br>内:2.5GY6/1 | やや密 | 口縁内外面黒化。石英含む。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図112 | 193 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.0<br>(1/12) | —<br>— | 2.8 | 23.3 | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y6 /2<br>内:2.5Y7/1 | やや密 | 外面全体降灰。重ね焼き痕あり。 |
| | 194 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.6<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y7/1<br>内:2.5Y7/2 | やや粗 | 外面に降灰。つまみ貼付(つまみ欠損)。石英含む。 |
| | 195 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 13.2<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y5/1<br>内:5Y5/1 | やや粗 | 外面に薄く降灰。回転削り方向右。石英含む。 |
| | 196 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 14.6<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 197 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 16.5<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:10YR6/2<br>内:10YR6/1 | 普通 | 口縁外面黒化。使用による磨耗。石英、雲母含む。 |
| | 198 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 12.5<br>(4/12) | —<br>— | 2.5 | 20.0 | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/1 | やや密 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.5cm。外面降灰・自然釉かかる。口縁端部黒化。外面に別固体の高台痕有り。石英含む。 |
| | 199 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 13.3<br>(2/12) | —<br>— | 2.3 | 17.3 | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5Y6/2<br>内:2.5Y7/2 | 普通 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.1cm。外面に降灰・自然釉かかる。石英含む。 |
| | 200 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 14.0<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y7/2<br>内:2.5Y7/2 | やや密 | 外面に自然釉かかる。石英、雲母含む。 |
| | 201 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 14.3<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや密 | 外:2.5Y7/1<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | 口縁内外黒化。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 202 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 14.7<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y7/1<br>内:2.5Y7/1 | 普通 | 口縁外面黒化。石英、チャート含む。 |
| | 203 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 15.2<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y6 /2<br>内:2.5Y7/1 | やや密 | 外面全体降灰。内面使用による磨耗。海綿骨針含む。 |
| | 204 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 16.9<br>(1/12以下) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y7/2<br>内:2.5Y7/2 | やや密 | 口縁端部から口縁内面黒化。回転削り方向右。赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 205 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 18.5<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で・撫で | 良 | 外:5B5/1<br>内:5B6/1 | やや密 | つまみ貼付(欠損)。石英含む。 |
| | 206 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で・天井部撫で | 普通 | 外:5PB6/1<br>内:5B6/1 | やや密 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.4cm。石英含む。 |
| | 207 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部篦切り後撫で<br>内 回転回転撫で | 普通 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/2 | 普通 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.4cm。口縁付近内面降灰・黒化。内面に別固体の高台付着。石英含む。 |
| | 208 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR7/1<br>内:10YR7/2 | 普通 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.2cm。口縁付近内面降灰・自然釉かかる。内面に粘土付着。石ブクレ有り。海綿骨針含む。 |
| | 209 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:5Y7/1<br>内:5Y7/1 | やや密 | 宝珠形つまみ貼付。回転削り方向左。つまみ径2.9cm。石英含む。 |
| | 210 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 16.1<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/2<br>内:7.5Y6/2 | 普通 | 口縁外面から内面体部に降灰・自然釉かかる。回転削り方向右。石英含む。 |
| | 211 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 16.2<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 口縁から体部内面に自然釉かかる。石英含む。 |
| | 212 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 16.0<br>(1/12) | —<br>— | 3.6 | 22.5 | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/2 | 普通 | 宝珠形つまみ貼付。つまみ径2.9cm。外面に別固体の口縁端部付着。内面口縁から体部黒化。回転削り方向右。石英、雲母含む。 |
| | 213 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 15.9<br>(3/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 口縁外面から内面体部黒化。石英、海綿骨針含む。 |
| | 214 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 18.0<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 外面降灰。口縁黒化。石英含む。 |
| | 215 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 10.1<br>(1/12) | 5.9<br>(3/12) | 3.1 | 30.7 | 外 回転撫で。底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/2 | 普通 | 口縁外面黒化。石英、海綿骨針含む。 |
| | 216 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 10.3<br>(1/12) | 7.0<br>(2/12) | 2.9 | 28.2 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/2 | 普通 | 口縁端部から外面黒化。雲母、海綿骨針含む。 |
| | 217 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 10.6<br>(3/12) | 6.0<br>(6/12) | 3.2 | 30.2 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR6/2<br>内:10YR6/2 | 密 | 口縁外面から内面体部黒化、自然釉かかる。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 218 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 10.8<br>(2/12) | 6.3<br>(5/12) | 3.2 | 29.6 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/2 | やや粗 | 使用による磨耗。石英含む。 |
| | 219 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 11.0<br>(1/12) | 6.8<br>(2/12) | 3.3 | 30.0 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:7.5Y6/1<br>内:7.5Y6/1 | やや密 | 使用による磨耗。石英、海綿骨針含む。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図112 | 220 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 10.8<br>(2/12) | 7.4<br>(12/12) | 3.3 | 30.6 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 221 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 11.6<br>(2/12) | 8.6<br>(3/12) | 3.5 | 30.2 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1<br>内:10YR6/1 | 普通 | 口縁外面に黒化。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 222 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 11.0<br>(1/12) | 7.6<br>(1/12) | 3.1 | 28.2 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 口縁端部から外面黒化・自然釉かかる。石英、雲母含む。 |
| | 223 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 11.0<br>(1/12) | 8.0<br>(3/12) | 3.4 | 30.9 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/1 | やや密 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 224 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 11.6<br>(1/12) | 8.3<br>(6/12) | 3.7 | 31.9 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:5Y8/1<br>内:5Y8/1 | やや密 | 石英含む。 |
| | 225 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 11.4<br>(1/12) | 7.0<br>(11/12) | 3.8 | 33.3 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:2.5Y8/1<br>内:10YR7/3 | やや密 | 使用による磨耗。石英含む。 |
| | 226 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 12.0<br>(12/12) | 7.0<br>(12/12) | 3.5 | 29.2 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y7/2 | やや密 | 外面に篦記号「丨」有り。全体にゆがみ有り。石英含む。 |
| | 227 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | —<br>— | 8.4<br>(4/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 底部外面に篦記号有り。使用による磨耗。雲母含む。 |
| | 228 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 12.0<br>(1/12) | 8.0<br>(3/12) | 2.4 | 20.0 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 口縁外面黒化。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 229 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 12.5<br>(1/12) | 7.8<br>(3/12) | 3.1 | 24.8 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 口縁外面黒化。使用による磨耗。石英、雲母、海面骨針含む。 |
| | 230 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 12.4<br>(11/12) | 8.0<br>(12/12) | 3.3 | 26.6 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | 良 | 外:2.5Y6/1<br>内:5Y7/2 | 密 | 口縁外面黒化。石英含む。 |
| | 231 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 13.0<br>(5/12) | 8.9<br>(5/12) | 2.8 | 21.5 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 密 | 口縁外面黒化。海綿骨針有り。 |
| | 232 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 13.1<br>(1/12) | 9.7<br>(2/12) | 3.0 | 22.9 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 密 | 使用による磨耗。石英含む。 |
| | 233 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | 13.4<br>(1/12) | 9.0<br>(2/12) | 3.1 | 23.1 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 不良 | 外:2.5Y5/1<br>内:2.5Y6/1 | やや密 | 石英、赤酸斑粒、海面骨針含む。 |
| | 234 | 包含層 | 須恵器<br>無台杯 | —<br>— | 7.6<br>(4/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/1 | 普通 | 底部外面に篦記号有り。海綿骨針含む。 |
| 図113 | 235 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 10.1<br>(1/12) | 7.0<br>(8/12) | 4.3 | 42.6 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y8/2<br>内:2.5Y8/2 | やや密 | 貼付高台。内外面降灰。石英含む。 |
| | 236 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 10.9<br>(3/12) | 7.3<br>(7/12) | 3.8 | 34.9 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y5/1<br>内:2.5Y6/2 | 密 | 貼付高台。外面に自然釉かかる。使用による磨耗。内外面に焼きブクレ有り。 |
| | 237 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 11.1<br>(5/12) | 7.6<br>(5/12) | 3.7 | 33.3 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | 良 | 外:7.5YR5/1<br>内:5Y6/1 | 密 | 貼付高台。外面に自然釉かかる。口縁内面に別固体付着。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 238 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 10.7<br>(1/12) | 7.1<br>(12/12) | 4.2 | 39.3 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で・底面撫で | やや不良 | 外:N5/0<br>内:2.5Y7/2 | やや粗 | 貼付高台。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 239 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 10.8<br>(8/12) | 7.1<br>(12/12) | 4.5 | 41.7 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5GY6/1<br>内:5Y6/1 | やや密 | 貼付高台。口縁端部から外面に自然釉かかる。内外面一部に降灰。石英含む。 |
| | 240 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 11.3<br>(2/12) | 7.0<br>(5/12) | 4.0 | 35.4 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y6/2 | 密 | 貼付高台。底部内面に降灰。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 241 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 11.5<br>(4/12) | 7.8<br>(7/12) | 4.4 | 38.3 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5Y6/1<br>内:7.5Y6/1 | やや密 | 貼付高台。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 242 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 12.0<br>(1/12) | 7.6<br>(4/12) | 4.1 | 34.2 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y7/1～2.5Y5/1<br>内:2.5Y6/2 | やや密 | 貼付高台。石ブクレ有り。 |
| | 243 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 12.6<br>(1/12) | 8.3<br>(1/12) | 4.0 | 31.7 | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 貼付高台。使用による磨耗。長石含む。 |
| | 244 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 13.2<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:5Y6/1<br>内:5Y7/1 | やや粗 | 貼付高台欠損。外面に自然釉かかる。使用による磨耗。海綿骨針含む。 |
| | 245 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 14.6<br>(6/12) | 8.3<br>(12/12) | 5.5 | 37.7 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | 普通 | 外:5Y5/2<br>内:5Y6/2 | 普通 | 貼付高台。使用による磨耗。長石、雲母、海綿骨針含む。 |
| | 246 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 15.7<br>(3/12) | 9.5<br>(4/12) | 5.6 | 35.7 | 外 回転撫で・底部回転篦切り<br>後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5YR7/1<br>内:10YR7/1 | やや粗 | 貼付高台。使用による磨耗。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図113 | 247 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 15.6<br>(2/12) | 9.7<br>(6/12) | 5.6 | 35.9 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y7/1<br>内:2.5Y7/2 | やや粗 | 貼付高台。内外面降灰。外面に自然釉かかる。使用による磨耗。石ぶくれ有り。石英含む。 |
| | 248 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 14.5<br>(2/12) | 8.4<br>(6/12) | 6.2 | 42.8 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5BG6/1<br>内:7.5Y6/1 | やや粗 | 貼付高台。外面に篦記号「‖」有り。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 249 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 11.5<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y7/1<br>内:2.5Y7/2 | 普通 | 外面に篦記号「＋」有り。使用による磨耗。 |
| | 250 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 13.0<br>(1/12) | 10.0<br>(4/12) | 6.3 | 48.5 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y5/2<br>内:10YR6/2 | 普通 | 貼付高台。外面に自然釉かかる。使用による磨耗。底部内面焼きぶくれ有り。雲母含む。 |
| | 251 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 14.1<br>(3/12) | 10.2<br>(5/12) | 6.5 | 46.1 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/2<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 貼付高台。石英含む。 |
| | 252 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 15.3<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:10BG6/1<br>内:2.5Y6/1 | 普通 | 使用による磨耗。石英含む。 |
| | 253 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | 15.9<br>(1/12) | 10.6<br>(4/12) | 6.1 | 38.4 | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で・底面撫で | やや良 | 外:10BG5/1<br>内:2.5GY6/1 | やや密 | 貼付高台。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 254 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | —<br>— | 12.0<br>(3/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/2<br>内:5Y6/3 | やや密 | 貼付高台。使用による磨耗。石英含む。硯に転用。 |
| | 255 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | —<br>— | 8.5<br>(6/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5YR5/1<br>内:10YR6/1 | やや密 | 貼付高台。底部内面に別固体の高台痕有り。使用による磨耗。　石英含む。 |
| | 256 | 包含層 | 須恵器<br>有台杯 | —<br>— | 6.6<br>(12/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:5Y6/1<br>内:5Y6/2 | 普通 | 貼付高台。外面に篦記号有り。外面上半黒化。使用による磨耗。石英含む。 |
| | 257 | 包含層 | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・頸部沈線<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5Y6/2<br>内:10YR7/1 | 普通 | 頸部と体部は3段接合。頸部内面に降灰・自然釉かかる。体部外面に自然釉かかる。石英含む。 |
| | 258 | 包含層 | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | 11.3<br>(4/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:5Y4/1<br>内:5Y5/1 | 密 | 貼付高台。内外面に降灰・自然釉かかる。石英含む。 |
| | 259 | 包含層 | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | 9.6<br>(4/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y7/2<br>内:10YR6/3 | 普通 | 貼付高台。石英含む。内面と外面高台付近に自然釉かかる。 |
| | 260 | 包含層 | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | 15.9<br>(2/12) | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1<br>内:2.5Y7/2 | 普通 | 内側に口縁貼付。石英含む。 |
| | 261 | 包含層 | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で・肩部と体部一部篦削り<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:2.5YR5/2<br>内:5YR5/3 | 普通 | 外面肩部に沈線、降灰。石英含む。 |
| | 262 | 包含層 | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | 5.3<br>(6/12) | — | | 外 回転撫で・体部回転篦削り・底部回転篦切り後撫で<br>内 回転撫で | やや不良 | 外:10YR7/2<br>内:2.5Y7/2 | やや密 | 貼付高台。回転削り方向右。底部内面と肩部外面に降灰・自然釉かかる。石英含む。 |
| | 263 | 包含層 | 須恵器<br>杯蓋 | 11.6<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・天井部回転篦削り<br>内 回転撫で・天井部撫で | 普通 | 外:2.5Y7/1<br>内:2.5Y7/1 | 普通 | 天井部外面に自然釉かかる(厚い)。 |
| | 264 | 包含層 | 須恵器<br>壺 | 11.2<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y7/1<br>内:2.5Y5/2 | やや密 | 内面に降灰。石英、雲母含む。 |
| | 265 | 包含層 | 須恵器<br>壺 | 7.4<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・体部回転篦削り<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y7/1<br>内:2.5Y7/1～2.5Y5/1 | やや粗 | 内面黒化。海綿骨針含む。 |
| | 266 | 包含層 | 須恵器<br>瓶 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 カキ目<br>内 回転撫で・撫で | 良 | 外:N7/0<br>内:N7/0 | 密 | 内面に緑色、外面に灰色の自然釉かかる。内面に粘土塊付着。石英含む。 |
| 図114 | 267 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | 18.0<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5Y5/2<br>内:7.5Y6/1 | やや密 | 内面に降灰・薄く自然釉かかる。外面に自然釉かかる(厚い)。石英含む。 |
| | 268 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | 22.0<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・櫛状工具による斜文<br>内 回転撫で | やや良 | 外:10YR6/3<br>内:2.5Y6/3 | やや密 | 内外面に自然釉かかる。 |
| | 269 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | 22.0<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:10BG6/1<br>内:10BG6/1 | やや密 | 内面に降灰。口縁外面黒化。石英含む。 |
| | 270 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | (22.6)<br>(1/12以下) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5YR5/3<br>内:7.5YR5/3 | やや密 | 石英含む。 |
| | 271 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | 25.4<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:5Y5/1<br>内:5Y5/1 | 密 | 石ぶくれ有り。海綿骨針含む。 |
| | 272 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | (39.5)<br>(1/12以下) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・叩き目・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | 良 | 外:5B4/1<br>内:5B6/1 | やや粗 | 石英含む。 |
| | 273 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | 16.0<br>(1/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・平行叩き目・カキ目<br>内 回転撫で・同心円文当て具痕・ハケ目 | 普通 | 外:2.5Y7/2<br>内:5B6/1 | 普通 | 外面降灰。石英含む。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図114 | 274 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | －<br>－ | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・叩き目・カキ目<br>内 回転撫で・同心円文当て具痕 | 良 | 外:7.5Y6/1<br>内:7.5YR6/1 | 普通 | 長石、石英含む。 |
| | 275 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | －<br>－ | －<br>－ | － | | 外 叩き目・カキ目<br>内 同心円文当て具痕 | 不良 | 外:10YR7/3<br>内:2.5Y7/3 | 普通 | 石英含む。 |
| | 276 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | －<br>－ | －<br>－ | － | | 外 叩き目・カキ目<br>内 同心円文当て具痕 | 普通 | 外:2.5Y5/1<br>内:2.5Y6/2 | 普通 | 石英、雲母含む。 |
| | 277 | 包含層 | 須恵器<br>甕 | －<br>－ | －<br>－ | － | | 外 叩き目<br>内 同心円文当て具痕 | 不良 | 外:5YR5/2<br>内:5Y5/1 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。 |
| 図115 | 278 | 包含層 | 土師器<br>椀 | (17.8)<br>(1/12以下) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で後ミガキ | やや良 | 外:5YR6/8<br>内:N2/0 | やや密 | 内黒。長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 279 | 包含層 | 土師器<br>椀 | 14.7<br>(1/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で後ミガキ<br>内 回転撫で後ミガキ | やや良 | 外:10YR7/4<br>内:N2/0 | やや密 | 口縁外面黒斑。石英、海綿骨針含む。 |
| | 280 | 包含層 | 土師器<br>椀 | 14.7<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | やや良 | 外:2.5Y7/4～2.5Y6/2<br>内:2.5Y7/4～2.5Y6/3 | やや密 | |
| | 281 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 21.0<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・篦削り・平行叩き目<br>内 回転撫で・カキ目・同心円文当て具痕 | 良 | 外:7.5YR7/3<br>内:7.5YR7/3 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英、赤酸斑粒含む。 |
| | 282 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 21.0<br>(3/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・カキ目・篦削り<br>内 回転撫で・カキ目・ハケ目・撫で | 良 | 外:7.5YR7/4<br>内:7.5YR7/4 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英含む。 |
| | 283 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 17.2<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | やや良 | 外:7.5YR7/6～2.5Y2/1<br>内:7.5Y6/4 | 普通 | 外面に黒斑。石英、海綿骨針含む。 |
| | 284 | 包含層 | 土師器<br>甕 | (16.9)<br>(1/12以下) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で | やや良 | 外:7.5YR6/4<br>内:7.5YR6/4 | 普通 | 石英、赤酸斑粒含む。 |
| | 285 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 19.2<br>(1/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で | やや良 | 外:5YR7/6<br>内:2.5YR6/6 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 286 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 18.6<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | やや良 | 外:7.5YR7/4<br>内:7.5YR6/6 | やや密 | 石英、赤酸斑粒、海綿骨針含む。 |
| | 287 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 20.8<br>(1/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・カキ目・篦削り<br>内 回転撫で・カキ目 | 良 | 外:7.5YR7/4<br>内:7.5YR6/4 | やや密 | 外面全体に炭化物付着。長石、石英、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 288 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 21.6<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・カキ目<br>内 回転撫で・カキ目 | 普通 | 外:10YR8/4<br>内:10YR7/4 | やや粗 | 石英、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 289 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 10.4<br>(3/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR7/6<br>内:7.5YR7/4 | 普通 | 石英含む。 |
| | 290 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 11.5<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR6/4<br>内:7.5YR5/3 | やや密 | 長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 291 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 9.7<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR6/3<br>内:10YR7/4 | やや密 | 外面に薄く炭化物付着。石英含む。 |
| | 292 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 11.3<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:5YR6/4<br>内:5YR6/4 | 普通 | 内外面に薄く炭化物付着。長石、石英含む。 |
| | 293 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 11.2<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR7/6<br>内:7.5YR7/6 | 普通 | 石英含む。 |
| | 294 | 包含層 | 土師器<br>甕 | 11.8<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR6/4<br>内:7.5YR8/6 | 普通 | 口縁内面と外面全体に炭化物付着。石英含む。 |
| | 295 | 包含層 | 土師器<br>甕 | －<br>－ | 9.2<br>(3/12) | － | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:5YR7/4<br>内:5YR7/4 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 296 | 包含層 | 土師器<br>甕 | －<br>－ | 6.6<br>(9/12) | － | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:5YR6/4<br>内:5YR6/4 | 普通 | 内外面に薄く炭化物付着。石英含む。 |
| | 297 | 包含層 | 土師器<br>甕 | －<br>－ | 5.6<br>(12/12) | － | | 外 篦削り・底部静止糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR6/2<br>内:10YR6/2 | 普通 | 内外面に炭化物付着。石英、海綿骨針含む。 |
| | 298 | 包含層 | 土師器<br>甕 | －<br>－ | 4.0<br>(11/12) | － | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR4/1<br>内:10YR5/2 | やや密 | 長石、石英、海綿骨針含む。 |
| | 299 | 包含層 | 土師器<br>甕 | －<br>－ | 4.9<br>(11/12) | － | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5YR7/4<br>内:7.5YR7/4 | やや密 | 石英含む。 |
| 図116 | 300 | 包含層 | 土師器<br>鍋 | 31.0<br>(2/12) | －<br>－ | － | | 外 回転撫で・カキ目・篦削り<br>内 回転撫で・カキ目・ハケ目 | 良 | 外:5YR7/6<br>内:7.5YR7/4 | やや密 | 石英含む。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図116 | 301 | 包含層 | 土師器<br>鍋 | 33.4<br>(2/12) | —<br>— | — | | 外 回転撫で・カキ目・篦削り<br>内 回転撫で・カキ目・ハケ目 | 良 | 外:7.5YR7/6<br>内:5YR7/6 | 普通 | 石英、雲母含む。 |
| | 302 | 包含層 | 珠洲<br>甕 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 平行叩き目<br>内 当て具痕 | 普通 | 外:5PB5/1<br>内:N5/1 | やや密 | 石英含む。 |
| | 303 | 包含層 | 珠洲<br>甕 | —<br>— | 9.0<br>(4/12) | — | | 外 回転撫で・底部静止糸切り・撫で<br>内 回転撫で | 普通 | 外:2.5Y6/1<br>内:5B5/1 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 304 | 包含層 | 珠洲<br>擂鉢 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 回転撫で<br>内 回転撫で・卸し目 | 良 | 外:10BG5/1<br>内:10G5/1 | 普通 | 石英含む。 |
| | 305 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | —<br>— | 6.0<br>(3/12) | — | | 外 底部回転糸きり<br>内 摩滅により不明 | 不良 | 外:10YR8/3<br>内:7.5Y8/4 | やや粗 | RAI類(文献1)。長石、チャート、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 306 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | —<br>— | 4.4<br>(1/12) | — | | 外 摩滅により不明<br>内 摩滅により不明 | 不良 | 外:10YR7/8<br>内:10YR7/8 | 粗 | RA類(文献1)。長石、チャート、赤酸斑粒含む。 |
| | 307 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 7.8<br>(2/12) | 3.6<br>(6/12) | 1.9 | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で・撫で | やや良 | 外:7.5YR7/4<br>内:7.5YR7/4 | やや粗 | RB類(文献1)。<br>長石、石英、チャート、雲母含む。 |
| | 308 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 8.6<br>(5/12) | 4.4<br>(5/12) | 1.8 | | 外 回転撫で?・底部回転糸切り?<br>内 回転撫で? | やや不良 | 外:10YR8/4<br>内:10YR8/3 | やや密 | RB類(文献1)。長石、石英、チャート含む。 |
| | 309 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 8.4<br>(2/12) | 4.2<br>(5/12) | 2.0 | | 外 底部回転糸切り<br>内 回転撫で・撫で? | 不良 | 外:2.5Y8/1<br>内:2.5Y8/1 | 粗 | RB類(文献1)。長石、石英、チャート、赤酸斑粒含む。 |
| | 310 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 9.0<br>(2/12) | 4.2<br>(5/12) | 2.1 | | 外 底部回転糸切り<br>内 摩滅により不明 | 不良 | 外:10YR8/3<br>内:10YR8/3 | やや粗 | RB類(文献1)。長石、チャート含む。 |
| | 311 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 8.8<br>(4/12) | 4.4<br>(4/12) | 2.0 | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR6/4<br>内:10YR6/4 | 密 | RB類(文献1)。長石、チャート含む。 |
| | 312 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | —<br>— | 4.0<br>(11/12) | — | | 外 回転撫で後撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:2.5Y5/2<br>内:2.5Y5/2 | やや粗 | RB類(文献1)。長石、石英、チャート含む。 |
| | 313 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 7.6<br>(1/12) | 3.6<br>(2/12) | 1.8 | | 外 回転撫で後一部撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:7.5Y7/4<br>内:7.5Y7/4 | やや粗 | RB類(文献1)。長石、チャート、雲母含む。 |
| | 314 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 8.2<br>(6/12) | 4.4<br>(6/12) | 1.9 | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR8/4<br>内:10YR8/4 | 密 | RB類(文献1)。長石、石英、チャート含む。 |
| | 315 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 8.4<br>(10/12) | 4.2<br>(12/12) | 1.8 | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で・撫で | 良 | 外:7.5Y7/3<br>内:10YR6/4 | やや粗 | RB類(文献1)。ゆがみ大きい。長石、チャート、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 316 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | —<br>— | 4.2<br>(7/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR6/4<br>内:10YR6/4 | やや粗 | RB類か(文献1)。長石、チャート、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 317 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 9.2<br>(1/12) | 5.4<br>(3/12) | 1.5 | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR8/3<br>内:10YR7/3 | やや粗 | RC類(文献1)。長石、石英、チャート含む。 |
| | 318 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 13.6<br>(1/12) | 6.0<br>(5/12) | 4.1 | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR8/3<br>内:10YR8/3 | やや粗 | RB類(文献1)。長石、石英、チャート、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 319 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 14.4<br>(3/12) | 7.6<br>(3/12) | 3.7 | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で? | やや良 | 外:10YR8/3<br>内:10YR8/3 | やや粗 | RB類(文献1)。長石、石英、チャート、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 320 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | —<br>— | 7.6<br>(8/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | やや良 | 外:10YR7/3<br>内:10YR7/3 | やや粗 | RD類(文献1)。長石、チャート、赤酸斑粒含む。 |
| | 321 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | 7.8<br>(1/12) | 5.6<br>(2/12) | 1.8 | | 外 横撫で・底部指オサエか?<br>内 横撫で | 良 | 外:10YR6/3<br>内:10YR6/3 | やや粗 | 横撫でによる3単位の面取り。長石、チャート、赤酸斑粒含む。 |
| | 322 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | —<br>— | 6.8<br>(6/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR5/1<br>内:10YR6/1 | やや密 | RB類か(文献1)。長石、石英、チャート、赤酸斑粒含む。 |
| | 323 | 包含層 | 中世土師器<br>皿 | —<br>— | 7.2<br>(10/12) | — | | 外 回転撫で・底部回転糸切り<br>内 回転撫で | 良 | 外:10YR8/3<br>内:10YR8/3 | やや粗 | RB類?(文献1)。長石、チャート、雲母、赤酸斑粒含む。 |
| | 324 | 包含層 | 中世陶器<br>皿 | —<br>(1/12以下) | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で・回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | 良 | 外:5Y7/2<br>内:5Y7/2 | 密 | 内外に灰釉かかる。 |
| | 325 | 包含層 | 中世陶器<br>皿 | —<br>— | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で | 良 | 外:5Y7/2<br>内:5Y7/2 | 密 | 内外に灰釉かかる。 |
| | 326 | 包含層 | 近世陶器<br>? | —<br>— | —<br>— | — | | 外 ロクロ撫で<br>内 ロクロ撫で | やや不良 | 外:2.5Y8/2<br>内:7.5YR7/6 | 密 | |
| | 327 | 包含層 | 近世陶器<br>碗 | —<br>— | 3.9<br>(7/12) | — | | 外 ロクロ撫で・回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | 良 | 外:2.5Y6/4<br>内:5YR7/4 | やや密 | 越中瀬戸。内面使用による磨耗。 |

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類<br>器種 | 口径(cm)<br>(残存率) | 底径(cm)<br>(残存率) | 器高<br>(cm) | 高径指数<br>器高÷口径×100 | 調整 | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図116 | 328 | 包含層 | 近世陶器<br>碗 | —<br>— | 4.9<br>(6/12) | — | | 外 回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | やや不良 | 外:5Y6/2<br>内:2.5Y7/3 | やや粗 | 内外面に灰釉かかる。 |
| | 329 | 包含層 | 近世陶器<br>壺 | —<br>— | 3.8<br>(9/12) | — | | 外 ロクロ撫で・回転篦削り<br>内 ロクロ撫で | やや不良 | 外:10YR7/4<br>内:5Y6/3 | 普通 | 三日月高台。内外面に鉄釉かかる。 |

文献1…財団法人富山県文化振興財団　1996「梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物偏)」『埋蔵文化財発掘調査報告第7集』

## 表20　遺物観察表(土錘)

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 長径<br>(cm) | 最大幅<br>(cm) | 孔径<br>(cm) | 重量<br>(g) | 焼成 | 色調 | 胎土 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 26 | SI492 | 3.8 | 1.6 | 0.5 | 9.8 | やや良 | 7.5YR7/6 | やや密 | 海綿骨針含む。 |
| | 27 | SI492 | 4.5 | 1.5 | 0.4 | 33.4 | 良 | 7.5YR7/6 | 普通 | 海綿骨針含む。 |
| | 28 | SI492 | 4.7 | 1.7 | 0.35 | 12.1 | 普通 | 10YR4/1 | やや密 | 石英、海綿骨針含む。 |
| | 29 | SI492 | 4.7 | 1.9 | 0.3 | 14.9 | やや良 | 10YR5/2 | やや密 | |
| | 30 | SI492 | 5.6 | 2.6 | 0.75 | 28.0 | 良 | 7.5YR6/6 | 密 | 外面一部に炭化物付着。石英、海綿骨針含む。 |
| | 31 | SI492 | 6.4 | 2.5 | 0.75 | 9.3 | 良 | 10YR6/3 | 普通 | 海綿骨針含む。 |
| | 24 | SI494 | 3.8 | 1.6 | 0.45 | 7.6 | 普通 | 7.5YR7/4 | やや密 | 赤酸半粒含む。 |
| | 25 | SI494 | 4.2 | 1.5 | 0.35 | 8.6 | やや良 | 7.5YR5/2 | やや密 | 海綿骨針含む。 |
| | 5 | SD146 | 3.6 | 1.6 | 0.45 | 5.2 | 良 | 7.5YR6/4 | 普通 | 石英含む。 |
| | 330 | 包含層 | (3.6) | 1.5 | 0.35 | (6.2) | 良 | 2.5YR3/1 | やや密 | |
| | 331 | 包含層 | (3.4) | 2.2 | 0.65 | (8.7) | 普通 | 10YR7/2 | 普通 | 石英、海綿骨針含む。海綿骨針含む。 |
| | 332 | 包含層 | 6.0 | 2.3 | 0.75 | 27.9 | 普通 | 10YR8/4 | やや密 | 石英、海綿骨針含む。 |

## 表21　遺物観察表(鉄製品)

| 図版番号 | 番号 | 出土遺構 | 種類 | 全長(残存長)<br>(cm) | 最大幅<br>(cm) | 最大厚<br>(cm) | 重量<br>(g) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図27 | 12 | SD154 | 鉄滓 | 3.4 | 4.2 | 2.6 | 15.3 | |
| 図60 | 32 | SI492 | 不明鉄製品 | 9.8(筒状)<br>11.0(棒状) | 4.1(筒状)<br>0.8(棒状) | 3.4(筒状)<br>0.55(棒状) | 353.7 | 厚さ2mmの筒形鉄製品の中に棒状鉄製品が入り込む。 |
| | 33 | SI492 | 刀子 | (19.6) 茎部長7.8 | 刃部1.4茎部0.85 | 刃部0.35茎部0.35 | | 柄の木質遺存。 |
| | 34 | SI492 | 刀子 | (13.3) 茎部長5.7 | 刃部1.2茎部1.1 | 刃部0.35茎部0.3 | 27.1 | 柄の木質遺存。 |
| 図76 | 9 | SD09 | 鉄滓 | 2.7 | 3.3 | 2.1 | 19.6 | |
| | 10 | SD09 | 鉄滓 | 4.5 | 5.3 | 2.2 | 79.9 | |
| 図81 | 16 | 旧河道 | 棒状鉄製品 | 11.8 | 3.2 | 1.9 | 66.7 | |
| 図116 | 333 | 包含層 | 刀子 | (4.9) | 1.3 | 刃部0.4, 茎0.35 | 9.7 | |
| | 334 | 包含層 | 釘 | (3.6) | 0.75 | 0.45 | 19.1 | |
| | 335 | 包含層 | 釘 | (2.1) | 0.4 | 0.35 | 2.2 | |
| | 336 | 包含層 | 鉄滓 | 3.3 | 4.7 | 2.5 | 17.6 | |
| | 337 | 包含層 | 鉄滓 | 4.1 | 5.0 | 2.2 | 50.8 | |

# 第４章　理化学的分析

## 1　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

富山県砺波市に所在する久泉遺跡は、現在の庄川左岸に位置し、庄川が形成した扇状地（庄川扇状地）扇央部の微高地上に立地している。これまでの発掘調査では、上・下層の遺構検出面が確認されており、上層からは、石組建物や竪穴状土坑道、掘建柱建物跡や溝状遺構、土坑、ピットが検出されており、古代（8～9世紀）の土師器や須恵器、中世（鎌倉～室町時代）の土師器や珠洲焼、陶磁器等の遺物が出土している。一方、下層からは、ピットを主体として土坑が検出されており、縄文時代中期後半～後期後半の土器及び打製石斧等が出土している（砺波市教育委員会、2004・2005）。

今回の発掘調査においても、これまでの発掘調査成果と同様に上・下層の遺構・遺物が確認されており、上層からは過去に確認されている大溝（SD09）をはじめとして、溝状遺構（以下、素掘小溝）が、数条単位で主軸方向を変え重複する状況で検出されている。また、下層からは土坑やピット等が検出されている。

本報告では、過去の分析調査や発掘調査成果から課題とされた、1)SD09の年代観と機能時の古環境、2)素掘小溝の機能・用途の推定、3)土坑の用途の推定及び内容物の検証、4)遺構の年代観、5)植物利用、を検証するため自然科学分析調査を実施する。

### 1．試料

（1）試料採取地点

本遺跡では、上記した課題を検討するため、調査区内の任意の地点を対象に土層観察や試料採取を行っている。以下に、各地点の概要を記す。

1)基本土層：A地点(図1)

調査区東・西区を隔てる調査区壁東面に位置し、地表面より約2m下の黄褐色を呈する砂混じりのシルトまでを対象に土層観察を行った。最下位の黄褐色を呈する砂混じりのシルトは塊状を為し、地点によって最大径約20cmの円礫が認められる。上位に向かって漸移的に暗色化（黒色化）し、上部は黒色を呈するシルト～粘土となる。その上位には、下位より黒褐色や黄灰褐色シルトの偽礫が混じる暗黄褐色のシルト、黄灰色を呈するシルト～極細粒砂、淘汰の良い細粒～中・粗粒砂が堆積する。これらは、洪水等にともなう氾濫堆積物と考えられ、何回かの氾濫によって形成された可能性がある。また、この氾濫堆積物の上位にはやや不明瞭であるが不整合で暗茶褐色を呈する砂混じりのシルトが堆積し、層界付近には下位の土層に由来すると考えられる偽礫が認められる。なお、本地点では、上

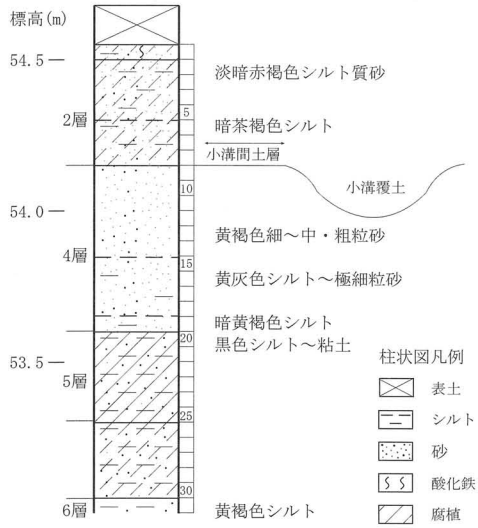



図1　A地点模式柱状図及び試料採取位置図

述した素掘小溝が検出されていることから、本地点で確認された不整合は遺構の掘り込み面の影響を示している可能性がある。さらに、上位には淡暗赤褐色を呈するシルト分の多く混じる砂質土が堆積する。当土層では上部ほど斑状・管状の酸化鉄が発達し、土層の赤褐色化が顕著である。最上位の土層は現在の耕作土や盛土となる。

本遺跡の発掘調査所見を参考とすると、最下位の黄褐色を呈する砂混じりのシルトは6層（後述する砂礫層は7層）、6層上位の黒色を呈するシルト～粘土は5層に相当すると考えられる。上位の氾濫堆積物と考えられる土層は、4層及び3・11・10層に対比される可能性があり、さらに、上位の暗茶褐色を呈するシルトは2層に相当すると考えられる。なお、本調査区内では、氾濫堆積物と考えられる土層は、本地点付近でのみで観察される。

試料は、上位の耕作土・盛土層直下より最下位の黄褐色の砂混じりシルトまで厚さ5cm連続で土壌試料31点（試料番号1～31）を採取している。

2)SD09

SD09は、調査区東端より検出されている。本遺構は、細砂～最大径約20cm前後の円礫からなる砂礫層を基底とし、遺構壁面には淘汰の悪い砂層と礫支持の砂礫層が観察されることから、これらの堆積物を掘り込み構築されたことが推測される。これまでの調査所見によれば、遺構の開削から廃棄・断絶まで六段階の変遷が指摘されており、調査区南壁のSD09の土層観察では、これらの変遷は確認することができなかったが、黒色土の流入や再堆積、塊状或いは級化構造を有する褐～灰褐色を呈するシルト～粗砂が認められたほか、人為的な再掘削を支持する不整合な堆積状況も観察された。

試料は、調査区南壁のSD09覆土より腐植質な暗灰(褐)色シルト～極細粒砂、炭化物混じり土壌（試料番号42～50）を採取している。また、調査区北東隅のSD09覆土からは、黒色のシルト質土と黄褐色～（灰）褐色を呈するシルト質土の互層より柱状の土壌ブロック5点（柱状ブロック1～5）、覆土最下部に認められた黒色を呈するシルト質土より2点（試料番号SD09 1・1'）、これらの土層上位の暗灰色を呈するシルト～極細粒砂より1点（試料番号SD09 2）を採取している。

3)素掘小溝

素堀小溝は、上記したA地点周辺の基本土層2層中より検出されており、検出状況から南北方向、東西方向、北東―南西方向を長軸とする3タイプに分けられる。これらの検出状況から任意の素掘小溝を選択し、さらに、素掘小溝間も対象に試料採取を行っている。その内訳は、東西方向を長軸とする素掘小溝5条（SD180・184・185・212・213）、北東-南西方向を長軸とする素掘小溝3条（SD522～524）、素掘小溝間（SD180-186、SD184-183、SD212-211、SD522-523）である。

（2）試料

試料は、上記した試料のほか、調査担当者により採取された土壌（柱状ブロックを含む）、炭化物からなる。以下に、各分析目的における分析項目及び試料の概要を示す。

1)SD09の年代観と機能時の古環境

SD09覆土より採取した土壌2点（SD09 試料番号1・2）を対象に花粉分析・植物珪酸体分析・珪藻分析、炭化物3点（試料番号45・49・50）を対象に放射性炭素年代測定を行う。

2)素掘小溝の機能・用途の推定

東西方向を長軸とする素掘小溝5条（SD180・184・185・212・213）の覆土、北東-南西方向を長軸とする素掘小溝3条（SD522～524）の覆土、素掘小溝間4地点（SD180-186間、183-184間、211-212間、522-523）土層

より採取した土壌試料を対象に植物珪酸体分析(33点)、土壌理化学分析・粒度分析(6点)を行う。また、これらの遺構の比較対照として、A地点より採取した土壌試料を対象に植物珪酸体分析11点(試料番号4・6・7・10・20・21・23・25・27・29・31)、土壌理化学分析・粒度分析15点（試料番号4・6・8・9・11・13・15・17・20・21・23・25・27・29・31）を行う。

3)土坑の用途の推定及び内容物の検証

試料は、長方形土坑2基(SK489・490)と、6層上面から検出された土坑2基（SK1021・1085）より採取された土壌である。長方形土坑については、各試料の観察結果に基づき、SK489（№15試料)、SK490（№19試料）より抽出・選択した土壌6点を対象に土壌理化学分析、植物珪酸体分析、寄生虫卵分析を行う。また、比較対照試料として、SI492覆土（№31試料)、同床面（№32試料）より採取した土壌2点を対象に土壌理化学分析、植物珪酸体分析、寄生虫卵分析を行う。後者の土坑2基については微細物分析を行う。

4)遺構の年代観の推定

試料は、上記したSD09のほか、基本土層や住居跡、溝状遺構、土坑、柱穴等から出土した炭化物や、これらの遺構覆土から採取された土壌や炭化物混じり土壌など計42点、住居跡床土や住居跡カマド焼土の水洗選別によって回収された炭化物(炭化材・炭化種子)6点である。これらの試料を対象に放射性炭素年代測定（AMS法）を行う。

5)植物利用

試料は、上記した放射性炭素年代測定に用いた炭化材や炭化種実である。なお、炭化物混じり土壌・土壌については、分析試料として可能な範囲で炭化物の抽出を行っており、抽出された炭化物が極微量であった場合は、全量を放射性炭素年代測定試料とし未分析である。また、住居跡床土や住居跡カマド焼土の水洗選別によって回収された炭化物のうち、炭化材が複数認められた場合は無作為に抽出した10片を対象とし、炭化種実については放射性炭素年代測定によって試料が失われてしまうことから同定とともに、計測等を実施している。これらの試料を対象に樹種同定・種実同定を行う。試料の詳細は、結果とともに表6に示す。

## 2．分析方法

（1）放射性炭素年代測定

土壌や根等の目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HCｌにより炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HCｌによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去を行う（酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅（Ⅱ）と銀箔（硫化物を除去するため）を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃（2時間）で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO2を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO2と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC　Pelletron　9SDH-2）を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局（NIST）から提供されるシュウ酸(HOX-Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に13C/12Cの測定も行うため、この値を用いてδ13Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

（２）珪藻分析

試料を湿重で７g前後秤量し、過酸化水素水、塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer & Lange-Bertalot(1986,1988,1991a,1991b)、渡辺（2005）などを参照し、分類体系はRound et al.(1990)に従った。

同定結果は、淡水～汽水生種、淡水生種の順に並べ、その中の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、淡水生種はさらに細かく生態区分し、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種はその内容を示す。産出個体数100個体以上の試料は、産出率2.0%以上の主要な種類について、主要珪藻化石群集の層位分布図を作成する。また、産出化石が現地性か異地性かを判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境を解析するにあたって、淡水生種は安藤(1990)、陸生珪藻は伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性は、Asai & Watanabe(1995)、渡辺（2005）の環境指標種を参考とする。

（３）花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛：比重2.3)よる有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9，濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。結果は同定・計数結果の一覧表に示す。

（４）寄生虫卵分析

分析にあたっては、金原・金原(1992)等を参考にした。寄生虫卵が堆積物1ccあたり10,000個体以上検出されるような場合は、簡便な方法で処理することによって観察可能である(金原・金原,1994)。概査の結果、寄生虫卵が検出されなかったことから、花粉分析に準じた方法で分析を行い、寄生虫卵の濃集を行っている。試料10ccを正確に秤り取る。これについて水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛，比重2.3)よる有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質除去、の順に物理・化学的処理を施した。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、同定・計数を行う。

（５）植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤(2004)の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物1gあたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物1gあたりの個数に換算)を求める。結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示すとともに、植物珪酸体含量を図示する。

（6）樹種同定

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。同定の根拠となる顕微鏡下での木材組織の特徴等については、島地・伊東(1982)、Wheeler他(1998)、Richter他(2006)を参考にする。また、各樹種の木材組織配列の特徴については、林(1991)、伊東(1995,1996,1997,1998,1999)や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースを参考にする。

（7）種実同定

種実を双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川,1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか,2000)等との比較対照から種類と部位を同定する。同定したイネの胚乳の粒長、粒幅、粒厚を、電子ノギスを用いて1/100mmまで計測する。また、佐藤(1988)による、炭化米の粒長×粒幅を粒大、粒長/粒幅を粒形の定義に従い、計測値からこれらの値を求める。

分析後の種実は、カマド焼土のイネ炭化胚乳4点を年代測定対象試料とし、他は容器にて保管する。

（8）微細物分析

土壌試料(SK1021：400cc(664.4g)、SK1085：40cc(50.2g))を水に浸し、0.5mm目の篩で水洗する。篩内の残渣を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、種実や炭化材などの植物遺体を抽出する。分析後の炭化材は、70℃48時間乾燥後の重量を求めた後、瓶に入れて保管する。

（9）土壌理化学分析

素堀小溝と基本土層は、特に地力に関する情報を得ることを目的とし、全炭素、全窒素、全リン酸、可給態リン酸、可給態窒素を測定する。一方、長方形土坑については土坑墓の可能性も考慮し、全炭素、全窒素、全リン酸を測定する。全炭素・全窒素はCNコーダー法、全リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、可給態リン酸はトルオーグ法、可給態窒素はリン酸緩衝液抽出－水蒸気蒸留法でそれぞれ行った（土壌環境分析法編集委員会,1997、小川ほか，1989)。以下に各項目の操作工程を示す。

試料を風乾後、土塊を軽く崩して2mmの篩でふるい分けをする。この篩通過試料を風乾細土試料とし、分析に供する。また、風乾細土試料の一部を乳鉢で粉砕し、0.5mm篩を全通させ、粉砕土試料を作成する。風乾細土試料については、105℃で4時間乾燥し、分析試料水分を求める。

1)全炭素・全窒素量

粉砕土試料500～1000mgを正確にはかり、サンプルボードに充填した後、CNコーダー（ヤナコ分析工業製）に挿入する。試料をキャリアガス（He）気流中で950℃に加熱燃焼し、発生した燃焼ガスを純化させ、$CO_2$及び$N_2$の組成にする。TCD検出器により炭素及び窒素の濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた試料中の水分から乾土あたりの全炭素量（C%）および全窒素量（N%）を求める。また、全炭素量を全窒素量で除し、C/N（炭素率）を算出する。

2)全リン酸

粉砕土試料1.00ｇをケルダールフラスコに秤りとり、はじめに硝酸（$HNO_3$）10mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸（$HClO_4$）20mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、蒸留水で100mlに定容し、ろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液（バナドモリブデン酸・硝酸液）を加えて分

光光度計によりリン酸（Ｐ２Ｏ５）濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（Ｐ２Ｏ５mg/g）を求める。

3)可給態リン酸（トルオーグ法）

風乾細土試料1.00ｇを300ml三角フラスコに秤りとり、0.002Ｎ硫酸溶液（pH3）200mlを加え、室温で１時間振とうし、ろ過する。ろ液一定量を試験管に採り、混合発色試薬を加えて分光光度計によりリン酸濃度を定量する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの可給態リン酸量（Ｐ２Ｏ５mg／乾土100ｇ）を求める。

4)可給態窒素

風乾細土試料10.00ｇを100ml三角フラスコにはかり、pH7.0リン酸緩衝液50mlを加え、室温で１時間振とうし、ろ過する。ろ液をケルダール分解し、水蒸気蒸留法によって窒素を測定する。この定量値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの可給態窒素量（Nmg／乾土100g）を求める。

（10）粒度分析

粒度分布は砕屑性堆積物研究会(1983)の方法を参考に礫・砂粒子画分はふるい分け法、シルト・粘土粒子画分はピペット法で行う。

試料を風乾して2mmφ篩でふるい分ける。2mmφ篩上粒子は水洗して重量を測定する。一方、2mmφ篩下粒子は40.00gをビーカーに秤量し、蒸留水と30%過酸化水素水を加え、熱板上で有機物分解を行う。分解終了後、蒸留水と分散剤（4%カルゴン）を加え、撹伴しながら30分間音波処理を行う。沈底瓶にこの懸濁液を移し、往復振とう機で1時間振とうする。振とう終了後、水で全量を1000mlにする。この沈底瓶を1分間手で激しく振り、直ちに静置する。ピペット法に準じて所定時間に所定深度から粘土・シルト画分(0.063mm＞)、粘土画分（0.0039mm＞）を10ml採取し、105℃で24時間乾燥させた後、重量を測定し加積通過率（質量%）を求める。ピペット法終了後、懸濁液を63μm篩で水洗いする。63μm篩残留物を105℃で５時間熱乾後、1.0、0.5、0.25、0.125mmφ篩でふるい分け、各篩毎に篩上残留物の質量を測定し、加積通過率（質量%）を求める。ピペット法およびふるい分けで求められる加積通過率（質量%）から粒径加積曲線を描き、Wentworth(1922）の粒径区分毎の質量を算出する。

## ３．結果

（１）放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表1、暦年較正結果を表2に示す。なお、暦年較正とは、大気中の14C濃度が一定で半減期が5568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の14C濃度の変動、及び半減期の違い（14Cの半減期5730±40年）を較正することである。暦年較正に関しては、本来10年単位での表記が通例とされるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算や再検討に対応するため、本報告では1年単位で表記している。また、δ13Cの値より、いずれの試料も、大気中の二酸化炭素起源の炭素であるため北半球の大気中炭素用の較正曲線を選択している。

暦年較正結果は、測定誤差σ、2σ双方の値を示す。σは統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、2σは真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2σの範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

（２）珪藻分析

表1　放射性炭素年代測定結果

| 試料番号 | 地区 | 地点・遺構名 | 層位 | 性状(樹種) | 補正年代 BP | δ13C (‰) | 測定年代 BP | Code No. | 測定機関番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 市道調査区 | SD09 | 仮1層 | 炭化材 | 470± 30 | -25.28±0.74 | 480± 30 | 9111- 1 | IAAA-52580 | |
| 2 | 市道調査区 | SD09 | 仮2層 | 炭化材 | 970± 30 | -26.05±0.74 | 980± 30 | 9111- 2 | IAAA-52581 | |
| 3 | 東側調査区 | SD09 | | 炭化材 | 1,550± 40 | -19.67±0.90 | 1,470± 30 | 9111- 3 | IAAA-52582 | |
| 4 | 東側調査区 | SI97 | | 炭化材 | 1,390± 40 | -26.35±1.07 | 1,390± 40 | 9111- 4 | IAAA-52583 | |
| 5 | 東側調査区 | SP139 | 黒褐色シルト | 炭化材 | 1,460± 40 | -27.33±1.02 | 1,500± 30 | 9111- 5 | IAAA-52584 | |
| 6 | 東側調査区 | SI166 | 7層 | 炭化材 | 1,380± 40 | -24.53±0.80 | 1,370± 30 | 9111- 6 | IAAA-52585 | 東畦畔 |
| 7 | 東側調査区 | SI166 | 8層上面 | 炭化材 | 1,530± 40 | -26.39±0.81 | 1,550± 30 | 9111- 7 | IAAA-52586 | 東畦畔 |
| 8 | 東側調査区 | SI166 | 床面 | 炭化材 | 1,440± 40 | -23.38±1.07 | 1,410± 30 | 9111- 8 | IAAA-52587 | 南東 |
| 9 | 東側調査区 | SI166-SK2 | 覆土 | 炭化材 | 1,280± 40 | -23.80±0.79 | 1,260± 30 | 9111- 9 | IAAA-52588 | |
| 10 | 東側調査区 | SD218 | 覆土 | 炭化材 | 1,280± 40 | -25.93±0.93 | 1,300± 30 | 9111-10 | IAAA-52589 | |
| 11 | 東側調査区 | SD354 | 覆土 | 炭化材 | 1,330± 40 | -22.64±0.95 | 1,290± 40 | 9111-11 | IAAA-52590 | |
| 12 | 東側調査区 | SI395 | 覆土 | 炭化材 | 1,280± 40 | -26.91±0.90 | 1,310± 30 | 9111-12 | IAAA-52591 | |
| 13 | 東側調査区 | SP432 | 覆土 | 炭化材 | 1,270± 40 | -26.94±0.87 | 1,310± 30 | 9111-13 | IAAA-52592 | |
| 14 | 東側調査区 | SK488 | 2層 | 炭化材 | 1,080± 40 | -30.59±0.99 | 1,170± 30 | 9111-14 | IAAA-52593 | |
| 15 | 東側調査区 | SI492 | 覆土 | 炭化材 | 1,240± 40 | -31.52±0.91 | 1,340± 30 | 9111-15 | IAAA-52594 | B地区 |
| 16 | 東側調査区 | SI492-P1 | 覆土 | 炭化材 | 1,250± 50 | -27.81±1.02 | 1,290± 40 | 9111-16 | IAAA-52595 | |
| 17 | 東側調査区 | SI492 | 焼土 | 炭化材 | 1,270± 40 | -29.52±1.04 | 1,340± 30 | 9111-17 | IAAA-52596 | E地区 |
| 18 | 東側調査区 | SI491 | 覆土 | 炭化材 | 1,560± 40 | -26.23±0.83 | 1,590± 30 | 9111-18 | IAAA-52597 | C地区かまど周辺 |
| 19 | 東側調査区 | SI494-P1 | 覆土 | 炭化材 | 1,240± 30 | -28.73±0.84 | 1,300± 30 | 9111-19 | IAAA-52598 | |
| 20 | 東側調査区 | SI494 | 覆土 | 炭化材 | 1,250± 40 | -27.81±0.98 | 1,290± 30 | 9111-20 | IAAA-52599 | D地区かまど周辺 |
| 21 | 東側調査区 | SI494 | 焼土(3層) | 炭化材 | 1,280± 30 | -27.19±0.98 | 1,320± 30 | 9111-21 | IAAA-52600 | かまど |
| 22 | 西側調査区 | SP556 | 覆土 | 炭化材 | 1,090± 40 | -31.72±0.84 | 1,200± 40 | 9111-22 | IAAA-52601 | |
| 23 | 西側調査区 | SI600 | 覆土 | 炭化材 | 1,640± 40 | -26.51±0.90 | 1,660± 30 | 9111-23 | IAAA-52602 | |
| 24 | 西側調査区 | SX649 | 覆土 | 炭化材 | 1,160± 40 | -29.67±1.08 | 1,240± 30 | 9111-24 | IAAA-52603 | |
| 25 | 西側調査区 | SI650 | 覆土 | 炭化材 | 1,180± 30 | -33.54±0.76 | 1,320± 30 | 9111-25 | IAAA-52604 | |
| 26 | 西側調査区 | SI650 | 覆土(3層) | 炭化材 | 1,230± 40 | -30.84±0.85 | 1,330± 30 | 9111-26 | IAAA-52605 | 西側焼土 |
| 27 | 西側調査区 | 包含層? | 5層? | 炭化材 | 4,990± 40 | -32.12±0.95 | 5,110± 40 | 9111-27 | IAAA-52606 | |
| 28 | 西側調査区 | 包含層? | 5層? | 炭化材 | 5,300± 40 | -30.37±0.89 | 5,390± 40 | 9111-28 | IAAA-52607 | |
| 29 | 東側調査区 | SD09 | 1層東岸 | 土壌 | 1,100± 40 | -20.40±0.97 | 1,030± 30 | 9111-29 | IAAA-52608 | |
| 30 | 東側調査区 | SD09 | 1層西岸 | 土壌 | 1,170± 40 | -15.84±0.90 | 1,020± 30 | 9111-30 | IAAA-52609 | |
| 31 | 西側調査区 | SP516 | 最下層 | 土壌 | 2,210± 40 | -17.12±1.03 | 2,080± 30 | 9111-31 | IAAA-52610 | SB03 |
| 32 | 西側調査区 | SP637 | 最下層 | 土壌 | 3,210± 40 | -13.74±0.80 | 3,030± 40 | 9111-32 | IAAA-52611 | SB03 |
| 33 | 西側調査区 | SP636 | 最下層 | 土壌 | 2,100± 40 | -20.02±0.99 | 2,010± 30 | 9111-33 | IAAA-52612 | SB03 |
| 34 | 西側調査区 | SP638 | 最下層 | 炭化材 | 3,080± 50 | -34.94±0.96 | 3,240± 50 | 9111-34 | IAAA-52613 | SB03 |
| 35 | 東側調査区 | 風倒木 | | 炭化材 | 3,080± 40 | -29.17±0.89 | 3,140± 40 | 9111-35 | IAAA-52614 | |
| 36 | 東側調査区 | SP294 | 最下層(4層) | 炭化材 | 1,310± 40 | -23.20±1.01 | 1,280± 30 | 9111-36 | IAAA-52615 | SB04 |
| 37 | 東側調査区 | SP293 | 最下層(3層) | 土壌 | 2,100± 40 | -18.44±1.08 | 1,990± 30 | 9111-37 | IAAA-52616 | SB04 |
| 38 | 東側調査区 | SP388 | 最下層(3層) | 炭化材 | 1,210± 40 | -26.41±0.80 | 1,230± 30 | 9111-38 | IAAA-52617 | SB04 |
| 39 | 東側調査区 | SP477 | 最下層(3層) | 土壌 | 2,040± 40 | -21.58±0.83 | 1,990± 30 | 9111-39 | IAAA-52618 | SB02 |
| 40 | 東側調査区 | SD09 | | 炭化材 | 1,120± 40 | -32.45±0.85 | 1,250± 30 | 9111-40 | IAAA-52619 | 試料No.45 |
| 41 | 東側調査区 | SD09 | | 炭化材 | 910± 30 | -33.34±0.95 | 1,050± 30 | 9111-41 | IAAA-52620 | 試料No.46 |
| 42 | 東側調査区 | SD09 | | 炭化材 | 1,000± 40 | -31.27±0.91 | 1,100± 30 | 9111-42 | IAAA-52621 | 試料No.50 |
| | | SI491 | カマド焼土 | 炭化材 | 1,290± 30 | -28.15±0.80 | 1,340± 30 | 9455- 1 | IAAA-61666 | |
| | | SI491 | カマド焼土 | 炭化種実 | 1,260± 30 | -25.84±0.79 | 1,270± 30 | 9455- 2 | IAAA-61667 | |
| | | SI492 | カマド焼土 | 炭化材 | 1,240± 30 | -26.45±0.81 | 1,260± 30 | 9455- 3 | IAAA-61668 | |
| | | SI493 | 床土 | 炭化材 | 1,300± 30 | -26.65±0.89 | 1,320± 30 | 9455- 4 | IAAA-61669 | |
| | | SI494 | カマド焼土 | 炭化材 | 1,280± 30 | -21.67±0.88 | 1,220± 30 | 9455- 5 | IAAA-61670 | |
| | | SI495 | 床土 | 炭化材 | 1,370± 30 | -27.20±0.86 | 1,410± 30 | 9455- 6 | IAAA-61671 | |

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

結果を表3、図2に示す。SD09試料番号2は珪藻化石が豊富に産出したが、SD09試料番号1では少なかった。また、珪藻化石が産出した試料における完形殻の出現率は約50%、産出分類群数は合計で24属47分類群である。以下に、各試料の産状を示す。

1)SD09試料番号2

淡水域に生育する水生珪藻（以下、水生珪藻と言う）が全体の約95%を占める。淡水性種の生態性(塩分濃度、水素イオン濃度、流水に対する適応能)の特徴は、貧塩不定性種、真＋好アルカリ性種、真＋好流水性種が多産する。主な産出種は、流水性のCymbella turgidula var. nipponica、流水性で中～下流性河川指標種群のCeratoneis arcus var. recta、Cymbella turgidula、Reimeria sinuata、流水不定性のEncyonema silesiacum、Gomphonema parvulum等が10%程度産出する。これら流水性種は、汚濁の影響が小さい水域に生育する好清水性種でもある。

表2　暦年較正結果(1)

| 試料番号 | 地区 | 遺構名 | 地点・層位名 | 補正年代(BP) | | 暦年較正年代(cal) | 相対比 | Code No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 市道調査区 | SD-09 | 仮1層 | 470±33 | σ | cal AD 1,423 － cal AD 1,446 | cal BP 527 － 504 | 1.000 | 9111－1 |
| | | | | | 2σ | cal AD 1,408 － cal AD 1,465 | cal BP 542 － 485 | 1.000 | |
| 2 | 市道調査区 | SD-09 | 仮2層 | 965±32 | σ | cal AD 1,022 － cal AD 1,048 | cal BP 928 － 902 | 0.374 | 9111－2 |
| | | | | | | cal AD 1,086 － cal AD 1,123 | cal BP 864 － 827 | 0.469 | |
| | | | | | | cal AD 1,138 － cal AD 1,150 | cal BP 812 － 800 | 0.157 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 1,018 － cal AD 1,155 | cal BP 932 － 795 | 1.000 | |
| 3 | 東側調査区 | SD-09 | | 1552±36 | σ | cal AD 434 － cal AD 493 | cal BP 1,516 － 1,457 | 0.617 | 9111－3 |
| | | | | | | cal AD 506 － cal AD 520 | cal BP 1,444 － 1,430 | 0.121 | |
| | | | | | | cal AD 527 － cal AD 551 | cal BP 1,423 － 1,399 | 0.262 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 423 － cal AD 584 | cal BP 1,527 － 1,366 | 1.000 | |
| 4 | 東側調査区 | SI97 | | 1393±35 | σ | cal AD 622 － cal AD 662 | cal BP 1,328 － 1,288 | 1.000 | 9111－4 |
| | | | | | 2σ | cal AD 592 － cal AD 680 | cal BP 1,358 － 1,270 | 1.000 | |
| 5 | 東側調査区 | SP139 | 黒褐色シルト | 1461±35 | σ | cal AD 577 － cal AD 637 | cal BP 1,373 － 1,313 | 1.000 | 9111－5 |
| | | | | | 2σ | cal AD 547 － cal AD 649 | cal BP 1,403 － 1,301 | 1.000 | |
| 6 | 東側調査区 | SI166 | ⑦層 | 1377±35 | σ | cal AD 635 － cal AD 672 | cal BP 1,315 － 1,278 | 1.000 | 9111－6 |
| | | | | | 2σ | cal AD 599 － cal AD 690 | cal BP 1,351 － 1,260 | 0.987 | |
| | | | | | | cal AD 752 － cal AD 761 | cal BP 1,198 － 1,189 | 0.013 | |
| 7 | 東側調査区 | SI166 | ⑧層上面 | 1529±36 | σ | cal AD 439 － cal AD 486 | cal BP 1,511 － 1,464 | 0.387 | 9111－7 |
| | | | | | | cal AD 532 － cal AD 585 | cal BP 1,418 － 1,365 | 0.613 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 430 － cal AD 603 | cal BP 1,520 － 1,347 | 1.000 | |
| 8 | 東側調査区 | SI166 | 床面 | 1441±35 | σ | cal AD 597 － cal AD 647 | cal BP 1,353 － 1,303 | 1.000 | 9111－8 |
| | | | | | 2σ | cal AD 560 － cal AD 656 | cal BP 1,390 － 1,294 | 1.000 | |
| 9 | 東側調査区 | SI166-SK2 | 覆土 | 1280±35 | σ | cal AD 679 － cal AD 724 | cal BP 1,271 － 1,226 | 0.580 | 9111－9 |
| | | | | | | cal AD 739 － cal AD 771 | cal BP 1,211 － 1,179 | 0.420 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 658 － cal AD 782 | cal BP 1,292 － 1,168 | 0.952 | |
| | | | | | | cal AD 789 － cal AD 812 | cal BP 1,161 － 1,138 | 0.037 | |
| | | | | | | cal AD 845 － cal AD 856 | cal BP 1,105 － 1,094 | 0.011 | |
| 10 | 東側調査区 | SD218 | 覆土 | 1284±36 | σ | cal AD 675 － cal AD 722 | cal BP 1,275 － 1,228 | 0.603 | 9111－10 |
| | | | | | | cal AD 740 － cal AD 770 | cal BP 1,210 － 1,180 | 0.397 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 657 － cal AD 782 | cal BP 1,293 － 1,168 | 0.961 | |
| | | | | | | cal AD 789 － cal AD 811 | cal BP 1,161 － 1,139 | 0.032 | |
| | | | | | | cal AD 846 － cal AD 855 | cal BP 1,104 － 1,095 | 0.007 | |
| 11 | 東側調査区 | SD354 | 覆土 | 1331±39 | σ | cal AD 652 － cal AD 694 | cal BP 1,298 － 1,256 | 0.767 | 9111－11 |
| | | | | | | cal AD 703 － cal AD 706 | cal BP 1,247 － 1,244 | 0.028 | |
| | | | | | | cal AD 748 － cal AD 765 | cal BP 1,202 － 1,185 | 0.205 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 645 － cal AD 730 | cal BP 1,305 － 1,220 | 0.770 | |
| | | | | | | cal AD 735 － cal AD 772 | cal BP 1,215 － 1,178 | 0.230 | |
| 12 | 東側調査区 | SI395 | 覆土 | 1276±36 | σ | cal AD 682 － cal AD 727 | cal BP 1,268 － 1,223 | 0.562 | 9111－12 |
| | | | | | | cal AD 737 － cal AD 771 | cal BP 1,213 － 1,179 | 0.438 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 660 － cal AD 783 | cal BP 1,290 － 1,167 | 0.924 | |
| | | | | | | cal AD 788 － cal AD 819 | cal BP 1,162 － 1,131 | 0.054 | |
| | | | | | | cal AD 842 － cal AD 859 | cal BP 1,108 － 1,091 | 0.022 | |
| 13 | 東側調査区 | SP432 | 覆土 | 1273±35 | σ | cal AD 685 － cal AD 729 | cal BP 1,265 － 1,221 | 0.551 | 9111－13 |
| | | | | | | cal AD 736 － cal AD 772 | cal BP 1,214 － 1,178 | 0.449 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 662 － cal AD 783 | cal BP 1,288 － 1,167 | 0.916 | |
| | | | | | | cal AD 788 － cal AD 821 | cal BP 1,162 － 1,129 | 0.060 | |
| | | | | | | cal AD 842 － cal AD 859 | cal BP 1,108 － 1,091 | 0.024 | |
| 14 | 東側調査区 | SK488 | 2層 | 1079±37 | σ | cal AD 899 － cal AD 919 | cal BP 1,051 － 1,031 | 0.265 | 9111－14 |
| | | | | | | cal AD 949 － cal AD 998 | cal BP 1,001 － 952 | 0.637 | |
| | | | | | | cal AD 1,004 － cal AD 1,013 | cal BP 946 － 937 | 0.098 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 893 － cal AD 1,019 | cal BP 1,057 － 931 | 1.000 | |
| 15 | 東側調査区 | SI492 | 覆土 | 1235±35 | σ | cal AD 694 － cal AD 703 | cal BP 1,256 － 1,247 | 0.060 | 9111－15 |
| | | | | | | cal AD 706 － cal AD 748 | cal BP 1,244 － 1,202 | 0.369 | |
| | | | | | | cal AD 765 － cal AD 783 | cal BP 1,185 － 1,167 | 0.173 | |
| | | | | | | cal AD 787 － cal AD 821 | cal BP 1,163 － 1,129 | 0.264 | |
| | | | | | | cal AD 842 － cal AD 860 | cal BP 1,108 － 1,090 | 0.134 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 687 － cal AD 880 | cal BP 1,263 － 1,070 | 1.000 | |
| 16 | 東側調査区 | SI492-P1 | 覆土 | 1247±46 | σ | cal AD 685 － cal AD 782 | cal BP 1,265 － 1,168 | 0.799 | 9111－16 |
| | | | | | | cal AD 789 － cal AD 811 | cal BP 1,161 － 1,139 | 0.148 | |
| | | | | | | cal AD 846 － cal AD 856 | cal BP 1,104 － 1,094 | 0.053 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 672 － cal AD 882 | cal BP 1,278 － 1,068 | 1.000 | |
| 17 | 東側調査区 | SI492 | 焼土 | 1265±37 | σ | cal AD 686 － cal AD 774 | cal BP 1,264 － 1,176 | 1.000 | 9111－17 |
| | | | | | 2σ | cal AD 665 － cal AD 828 | cal BP 1,285 － 1,122 | 0.945 | |
| | | | | | | cal AD 838 － cal AD 866 | cal BP 1,112 － 1,084 | 0.055 | |
| 18 | 東側調査区 | SI491 | 覆土 | 1564±36 | σ | cal AD 434 － cal AD 494 | cal BP 1,516 － 1,456 | 0.661 | 9111－18 |
| | | | | | | cal AD 506 － cal AD 522 | cal BP 1,444 － 1,428 | 0.176 | |
| | | | | | | cal AD 526 － cal AD 540 | cal BP 1,424 － 1,410 | 0.162 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 417 － cal AD 572 | cal BP 1,533 － 1,378 | 1.000 | |
| 19 | 東側調査区 | SI494-P1 | 覆土 | 1237±33 | σ | cal AD 692 － cal AD 749 | cal BP 1,258 － 1,201 | 0.499 | 9111－19 |
| | | | | | | cal AD 764 － cal AD 783 | cal BP 1,186 － 1,167 | 0.179 | |
| | | | | | | cal AD 788 － cal AD 814 | cal BP 1,162 － 1,136 | 0.219 | |
| | | | | | | cal AD 843 － cal AD 858 | cal BP 1,107 － 1,092 | 0.103 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 686 － cal AD 877 | cal BP 1,264 － 1,073 | 1.000 | |
| 20 | 東側調査区 | SI494 | 覆土 | 1248±37 | σ | cal AD 686 － cal AD 781 | cal BP 1,264 － 1,169 | 0.887 | 9111－20 |
| | | | | | | cal AD 791 － cal AD 807 | cal BP 1,159 － 1,143 | 0.113 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 677 － cal AD 873 | cal BP 1,273 － 1,077 | 1.000 | |
| 21 | 東側調査区 | SI494 | 焼土(③層) | 1281±34 | σ | cal AD 678 － cal AD 723 | cal BP 1,272 － 1,227 | 0.582 | 9111－21 |
| | | | | | | cal AD 740 － cal AD 770 | cal BP 1,210 － 1,180 | 0.418 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 658 － cal AD 782 | cal BP 1,292 － 1,168 | 0.965 | |
| | | | | | | cal AD 789 － cal AD 810 | cal BP 1,161 － 1,140 | 0.030 | |

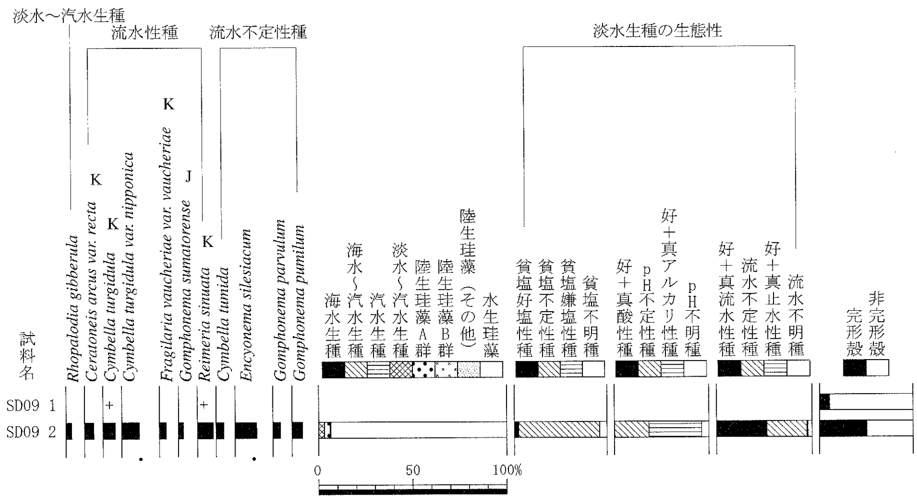
表2　暦年較正結果(2)

| 試料番号 | 地区 | 遺構名 | 地点・層位名 | 補正年代(BP) | | 暦年較正年代(cal) | | 相対比 | Code No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 東側調査区 | SI494 | 焼土(③層) | | 2σ | cal AD 848 - cal AD 853 | cal BP 1,102 - 1,097 | 0.005 | 9111-21 |
| 22 | 西側調査区 | SP556 | 覆土 | 1090±40 | σ | cal AD 896 - cal AD 924 | cal BP 1,054 - 1,026 | 0.348 | 9111-22 |
| | | | | | | cal AD 939 - cal AD 992 | cal BP 1,011 - 958 | 0.652 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 880 - cal AD 1,022 | cal BP 1,070 - 928 | 1.000 | |
| 23 | 西側調査区 | SI600 | 覆土 | 1637±36 | σ | cal AD 352 - cal AD 367 | cal BP 1,598 - 1,583 | 0.090 | 9111-23 |
| | | | | | | cal AD 380 - cal AD 436 | cal BP 1,570 - 1,514 | 0.685 | |
| | | | | | | cal AD 489 - cal AD 510 | cal BP 1,461 - 1,440 | 0.140 | |
| | | | | | | cal AD 516 - cal AD 529 | cal BP 1,434 - 1,421 | 0.085 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 268 - cal AD 271 | cal BP 1,682 - 1,679 | 0.003 | |
| | | | | | | cal AD 335 - cal AD 536 | cal BP 1,615 - 1,414 | 0.997 | |
| 24 | 西側調査区 | SX649 | 覆土 | 1160±37 | σ | cal AD 781 - cal AD 789 | cal BP 1,169 - 1,161 | 0.062 | 9111-24 |
| | | | | | | cal AD 809 - cal AD 898 | cal BP 1,141 - 1,052 | 0.731 | |
| | | | | | | cal AD 920 - cal AD 945 | cal BP 1,030 - 1,005 | 0.208 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 777 - cal AD 972 | cal BP 1,173 - 978 | 1.000 | |
| 25 | 西側調査区 | SI650 | 覆土 | 1179±32 | σ | cal AD 781 - cal AD 791 | cal BP 1,169 - 1,159 | 0.105 | 9111-25 |
| | | | | | | cal AD 807 - cal AD 889 | cal BP 1,143 - 1,061 | 0.895 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 772 - cal AD 901 | cal BP 1,178 - 1,049 | 0.883 | |
| | | | | | | cal AD 917 - cal AD 966 | cal BP 1,033 - 984 | 0.117 | |
| 26 | 西側調査区 | SI650 | 覆土(③層) | 1232±34 | σ | cal AD 710 - cal AD 746 | cal BP 1,240 - 1,204 | 0.321 | 9111-26 |
| | | | | | | cal AD 766 - cal AD 827 | cal BP 1,184 - 1,123 | 0.493 | |
| | | | | | | cal AD 839 - cal AD 864 | cal BP 1,111 - 1,086 | 0.186 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 688 - cal AD 882 | cal BP 1,262 - 1,068 | 1.000 | |
| 27 | 西側調査区 | 包含層? | 5層? | 4992±39 | σ | cal BC 3,893 - cal BC 3,883 | cal BP 5,843 - 5,833 | 0.077 | 9111-27 |
| | | | | | | cal BC 3,799 - cal BC 3,707 | cal BP 5,749 - 5,657 | 0.923 | |
| | | | | | 2σ | cal BC 3,941 - cal BC 3,858 | cal BP 5,891 - 5,808 | 0.213 | |
| | | | | | | cal BC 3,816 - cal BC 3,692 | cal BP 5,766 - 5,642 | 0.956 | |
| | | | | | | cal BC 3,685 - cal BC 3,661 | cal BP 5,635 - 5,611 | 0.044 | |
| 28 | 西側調査区 | 包含層? | 5層? | 5301±42 | σ | cal BC 4,228 - cal BC 4,199 | cal BP 6,178 - 6,149 | 0.033 | 9111-28 |
| | | | | | | cal BC 4,170 - cal BC 4,090 | cal BP 6,120 - 6,040 | 0.049 | |
| | | | | | | cal BC 4,081 - cal BC 4,050 | cal BP 6,031 - 6,000 | 0.918 | |
| | | | | | 2σ | cal BC 4,253 - cal BC 4,037 | cal BP 6,203 - 5,987 | 0.956 | |
| | | | | | | cal BC 4,021 - cal BC 3,995 | cal BP 5,971 - 5,945 | 0.044 | |
| 29 | 東側調査区 | SD09 | 1層東岸 | 1103±36 | σ | cal AD 895 - cal AD 924 | cal BP 1,055 - 1,026 | 0.386 | 9111-29 |
| | | | | | | cal AD 938 - cal AD 984 | cal BP 1,012 - 966 | 0.614 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 872 - cal AD 1,019 | cal BP 1,078 - 931 | 1.000 | |
| 30 | 東側調査区 | SD09 | 1層西岸 | 1171±36 | σ | cal AD 780 - cal AD 792 | cal BP 1,170 - 1,158 | 0.113 | 9111-30 |
| | | | | | | cal AD 804 - cal AD 894 | cal BP 1,146 - 1,056 | 0.858 | |
| | | | | | | cal AD 929 - cal AD 932 | cal BP 1,021 - 1,018 | 0.030 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 773 - cal AD 971 | cal BP 1,177 - 979 | 1.000 | |
| 31 | 西側調査区 | SP516 | 最下層 | 2209±38 | σ | cal BC 360 - cal BC 344 | cal BP 2,310 - 2,294 | 0.131 | 9111-31 |
| | | | | | | cal BC 323 - cal BC 273 | cal BP 2,273 - 2,223 | 0.409 | |
| | | | | | | cal BC 261 - cal BC 205 | cal BP 2,211 - 2,155 | 0.460 | |
| | | | | | 2σ | cal BC 384 - cal BC 191 | cal BP 2,334 - 2,141 | 1.000 | |
| 32 | 西側調査区 | SP637 | 最下層 | 3212±36 | σ | cal BC 1,506 - cal BC 1,439 | cal BP 3,456 - 3,389 | 1.000 | 9111-32 |
| | | | | | 2σ | cal BC 1,605 - cal BC 1,579 | cal BP 3,555 - 3,529 | 0.036 | |
| | | | | | | cal BC 1,536 - cal BC 1,413 | cal BP 3,486 - 3,363 | 0.964 | |
| 33 | 西側調査区 | SP636 | 最下層 | 2096±37 | σ | cal BC 169 - cal BC 88 | cal BP 2,119 - 2,038 | 0.804 | 9111-33 |
| | | | | | | cal BC 76 - cal BC 56 | cal BP 2,026 - 2,006 | 0.196 | |
| | | | | | 2σ | cal BC 341 - cal BC 327 | cal BP 2,291 - 2,277 | 0.014 | |
| | | | | | | cal BC 204 - cal BC 37 | cal BP 2,154 - 1,987 | 0.970 | |
| | | | | | | cal BC 28 - cal BC 22 | cal BP 1,978 - 1,972 | 0.007 | |
| | | | | | | cal BC 10 - cal BC 2 | cal BP 1,960 - 1,952 | 0.009 | |
| 34 | 西側調査区 | SP638 | 最下層 | 3079±47 | σ | cal BC 1,412 - cal BC 1,304 | cal BP 3,362 - 3,254 | 1.000 | 9111-34 |
| | | | | | 2σ | cal BC 1,446 - cal BC 1,252 | cal BP 3,396 - 3,202 | 0.963 | |
| | | | | | | cal BC 1,242 - cal BC 1,213 | cal BP 3,192 - 3,163 | 0.037 | |
| 35 | 東側調査区 | 風倒木 | | 3075±37 | σ | cal BC 1,404 - cal BC 1,312 | cal BP 3,354 - 3,262 | 1.000 | 9111-35 |
| | | | | | 2σ | cal BC 1,429 - cal BC 1,261 | cal BP 3,379 - 3,211 | 1.000 | |
| 36 | 東側調査区 | SP294 | 最下層(④層) | 1312±37 | σ | cal AD 661 - cal AD 709 | cal BP 1,289 - 1,241 | 0.730 | 9111-36 |
| | | | | | | cal AD 747 - cal AD 766 | cal BP 1,203 - 1,184 | 0.270 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 654 - cal AD 773 | cal BP 1,296 - 1,177 | 1.000 | |
| 37 | 東側調査区 | SP293 | 最下層(③層) | 2095±38 | σ | cal BC 168 - cal BC 87 | cal BP 2,118 - 2,037 | 0.796 | 9111-37 |
| | | | | | | cal BC 77 - cal BC 55 | cal BP 2,027 - 2,005 | 0.204 | |
| | | | | | 2σ | cal BC 342 - cal BC 327 | cal BP 2,292 - 2,277 | 0.015 | |
| | | | | | | cal BC 204 - cal BC 37 | cal BP 2,154 - 1,987 | 0.963 | |
| | | | | | | cal BC 30 - cal BC 20 | cal BP 1,980 - 1,970 | 0.010 | |
| | | | | | | cal BC 12 - cal BC 2 | cal BP 1,962 - 1,952 | 0.012 | |
| 38 | 東側調査区 | SP388 | 最下層(③層) | 1208±36 | σ | cal AD 776 - cal AD 876 | cal BP 1,174 - 1,074 | 1.000 | 9111-38 |
| | | | | | 2σ | cal AD 689 - cal AD 751 | cal BP 1,261 - 1,199 | 0.162 | |
| | | | | | | cal AD 761 - cal AD 895 | cal BP 1,189 - 1,055 | 0.828 | |
| | | | | | | cal AD 927 - cal AD 935 | cal BP 1,023 - 1,015 | 0.010 | |
| 39 | 東側調査区 | SP477 | 最下層(③層) | 2044±36 | σ | cal BC 104 - cal AD 3 | cal BP 2,054 - 1,947 | 1.000 | 9111-39 |
| | | | | | 2σ | cal BC 167 - cal AD 27 | cal BP 2,117 - 1,923 | 0.989 | |
| | | | | | | cal AD 41 - cal AD 48 | cal BP 1,909 - 1,902 | 0.011 | |
| 40 | 東側調査区 | SD09 | | 1122±36 | σ | cal AD 891 - cal AD 972 | cal BP 1,059 - 978 | 1.000 | 9111-40 |
| | | | | | 2σ | cal AD 782 - cal AD 789 | cal BP 1,168 - 1,161 | 0.012 | |
| | | | | | | cal AD 810 - cal AD 848 | cal BP 1,140 - 1,102 | 0.061 | |
| | | | | | | cal AD 855 - cal AD 995 | cal BP 1,095 - 955 | 0.923 | |
| | | | | | | cal AD 1,008 - cal AD 1,011 | cal BP 942 - 939 | 0.005 | |
| 41 | 東側調査区 | SD09 | | 912±33 | σ | cal AD 1,044 - cal AD 1,101 | cal BP 906 - 849 | 0.590 | 9111-41 |
| | | | | | | cal AD 1,119 - cal AD 1,143 | cal BP 831 - 807 | 0.241 | |

表2　暦年較正結果(3)

| 試料番号 | 地区 | 遺構名 | 地点・層位名 | 補正年代(BP) | | 暦年較正年代(cal) | 相対比 | Code No. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 東側調査区 | SD09 | | 912±33 | σ | cal AD 1,146 - cal AD 1,163 cal BP 804 - 787 | 0.169 | 9111-41 |
| | | | | | 2σ | cal AD 1,032 - cal AD 1,190 cal BP 918 - 760 | 0.968 | |
| | | | | | | cal AD 1,196 - cal AD 1,207 cal BP 754 - 743 | 0.032 | |
| 42 | 東側調査区 | SD09 | | 997±36 | σ | cal AD 992 - cal AD 1,044 cal BP 958 - 906 | 0.776 | 9111-42 |
| | | | | | | cal AD 1,100 - cal AD 1,119 cal BP 850 - 831 | 0.188 | |
| | | | | | | cal AD 1,142 - cal AD 1,146 cal BP 808 - 804 | 0.035 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 980 - cal AD 1,059 cal BP 970 - 891 | 0.630 | |
| | | | | | | cal AD 1,067 - cal AD 1,072 cal BP 883 - 878 | 0.007 | |
| | | | | | | cal AD 1,075 - cal AD 1,155 cal BP 875 - 795 | 0.363 | |
| | 東側調査区 | SI491 | カマド焼土 | 1,286± 34 | σ | cal AD 674 - cal AD 720 cal BP 1,276 - 1,230 | 0.608 | 9455-1 |
| | | | | | | cal AD 741 - cal AD 769 cal BP 1,209 - 1,181 | 0.392 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 657 - cal AD 780 cal BP 1,293 - 1,170 | 0.982 | |
| | | | | | | cal AD 792 - cal AD 805 cal BP 1,158 - 1,145 | 0.018 | |
| | 東側調査区 | SI491 | カマド焼土 | 1,255± 33 | σ | cal AD 687 - cal AD 777 cal BP 1,263 - 1,173 | 1.000 | 9455-2 |
| | | | | | 2σ | cal AD 672 - cal AD 829 cal BP 1,278 - 1,121 | 0.926 | |
| | | | | | | cal AD 837 - cal AD 867 cal BP 1,113 - 1,083 | 0.074 | |
| | 東側調査区 | SI492 | カマド焼土 | 1,237± 33 | σ | cal AD 692 - cal AD 749 cal BP 1,258 - 1,201 | 0.499 | 9455-3 |
| | | | | | | cal AD 764 - cal AD 783 cal BP 1,186 - 1,167 | 0.179 | |
| | | | | | | cal AD 788 - cal AD 814 cal BP 1,162 - 1,136 | 0.219 | |
| | | | | | | cal AD 843 - cal AD 858 cal BP 1,107 - 1,092 | 0.103 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 686 - cal AD 877 cal BP 1,264 - 1,073 | 1.000 | |
| | 東側調査区 | SI493 | 床土 | 1,295± 33 | σ | cal AD 669 - cal AD 715 cal BP 1,281 - 1,235 | 0.654 | 9455-4 |
| | | | | | | cal AD 744 - cal AD 768 cal BP 1,206 - 1,182 | 0.346 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 659 - cal AD 775 cal BP 1,291 - 1,175 | 1.000 | |
| | 東側調査区 | SI494 | カマド焼土 | 1,277± 34 | σ | cal AD 682 - cal AD 725 cal BP 1,268 - 1,225 | 0.569 | 9455-5 |
| | | | | | | cal AD 738 - cal AD 771 cal BP 1,212 - 1,179 | 0.431 | |
| | | | | | 2σ | cal AD 660 - cal AD 783 cal BP 1,290 - 1,167 | 0.947 | |
| | | | | | | cal AD 789 - cal AD 813 cal BP 1,161 - 1,137 | 0.040 | |
| | | | | | | cal AD 844 - cal AD 857 cal BP 1,106 - 1,093 | 0.013 | |
| | 東側調査区 | SI495 | 床土 | 1,370± 33 | σ | cal AD 641 - cal AD 673 cal BP 1,309 - 1,277 | 1.000 | 9455-6 |
| | | | | | 2σ | cal AD 605 - cal AD 691 cal BP 1,345 - 1,259 | 0.980 | |
| | | | | | | cal AD 751 - cal AD 762 cal BP 1,199 - 1,188 | 0.020 | |

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である
5)相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。いずれも100個体以上検出された試料について示す。
なお、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

**図2　主要珪藻化石群集の層位分布**

2)SD09試料番号1

陸上のコケや土壌表面など多少の湿り気を保持した好気的環境に耐性のある陸生珪藻のHantzschia amphioxys、Pinnularia borealis、Luticola muticaや流水性で中～下流性河川指標種群のCymbella turgidula、Reimeria sinuata等が少量産出する。これらの陸生珪藻は、陸生珪藻の中でも耐乾性の高い陸生珪藻A群とされる。

（３）花粉分析

結果を表4に示す。SD09 試料番号1における花粉化石の保存状態は極めて不良であり、ほとんど検出されない。また、試料番号2では、シダ類胞子が多く検出される程度である。

表3　珪藻分析結果

| 種　　類 | 生態性 | | | 環境 | SD09 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 塩分 | pH | 流水 | 指標種 | 1 | 2 |
| Nitzschia brevissima Grunow | Ogh-Meh | al-il | ind | RB,U | 1 | – |
| Rhopalodia gibberula (Ehr.)O.Muller | Ogh-Meh | al-il | ind | | – | 6 |
| Achnanthes inflata (Kuetz.)Grunow | Ogh-ind | al-il | r-ph | T | – | 1 |
| Achnanthes subhudsonis Hustedt var. subhudsonis | Ogh-ind | ind | r-ph | T | – | 1 |
| Achnanthidium convergens (H.Kobayasi)H.Kobayasi | Ogh-ind | ind | r-ph | T | – | 2 |
| Caloneis silicula (Ehr.)Cleve var. silicula | Ogh-ind | al-il | ind | | – | 1 |
| Caloneis spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 1 | – |
| Ceratoneis arcus var. hattoriana Meister | Ogh-ind | ind | r-bi | T,J | – | 3 |
| Ceratoneis arcus var. recta (Cl.)Krasske | Ogh-ind | ind | r-bi | T | – | 10 |
| Ceratoneis spp. | Ogh-unk | unk | unk | | – | 1 |
| Cocconeis euglypta Ehrenberg | Ogh-ind | al-il | r-ph | T | – | 2 |
| Cocconeis lineata Ehrenberg | Ogh-ind | al-il | r-ph | T | – | 3 |
| Cocconeis placentula Ehr. var. placentula | Ogh-ind | al-il | ind | U | – | 4 |
| Cocconeis spp. | Ogh-unk | unk | unk | | – | 3 |
| Cymbella affinis Kuetzing | Ogh-ind | al-il | ind | T | – | 1 |
| Cymbella gracilis (Ehr.)Kuetzing | Ogh-ind | ind | l-ph | T | – | 1 |
| Cymbella tumida (Breb.)Van Heurck | Ogh-ind | al-il | ind | T | – | 8 |
| Cymbella turgidula Grunow | Ogh-ind | al-il | r-ph | K,T | 2 | 13 |
| Cymbella turgidula var. nipponica Skvortzow | Ogh-ind | al-il | r-ph | T | – | 19 |
| Cymbella spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 2 | 2 |
| Diatoma mesodon (Ehr.)Kuetzing var. mesodon | Ogh-ind | al-il | r-bi | K,T | – | 4 |
| Encyonema lange-bertalotii Krammer | Ogh-ind | ind | ind | T | – | 1 |
| Encyonema silesiacum (Bleisch)D.G.Mann | Ogh-ind | ind | ind | T | – | 23 |
| Epithemia adnata (Kuetz.)Brebisson | Ogh-ind | al-bi | ind | | – | 2 |
| Epithemia spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 1 | – |
| Eunotia spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 1 | – |
| Fragilaria vaucheriae (Kuetz.)Petersen var. vaucheriae | Ogh-ind | al-il | r-ph | K,T | – | 7 |
| Frustulia vulgaris (Thwait.)De Toni var. vulgaris | Ogh-ind | al-il | ind | U | – | 3 |
| Gomphoneis heterominuta Mayama et Kawashima | Ogh-ind | al-il | r-ph | T | – | 1 |
| Gomphoneis tetrastigmata (Horikawa et Okuno)Ohtsuka | Ogh-ind | al-il | r-ph | K,T | – | 3 |
| Gomphonema christensenii Lowe et Kociolek | Ogh-unk | unk | r-ph | T | 1 | 2 |
| Gomphonema clevei Fricke | Ogh-ind | al-bi | r-ph | T | – | 1 |
| Gomphonema gracile Ehrenberg | Ogh-ind | al-il | l-ph | O,U | – | 1 |
| Gomphonema inaequilongum (H.Kobayasi)H.Kobayasi | Ogh-ind | ind | r-ph | | – | 1 |
| Gomphonema parvulum (Kuetz.)Kuetzing | Ogh-ind | ind | ind | U | – | 8 |
| Gomphonema pumilum (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot | Ogh-ind | al-il | ind | | – | 11 |
| Gomphonema sumatorense Fricke | Ogh-ind | ind | r-bi | J | – | 5 |
| Gomphonema vastum Hustedt | Ogh-unk | unk | ind | | – | 4 |
| Gomphonema spp. | Ogh-unk | unk | unk | | – | 1 |
| Hantzschia amphioxys (Ehr.)Grunow | Ogh-ind | al-il | ind | RA,U | 12 | 1 |
| Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann | Ogh-ind | al-il | ind | RA,S | 3 | 4 |
| Navicula viridula (Kuetz.)Ehrenberg | Ogh-ind | al-il | r-ph | K,U | – | 1 |
| Pinnularia borealis Ehrenberg | Ogh-ind | ind | ind | RA | 8 | 1 |
| Pinnularia borealis var. linearis M.Per. | Ogh-ind | ind | ind | RA | 1 | – |
| Pinnularia rumrichae Krammer | Ogh-hob | ac-il | ind | | – | 1 |
| Pinnularia schoenfelderi Krammer | Ogh-ind | ind | ind | RI | – | 1 |
| Pinnularia spp. | Ogh-unk | unk | unk | | 1 | 2 |
| Reimeria sinuata (W.Greg.)Kociolek et Stoermer | Ogh-ind | ind | r-ph | K,T | 2 | 17 |
| Rhoicosphenia abbreviata (C.Agardh)Lange-B. | Ogh-hil | al-il | r-ph | K,T | – | 2 |
| Rhopalodia gibba (Ehr.)O.Muller | Ogh-ind | al-il | ind | | – | 2 |
| Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow | Ogh-hil | al-il | r-ph | | – | 2 |
| Stauroneis phoenicenteron var. signata Meister | Ogh-ind | ind | ind | | 1 | – |
| Synedra inaequalis H.Kobayasi | Ogh-ind | al-il | r-bi | J,K,T | – | 4 |
| Synedra rostrata Pantocsek | Ogh-ind | al-il | r-ph | | – | 2 |
| Synedra ulna (Nitzsch)Ehrenberg | Ogh-ind | al-il | ind | U | – | 3 |
| 淡水～汽水生種 | | | | | 1 | 6 |
| 淡水生種 | | | | | 36 | 196 |
| 珪藻化石総数 | | | | | 37 | 202 |

表3　珪藻分析結果凡例

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| H.R. | 塩分濃度に対する適応性 | pH | 水素イオン濃度に対する適応性 | C.R. | 流水に対する適応性 |
| Meh | 汽水生種 | al-bi | 真アルカリ性種 | l-bi | 真止水性種 |
| Ogh-Meh | 淡水－汽水生種 | al-il | 好アルカリ性種 | l-ph | 好止水性種 |
| Ogh-hil | 貧塩好塩性種 | ind | pH不定性種 | ind | 流水不定性種 |
| Ogh-ind | 貧塩不定性種 | ac-il | 好酸性種 | r-ph | 好流水性種 |
| Ogh-hob | 貧塩嫌塩性種 | ac-bi | 真酸性種 | r-bi | 真流水性種 |
| Ogh-unk | 貧塩不明種 | unk | pH不明種 | unk | 流水不明種 |

環境指標種群

A:外洋指標種, B:内湾指標種, C1:海水藻場指標種, C2:汽水藻場指標種, D1:海水砂質干潟指標種
D2:汽水砂質干潟指標種, E1:海水泥質干潟指標種, E2:汽水泥質干潟指標種(以上は、小杉, 1988)
K:中～下流性河川指標種, O:沼沢湿地付着生種(安藤, 1990)
S:好汚濁性種, U:広域適応性種, T:好清水性種(以上はAsai and Watanabe, 1995)
R:陸生珪藻(RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内, 1991)

（４）寄生虫卵分析

SK489、SI492からは寄生虫卵は全く検出されず、保存の不良なシダ類胞子が微量認められる程度である。

（５）植物珪酸体分析

結果を表5、図3～6に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されたが保存状態は不良であり、表面に多数の小孔(溶食痕)等が認められる。以下に、各地点の産状を述べる。

1)基本土層（A地点）

A地点では、植物珪酸体の含量や産状に層位的な変化が認められる。試料番号31～25は、植物珪酸体含量が約2,800個/gから約6,500個/gに増加する。この間は、クマザサ属を含むタケ亜科やススキ属を含むウシクサ族などが認められる。なお上位に向かってクマザサ属を含むタケ亜科が減少し、ススキ属を含むウシクサ族の増加する。この上位では、試料番号23・21で植物珪酸体含量が2万個/gを超えるが、試料番号20では約1.5万個/gに減少する。いずれも下位と同様の分類群が認められるが、ススキ属を含むウシクサ族の産出が目立つ。試料番号10では、植物珪酸体含量が640個/gと減少し、クマザサ属を含むタケ亜科やススキ属を含むウシクサ族がわずかに認められるのみであり、これらの分類群ではススキ属を含むウシクサ族の産出が目立つ。試料番号8～4では、3,500～5,800個/gと植

表4　花粉分析･寄生虫卵分析結果

| 種　類 | SD09 | | SK489 | SK492 |
|---|---|---|---|---|
| 試料番号 | 1 | 2 | 3 | 最下部 |
| 草本花粉 | | | | |
| イネ科 | 4 | 1 | － | － |
| アブラナ科 | － | 1 | － | － |
| ヨモギ属 | － | － | － | 1 |
| キク亜科 | 1 | 1 | － | － |
| 不明花粉 | 3 | － | － | － |
| シダ類胞子 | | | | |
| ゼンマイ属 | － | 3 | － | － |
| 他のシダ類胞子 | 3 | 122 | 2 | 5 |
| 合　計 | | | | |
| 木本花粉 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 草本花粉 | 5 | 3 | 0 | 1 |
| 不明花粉 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| シダ類胞子 | 3 | 125 | 2 | 5 |
| 総計（不明を除く） | 8 | 128 | 2 | 6 |
| 寄生虫卵 | | | | |
| 寄生虫卵[個/cc] | － | － | 0 | 0 |

表5　植物珪酸体含量(1)

(個/g)

| 種　類 | 基本土層 A地点 | | | | | | | | | | | SD09 | | SD522 | | | 1地点(SD522・523の間) | | | SD523 | | | SD524 | | | SD180 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試料番号 | 4 | 6 | 8 | 10 | 20 | 21 | 23 | 25 | 27 | 29 | 31 | 1 | 2 | 25 | 27 | 29 | 8 | 6 | 10 | 30 | 32 | 34 | 37 | 39 | 41 | 5 | 7 | 9 |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ族イネ属 | 138 | 125 | 61 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 49 | 42 | － | 67 | 26 | 22 | 98 | － | － | 61 | 56 | － | － | － | － |
| タケ亜科クマザサ属 | 220 | 62 | 61 | － | 43 | 88 | 426 | 297 | 307 | 824 | 634 | 114 | 63 | 123 | 21 | 66 | 337 | 204 | 109 | 33 | 28 | 161 | 242 | 28 | － | 40 | 34 | 45 |
| タケ亜科 | 523 | 62 | 81 | 18 | － | 707 | 213 | 149 | 223 | 475 | 464 | 57 | 28 | 25 | 21 | 22 | 268 | 204 | 67 | 33 | 78 | 40 | 61 | － | 22 | 20 | － | 22 |
| ヨシ属 | 83 | － | 20 | － | 214 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 135 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ウシクサ族コブナグサ属 | 110 | － | 40 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 42 | － | － | － | － | 131 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ウシクサ族ススキ属 | 358 | 312 | 202 | 55 | 3378 | 4507 | 3088 | 922 | 362 | 539 | 73 | 1364 | 194 | 564 | 355 | － | 471 | 945 | 348 | 952 | 76 | 261 | 1273 | 305 | 44 | 80 | － | － |
| イチゴツナギ亜科オオムギ族 | 83 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 105 | － | － | － | － | 66 | － | － | － | － | － | － | － | － |
| イチゴツナギ亜科 | 165 | 187 | 40 | 18 | － | 88 | － | 59 | － | 63 | 49 | 1705 | 55 | 245 | 42 | － | 67 | 204 | 43 | 98 | － | － | 121 | 111 | － | 20 | 17 | － |
| 不明キビ型 | 1405 | 748 | 989 | 238 | 3292 | 4660 | 2981 | 1457 | 1812 | 1172 | 220 | 2048 | 470 | 1522 | 878 | 109 | 909 | 1635 | 1082 | 2198 | 203 | 583 | 1897 | 1055 | 240 | 161 | 486 | 22 |
| 不明ヒゲシバ型 | 220 | － | 61 | － | 898 | 2816 | 1278 | 713 | 474 | 95 | 49 | 341 | 55 | 98 | － | － | 101 | 102 | 22 | 98 | 25 | 60 | 61 | 83 | 22 | 20 | － | － |
| 不明ダンチク型 | 413 | 374 | 202 | 55 | 2490 | 5920 | 2449 | 1427 | 1032 | 887 | 122 | 1762 | 276 | 564 | 188 | － | 438 | 539 | 495 | 427 | 25 | 462 | 546 | 250 | 196 | 20 | 103 | 45 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ族イネ属 | 441 | 935 | 283 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 344 | － | － | 135 | 51 | 43 | 492 | － | － | 424 | 111 | － | － | － | － |
| タケ亜科クマザサ属 | 220 | － | 61 | － | 43 | 177 | 745 | 327 | 530 | 444 | 1098 | 57 | 194 | 147 | 146 | 109 | 202 | 179 | 105 | 197 | 102 | 362 | 81 | 28 | 44 | 904 | 120 | 45 |
| タケ亜科 | 331 | 62 | 20 | 18 | － | 88 | 213 | 208 | 307 | 32 | 73 | 114 | 63 | 49 | － | 22 | 942 | 409 | 67 | － | 25 | － | 121 | － | 22 | 60 | － | 22 |
| ヨシ属 | 55 | － | 20 | － | 86 | 88 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 67 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ウシクサ族 | 83 | 312 | 242 | 73 | 2052 | 3623 | 3940 | 327 | 167 | 32 | － | 1990 | 276 | 834 | 293 | － | 572 | 460 | 152 | 1017 | 153 | 121 | 909 | 194 | 22 | － | 34 | － |
| 不明 | 992 | 1060 | 1090 | 165 | 2395 | 5390 | 6815 | 684 | 836 | 317 | 24 | 4491 | 885 | 1669 | 385 | 44 | 2981 | 1890 | 1082 | 2166 | 229 | 342 | 1354 | 894 | 198 | 20 | 171 | － |
| 珪化組織片 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ属短細胞珪酸体 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 74 | － | － | 34 | － | － | － | － | － | 61 | － | － | － | － | － |
| 樹木起源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第四グループ | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 51 | 43 | － | － | － | － | － | 22 | － | － | － |
| 合　計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | 3716 | 1870 | 1757 | 384 | 10305 | 19086 | 10435 | 5024 | 4210 | 4055 | 1611 | 7389 | 1161 | 3190 | 1694 | 197 | 2794 | 3959 | 2185 | 4134 | 430 | 1647 | 4062 | 1888 | 437 | 361 | 859 | 134 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | 2122 | 2369 | 1718 | 256 | 4576 | 9368 | 11713 | 1546 | 1840 | 925 | 1195 | 6652 | 1438 | 3043 | 1024 | 175 | 4779 | 2989 | 1472 | 3872 | 509 | 825 | 2909 | 1027 | 284 | 984 | 325 | 67 |
| 珪化組織片 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 74 | － | － | 34 | － | － | － | － | － | 61 | － | － | － | － | － |
| 樹木起源 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 51 | 43 | － | － | － | － | － | 22 | － | － | － |
| 総　計 | 5840 | 4239 | 3473 | 640 | 14881 | 28452 | 22148 | 6570 | 6050 | 4980 | 2806 | 14041 | 2599 | 6307 | 2718 | 372 | 7807 | 6999 | 3680 | 8006 | 939 | 2472 | 7032 | 2915 | 743 | 1345 | 975 | 201 |

表5　植物珪酸体含量(2)

(個/g)

| 種　類 | SD180-186の間 | | SD184 | | | SD184-183の間 | | SD185 | | | SD212 | | | 212-211の間 | | SD213 | | | SK489 中央アゼ19 | | | SK490 中央アゼ19 | | | SI492 中央アゼ | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試料番号 | 2 | 4 | 5 | 7 | 8 | 4 | 6 | 2 | 4 | 6 | 3 | 5 | 7 | 3 | 5 | 2 | 4 | 6 | 1 | 2 | 3 | 1 | 2 | 3 | 31 | 32 |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ族イネ属 | － | － | 18 | 21 | 21 | 28 | － | 83 | 17 | － | 112 | 19 | － | 45 | － | 43 | 52 | － | 28 | 72 | － | － | － | － | － | 22 |
| タケ亜科クマザサ属 | 25 | 18 | － | 42 | 41 | 26 | 34 | 21 | 35 | 16 | － | － | － | 45 | 63 | 43 | 103 | － | 168 | 96 | － | 25 | 25 | 27 | － | － |
| タケ亜科 | 25 | 18 | 18 | 21 | 41 | 26 | 34 | 21 | 17 | 48 | 45 | 57 | － | 67 | 42 | － | 26 | － | 28 | － | － | － | － | － | － | － |
| ヨシ属 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ウシクサ族コブナグサ属 | － | － | 18 | － | － | － | － | － | － | － | － | 19 | － | － | － | － | 52 | － | － | － | 22 | － | － | － | － | － |
| ウシクサ族ススキ属 | 201 | － | 168 | 210 | 123 | 154 | 85 | 540 | 138 | 32 | 201 | 286 | － | 313 | 126 | 346 | 284 | 50 | 336 | 121 | 22 | 50 | － | 268 | 28 | － |
| イチゴツナギ亜科オオムギ族 | 75 | － | － | － | 21 | － | － | － | － | － | － | 19 | － | 22 | 21 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| イチゴツナギ亜科 | 100 | － | 54 | 126 | 82 | 51 | 17 | 145 | 35 | － | 112 | 76 | 37 | 90 | 42 | 151 | 232 | 17 | 84 | － | － | 25 | － | － | － | － |
| 不明キビ型 | 754 | 55 | 759 | 821 | 740 | 512 | 425 | 1328 | 466 | 32 | 402 | 591 | 347 | 1187 | 989 | 1058 | 1213 | 100 | 896 | 193 | 44 | 25 | 25 | 348 | 56 | 22 |
| 不明ヒゲシバ型 | 25 | － | 36 | 42 | 41 | 51 | 17 | 104 | 17 | － | 22 | 38 | 55 | 22 | 84 | 86 | 52 | － | 28 | 24 | － | － | － | 27 | － | － |
| 不明ダンチク型 | 251 | 55 | 72 | 295 | 288 | 292 | 255 | 394 | 207 | 16 | 112 | 153 | 385 | 269 | 147 | 259 | 413 | 50 | 728 | 217 | － | 126 | 51 | 295 | 28 | 22 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ族イネ属 | － | － | 108 | 84 | 62 | 26 | － | 145 | 138 | － | 45 | 57 | 18 | 313 | － | 130 | 129 | － | 84 | 24 | 22 | 25 | － | － | 56 | 67 |
| タケ亜科クマザサ属 | 50 | 18 | 18 | 84 | 82 | － | 85 | 125 | 104 | 64 | － | 38 | 37 | 22 | 126 | 22 | 52 | － | 56 | 48 | － | 25 | 102 | 54 | － | 22 |
| タケ亜科 | 25 | 37 | － | 84 | 21 | － | 34 | 62 | 17 | 16 | － | 38 | － | 67 | 21 | － | 26 | － | 28 | － | 22 | － | － | － | 28 | － |
| ヨシ属 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| ウシクサ族 | 176 | 18 | 36 | 147 | 165 | 179 | 34 | 206 | 121 | 16 | 246 | 229 | － | 515 | 168 | 259 | 259 | － | 28 | 96 | 22 | 50 | － | 54 | － | 67 |
| 不明 | 276 | 298 | 597 | 631 | 493 | 589 | 238 | 560 | 449 | 97 | 357 | 400 | 201 | 1052 | 294 | 626 | 671 | 17 | 896 | 313 | 131 | 75 | 153 | 27 | 113 | 180 |
| 珪化組織片 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ属短細胞珪酸体 | － | － | － | － | － | － | － | 62 | 17 | － | － | 38 | － | 45 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 樹木起源 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第四グループ | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 28 | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 合　計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| イネ科葉部短細胞珪酸体 | 1456 | 146 | 1063 | 1578 | 1368 | 1128 | 867 | 2636 | 932 | 144 | 1006 | 1258 | 804 | 2060 | 1514 | 1986 | 2427 | 217 | 2298 | 723 | 88 | 251 | 101 | 985 | 112 | 66 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | 527 | 331 | 759 | 1030 | 843 | 794 | 391 | 1100 | 829 | 193 | 645 | 762 | 256 | 1969 | 609 | 1037 | 1136 | 17 | 1062 | 481 | 197 | 175 | 255 | 135 | 197 | 336 |
| 珪化組織片 | － | － | － | － | － | － | － | 62 | 17 | － | － | 38 | － | 45 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 樹木起源 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － | 28 | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 総　計 | 1983 | 477 | 1842 | 2608 | 2241 | 1922 | 1258 | 3798 | 1778 | 337 | 1654 | 2058 | 1060 | 4074 | 2123 | 3023 | 3589 | 234 | 3388 | 1204 | 285 | 426 | 356 | 1100 | 309 | 402 |

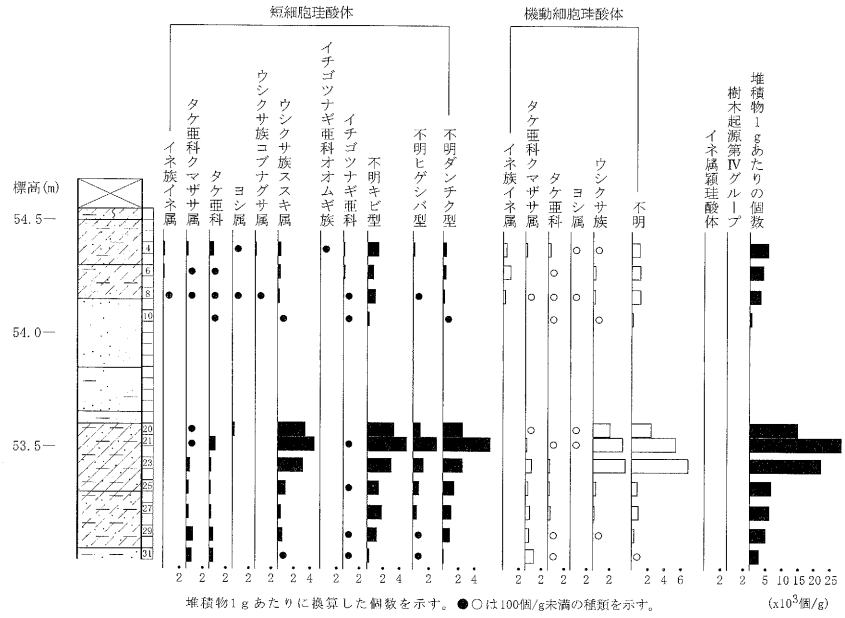



図3　基本土層の植物珪酸体含量の層位的変化

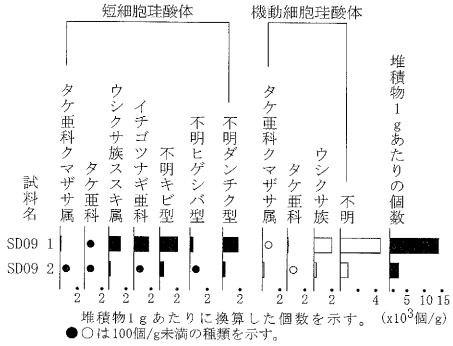



図4　SD09の植物珪酸体含量の層位的変化

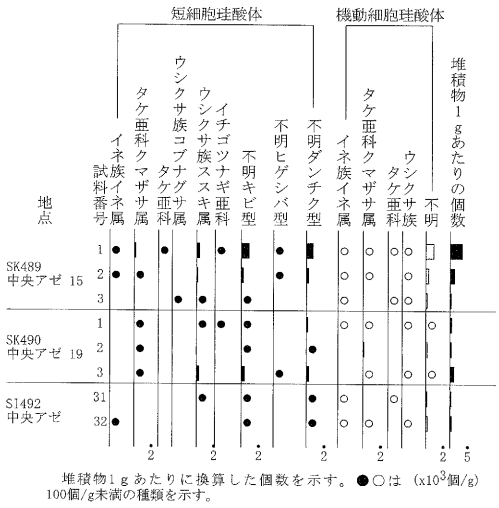



図6　長方形土坑の植物珪酸体含量の層位的変化

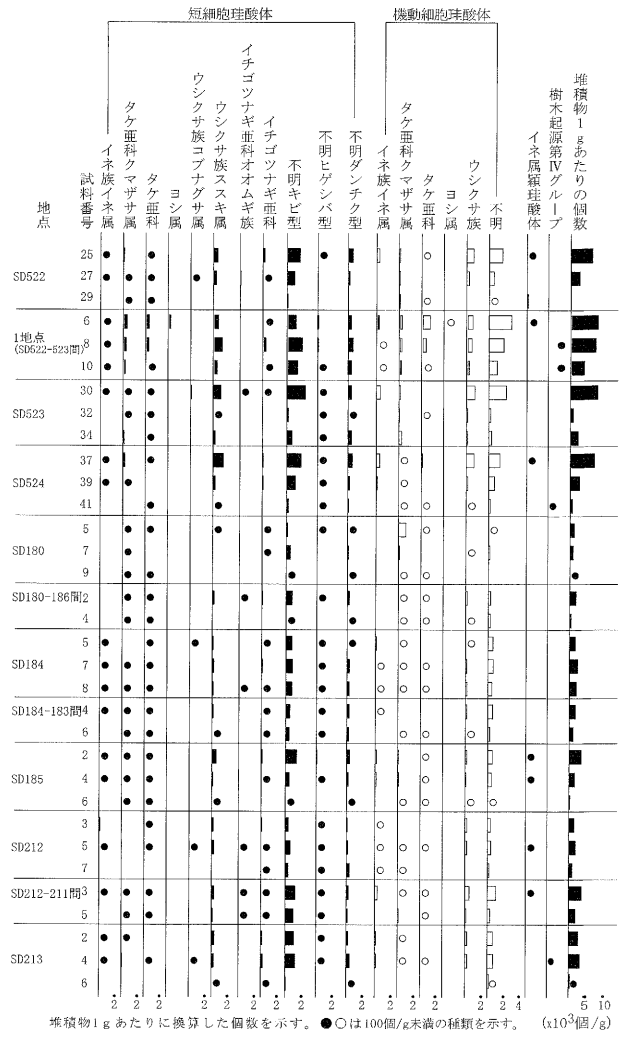



図5　素掘小溝の植物珪酸体含量の層位的変化

物珪酸体含量が増加する。下位と同様な分類群とともに、栽培植物のイネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が検出される。また、試料番号1からは栽培種を含むオオムギ族の短細胞珪酸体も検出されたが、植物珪酸体の形態から栽培種か否かの判別が困難である。

2)SD09

植物珪酸体含量は、試料番号2は約2,600個/g、試料番号1は約1.4万個/gである。いずれも、ススキ属を含むウシクサ族の産出が目立ち、この他にクマザサ属を含むタケ亜科やイチゴツナギ亜科等が認められる。

3)素掘小溝

素掘小溝8条(SD180・184・185・212・213・522～524)と素掘小溝間1箇所（SD522-523の間)では、基本土層4層よりも覆土に相当する土層で植物珪酸体含量の多い傾向が認められる。この他の素掘小溝間3箇所（SD180-186、184-183、212-211）でも4層よりも覆土に相当すると考えられる土層で植物珪酸体含量が概して多い。素掘小溝覆土からは、SD180を除いて、イネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が検出され、穎珪酸体も検出される遺構も認められる。ただし、その植物珪酸体含量は概して少ない傾向にあり、SD523(試料番号30)でイネ属の機動細胞珪酸体が500個/g弱、SD524(試料番号37)でイネ属の機動細胞珪酸体が420個/g程度認められたほかは、いずれも数十-数百個/g程度である。また、栽培種を含む分類群であるオオムギ族の短細胞珪酸体が、SD522（試料番号27)、SD523(試料番号30)、SD184(試料番号8)、SD212(試料番号5)、SD180-186間(試料番号2)、SD212-211間(試料番号3・5)から僅かに検出される。この他の分類群では、クマザサ属を含むタケ亜科やヨシ属、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科、樹木起源珪酸体の第Ⅳグループ等が検出され、概してススキ属を含むウシクサ族の産出が目立つ。

4)長方形土坑

いずれの試料も植物珪酸体含量は少なく、SK489（試料番号1）の約3,400個/gが最も多く、SK489(試料番号2)・SI492（試料番号3)は1,100～1,200個/g、この他の試料では500個/g未満である。SK489・SK490・SI492覆土からは、イネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が検出されるが、その含量はほとんどが100個/g未満と少ない。この他の分類群では、各試料からススキ属を含むウシクサ族が検出され、稀にクマザサ属を含むタケ亜科やイチゴツナギ亜科等も認められる。

（6）樹種同定

結果を表6に示す。炭化材は、針葉樹2種類（ヒノキ科・カヤ)、広葉樹11種類（クマシデ属イヌシデ節・ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ・ケヤキ・ニレ科・カツラ・カマツカ・カエデ属・ウコギ属・ハリギリ）に同定された。なお、SI493・SI495・SK489の炭化材には、いずれも道管を有することから広葉樹材と判断されたが、保存状態が不良で道管配列の特徴等の観察が困難であったことから種の同定まで至らなかった試料が含まれる。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

・ヒノキ科（Cupressaceae）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-10細胞高。

・カヤ（Torreya nucifera Sieb. et Zucc.）　イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。保存状態が悪いが、仮道管内壁に2本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に1-4個。放射

表6　樹種同定結果

| 遺構名 | 地点・層位名 | 点数 | 樹種* | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| SI97 | | 1 | 広葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.4) |
| SI166 | ⑦層 | 1 | 広葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.6) |
| | ⑧層上面 | 1 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.7) |
| | 床面 | 1 | 針葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.8) |
| SI395 | 覆土 | 1 | ニレ科 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.12) |
| SI491 | 覆土 | 1 | ニレ科 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.18) |
| | カマド焼土 | 10 | クマシデ属イヌシデ節(2) | |
| | | | コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2) | |
| | | | クリ | |
| | | | ケヤキ | |
| | | | カマツカ(2) | |
| | | | カエデ属 | |
| | | | ウコギ属 | |
| SI492 | 覆土 | 1 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.15) |
| | 焼土 | 1 | コナラ亜属 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.16) |
| | P1覆土 | 1 | カエデ属 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.17) |
| | カマド焼土 | 4 | ハリギリ | |
| | | | カマツカ(3) | |
| SI493 | 床土 | 10 | ブナ属(4) | |
| | | | コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4) | |
| | | | クリ | |
| | | | 広葉樹 | |
| SI494 | P1覆土 | 1 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.19) |
| | 覆土 | 1 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.20) |
| | 焼土(③層) | 1 | 広葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.21) |
| | カマド焼土 | 2 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2) | |
| SI495 | 床土 | 6 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4) | |
| | | | クリ | |
| | | | 広葉樹 | |
| SI600 | 覆土 | 1 | 針葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.23) |
| SI650 | 覆土 | 1 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.25) |
| | 覆土(③層) | 1 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.26) |
| SK488 | 2層 | 1 | クリ | 放射性炭素年代測定試料(試料No.14) |
| SP139 | 黒褐色シルト | 1 | クリ | 放射性炭素年代測定試料(試料No.5) |
| SP432 | 覆土 | 1 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.13) |
| SP496 | | 10 | ヒノキ科 | |
| | | | コナラ属コナラ亜属クヌギ節(5) | |
| | | | クリ | |
| | | | カエデ属(3) | |
| SP556 | 覆土 | 1 | 広葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.22) |
| SP638 | 最下層 | 1 | 不明 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.34) |
| SK497(SI493内) | 覆土 | 4 | カヤ | |
| | | | コナラ属コナラ亜属クヌギ節(2) | |
| | | | カマツカ | |
| SK489 | | 6 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節(4) | |
| | | | クリ | |
| | | | 広葉樹 | |
| SK489 | 覆土 | 2 | カヤ(2) | |
| SD09 | 仮1層 | 1 | 広葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.1) |
| | 覆土 | 1 | カツラ | 放射性炭素年代測定試料(試料No.40) |
| SD218 | 覆土 | 1 | 広葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.10) |
| SD354 | 覆土 | 1 | 広葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.11) |
| SX649 | 覆土 | 1 | 広葉樹 | 放射性炭素年代測定試料(試料No.24) |

*括弧内は点数を示しており、括弧のないものは1点である。

組織は単列、1-10細胞高。

・クマシデ属イヌシデ節（Carpinus subgen. Euarpinus）　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に2-4個が主として放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-40細胞高のものと集合放射組織とがある。

・ブナ属（Fagus）　ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は同性、単列、数細胞高のものから複合放射組織まである。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris）　ブナ科

試料は、いずれも年輪界で割れた晩材部のみ。晩材部の道管は、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。比較的年輪幅が広い試料で、道管径の変化が大きいことから環孔材と判断できる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

試料は、いずれも年輪界で割れた晩材部のみ。晩材部の道管は、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

・ケヤキ（Zelkova serrata (Thunb.) Makino）　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に帯状あるいは紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・ニレ科（Ulmaceae）

試料は小片で全量を年代測定に利用することから、実体顕微鏡による観察のみ実施し、電子顕微鏡による観察は行っていない。環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じのち塊状に複合して接線・斜方向に紋様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。放射組織は6細胞幅前後で、40細胞高前後のものが確認できる。

・カツラ（Cercidiphyllum japonicum Sieb. et Zucc.）　カツラ科カツラ属

散孔材で、管孔はほぼ単独で散在し、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管の分布密度は高い。道管は階段穿孔を有する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-30細胞高。

・カマツカ（Pourthiaea villosa (Thunb.)Decne. var. laevis (Thunb.)Stapf.）　バラ科カマツカ属

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2-4個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-30細胞高。

カマツカ属にはカマツカの他にもワタゲカマツカ、ケカマツカ、キミノワタゲカマツカ、ナガエカマツカがある。いずれもカマツカと同じく、基本種であるPourthiaea villosa (Thunb.)Decne.の変種とされる。このうち、カマツカ、ワタゲカマツカ、ケカマツカは分布や生育地の違いがなく、厳密な区別はできないとされる。キミノワタゲカマツカは四国に自生し、ナガエカマツカは対馬と朝鮮半島南部に生育する。カマツカ以外の現生木材標本がほとんど得られておらず、木材組織で区別することは困難であるが、本地域ではカマツカが一般的であることから本報告ではカマツカとしている。

・カエデ属（Acer）　カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2-3個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-5細胞幅、1-30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

・ウコギ属（Acanthopanax spinosus (L. f.) Miq.）　ウコギ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または2-8個が複合して、接線・斜方向に帯状あるいは文様状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-8細胞幅、数細胞高のものから広放射組織まである。

・ハリギリ（kalopanax pictus (Thunb.) Nakai）　ウコギ科ハリギリ属

環孔材で、孔圏部はやや疎な1列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に文様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状または対列状に配列する。放射組織は異性、1-5細胞幅、1-30細胞高。

（7）種実同定

結果を表7に示す。SI491から検出された種実遺体13点は、栽培植物のイネ(Oryza sativa L.; イネ科イネ属)の胚乳に同定された。いずれも炭化しており黒色を呈す。長楕円形でやや偏平。長さ4.06-5.01mm、幅2.21-3.11mm、厚さ1.63-2.29mm程度。基部一端に胚が脱落した凹部がある。胚乳表面はやや平滑で、2-3本の縦溝がみられる。

表7　種実同定結果

| 試料名 | 種名 | 部位 | 状態 | 個数 | 粒長(mm) | 粒幅(mm) | 粒厚(mm) | 粒形(粒長/粒幅) | | 粒大(粒長×粒幅) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SI491 床土 | イネ | 胚乳 | 炭化 | 7 | 4.68 | 3.11 | 2.29 | 1.50 | 短粒*Ss* | 14.55 | 小粒 |
| | | | | | 4.06 | 2.96 | 2.14 | 1.37 | 円粒*Rl* | 12.02 | 小粒 |
| | | | | | 4.52 | 3.09 | 1.72 | 1.46 | 短粒*Ss* | 13.97 | 小粒 |
| | | | | | 4.58 | 2.57 | 2.03 | 1.78 | 短粒*Sm* | 11.77 | 極小粒 |
| | | | | | 4.2 | 2.82 | 2.08 | 1.49 | 短粒*Ss* | 11.84 | 極小粒 |
| | | | | | 4.26 | 2.51 | 2.15 | 1.70 | 短粒*Sm* | 10.69 | 極小粒 |
| | | | | | 4.56 | 2.44 | 2.1 | 1.87 | 短粒*Sl* | 11.13 | 極小粒 |
| SI491 カマド焼土 | イネ | 胚乳 | 炭化 | 6 | 4.83 | 2.57 | 1.74 | 1.88 | 短粒*Sl* | 12.41 | 小粒 |
| | | | | | 4.23 | 2.55 | 1.97 | 1.66 | 短粒*Sm* | 10.79 | 極小粒 |
| | | | | | 4.73 | 2.21 | 1.63 | 2.14 | 長粒*Ls* | 10.45 | 極小粒 |
| | | | | | 5.01 | 2.41 | 2.15 | 2.08 | 長粒*Ls* | 12.07 | 小粒 |
| | | | | | 4.35 | 2.64 | 1.94 | 1.65 | 短粒*Sm* | 11.48 | 極小粒 |
| | | | | | 4.61 | 2.44 | 2.06 | 1.89 | 短粒*Sl* | 11.25 | 極小粒 |

註)粒形、粒大は佐藤(1988)による

（8）微細物分析

SK1021 からは、6mm角以下の炭化材の微細片が0.14g、木材組織が確認されない種類・部位共に不明の炭化物が6個(0.01g未満)、菌類の菌核が70個(0.01g未満)検出された。SK1085からは、2mm角以下の炭化材の微細片が30個程度(0.01g未満)検出される。

（9）土壌理化学分析

結果を表8･9、図7･8に示す。以下に、各地点の結果を述べる。

1)基本土層(A地点)

全炭素量は、暗茶褐色～暗赤褐色を呈する堆積物（試料番号4・6・8・9）は0.85～1.56%であり、下位の試料番号11・13と比較して多く含まれる。なお、炭素のほとんどは土壌中の腐植に由来すると考えられる。土壌腐植は土壌暗色化の主たる因子であることから、本土層形成期は植物が生育する安定した地表環境の時期に当たるか、有機物が集積しやすい地形であった可能性がある。一方、黄褐色を呈する堆積物（試料番号11・13）は、全炭素量が0.15～0.23%と低く、土壌腐植が乏しい状態にあり、植物が繁茂する時期が短い、比較的速い時間で堆積した土層と考えられる。暗黄褐色土を呈する堆積物（試料番号15・17）では、全炭素量がやや増加し、下位の黒色土形成期と上位の黄褐色堆積物との漸移層的な性格が見られる。黒色を呈する堆積物（試料番号20～25）では、全炭素量は5.10～7.42%とかなり多く、また炭素率（C/N）も23～27と高い傾向にある。最下位の(暗)黄褐色を呈する堆積物（試料番号27・29・31）では、黒色土との漸移層的な性格が見られ、全炭素量は下層試料ほど減少する。

ところで、有機物量の別指標の一つである全リン酸量は、試料番号4～17間では下層試料ほど少ない傾向にある。一般的に炭素とリン酸の集積量には正の相関関係が見られることが多いが、今回、特に試料番号11・13において全炭素量が少ない割に全リン酸量が多い傾向が認められるほか、試料番号4～17の堆積物と黒色土以下の試料番号20～29で全炭素量に対する全リン酸量の割合が異なる特徴が認められる。施肥などの影響により、試料番号4～17の土壌に上方からリン酸が移動集積した可能性もある。一方、試料番号20～31では可給態リン酸が少ないことから、黒色土中のリン酸が溶脱した可能性もあるが、その要因については言及することはできない。

表8　土壌理化学分析結果(1)

| 試料名 | | 土色 | 全炭素 (%) | 全窒素 (%) | C/N | 全リン酸 (mg/g) | 可給態リン酸 (mg/100g) | 可給態窒素 (mg/100g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A地点(基本土層) | 4 | 10YR3/2　黒褐 | 1.56 | 0.11 | 14 | 1.87 | 4.9 | 5.1 |
| | 6 | 10YR3/1　黒褐 | 1.55 | 0.11 | 14 | 1.96 | 5.7 | 4.1 |
| | 8 | 10YR3/2　黒褐 | 1.22 | 0.09 | 14 | 1.84 | 7.2 | 3.4 |
| | 9 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐 | 0.85 | 0.07 | 12 | 1.59 | 6.5 | 3.9 |
| | 11 | 2.5Y4/3　オリーブ褐 | 0.23 | 0.03 | 8 | 1.22 | 5.9 | 3.2 |
| | 13 | 2.5Y4/3　オリーブ褐 | 0.15 | 0.02 | 8 | 1.11 | 5.5 | 1.4 |
| | 15 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐 | 0.67 | 0.04 | 17 | 0.97 | 3.0 | 3.0 |
| | 17 | 10YR3/2　黒褐 | 1.43 | 0.08 | 18 | 0.90 | 1.1 | 3.6 |
| | 20 | 10YR1.7/1　黒 | 6.02 | 0.23 | 26 | 1.35 | 0.9 | 5.5 |
| | 21 | 10YR1.7/1　黒 | 7.42 | 0.27 | 27 | 1.61 | 0.9 | 2.8 |
| | 23 | 10YR1.7/1　黒 | 7.01 | 0.27 | 26 | 1.55 | 0.8 | 4.1 |
| | 25 | 10YR1.7/1　黒 | 5.10 | 0.22 | 23 | 1.47 | 0.9 | 2.3 |
| | 27 | 10YR1.7/1　黒 | 4.37 | 0.19 | 23 | 1.49 | 1.0 | 2.8 |
| | 29 | 10YR2/2　黒褐 | 3.24 | 0.16 | 20 | 1.47 | 0.7 | 2.9 |
| | 31 | 10YR4/4　褐 | 0.48 | 0.05 | 10 | 0.75 | 0.7 | 2.8 |
| SD522 | 25 | 2.5Y3/1　黒褐 | 2.16 | 0.13 | 17 | 1.47 | 2.6 | 5.2 |
| | 27 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐 | 1.70 | 0.11 | 15 | 1.26 | 2.0 | 5.7 |
| | 29 | 2.5Y4/4　オリーブ褐 | 0.91 | 0.07 | 13 | 0.98 | 1.2 | 4.7 |
| SD212 | 3 | 10YR3/1　黒褐 | 1.70 | 0.11 | 15 | 1.34 | 2.3 | 4.0 |
| | 5 | 10YR3/2　黒褐 | 1.24 | 0.08 | 16 | 1.15 | 2.6 | 3.3 |
| | 7 | 2.5Y3/3　暗オリーブ褐 | 0.85 | 0.06 | 14 | 0.98 | 1.4 | 2.5 |

註)土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修，1967)による。

表9　土壌理化学分析結果(2)

| 試料名 | | 土性 | 土色 | 全炭素 (%) | 全窒素 (%) | C/N | 全リン酸 (mg/g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK489 | 中央アゼ 1 | LiC | 10YR3/1　黒褐 | 2.28 | 0.13 | 18 | 1.47 |
| | 中央アゼ 2 | LiC | 10YR3/1　黒褐 | 1.69 | 0.11 | 15 | 1.54 |
| | 中央アゼ 3 | LiC | 10YR3/1　黒褐 | 1.59 | 0.10 | 16 | 1.06 |
| SK490 | 中央アゼ 1 | LiC | 10YR3/2　黒褐 | 1.52 | 0.09 | 17 | 1.42 |
| | 中央アゼ 2 | LiC | 10YR3/2　黒褐 | 1.17 | 0.07 | 17 | 1.29 |
| | 中央アゼ 3 | LiC | 10YR3/1　黒褐 | 2.54 | 0.14 | 18 | 1.24 |
| SI492 | 中央アゼ フク土 最下部 | LiC | 10YR3/1　黒褐 | 2.44 | 0.14 | 17 | 1.87 |
| | 中央アゼ 貼り床 黒色土部分 | LiC | 10YR3/1　黒褐 | 2.08 | 0.12 | 17 | 1.52 |

1)土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖(農林省農林水産技術会議監修，1967)による。
2)土性：土壌調査ハンドブック(ペドロジスト懇談会編，1984)の野外土性による。
LiC･･･軽埴土(粘土25～45%、シルト0～45%、砂10～55%)

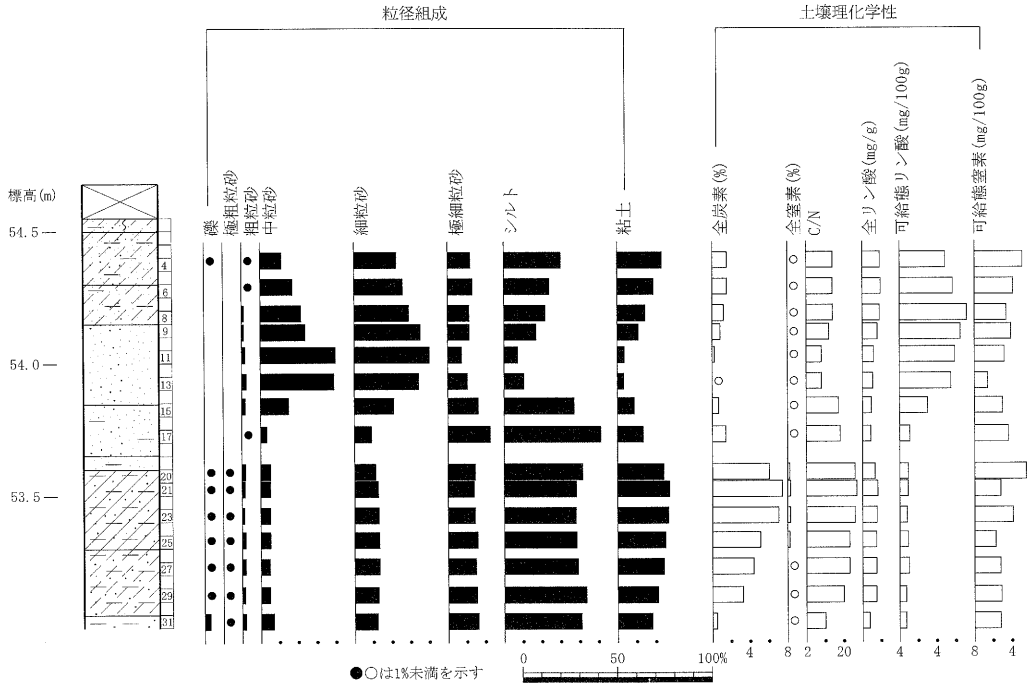



図7　基本土層の粒度・土壌理化学組成

2)素掘小溝

・SD212

覆土上部から底部にかけて各成分が減少する傾向にある。本遺構堆積物はA地点の試料番号9より上位の暗茶褐色～暗赤褐色の堆積物に対比され、両者を比較した場合、覆土土壌では全炭素量、炭素率が僅かに高く、可給態リン酸が少ない特徴が認められる。

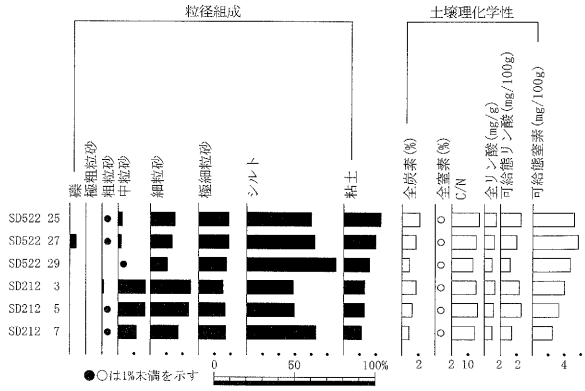



図8　素掘小溝の粒度・土壌理化学組成

・SD522

覆土上部から底部にかけて各成分が減少する傾向にある。本遺構堆積物は、基本土層（A地点）の試料番号9より上位の暗茶褐色～暗赤褐色の堆積物に対比され、上記と同様の比較では、覆土土壌で全炭素量、炭素率がやや高い特徴が見られることから未分解有機物が含まれる可能性が指摘されるほか、可給態リン酸が少ない特徴が認められる。

3)長方形土坑

・SK489

柱状の土壌ブロックの観察では、下位より黄褐色を呈しシルト分を黄褐色土(中央アゼ4)、不整合で上位に堆積する暗褐色を呈するシルト分を砂質土（中央アゼ3)、褐色を呈し灰色・黒褐色土の偽礫（Φ2mm前後）が多量に混入する砂分を含むシルト質土（中央アゼ2)、暗褐色を呈し砂分を含むシルト質土（中央アゼ1）が認められている。このうち、中央アゼ1～3が土坑覆土と考えられることから、これらの3試料を分析対象としている。対照試料はA地点とSI492フク土（№31)、貼り床（№32）である。分析の結果、土坑上部から下部にかけて各成分が減少し、リン酸含量も対照試料と比較して特異的に富化された状態は認められない。

・SK490

柱状の土壌ブロックは、根痕と考えられる擾乱が多く認められた。観察の結果、下位よりやや暗黄～黄褐色を呈しシルト分を含む砂質土（中央アゼ4)、上位は不整合で黒褐色を呈するシルト分を含む砂質土（中央アゼ3)、灰褐色を呈し褐色・黒褐色の偽礫が多量に混入する砂分を含むシルト質土（中央アゼ2)、灰褐色を呈し灰褐色土の偽礫が多量に混入するシルト分を含む砂質土（中央アゼ1）が認められている。このうち、中央アゼ1～4が土坑覆土と考えられることから、このうち3試料を分析対象としている。分析の結果、土坑上部から下部にかけて各成分が減少し、SK489と同様にリン酸含量に特異的に富化された状態は認められない。

（10）粒度分析

粒度分析結果を表10、Folk＆Ward（1957）による評価を総合した結果を表11に、粒度分析加積曲線を図9に示す。

1)基本土層(A地点)

試料番号4は、平均値、最頻値ともにシルトで、尖度は偏平であり、淘汰は非常に悪い。試料番号6・8・9は、いずれも平均値がシルト、最頻値が細粒砂で、尖度は偏平であり、淘汰は非常に悪い。なお、歪度は著しい正に偏し、上方でやや細粒化する傾向が認められる。試料番号11・13は、平均値、最頻値ともに細粒砂で、尖度は非常に突出し、淘汰は悪い。試料番号15は、平均値、最頻値ともにシルトで、尖度は非常に偏平であり、淘汰は非常に悪い。試料番号17・20・21・23・25は、平均値、最頻値ともにシルトで、尖度は中間

的であり、淘汰は非常に悪い。なお、歪度は負に偏し、上方細粒化の傾向が認められる。試料番号27・29・31は、平均値、最頻値ともにシルトで、尖度は試料番号27,29が中間的、試料番号31が偏平であり、淘汰は非常に悪い。なお、歪度は負に偏し、上方でやや粗流化する傾向が認められる。

2)素掘小溝（SD212）

試料番号3・5・7は、いずれも平均値、最頻値ともにシルトで、尖度は偏平であり、淘汰は非常に悪い。なお、歪度を見る限りでは上方粗粒化の傾向が見られ、下位から上位層にかけて粗粒化する傾向が認められる。

3)素掘小溝（SD522）

試料番号25・27は、平均値、最頻値ともにシルトで、尖度は中間的であり、淘汰は非常に悪い。試料番号29は、平均値、最頻値ともにシルトであるが、歪度は著しい負、尖度は突出であり、淘汰は悪い。なお、歪度を見る限りでは、下位から上位層にかけて僅かに粗粒化する傾向が認められる。

表10　粒度組成

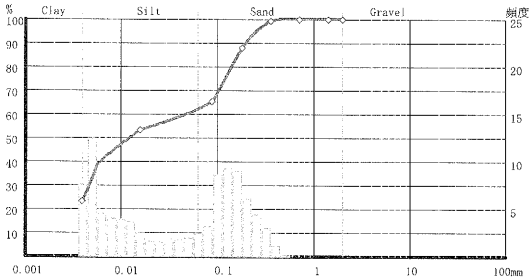
| 粒径区分 | | 礫 | 砂 | | | | | 泥 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 試料名 | | 2.00mm< | 極粗粒砂 2.00～1.00mm | 粗粒砂 1.00～0.50mm | 中粒砂 0.50～0.25mm | 細粒砂 0.25～0.125mm | 極細粒砂 0.125～0.063mm | シルト 0.063～0.0039mm | 粘土 0.0039mm> |
| A地点（基本土層） | 4 | 0.1 | 0.0 | 0.6 | 11.3 | 22.5 | 12.0 | 30.2 | 23.3 |
| | 6 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 17.1 | 25.8 | 13.2 | 24.2 | 18.9 |
| | 8 | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 21.8 | 29.2 | 11.4 | 22.0 | 14.5 |
| | 9 | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 23.9 | 35.3 | 11.5 | 17.2 | 11.0 |
| | 11 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 39.9 | 40.1 | 7.4 | 7.2 | 3.6 |
| | 13 | 0.0 | 0.0 | 2.4 | 39.1 | 34.3 | 10.4 | 10.5 | 3.3 |
| | 15 | 0.0 | 0.0 | 1.8 | 15.0 | 21.0 | 16.2 | 37.1 | 8.9 |
| | 17 | 0.0 | 0.0 | 0.4 | 3.3 | 9.1 | 22.6 | 51.2 | 13.4 |
| | 20 | 0.6 | 0.8 | 1.8 | 5.3 | 11.3 | 14.6 | 41.5 | 24.1 |
| | 21 | 0.6 | 0.7 | 1.6 | 5.1 | 12.7 | 13.9 | 38.2 | 27.2 |
| | 23 | 0.5 | 1.0 | 1.3 | 5.2 | 13.0 | 14.4 | 38.0 | 26.6 |
| | 25 | 0.2 | 0.4 | 1.9 | 5.2 | 13.2 | 15.7 | 38.3 | 25.1 |
| | 27 | 1.0 | 0.7 | 1.9 | 4.8 | 13.4 | 14.9 | 39.1 | 24.2 |
| | 29 | 0.2 | 0.6 | 1.5 | 4.9 | 12.8 | 15.4 | 43.5 | 21.1 |
| | 31 | 2.9 | 0.9 | 2.0 | 6.9 | 12.2 | 16.2 | 40.9 | 18.0 |
| SD522 | 25 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 2.7 | 15.2 | 18.8 | 40.1 | 23.0 |
| | 27 | 3.9 | 0.0 | 0.2 | 1.9 | 13.4 | 18.8 | 42.1 | 19.7 |
| | 29 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.0 | 10.4 | 17.4 | 55.2 | 16.0 |
| SD212 | 3 | 0.0 | 0.0 | 1.1 | 17.0 | 25.1 | 15.1 | 28.7 | 13.0 |
| | 5 | 0.0 | 0.0 | 0.8 | 16.8 | 23.8 | 16.4 | 29.4 | 12.8 |
| | 7 | 0.0 | 0.0 | 0.5 | 11.4 | 17.4 | 16.8 | 42.8 | 11.1 |

註)単位は重量%で表示。

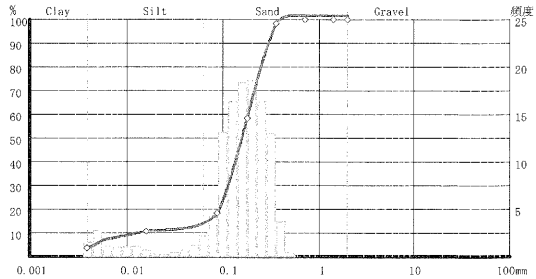
表11　粒度組成解析結果

| 試料名 | | Md（中央値） | Mz（平均値） | | Mo（最頻値） | Sk（歪度） | σ（分級度） | Kg（尖度） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SD522 | 25 | 7.01φ(0.008mm) | 6.39φ(0.012mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.18 負の歪み | 2.64 非常に悪い | 0.96 中間的 |
| | 27 | 6.86φ(0.009mm) | 6.18φ(0.014mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.23 負の歪み | 2.57 非常に悪い | 0.95 中間的 |
| | 29 | 7.16φ(0.007mm) | 6.47φ(0.011mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.38 著しい負 | 2.00 悪い | 1.22 突出 |
| A地点（基本土層） | 4 | 6.36φ(0.012mm) | 5.98φ(0.016mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.06 ほぼ対称 | 2.95 非常に悪い | 0.78 偏平 |
| | 6 | 4.34φ(0.049mm) | 5.05φ(0.030mm) | シルト | 2.66φ(0.158mm) | 0.40 著しい正 | 2.87 非常に悪い | 0.75 偏平 |
| | 8 | 3.42φ(0.094mm) | 4.53φ(0.043mm) | シルト | 2.66φ(0.158mm) | 0.60 著しい正 | 2.71 非常に悪い | 0.71 偏平 |
| | 9 | 3.18φ(0.110mm) | 4.35φ(0.049mm) | シルト | 2.66φ(0.158mm) | 0.64 著しい正 | 2.58 非常に悪い | 0.81 偏平 |
| | 11 | 2.69φ(0.155mm) | 2.78φ(0.146mm) | 細粒砂 | 2.33φ(0.200mm) | 0.40 著しい正 | 1.38 悪い | 2.19 非常に突出 |
| | 13 | 2.71φ(0.152mm) | 3.16φ(0.112mm) | 細粒砂 | 2.33φ(0.200mm) | 0.55 著しい正 | 1.67 悪い | 1.90 非常に突出 |
| | 15 | 5.24φ(0.026mm) | 5.15φ(0.028mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.02 ほぼ対称 | 2.38 非常に悪い | 0.62 非常に偏平 |
| | 17 | 6.86φ(0.009mm) | 6.22φ(0.013mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.35 著しい負 | 2.04 非常に悪い | 0.94 中間的 |
| | 20 | 7.16φ(0.007mm) | 6.42φ(0.012mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.25 負の歪み | 2.84 非常に悪い | 1.06 中間的 |
| | 21 | 7.25φ(0.007mm) | 6.55φ(0.011mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.22 負の歪み | 2.97 非常に悪い | 0.98 中間的 |
| | 23 | 7.19φ(0.007mm) | 6.50φ(0.011mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.21 負の歪み | 2.94 非常に悪い | 0.97 中間的 |
| | 25 | 7.10φ(0.007mm) | 6.43φ(0.012mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.21 負の歪み | 2.86 非常に悪い | 0.96 中間的 |
| | 27 | 7.07φ(0.007mm) | 6.37φ(0.012mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.23 負の歪み | 2.87 非常に悪い | 0.96 中間的 |
| | 29 | 7.04φ(0.008mm) | 6.28φ(0.013mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.27 負の歪み | 2.67 非常に悪い | 1.00 中間的 |
| | 31 | 6.68φ(0.010mm) | 5.91φ(0.017mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.29 負の歪み | 2.77 非常に悪い | 0.90 偏平 |
| SD212 | 3 | 4.34φ(0.049mm) | 4.87φ(0.034mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | 0.34 著しい正 | 2.59 非常に悪い | 0.70 偏平 |
| | 5 | 4.52φ(0.044mm) | 4.94φ(0.033mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | 0.28 正の歪み | 2.57 非常に悪い | 0.70 偏平 |
| | 7 | 6.27φ(0.013mm) | 5.63φ(0.020mm) | シルト | 7.64φ(0.005mm) | −0.29 負の歪み | 2.36 非常に悪い | 0.67 偏平 |

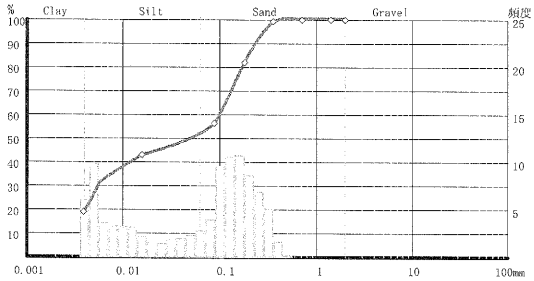
註）評価はFolk &Ward(1957)による



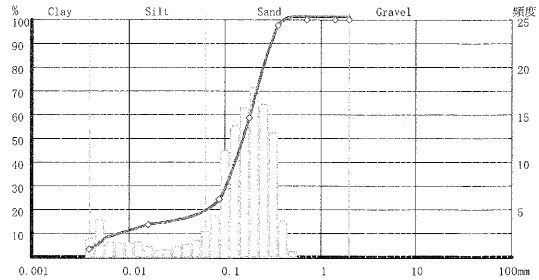

A地点（基本土層）　4



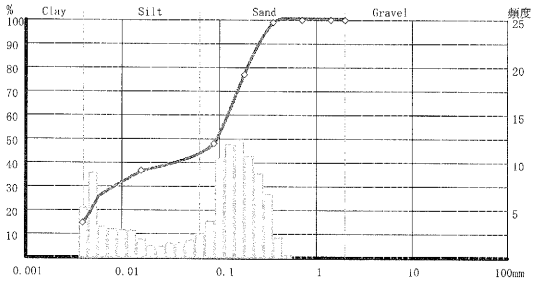

A地点（基本土層）　11



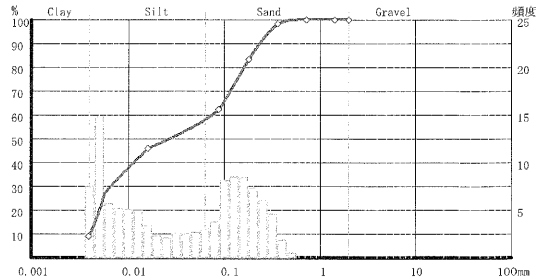

A地点（基本土層）　6



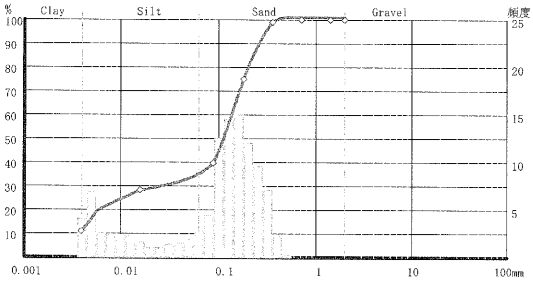

A地点（基本土層）　13



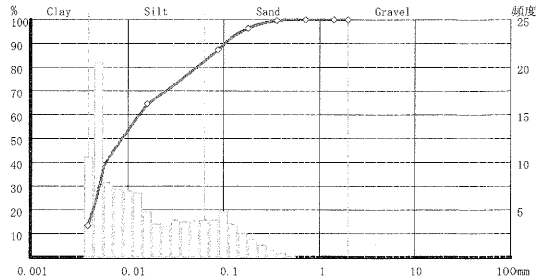

A地点（基本土層）　8




A地点（基本土層）　15

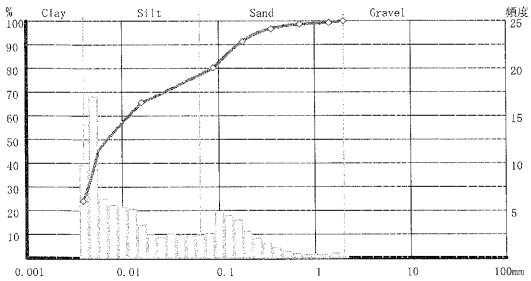



A地点（基本土層）　9

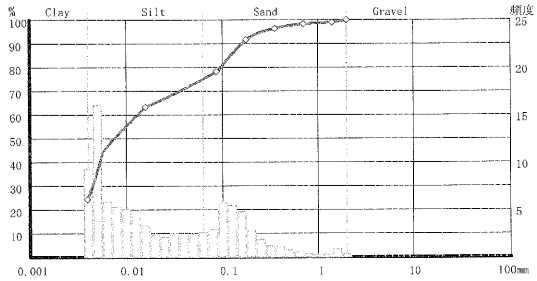



A地点（基本土層）　17

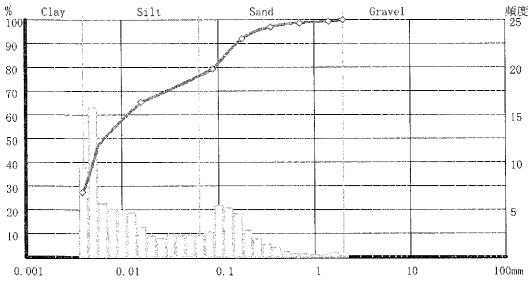
**図9　粒度分布加積曲線(1)**



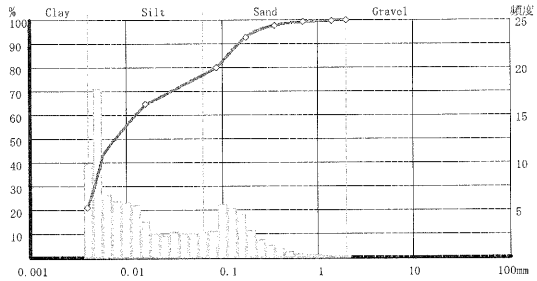

A地点（基本土層） 20



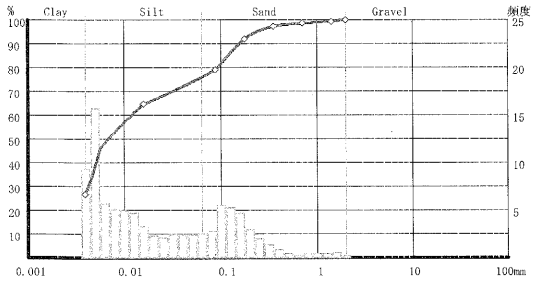

A地点（基本土層） 27



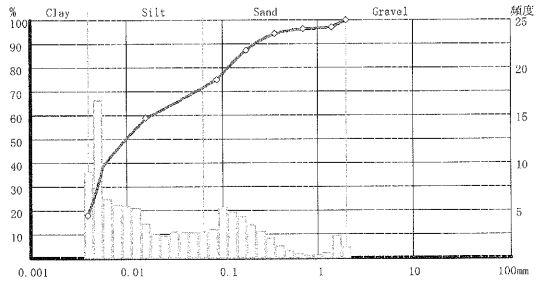

A地点（基本土層） 21



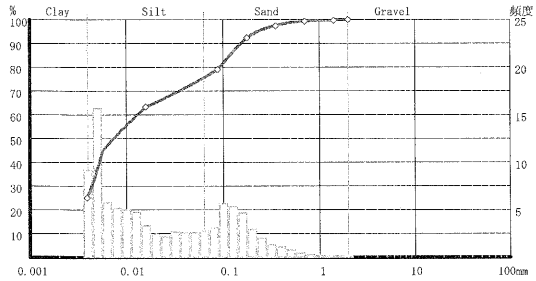

A地点（基本土層） 29




A地点（基本土層） 23

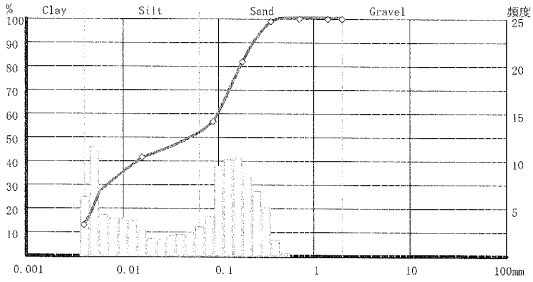



A地点（基本土層） 31

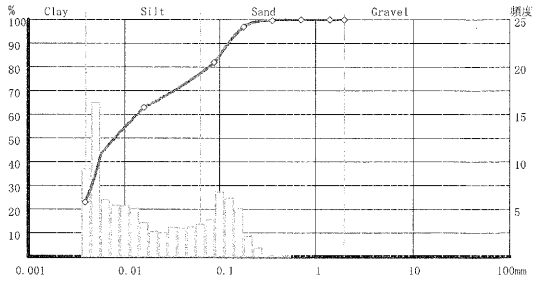



A地点（基本土層） 25

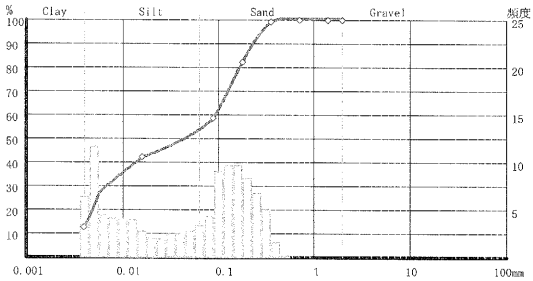
**図9　粒度分布加積曲線(2)**



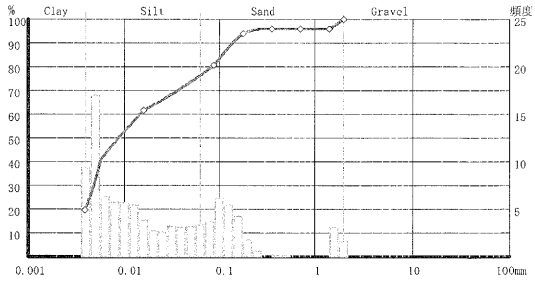

SD212 3



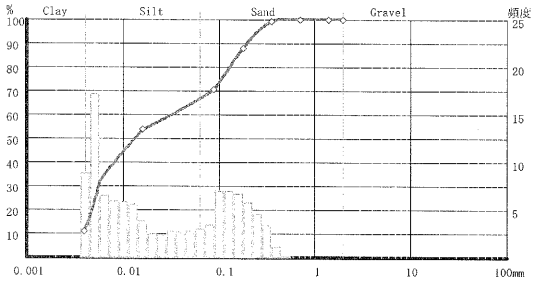

SD522 25



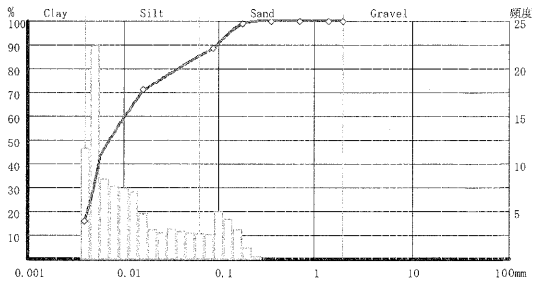

SD212 5




SD522 27




SD212 7




SD522 29

**図9　粒度分布加積曲線(3)**

## ４．考察

（１）基本土層の堆積環境と古植生

1)6～5層下部

最下位の黄褐色シルトは、SD09が検出された地点付近で認められた砂礫層（VII層）の上位に相当する土層と考えられ、さらに上位の暗黄褐色シルト（漸移層）は、河川の影響が小規模化するとともに、離水後の地表面化した時期の土層と推定される。植物珪酸体群集では、全体的に検出されるイネ科は少なく、土壌中の腐植含量も少ないことから、これらの土層の堆積時は、表面を植生が被覆する期間が短かったと考えられる。なお、ススキ属を含むウシクサ族やクマザサ属等の植物珪酸体が検出されたことから、これらは集水域を中心に生育していたものに由来する可能性がある。

当該期の古植生については、小矢部川沿い沖積地や庄川扇状地扇端部や小矢部川沿いの沖積地に立地する上野A遺跡跡(パリノ・サーヴェイ株式会社,1996)や小泉遺跡（安田，1982a；1982b）等における分析調査成果を参考とすると、ハンノキ湿地林等の局地的な要素を除くと、丘陵地を中心にブナやナラ類を主とする落葉広葉樹を主とする豊富な種類構成からなる植生が存在したとされている。したがって、本土層で検出された植物珪酸体のうち、ササ類は丘陵上に分布していた落葉樹林の林床等に生育していたものに、ススキ属はすでに離水した扇状地面に分布していた草地等に生育したものに由来する可能性がある。

2)5層上部

黒色を呈するシルト～粘土(試料番号20～25)は、土壌理化学分析では色調は黒く、腐植含量も4・6層と比較して高いといった特徴を示す一方、粒度組成は下位の土層と変化が認められなかった。このことから、6層堆積以降の離水後の安定化し、植生の被覆によって腐植が蓄積された土壌化した土層と考えられる。また、植物珪酸体含量が多いことから長期に渡ってイネ科草本類が地表面を覆っていたことが推測され、ススキ属が優占することからイネ科草本類ではススキが主体として生育していたと考えられる。このような傾向は、過去の調査結果からも指摘されている(外山,2004)。

なお、陸上植物の光合成を行う様式は大きく3つ（C3植物、C4植物、CAM植物）存在するが、これらは光合成を行う際の反応系が異なることから、同位体分別の違いによりδ13Cの値が異なってくる（Pearsall, 2000など)。当土層の土壌を対象とした放射性炭素測定結果におけるδ13C値は-18～-16‰と、木炭等(-25‰前後)よりもススキ属等のC4植物の値(-15‰前後)に近いことから、腐植の供給源としてこれらのイネ科草本類、主としてススキ等による腐植が関与していることが推測される。土壌理化学分析では、C/N比は4•6層とくらべてやや高く、台地上に分布する火山灰性黒ボク土の通常値(15前後)よりも高い傾向を示したことから、植物の分解が進んでいないことが示唆される。

5層の年代観は、暦年較正結果（測定誤差σ）によれば、約5,800～6,200年前(試料番号27•28)から、約2,000年前頃（パリノ•サーヴェイ株式会社,2004）の年代値が得られていることから、少なくとも縄文時代前期頃より河川の影響が減少し、その後、植生の被覆、腐植の発達する環境へ変化したと推測される。

3)4層

A地点では、下位より暗黄褐色を呈するシルト質土、黄灰色を呈するシルト～極細粒砂、淘汰の良い細粒砂～中・粗粒砂（試料番号9～19）が認められた。粒度分析結果では、下位はややシルト質であり、上位では粘土・シルト分が減少し砂分が増加する。これらの土層間には、複数の堆積構造が認められたことから、何度かの洪水等に伴う堆積物からなる土層と推測される。また、土壌理化学分析結果では、腐植含量が少な

いことから土壌化の影響は少なかったことが窺われる。

当土層の年代は、上記した5層の年代観や発掘調査所見から、弥生時代～古代頃と考えられる。これらの時期は、弥生の小海退と呼ばれる冷涼・多雨化した時期に相当し、国内各地で浅谷の形成等の河川による地形発達が活発化したとされている。

4)2層

A地点では、明瞭な層界を確認するに至らなかったが、2層下部の暗茶褐色を呈する砂混じりのシルト（試料番号6～8）と、2層上部の淡暗赤褐色を呈するシルト分を含む砂質土（試料番号1～5）が認められた。粒度分析結果では、4層より級化(上方細粒化)する状況が指摘されたことから、4層上部から2層下部は本来一連の堆積物であった可能性があり、4層堆積後に地表面化したことによりに土壌化した土層の可能性がある。なお、2層からは、4層以下では未検出であったイネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が検出された。本遺跡内3箇所（A～C地点）を対象とした植物珪酸体分析でも上位層準よりイネの機動細胞珪酸体や頴珪酸体が検出されている(外山,2004)。この上位層準は、本分析結果では4層より上位の土層に相当すると考えられ、当該期にはイネの利用や遺跡周辺、集水域における稲作が行われていたこと推測される。また、植物珪酸体の形態から判断することはできないが、栽培種のムギを含む分類群であるオオムギ族の短細胞珪酸体も検出された点は注目される。一方、5層で認められたススキ属の優占は、本土層では認められなかった。

（2）SD09の年代観と機能時における古環境

SD09は、基本土層2･4層からの掘込みが確認されており、遺構内からは8世紀後半～9世紀前半、12世紀後半～14世紀前半の2時期の遺物が認められている。また、土層観察所見から溝状遺構の開削から廃棄･断絶までの間に6段階の埋没過程が推測されている。

今回の分析調査では、SD09覆土土壌や覆土中から出土した炭化材を対象に放射性炭素年代測定を実施した。なお、土壌試料については、植物珪酸体分析や放射性炭素年代測定で得られたδ13cの値から基本土層中の腐植の年代を反映している可能性があることから、ここでは炭化材を対象とした結果について考察する。SD09から得られた炭化材6試料の暦年較正結果（測定誤差σ）は、試料№1（仮1層）はcalAD1,423-1,446、試料№2（仮2層）はcalAD1,022-1,150、試料№3はcalAD434-551、試料№40はcalAD891-972、試料№41はcalAD1,044-1,163、試料№42はcalAD992-1,146を示した。このうち試料の履歴が明らかなSD09覆土中～下部より採取された炭化材(試料№40～42)は、9～12世紀頃の年代値を示したことから、少なくとも当該期にはSD09は開削されており、ある程度の土壌の埋積があったことが推定される。

また、SD09最下位に認められた黒色を呈する泥質土（試料番号1）からは、珪藻化石は陸上の好気的環境に生育する耐乾性の高い陸生珪藻A群が僅かに検出され、植物珪酸体分析ではススキ属が多く検出された。なお、過去の同遺構内の土壌を対象とした放射性炭素年代測定結果におけるδ13C値は約-16‰を示しており、腐植の由来としてススキ等を含むC4植物等による可能性が指摘される。これらの点は、上記した基本土層5層の特徴と類似しており、好気的環境が推測される点から周囲の土層中からの再堆積土と考えられる。黒色を呈する泥質土（試料番号1）と不整合に堆積する最大径10cmの円礫を含む礫支持の砂礫層の上位層に相当する級化構造を有する灰色を呈するシルト～極細粒砂（試料番号2）からは、汚濁が進んでいない水域に生育する中～下流性河川指標種群や上流性河川指標種群を含む流水性種が多産した。本土層は、比較的汚濁の進んでいない流水等の影響を受ける環境であったことが推測される。このことから、本試料から検出された植物珪酸体については、遺跡周辺や集水域において生育したものに由来すると考えられる。なお、同試料からは、花粉化石は検出されなかった。SD09覆土の層相観察結果や上記した分析結果によれば、再堆積

土や河川性の堆積物であり堆積物中に取り込まれなかったとは考え難く、花粉化石は好気的状況下による風化に弱いことから(中村,1967など)、堆積時にはこのような環境も存在し、堆積物中の花粉化石が分解・消失したと考えられる。

（3）素掘小溝の用途

素掘小溝の土層観察では、2層より4層上部まで掘込まれる状況が認められたが、肉眼観察では畝や明瞭な作土層を確認することはできなかった。そのため、本報告では、これらの遺構における栽培植物を含むイネ科植物の産状や地力、覆土を構成する堆積物の組成に着目した分析を行った。

植物珪酸体分析結果では、4層と比較して遺構覆土中において植物珪酸体含量の高い傾向が認められた。これは、2層の形成時にイネ科が生育していたことを示していると考えられ、基本土層における植物珪酸体の産状と調和的である。また、SD180を除く7遺構からは、栽培植物のイネ属の植物珪酸体や栽培種を含む分類群であるオオムギ族の短細胞珪酸体が僅かに検出された。

粒度分布は、SD212覆土は基本土層とほぼ同様の特徴を示したが、SD522では中～粗粒砂が少なく、粘土～極細粒砂が多いといった特徴を示し、基本土層とやや特性が異なっている。その要因については、覆土の母材となる堆積物の由来が他と異なっていることが推測されるが、粒度分布を除くといずれの遺構も同様な産状や組成を示していることから、詳細は不明である。

地力判定のうち土壌の生産力については、土壌有機物量の指標として炭素、窒素量、また、火山灰土壌のような累積土壌においてはリン酸量も有機物量の指標として評価される。対象とした2遺構のうちSD22では、全炭素量は覆土上部で2.16%、中部で1.70%、下部(4層直上)で0.91%であった。SD212では、全炭素量は覆土上部で1.70%、中部で1.24%、下部で0.85%と、両遺構とも覆土下層ほど炭素量が少ない傾向が認められた。これは基本土層でも認められた傾向と同様である。覆土中に有機物が多く含まれる要因としては、植物遺体が土壌中に還元されたためと考えられ、植物珪酸体含量の増加やイネ属等の栽培種が認められる点から、これらを母材とした有機物の蓄積も推定される。ところで、土壌有機物は作物の生育基盤となる土壌の物理性、化学性、生物性を改善し、生育や収量を高める効果を担っており、一般的には腐植に換算（炭素量に1.724を乗じて算出する）して2%以下の土壌では有機物を施与するなどの改良が必要とされる。SD212・522とも覆土下層では、有機物が不足した状態にあるが、上～中層では有機物量は満足されており、基本土層としたA地点と比較しても保肥力は満足された土壌であると言える。また、生産力評価については、養分豊否の指標である可給態リン酸量および可給態窒素について調査を行ったが、全リン酸量と可給態リン酸量は、基本土層と比較して明らかに低い値を示すことが指摘される。可給態窒素量は、SD522では4.7～5.7mg/100gと基本土層と比べて僅かに多く、SD212では2.5～4.0mg/100gと同程度であった。地力増進の基本的技術対策における可給態リン酸の改善目標値は10mg/100g以上であり、可給態窒素の改善目標値は水田土壌で8～20mg/100g、普通畑土壌で5mg/100g以上である（鬼鞍,1985)。この養分豊否を見る限り、SD522覆土で可給態窒素が畑の基準を満足するが、両遺構覆土ともに可給態リン酸が欠乏しており、土壌肥沃度や地力の評価は厳しいものとなり、作物の生育に必要な養分は不足状態にあると判断される。ただし、須永(2000)による畠土壌の土壌理化学性の調査結果では、必ずしも上記の条件をすべて満たしてはいないことから、肥沃な土地でない場合にも耕作が行われていたことを考慮する必要がある。

以上の結果、素掘小溝覆土と小溝間（基本土層）の土層間の比較では、可給態窒素量は同程度かやや多く、全リン酸量と可給態リン酸量では明らかに低いといった状況が指摘される。また、4層やさらに下位の土層では検出されなかった栽培植物のイネ属や栽培植物を含む分類群を含むオオムギ族が検出されたことから、

2層中ではイネ等の栽培、あるいは、これら植物体等の供給（例えば施肥や敷き藁など）があったことが推定される。

前述した外山(2004)の調査対象とされた調査区では素掘小溝群は検出されていないが、本分析結果と比較してイネ属の植物珪酸体含量が多く認められている。植物珪酸体の定量分析は、換算によって単位土壌あたりの個数を求める方法であり、実際にプレパラート中で計数する個数は換算値の数百分の1以下である。そのため、基準となる数値(検出する個数や換算に用いる仮比重等の分析値)の違いにより、最終的な換算値は大きく異なってくることから、分析手法や機器類等を同じにしておく必要がある。このことから、本分析結果と比較については慎重に検討する必要がある。ただし、外山(2004)の分析結果を見る限り、上位層準に多量のイネ属の植物珪酸体が含まれていることは明らかであり、素掘小溝の検出されていない地点でもイネ属の植物珪酸体が検出される点や、本分析結果では素掘小溝群と基本土層との間に有意差は認められなかったことから、耕作等に関連する遺構の可能性について言及することはできない。

（4）土坑の用途と内容物

長方形土坑については、土坑内における内容物の痕跡の検証を目的として、植物珪酸体や土壌理化学性、粒度分析を行った。土壌理化学分析結果では、SK489・SK490、SI492は、いずれも類似した値を示した。腐植含量は2%前後、窒素含量は0.1%前後、リン酸含量は1.5%前後であり、試料間におけるばらつきも小さい。自然状態では、化学的に安定な方向に向かうため、値のばらつきが小さく均質化する。ただし、これらの成分を富化させる何らかの供給等の痕跡が認められた場合、その部分のみ特異的な値が得られると想定される。本分析結果は、いずれの値も自然状態に近いことが指摘される。植物珪酸体分析結果においても、土坑や住居跡は、ともに産状は類似しており、基本土層との比較においても、特異な状況は認められなかった。なお、前報の中世の長方形土坑(SK544)の底面付近の土壌を対象とした理化学性の調査では、腐植含量は3.38～3.83%、リン酸含量は1.32～1.37P2O5mg/gであった。2基の土坑と比較すると、やや腐植含量が高い傾向にあり、リン酸含量は同程度と言える。以上の結果から、植物体や動物体の富化を示唆することはできず、また、土坑の用途について言及することはできない。

一方、土坑の断面形態が袋状を呈する土坑（SK1021・1085）からは、明瞭な大形植物化石は検出されず、微量の炭化材（炭化物）や菌核等が検出された。これらは遺跡の土壌中に普遍的に含まれていると考えられ、遺構の内容物を反映した微細物であるか判断は困難である。

（5）遺構の年代観

本分析では、住居跡、掘立柱建物跡に伴う柱穴、溝状遺構、土坑等から採取された土壌や炭化物を対象に放射性炭素年代測定を実施した。住居跡9軒(SI097,166,395,491～495,600)から得られた年代(暦年較正年代：測定誤差$\sigma$)は4～9世紀頃を示した。遺構毎にみると、SI097は7世紀頃、SI166は5～8世紀、SI395は7～8世紀、SI491は5～8世紀、SI492は7～9世紀、SI493は7～8世紀、SI494は7～9世紀、SI495は7世紀頃、SI600は4～6世紀、SI650は8～9世紀を示す。やや古い年代を示す住居跡（SI600）も認められたが、概して古代頃の年代を示す遺構が多い傾向にあり。カマド内の焼土や住居跡内の土坑や柱穴から採取された炭化物を対象とした結果に着目すると7～9世紀頃の年代に集中する傾向が窺われる。

一方、掘立柱建物跡(SB02～04)に伴う柱穴では、SB02は紀元前後頃、SB03は3200～2100年前頃、SB04は紀元前2世紀～9世紀頃と年代値がばらつく傾向が認められ、この他の柱穴（SP139,432,556）では6～10世紀頃の年代を示した。また、溝状遺構では、SD218は7～8世紀、SD354は7～8世紀頃、不明遺構(SX649)は9～10世紀頃の年代を示した。掘立柱建物跡で認められた年代のばらつきは、試料の由来、すなわち、炭化物と

土壌といった試料の違いが起因していると考えられる。本分析結果では、土壌試料は比較的古い年代値を示す傾向にあることから、測定結果はススキ等のイネ科草本類に由来する腐植（土壌中のヒューミン(酸にもアルカリにも溶けない腐植　黒ボク土の場合は微粒炭がほとんどを占めることが多い)の年代を反映している可能性がある。

（７）植物利用

住居跡や土坑、柱穴等から出土した炭化材からは、針葉樹2種類（ヒノキ科・カヤ)、広葉樹11種類（クマシデ属イヌシデ節・ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ・ケヤキ・ニレ科・カツラ・カマツカ・カエデ属・ウコギ属・ハリギリ）の13種類の木材が認められた。これらの分類群は、二次林を構成する落葉広葉樹（コナラ節、クリ、イヌシデ節等）や河畔林や谷沿いに生育する種類（クヌギ節・ケヤキ・カツラ・ハリギリ）からなることから、これらが周辺の丘陵地や低地に生育していたことが推定される。一方、山地で林分を形成するブナ属や、山地の尾根筋などに生育する種類であるヒノキ科も認められており、これらは前述した分類群と生育地が異なることから、おそらく周辺の山地に生育していたと推定される。

なお、調査試料の多い住居跡の産状に着目すると、10軒の住居跡から11種類の木材が認められた。その種類構成では、クヌギ節を中心としてコナラ節、ニレ科、カマツカ、カエデ属等の広葉樹材が主体となる傾向が指摘される。現段階では、木材の用途や木材利用の傾向は明らかとすることはできないが、基本的に遺跡周辺に生育した入手可能な種類を利用していたと考えられる。

一方、SI491からは炭化したイネの胚乳が検出された。イネは、古くから栽培のために持ち込まれた渡来種とされており(南木,1991)、当該期には植物質食糧として利用されていたことが推定される。なお、検出されたイネの胚乳の遺存状況を考慮すると、生米の状態で被熱したことが窺われる。なお、これらの種実の計測結果と、佐藤(1988)による日本各地の出土炭化米の分類と照合すると、短粒(1.4-2.0)で極小粒(8-12)が7点と最も多く、次いで短粒で小粒(12-16)が3点、長粒(2.0-3.0)で極小粒が1点、長粒(2.0-3.0)で極小粒1点、円粒(1.0-1.4)で小粒が1点であった。分析点数が13点と少数であるため、粒大のばらつき(統計学的にいうと分散)等については言及することはできないが、いずれも佐藤(1971,1988)に記載されている古墳時代以降の古代米の一般的な形状と言える。

引用文献

安藤　一男,1990,淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用.東北地理,42,73-88.

Asai, K. & Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution(2)Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom,10, 35-47.

土壌環境分析法編集委員会編,1997,土壌環境分析法.博友社,427p.

江口　誠一,1994,沿岸域における植物珪酸体の分布　千葉県小櫃川河口域を例にして.植生誌研究,2,19-27.

江口　誠一,1996,沿岸域における植物珪酸体の風化と堆積物のpH値.ペドロジスト,40,81-84.

Fork,R.L. and Ward,W.,1957,Brazons river bar,a study in the significance of grain size parameters. J.Sed.Petrol,27,3-26.

原口　和夫・三友　清史・小林　弘,1998,埼玉の藻類　珪藻類.埼玉県植物誌,埼玉県教育委員会,527-600.

Hustedt, F.,1937-1939,Systematische und okologische Untersuchungen uber die Diatomeen-Flora von Java,, Bali und Sumatra. Archiv fur Hydrobiology, Supplement,15:131-177,15:187-295,15:393-506,15:638-790,16:1-155,16:274- 394

伊藤　良永・堀内　誠示,1991,陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用.珪藻学会誌,6,23-45.

金原正明・金原正子,1992,花粉分析および寄生虫.藤原京跡の便所遺構　－右京七条一坊西北坪－,奈良国立文化財研究所,12-15.

金原正明・金原正子,1994,堆積物中の情報の可視化.可視化情報,14,9-14.

小杉　正人,1988,珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用.第四紀研究,27,1-20.

近藤　練三,1988,植物珪酸体（Opal Phytolith）からみた土壌と年代.ペドロジスト,32,189-202.

近藤　錬三,2004,植物ケイ酸体研究.ペドロジスト,48,46-64.

近藤　錬三・ピアスン　友子,1981,樹木葉のケイ酸体に関する研究(第2報)双子葉被子植物樹木葉の植物ケイ酸体について.帯広畜産大学研究報告,12, 217-229.

Krammer, K.,1992,PINNULARIA.eine Monographie der europaischen Taxa.BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND26. J.CRAMER,353p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1986,Bacillariophyceae.1.Teil: Naviculaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/1. Gustav Fischer Verlag,876p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1988,Bacillariophyceae.2.Teil: Epithemiaceae,Bacillariaceae,Surirellaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/2. Gustav Fischer Verlag,536p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991a,Bacillariophyceae.3.Teil: Centrales,Fragilariaceae,Eunotiaceae. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/3. Gustav Fischer Verlag,230p.

Krammer, K. & Lange-Bertalot, H.,1991b,Bacillariophyceae.4.Teil: Achnanthaceae,Kritsche Ergaenzungen zu Navicula(Lineolatae) und Gomphonema. In: Suesswasserflora von Mitteleuropa.Band2/4. Gustav Fischer Verlag,248p.

Lowe, R.L,1974,Environmental Requirements and pollution Tolerance of Fresh-water Diatoms. 334p. In Environmental Monitoring Ser.EPA Report 670/4-74-005. Nat. Environmental Res. Center Office of Res. Develop., U.S. Environ. Protect. Agency, Cincinati.

松井　健・近藤鳴雄,1992,土の地理学－世界の土・日本の土－.朝倉書店,122p.

中村　純,1967,花粉分析.古今書院,232p.

農林省農林水産技術会議事務局監修,1967,新版標準土色帖.

小川　吉雄・加藤　弘道・石川　実,1989,リン酸緩衝液抽出による可給態窒素の簡易測定法.土肥誌,60,160-163.

鬼鞍　豊,1985,土壌・水質・農業資材の保全.博友社,316p.

パリノ・サーヴェイ株式会社,1996,中・近世の古植生および植物利用.梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）　－東海北陸自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告II－　第2分冊,財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所,10-23.

パリノ・サーヴェイ株式会社,2003,上野A遺跡の自然科学分析.富山県福岡町　上野A遺跡発掘調査報告Ⅱ.福岡町教育委員会,31-62

Pearsall Deborah M.,2000,Paleoethnobotany A Handbook of Procedures second edition.Academic Press,700p.

ペドロジスト懇談会編,1984,土壌調査ハンドブック.博友社,156p.

Round, F. E.., Crawford, R. M. & Mann, D. G.1990,The diatoms. Biology & morphology of the genera. 747p. Cambridge University Press, Cambridge.

砕屑性堆積物研究会編,1983,堆積物の研究法.地学双書,24,地学団体研究会,377p.

須永　薫子・坂上寛一・関　俊明,2000,天明3年(1783年)の浅間山噴火に伴う泥流で埋没した畑土壌の理化学的特性.日本文化財科学会第17回大会研究発表要旨集,62-63.

鈴木三男,2002,日本人と木の文化.八坂書房,255p.

徳永　重元・山内　輝子,1971,花粉・胞子.化石の研究法,共立出版株式会社.50-73.

外山　秀一,2004,プラント・オパール分析.久泉遺跡発掘調査報告－平成15年度一般国道359号砺波東バイパス建設工事に先立つ埋蔵文化財調査報告書,富山県 砺波市教育委員会,58-66.

渡辺 仁治,2005,淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数DAIpo,pH耐性能. 内田老鶴圃,666p.

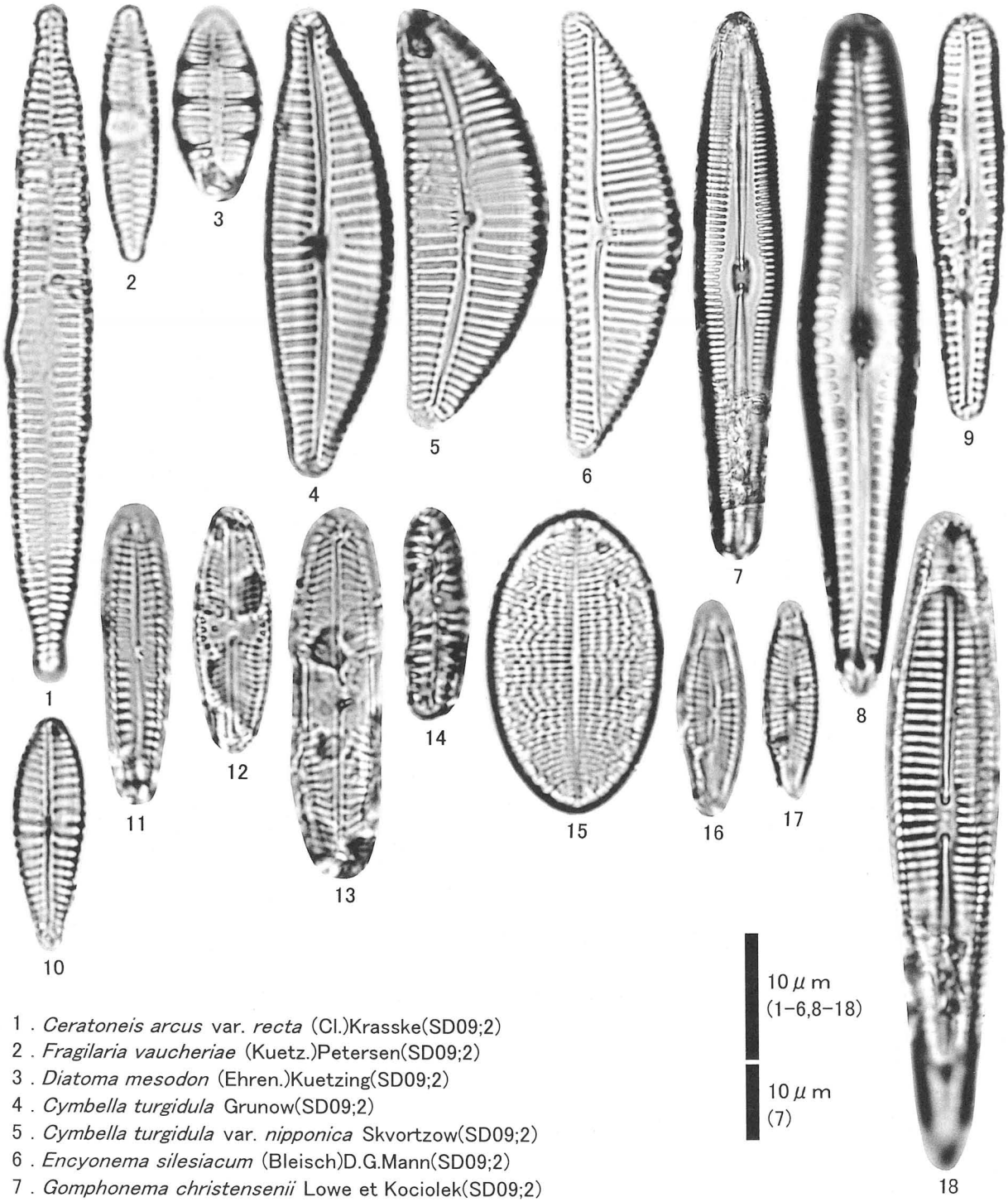
Wentworth,C.K.,1922,A scale of grade and class terms for clasticsediments. J.Geol,30,377-392.

山野井　徹,1996,黒土の成因に関する地質学的検討.地質学雑誌,102,526-544.

安田　喜憲,1982a,花粉分析.大門町埋蔵文化財報告第5集　小泉遺跡　－県道改修工事に伴う調査－,大門町教育委員会,48-62.

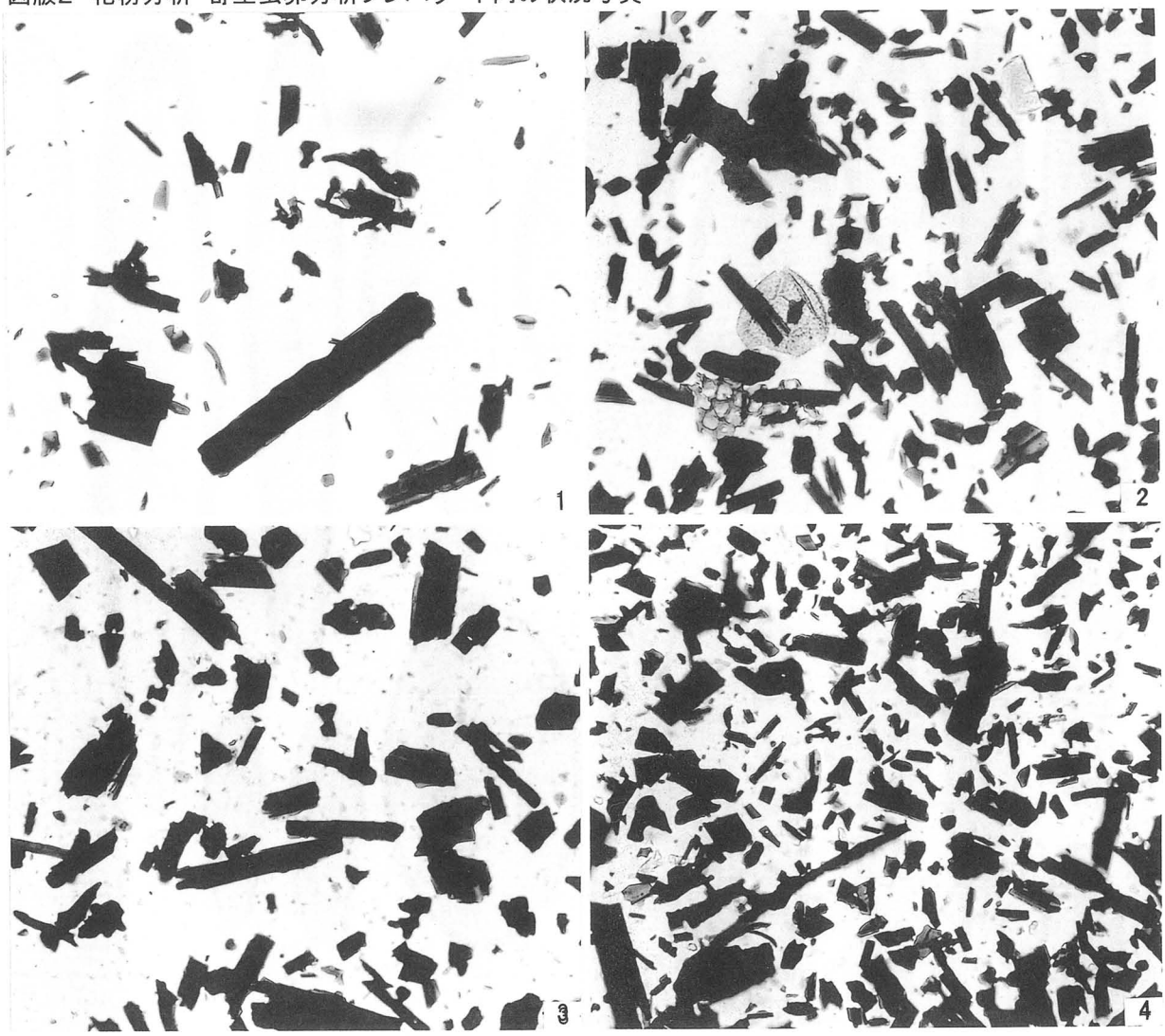
安田　喜憲,1982b,花粉分析からみた富山湾沿岸の縄文前期の遺跡　－ナラ林文化と環日本海文化圏－.大門町埋蔵文化財報告第5集　小泉遺跡　－県道改修工事に伴う調査－,大門町教育委員会,99-108.

図版1　珪藻化石



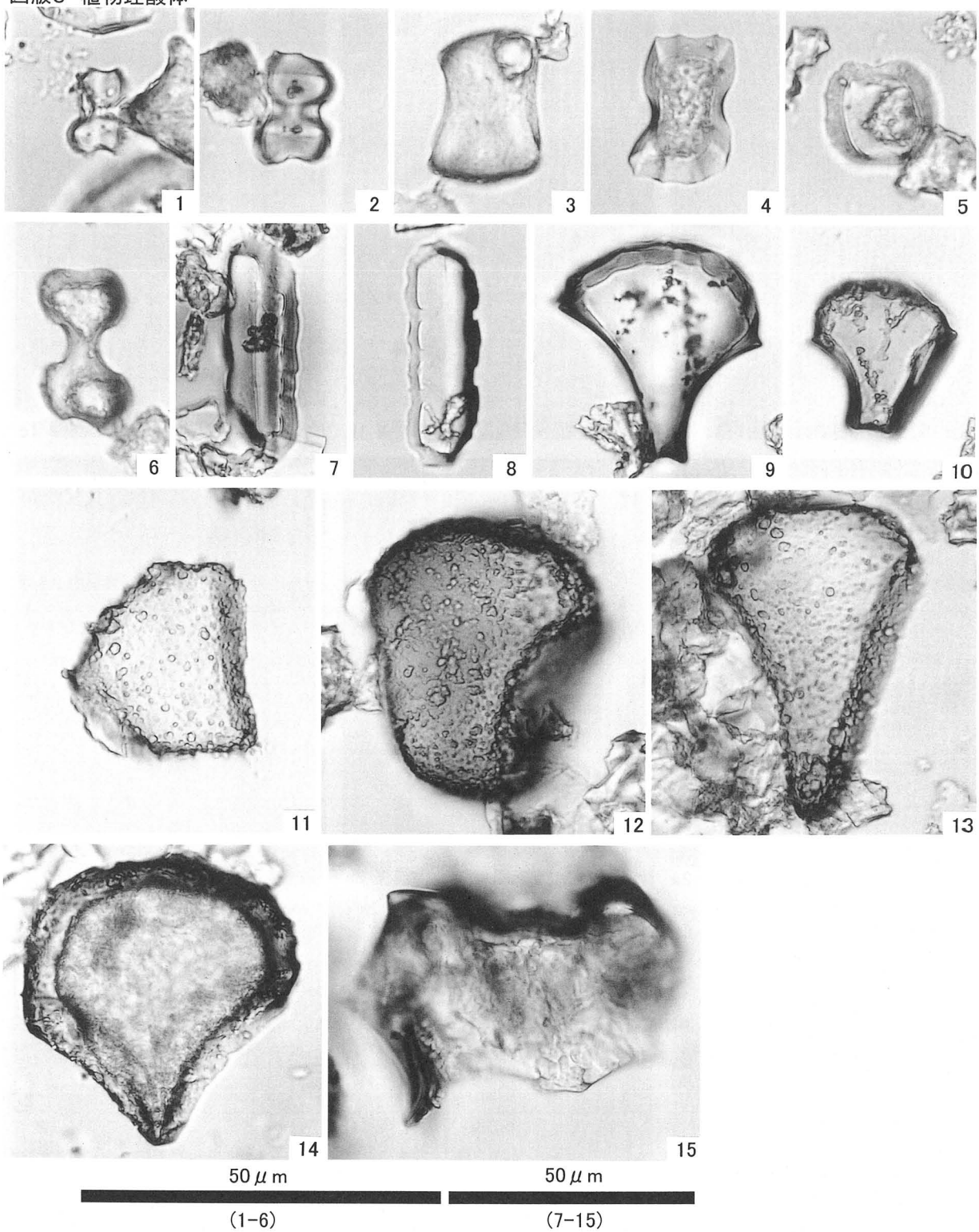

1．*Ceratoneis arcus* var. *recta* (Cl.)Krasske(SD09;2)
2．*Fragilaria vaucheriae* (Kuetz.)Petersen(SD09;2)
3．*Diatoma mesodon* (Ehren.)Kuetzing(SD09;2)
4．*Cymbella turgidula* Grunow(SD09;2)
5．*Cymbella turgidula* var. *nipponica* Skvortzow(SD09;2)
6．*Encyonema silesiacum* (Bleisch)D.G.Mann(SD09;2)
7．*Gomphonema christensenii* Lowe et Kociolek(SD09;2)
8．*Gomphonema sumatorense* Fricke(SD09;2)
9．*Gomphonema vastum* Hustedt(SD09;2)
10．*Gomphonema parvulum* Kuetzing(SD09;2)
11．*Gomphonema pumilum* (Grun.)Reichardt & Lange-Bertalot(SD09;2)
12．*Luticola mutica* (Kuetz.) D.G.Mann(SD09;1)
13．*Pinnularia schoenfelderi* Krammer(SD09;1)
14．*Reimeria sinuata* (W.Greg.) Kociolek et Stoermer
15．*Cocconeis placentula* (Ehren.)Cleve(SD09;2)
16．*Achnanthes subhudsonis* Hustedt(SD09;2)
17．*Achnanthes subhudsonis* Hustedt(SD09;2)
18．*Rhoicosphenia abbreviata* (Ag.)Lange-Bertalot(SD09;2)

図版2　花粉分析・寄生虫卵分析プレパラート内の状況写真



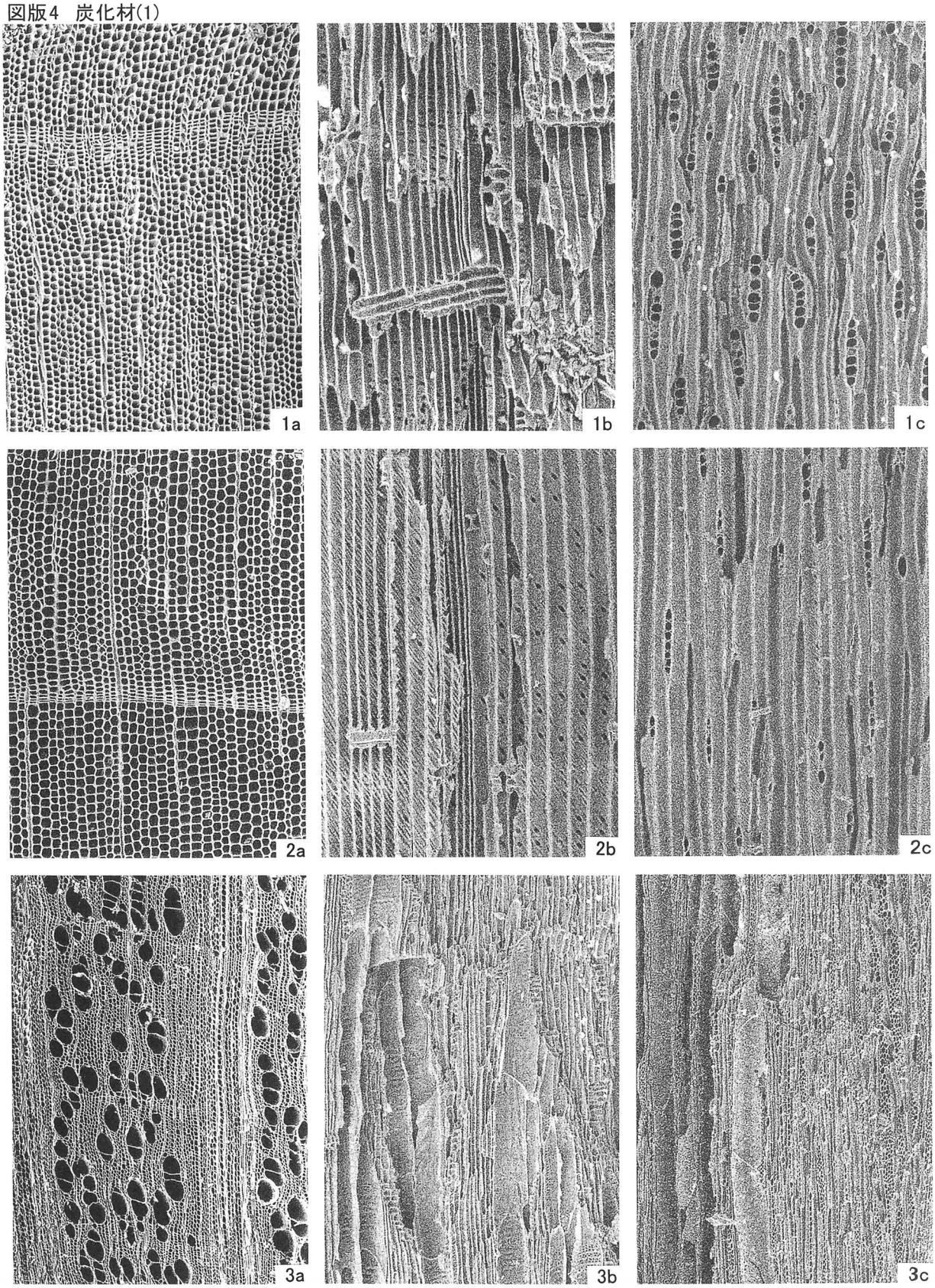

1．状況写真(SD09;1)　　2．状況写真(SD09;2)
3．状況写真(SK489 中央畦;3)　　4．状況写真(SK492 中央畦;覆土最下部)

図版3　植物珪酸体




1．イネ属短細胞珪酸体(SD522;27)
2．イネ属短細胞珪酸体(基本土層A地点;8)
3．クマザサ属短細胞珪酸体(基本土層A地点;31)
4．コブナグサ属短細胞珪酸体(基本土層A地点;8)
5．ヨシ属短細胞珪酸体(基本土層A地点;4)
6．ススキ属短細胞珪酸体(基本土層A地点;20)
7．オオムギ族短細胞珪酸体(SD523;30)
8．オオムギ族短細胞珪酸体(SD184;8)
9．イネ属機動細胞珪酸体(SD523;30)
10．イネ属機動細胞珪酸体(基本土層A地点;8)
11．クマザサ属機動細胞珪酸体(基本土層A地点;31)
12．ウシクサ族機動細胞珪酸体(SD523;30)
13．ウシクサ族機動細胞珪酸体(基本土層A地点;20)
14．ヨシ属機動細胞珪酸体(基本土層A地点;4)
15．イネ属穎珪酸体(SD185;2)

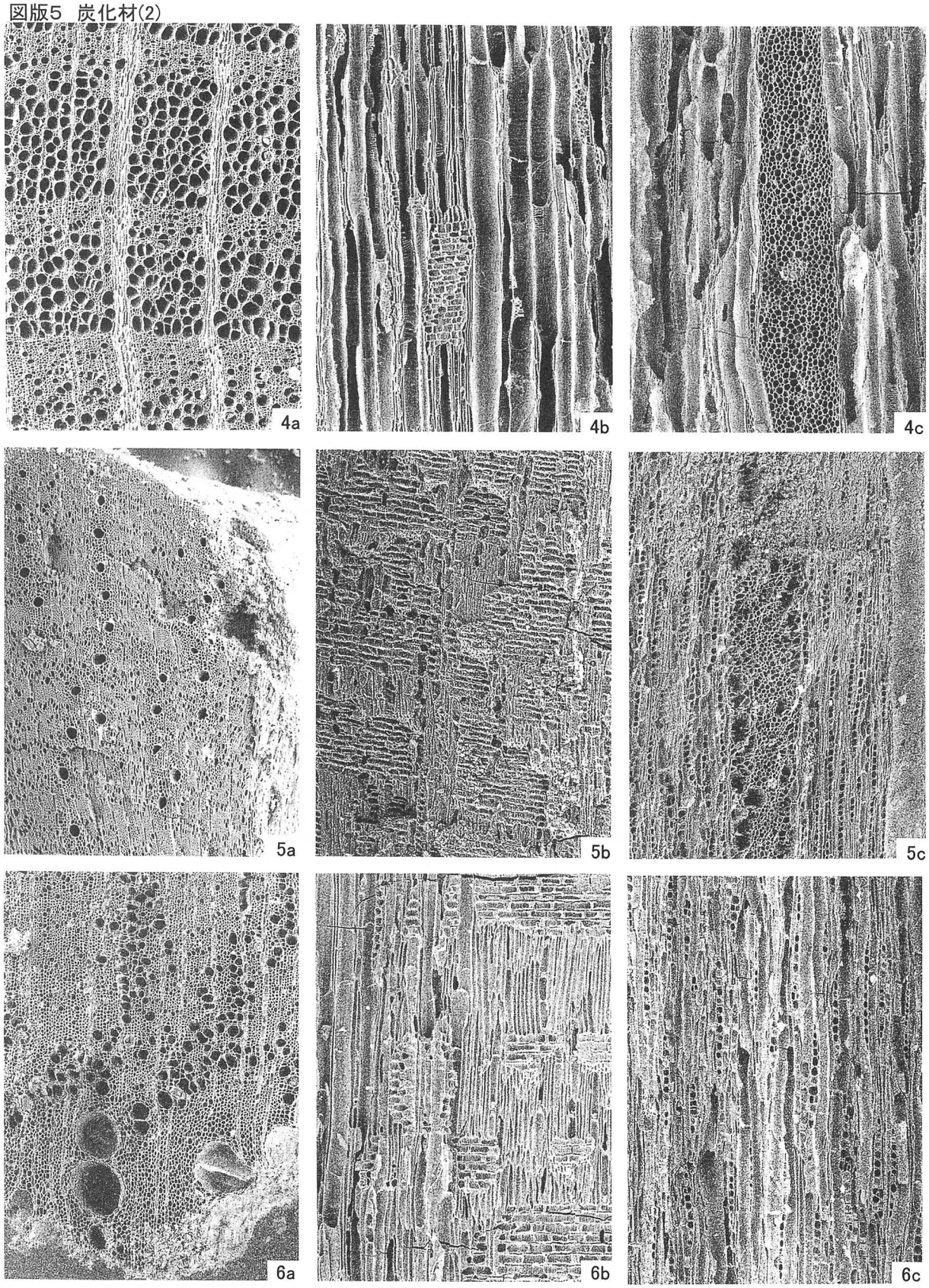
図版4　炭化材(1)




1．ヒノキ科（SP496）
2．カヤ（SK497；覆土）
3．クマシデ属イヌシデ節（SI491;カマド焼土）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：3a
200μm：1−2a・3b,c
100μm：1−2b,c

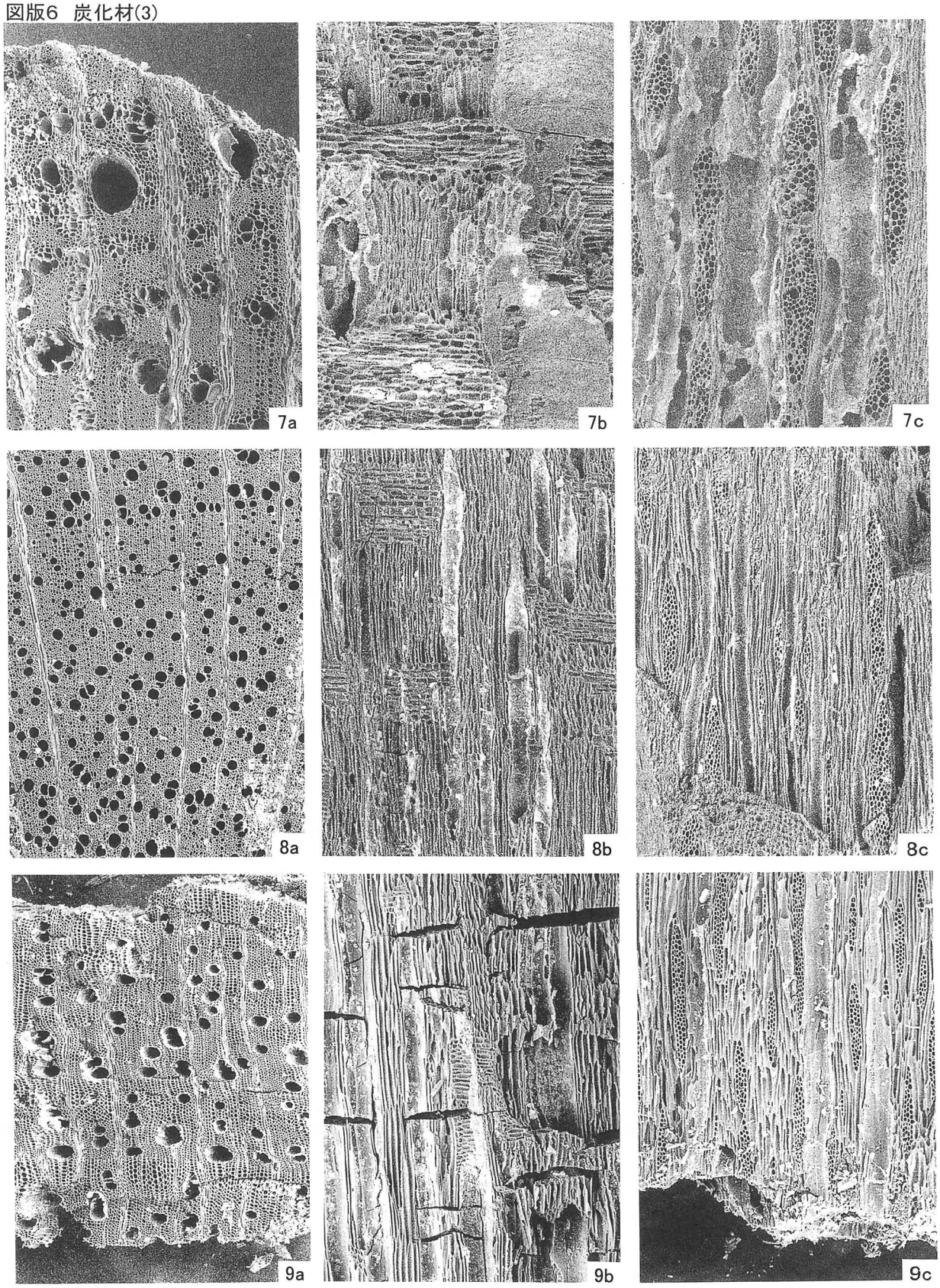
図版5　炭化材(2)




4．ブナ属(SI493;床土)
5．コナラ属コナラ亜属クヌギ節(SK497;覆土)
6．クリ(SI491;カマド焼土)
　a:木口，b:柾目，c:板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

図版6　炭化材(3)




7．ケヤキ（SI491;カマド焼土）
8．カマツカ（SK497；覆土）
9．カエデ属（SP496）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c